

# 人文社会学科

開設科目	人間論入門	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	脇條靖弘, Djumali Alam, 高木智見, 林文 孝, 豊澤一, 柏木寧子				

- 授業の概要** この講義では、人間論コースの教員全員が交代で2－3回ずつ授業を担当します。それぞれの教員が専門とする学問分野が扱う実際の内容に接することが、人間論への最良の案内 となると考えます。／**検索キーワード** 人間論、哲学、倫理学、宗教学、中国哲学、日本思想
- 授業の一般目標** 人間論コースの各分野（哲学、倫理学、宗教学、中国哲学、日本思想）が扱うテーマとそれに対するアプローチの方法の概要を理解する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：各分野の扱うテーマとそれに対するアプローチの方法の概要を理解する。 **思考・判断の観点**：各分野にふさわしい思考、判断ができるようになる。
- 授業の計画（全体）** 哲学（脇條）、宗教学（ジュマリ）、中国哲学（高木、林）、日本思想（豊澤、柏木）の各教員がそれぞれ2－3回の授業担当の予定。各教員の専門分野から入門に適した内容をとりあげて講義を行う。
- 成績評価方法（総合）** 各教員ごとにレポート（あるいは試験）を課し、合計点を100点に換算する。出席80％程度必要。
- メッセージ** 人間論ってどんな勉強をするんだろう、と思っている皆さんにより導入となる 授業にしたい と思います。

開設科目	哲学概論 I	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	脇條靖弘				

- 授業の概要** この講義では西洋哲学の基本問題のいくつかを取り上げ、それぞれの問題において一体何が問われているのか、それに対して哲学者たちがどのような答えをしてきたのかを学びます。／**検索キーワード** 哲学、必然的真理、科学、自由、心と身体、神
- 授業の一般目標** 最終的には受講生が各自でそれぞれの問題に関心を持ち、それに解決を与えようと努力すること、つまり「哲学すること」に向けての基盤作りができればと考えています。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 西洋哲学の基本問題を理解する。 **思考・判断の観点**： 哲学的な思考ができるようになる。
- 授業の計画（全体）** 「必然的真理」、「科学的知識」、「因果と自由」、「心身問題」、「神の問題」などの基本的な哲学の問題を取り上げ、それに対する諸哲学者の試みを概観する。
- 成績評価方法（総合）** 試験による。出席 80 %程度必要。
- 連絡先・オフィスアワー** 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー: 月曜 2:30-4:00

開設科目	西洋哲学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	脇條靖弘				

●**授業の概要** 哲学の特定の問題を一つ取り上げ、諸哲学者の議論を手掛りにその解決の道を探究する。／**検索キーワード** 哲学

●**授業の一般目標** 一つの哲学的問題について深く探究する

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：とりあげた問題とその解決の試みを理解する。**思考・判断の観点**：その問題について哲学的考察を加える。

●**授業の計画（全体）** 前期は、「普遍の問題」を取り上げる。たとえば、赤いバラは存在するとして、〈赤〉そのものは存在するのか。プラトンのイデア論をはじめとする諸哲学者の議論を参照しつつ、問題の本質を探究したい。

●**成績評価方法（総合）** 試験による。出席 80 %程度必要。

●**連絡先・オフィスアワー** 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー: 月曜 2:30-4:00

開設科目	西洋哲学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	脇條靖弘				

●**授業の概要** 哲学の特定の問題を一つ取り上げ、諸哲学者の議論を手掛りにその解決の道を探究する。／**検索キーワード** 哲学

●**授業の一般目標** 一つの哲学的問題について深く探究する

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：とりあげた問題とその解決の試みを理解する。**思考・判断の観点**：その問題について哲学的考察を加える。

●**授業の計画（全体）** 後期は、「時間論」を取り上げる。時間は流れるというのは本当か。現在だけが存在し、過去、未来は存在しないのか。こういった問題について、アリストテレスをはじめとする諸哲学者の議論を参照しつつ、問題の本質を探究したい。

●**成績評価方法（総合）** 試験による。出席 80 %程度必要。

●**連絡先・オフィスアワー** 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー: 月曜 2:30-4:00

開設科目	西洋哲学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	脇條靖弘				

- 授業の概要** この授業では、英語で書かれた現代の哲学の文献を読みます。／**検索キーワード** 哲学
- 授業の一般目標** 英語圏の哲学の文献を読むのに慣れる。哲学用語やそれが表現する哲学に特有の概念を理解し、議論の展開を追うことができるようになる。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 哲学用語や概念を理解する。 **思考・判断の観点**： 哲学的議論の展開を追うことができる。
- 授業の計画（全体）** 何を取り上げるかは未定ですが、評価の高い基本的な論文を取り上げたいと思います。
- 成績評価方法（総合）** レポートによる。出席 80 %程度必要。
- 連絡先・オフィスアワー** 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー: 月曜 2:30-4:00

開設科目	西洋哲学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	脇條靖弘				

- 授業の概要** この授業では、英語で書かれた現代の哲学の文献を読みます。／**検索キーワード** 哲学
- 授業の一般目標** 英語圏の哲学の文献を読むのに慣れる。哲学用語やそれが表現する哲学に特有の概念を理解し、議論の展開を追うことができるようになる。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 哲学用語や概念を理解する。 **思考・判断の観点**： 哲学的議論の展開を追うことができる。
- 授業の計画（全体）** 何を取り上げるかは未定ですが、評価の高い基本的な論文を取り上げたいと思います。
- 成績評価方法（総合）** レポートによる。出席 80 %程度必要。
- 連絡先・オフィスアワー** 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー: 月曜 2:30-4:00

開設科目	西洋哲学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	脇條靖弘				

- 授業の概要** プラトン、アリストテレスなど、古代ギリシア哲学の主要な文献を読みます。／**検索キーワード** 古代ギリシア哲学
- 授業の一般目標** 古代ギリシアの哲学者の議論を綿密に追うことで、その思索の筋道を理解する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 取り上げた哲学的議論を理解する。 **思考・判断の観点**： 取り上げた問題について哲学的考察を加える。
- 授業の計画（全体）** 前期は、主に日本語訳をもちいて学生がテキストを分担してレジュメを作成、発表した後、ディスカッションを行います。
- 成績評価方法（総合）** 授業中の発表、あるいは、レポートによる。出席 80 %程度必要。
- 連絡先・オフィスアワー** 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー: 月曜 2:30-4:00



開設科目	西洋哲学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	脇條靖弘				

- 授業の概要** 前期に取り上げた古代ギリシアのテキストに関連する二次文献を読む。／**検索キーワード** 古代ギリシア哲学
- 授業の一般目標** 古代の文献に関して現在なされている哲学的議論を理解する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：取り上げた二次文献の議論を理解する。 **思考・判断の観点**：取り上げた文献について哲学的考察を加える。
- 授業の計画（全体）** 各自が二次文献を一つ（ないし複数）担当し、要約を作成して授業中に発表する。
- 成績評価方法（総合）** 授業中の発表、あるいは、レポートによる。出席 80 %程度必要。
- 連絡先・オフィスアワー** 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー: 月曜 2:30-4:00

開設科目	西洋哲学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	古荘真敬				

●**授業の概要** 昨年に引き続き、ハイデガーの『存在と時間』を読む。しばしば「20世紀最大の哲学書のひとつ」などと言われ、後進哲学者たちに多大な影響を与えてきたこの大著を、今一度、冷静かつ批判的に解釈し、思想の内実を検討することを通じて、我々一人一人の哲学的思考を活性化することを試みる。

●**授業の一般目標** 1.『存在と時間』において企図された「存在の意味への問い」の射程と方法を理解する。 2. ハイデガーによる「現存在の分析論」の成否を、事象に即して具体的に検討する。 3.『存在と時間』を理解し解釈するうえで必須の哲学史的知識を得る。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：『存在と時間』を理解し解釈するうえで必須の哲学史的知識を得る **思考・判断の観点**：ハイデガーによる「現存在の分析論」の成否を、事象に即して具体的に検討する。 **関心・意欲の観点**：テキストの単なる受動的な理解に留まらず、自らの問題関心に引きつけながら、積極的なテキスト解釈＝改釈を展開する。

●**授業の計画（全体）** 『存在と時間』を、邦訳を参照しながら読み進める。演習参加者全員が、毎回、テキストの分担部分の要約を試み、それをもとに内容的な議論・検討をおこなう。今年度は、第22節から読み始める。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 イントロダクション 内容 昨年度の読解の成果
- 第2回 項目 テキスト第22節, 第23節 内容 現存在の空間性 1
- 第3回 項目 第23節, 第24節 内容 現存在の空間性 2
- 第4回 項目 第25節, 第26節 内容 現存在とは誰のことか ハイデガーの他者論
- 第5回 項目 第26節, 第27節 内容 他者と自己
- 第6回 項目 第27節, 第28節 内容 日常性 内存在そのものの分析へ 開示性
- 第7回 項目 第29節, 第30節 内容 気分・感情とは何か
- 第8回 項目 第30節, 第31節 内容 受動性と能動性
- 第9回 項目 第31節, 第32節 内容 了解と解釈
- 第10回 項目 第33節 内容 言明・陳述の構造と基盤
- 第11回 項目 第34節 内容 語りと言語
- 第12回 項目 第35,36,37節 内容 空談・好奇心・曖昧さ
- 第13回 項目 第38節, 第39節 内容 頹落と根源性への問い
- 第14回 項目 第39節, 第40節 内容 根本情状性としての不安
- 第15回 項目 まとめ

●**成績評価方法（総合）** 毎回の宿題、授業内発表によって評価する。出席は欠格事項としてのみ扱い、全授業の3分の2以上の出席を必要とする。

●**教科書・参考書** 教科書：『存在と時間』（中公クラシックス）、ハイデガー（原佑、渡邊二郎訳）、中央公論社、2003年； Sein und Zeit, M.Heidegger, M.Niemeyer, 2001年；教科書（邦訳）は、中公クラシックス版を基本とするが、他の版も受け容れる。／参考書：『世界内存在…『存在と時間』における日常性の解釈学』、H.ドレイファス（門脇俊介他訳）、産業図書、2000年；『ハイデガー「存在と時間」入門』、渡邊二郎編、有斐閣選書（オンデマンド版あり）、1980年；『ハイデガー入門』、細川亮一、ちくま新書、2001年；『ハイデガー＝存在神秘の哲学』、古東哲明、講談社現代新書、2002年

●**連絡先・オフィスアワー** furusho@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西洋哲学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	古荘真敬				

●**授業の概要** 昨年に引き続き、ハイデガーの『存在と時間』を読む。しばしば「20世紀最大の哲学書のひとつ」などと言われ、後進哲学者たちに多大な影響を与えてきたこの大著を、今一度、冷静かつ批判的に解釈し、思想の内実を検討することを通じて、我々一人一人の哲学的思考を活性化することを試みる。

●**授業の一般目標** 1.『存在と時間』において企図された「存在の意味への問い」の射程と方法を理解する。 2. ハイデガーによる「現存在の分析論」の成否を、事象に即して具体的に検討する。 3.『存在と時間』を理解し解釈するうえで必須の哲学史的知識を得る。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：『存在と時間』を理解し解釈するうえで必須の哲学史的知識を得る **思考・判断の観点**：ハイデガーによる「現存在の分析論」の成否を、事象に即して具体的に検討する。 **関心・意欲の観点**：テキストの単なる受動的な理解に留まらず、自らの問題関心に引きつけながら、積極的なテキスト解釈＝改釈を展開する。

●**授業の計画（全体）** 『存在と時間』を、邦訳を参照しながら読み進める。演習参加者全員が、毎回、テキストの分担部分の要約を試み、それをもとに内容的な議論・検討をおこなう。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 前期授業の回顧
- 第 2 回 項目 第 41 節, 第 42 節 内容 「気遣い」としての現存在の存在
- 第 3 回 項目 第 42 節, 第 43 節 内容 世界の実在性
- 第 4 回 項目 第 43 節 内容 実在性 2
- 第 5 回 項目 第 44 節 内容 開示性と真理 1
- 第 6 回 項目 第 44 節 内容 開示性と真理 2
- 第 7 回 項目 第 45 節 内容 『存在と時間』 第一編の回顧と 新しい課題
- 第 8 回 項目 第 46 節 第 47 節 内容 現存在の全体性 他者の死
- 第 9 回 項目 第 48 節 内容 未済と終わり
- 第 10 回 項目 第 49 節, 第 50 節 内容 死の実存論的分析は何であって 何でないか
- 第 11 回 項目 第 51 節, 第 52 節 内容 日常性における「死」 死のまったき実存論的概念
- 第 12 回 項目 第 53 節 内容 本来的に「死ぬこと」とは？
- 第 13 回 項目 ハイデガー対レヴィナス 1 内容 「死」と「他者」
- 第 14 回 項目 ハイデガー対レヴィナス 2 内容 「死」と「他者」
- 第 15 回 項目 まとめ

●**成績評価方法（総合）** 毎回の宿題、授業内発表によって評価する。出席は欠格事項としてのみ扱い、全授業の 3 分の 2 以上の出席を必要とする。

●**教科書・参考書** 教科書：『存在と時間』（中公クラシックス）、ハイデガー（原佑、渡邊二郎訳）、中央公論社、2003 年； Sein und Zeit, M.Heidegger, M.Niemeyer, 2001 年；教科書（邦訳）は、中公クラシックス版を基本とするが、他の版も受け容れる。／参考書：『世界内存在…『存在と時間』における日常性の解釈学』、H. ドレイファス（門脇俊介他訳）、産業図書、2000 年；『ハイデガー「存在と時間」入門』、渡辺二郎編、有斐閣選書（オンデマンド版あり）、1980 年；『ハイデガー入門』、細川亮一、ちくま新書、2001 年；『ハイデガー＝存在神秘的哲学』、古東哲明、講談社現代新書、2002 年

●**連絡先・オフィスアワー** furusho@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	倫理学概論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	未定				

●授業の概要 未定。後期より赴任する教員が担当予定。

●授業の一般目標 未定

●授業の計画（全体） 未定

開設科目	倫理学原理論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	上野修				

- 授業の概要** この講義では17世紀の哲学者スピノザ(1632-1677)の真理の理論を取り上げ、真理と倫理の関係について学びます。／**検索キーワード** 真理、倫理、自由、神
- 授業の一般目標** 哲学の古典に親しみ、問題を読み取れるようになること。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：古典の語法を知り、議論を理解する。**思考・判断の観点**：倫理について哲学的な思考ができるようになる。
- 授業の計画(全体)** レポートによる。出席80%程度必要。
- 備考** 集中授業

開設科目	倫理学原理論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	未定				

●授業の概要 未定。後期より赴任する教員が担当予定。

●授業の一般目標 未定

●授業の計画（全体） 未定

開設科目	倫理学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	村瀬ひろみ				

●**授業の概要** 生命倫理学の基本的文献を読む。基本的には、日本語の文献をメインとするので、読む量を多く、幅広い理解を得られるようにする。(文献名は未定) 現代の生命倫理学において何が問題になっているのかを、文献を読み理解する。／**検索キーワード** 生命倫理、バイオエシックス、インフォームドコンセント、人権

●**授業の一般目標** 生命倫理学の大きな枠組み、基本となる考え方が理解できる

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：生命倫理学とはを理解し、そのための必要な概念がわかる **思考・判断の観点**：知識をケーススタディとして実際に応用できる **関心・意欲の観点**：多様な書籍の紹介をしますので、適宜フォローすること **態度の観点**：必ず、発表をすること

●**授業の計画 (全体)** 日本語の文献を一冊、分担して読む。教官は適宜フォローする。また、副教材として、日本語、英語を問わず、文献を渡していく。

●**教科書・参考書** 教科書：講義中に指示します。／参考書：『私的所有論』立岩真也著 『無痛文明論』森岡正博著 など

●**メッセージ** 意欲的な参加をお待ちしています。

●**連絡先・オフィスアワー** メールにて受け付けます。h-murase@umin.ac.jp 必ず、学科、学年、氏名を明記のこと。

開設科目	倫理学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	未定				

●授業の概要 未定。後期より赴任する教員が担当予定。

●授業の一般目標 未定

●授業の計画（全体） 未定



開設科目	西洋倫理学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	村田貴信				

●**授業の概要** カントのテキストの読解をつうじて、カント哲学の全体像に目配りしつつ、彼の人間論、ならびに自由と道德の基礎付けの基本的な方向線を把握する。／**検索キーワード** カント, 人間論, 自由論, 道德論, 哲学, 倫理学

●**授業の一般目標** (カントの) 哲学の全体像を把握する。(カントの) 人間論の骨格を理解する。(カントの) 自由論の骨格を理解する。(カントの) 道德論の骨格を理解する。「善く生きる」ための想像力と知性との涵養のための基盤を整える。原文批判の方法に反省を加える。日本語・ドイツ語の運用能力を高める。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：一般目標に掲げた諸項目のうち、主として以下のものを達成する。(カントの) 哲学の全体像を把握する。(カントの) 人間論の骨格を理解する。(カントの) 自由論の骨格を理解する。(カントの) 道德論の骨格を理解する。**思考・判断の観点**：一般目標に掲げた諸項目のうち、主として以下のものを達成する。「善く生きる」ための想像力と知性との涵養のための基盤を整える。原文批判の方法に反省を加える。日本語・ドイツ語の運用能力を高める。

●**授業の計画(全体)** カント『純粋理性批判』序文のテキストを辿ることを中心として、必要に応じて、『実践 理性批判』(主として「結語」の部分)や『啓蒙とは何か』(主として「理性の公的使用の自由」のくんだり)等のテキストにも触れてみる。

●**授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** 導入 **内容** 演習内容ならびに演習の進め方の一般的説明
- 第 2 回 **項目** 『純粋理性批判』という表題 **内容** 表題の解釈を通じてカント哲学の全体像に見通しをつける
- 第 3 回 **項目** 『純粋理性批判』第 1 版序文 (1) **内容** 人間の理性の運命と形而上学との関わりについて考察する
- 第 4 回 **項目** 『純粋理性批判』第 1 版序文 (2) **内容** 「純粋理性の批判」とは何かについて考察する
- 第 5 回 **項目** 『純粋理性批判』第 1 版序文 (3) **内容** 純粋悟性概念の超越論的演繹について考察する
- 第 6 回 **項目** 『純粋理性批判』第 2 版序文 (1) **内容** 理性の理論的認識と理性の実践的認識とにおけるアプリオリテートについて考察する
- 第 7 回 **項目** 『純粋理性批判』第 2 版序文 (2) **内容** 「コペルニクス的転回」について考察する
- 第 8 回 **項目** 『純粋理性批判』第 2 版序文 (3) **内容** 現象と物自体との区別について考察する
- 第 9 回 **項目** 『純粋理性批判』第 2 版序文 (4) **内容** 自由の可能性について考察する
- 第 10 回 **項目** 『純粋理性批判』第 2 版序文 (5) **内容** 道德の可能性について考察する
- 第 11 回 **項目** 『純粋理性批判』第 2 版序文 (6) **内容** 魂の不死、神について考察する
- 第 12 回 **項目** 『実践理性批判』結語 **内容** 現象でありかつ人格性をもつ英知体でもある人間の二面性について考察する
- 第 13 回 **項目** 『啓蒙とは何か』 **内容** 「理性の公的使用の自由」について考察する
- 第 14 回 **項目** 『啓蒙とは何か』 **内容** 現代における「啓蒙」の必要性と可能性について考察する
- 第 15 回 **項目** 総括 **内容** 演習全体のまとめを行う。課題の指示を行う。

●**成績評価方法(総合)** 演習における役割遂行ならびに学期末に課すレポートの内容に主として依拠して評価する。適宜課す授業中の小レポートや質疑応答の内容も考慮する。

●**教科書・参考書** 教科書：Kant: Kritik der reinen Vernunft. Kant: Kritik der praktischen Vernunft. Kant: Was ist Aufklaerung.あるいは、それぞれの邦文訳書(演習用のプリントを用意する可能性がある)ので、教科書の準備は初回の授業に臨んでからでもよい。／参考書：隈元忠敬編『知のアンソロジー — ドイツ的知の位相』(ナカニシヤ出版) 1996 年。

●連絡先・オフィスアワー 【連絡先】〒756-0884 小野田市大学通 1-1-1 山口東京理科大学 Tel. 0836-88-4521 Email: kisin@ed.yama.tus.ac.jp 【オフィスアワー】 在校時随時

開設科目	西洋倫理学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	未定				

●授業の概要 未定。後期より赴任する教員が担当予定。

●授業の一般目標 未定

●授業の計画（全体） 未定

開設科目	中国哲学史 I	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高木 智見				

- 授業の概要** まず古代中国を学ぶ目的や意義を明示し、さらに中国の新石器時代から漢代にかけての歴史・文化を、最新の出土資料ならびに伝来文献を用いて概観したうえで、諸子百家の思想を理解することにつとめる。中国の学問は、哲学、歴史、文学というように明確に区分できず、全てが渾然一体となっている。この授業では、将来どの専門に進む場合にも必要な中国文化の本質に関する基本的知識を提供する。／**検索キーワード** 古代中国、考古学、神話学、甲骨文、金文、木簡、四書五経、諸子百家
- 授業の一般目標** 中国文化が形成された先秦時代の各段階、すなわち原始村落（新石器時代）、邑制国家（夏殷周）、領域国家（春秋戦国）、統一帝国（秦漢以降）について明確なイメージを描き出し、中国古代の思想や文化を歴史的文脈に即して理解できるようにする。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：中国古代について全般的な知識を獲得する。漢文や中国語の原初の段階にさかのぼって、それらに慣れ親しむ、**思考・判断の観点**：中国古代の理解を例として、他者理解の前提は、自己の価値観から自由になるということであるという異文化理解の観点を学ぶ **関心・意欲の観点**：いま盛んに持て囃されているのは、アメリカと現代であるが、中国、古代という対極にある世界にも、豊かで、深く、すばらしい文化が有ったことを感じ取り、人間の文化・社会全体に対する見方を広げる。
- 授業の計画（全体）** 新石器時代に関しては神話ならびに考古学、夏殷周については甲骨金文、春秋戦国については木竹簡、秦漢以降については帛書といった新出土史料を詳しく解説して時代状況を明らかにしたうえで、経書や諸子などの文献史料の内容を解釈・説明する。
- 成績評価方法（総合）** 基本的にレポートによる。講義の内容を咀嚼したうえで、論理力および構想力により、どれほど自らの意見を表現し得ているかによって評価する。
- 教科書・参考書** 教科書：プリント配布／参考書：講義の中で指示
- メッセージ** 原史料に直接触れて、古代中国の世界を身近に感じられる講義を目指す。
- 連絡先・オフィスアワー** 人文学部 5階 金曜日 16時から 17時

開設科目	中国哲学史 II	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	林 文孝				

●**授業の概要** 中国伝統思想の中核をなす儒教の教説とその歴史的展開を、その經典である四書五経の内容と解釈史をつうじて概説する。／**検索キーワード** 中国伝統思想、儒教、四書五経

●**授業の一般目標** 1. 四書五経それぞれの内容上の特徴を理解する。2. 経書解釈史をつうじて、中国伝統思想の歴史の概要を理解する。3. 異文化の思想伝統に触れることをつうじて、人間にとって知的営為が持ちうる意味と可能性を考える姿勢を養う。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1. 四書五経の内容上の特徴を説明できる。2. 経書解釈史の通説的時期区分とそれぞれの時期の特徴を説明できる。**思考・判断の観点**：1. 儒教の教説とその展開が歴史的にもった意味を指摘できる。2. 異文化の思想をつうじて、自分の思考の暗黙の前提を自覚し、相対化できる。**関心・意欲の観点**：1. 異文化の思想伝統に関心をもつ。

●**授業の計画（全体）** 教科書を用い、各回に指示された箇所を読んでくることを前提に、特定的话题にしばって講義する。知識・理解の確認と出席確認を兼ねた授業内レポートを課する。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- |        |    |                 |       |   |
|--------|----|-----------------|-------|---|
| 第 1 回  | 項目 | イントロダクション       | 内容    | 授業の進め方、序論   |
| 第 2 回  | 項目 | 『書経』            | 授業外指示 | 教科書第 1 章を読んでくること。   |
| 第 3 回  | 項目 | 『易経』            | 授業外指示 | 教科書第 2 章を読んでくること。   |
| 第 4 回  | 項目 | 『礼記』            | 授業外指示 | 教科書第 3 章を読んでくること。   |
| 第 5 回  | 項目 | 『詩経』            | 授業外指示 | 教科書第 4 章を読んでくること。   |
| 第 6 回  | 項目 | 『春秋』            | 授業外指示 | 教科書第 5 章を読んでくること。   |
| 第 7 回  | 項目 | 『論語』『孟子』        | 授業外指示 | 教科書第 6 章を読んでくること。   |
| 第 8 回  | 項目 | 『大学』『中庸』        | 授業外指示 | 教科書第 7 章を読んでくること。   |
| 第 9 回  | 項目 | 四書五経の伝承（1）      | 内容    | 漢代から唐代にかけての経学を思想界の状況とあわせて概説する。 <b>授業外指示</b> 教科書第 8 章、『五経正義』の項までを読んでくること。        |
| 第 10 回 | 項目 | 四書五経の伝承（2）      | 内容    | 宋代から明代にかけての思想における経書解釈の態度を説明する。 <b>授業外指示</b> 教科書第 8 章、「道教と仏教」から王陽明」の項までを読んでくること。 |
| 第 11 回 | 項目 | 四書五経の伝承（3）      | 内容    | 清代における経書解釈学の発展を解説する。 <b>授業外指示</b> 教科書第 8 章、「清朝考抛学」の項以下を読んでくること。                 |
| 第 12 回 | 項目 | 日本の四書五経、四書五経と現代 | 授業外指示 | 教科書第 9 章と結びを読んでくること。  |
| 第 13 回 | 項目 | まとめ             |       |   |
| 第 14 回 | 項目 | 予備日             |       |   |
| 第 15 回 | 項目 | 試験              |       |   |

●**成績評価方法（総合）** 1. 予習内容の確認のため授業内レポートを実施し、計 30 % で評価する。2. 期末試験を行い、70 % で評価する。3. 欠席回数が 5 回以上の者には単位を与えない。

●**教科書・参考書** 教科書：四書五経入門, 竹内照夫, 平凡社, 2000 年／参考書：授業中に適宜紹介する。

●**連絡先・オフィスアワー** fumitaka@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部 5 階 オフィスアワー火曜日 12:00 ~ 13:30

開設科目	中国思想史論	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高木智見				

- 授業の概要** 先秦時代の様々な個別の事象を、大きな歴史的背景の中に位置づけて理解する。言うまでもなく、先秦時代は、時代・地域・民族という三重の意味で異文化世界に属する。そのような世界の人々の行動や言説を理解するには、一旦、現代人としての価値観を棚上げにして、当時の人々の論理に即して理解する必要がある。本講義は、このような意味において、異文化理解の一つの試みである。本年度は、前年に引き続き、当時の祭祀、戦争などの具体的な状況を明らかにすることにより、国家ならびに支配者と民衆の関係を、その親和的側面に着目して考察する予定である。この講義は、私の日々の研究の内容をそのまま提示して、研究論文の作成の一例としても見てもらいたい。／**検索キーワード** 古代中国、国家共同体、君主、民衆、
- 授業の一般目標** 講義を通じて、つまり史料の解説を通じて、先秦時代というはるか彼方の世界の人々が作りあげていた社会に入り込み、実際に体験して、再び現代世界に戻ってくるといった実感を持つことが出来るようにしたい。先秦時代は、中国文化の「核心」が形成された時期であり、この時代に対する十全な理解がなければ、真の意味での中国理解はできない、というのが私の考えである。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 左伝や国語などの伝来文献、金文や木竹簡などの出土文献を日常的に読むことによって、史料から何をどのように汲み取るのかということを理解する。 **思考・判断の観点**： 構想に基づき史料を読み込み、立論していく過程を示し、研究論文作成に必要な一連の事柄を理解する。 **関心・意欲の観点**： 思想史学、歴史学、文学、考古学のいずれの分野であろうと、古代中国の様々な事象に対して、興味を感じることができるようになる。
- 授業の計画（全体）** 当時の人々の観念の中における社会のイメージを明らかにし、特に君主の役割、民衆との関係などに焦点を当てて、中国における国家共同体の原初的なあり方について考える。この問題についても、春秋時代以前と戦国時代以降において、その性格や様相が全く異なっていたことを確認することになると思われる。今年度は、とくに中国の研究者 晁福林氏の研究を意識して授業を進める。
- 成績評価方法（総合）** レポートにおけるテーマの選択、構想力、論理力などを見て、総合的に判断する。
- 教科書・参考書** 教科書： 特になし／ 参考書： 授業の中で指示する
- メッセージ** 何を語っているのかではなく、史料をどのように読み、そこから何を語ろうとしているのか、その過程を見ていただきたい。
- 連絡先・オフィスアワー** 人文5階 金曜日16時から17時

開設科目	中国思想史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高木智見				

- 授業の概要 前期と同じ／検索キーワード 前期と同じ
- 授業の一般目標 前期と同じ
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：前期と同じ 思考・判断の観点：前期と同じ 関心・意欲の観点：前期と同じ
- 授業の計画（全体） 前期と同じ
- 教科書・参考書 教科書：前期と同じ／参考書：前期と同じ
- メッセージ 前期と同じ
- 連絡先・オフィスアワー 前期と同じ

開設科目	中国思想史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	横手 裕				

- 授業の概要** 中国の土着宗教である道教について、主に現在の中国大陸における現状を紹介しながら、その背後にある道教の教理・思想・歴史について解説を行う。最終的には、道教というものの性格と内容について、総合的かつ的確な理解が得られるようにする。
- 授業の一般目標** ・中国道教の思想・歴史について、基礎・概要を理解する。 ・中国道教の思想・歴史について、基礎・概要を理解する。 ・現在実際に存在する道教の姿について、具体的に学ぶ。 ・中国の文化全体と道教との関係について考察する。
- 授業の計画（全体）** まず初めに、受講にあたって必要となる道教の知識について最低限の解説を行う。その後、現在の中国における代表的な道教の寺院や名山をいくつか取り上げ、個別に詳しく解説し、道教の実際のあり方と、道教の歴史や思想との関係について、次第に理解を深めてもらう。道教寺院等の紹介・解説には、現地で収集した資料や画像を用い、具体的に理解できるように配慮する。
- 成績評価方法（総合）** (1) 講義終了後、授業内容を各自なりに活用したレポートをまとめる (85%)。 (2) 授業時間内に、講義内容に関する討論を可能な範囲で行う (15%)。
- 教科書・参考書** 教科書： 教場にてプリントを配布する。 / 参考書： 『中国の神さま』, 二階堂善弘, 平凡社 (平凡社新書), 2002 年; 道教の神々, 窪徳忠, 講談社 (講談社学術文庫), 1996 年
- 備考** 集中授業



開設科目	儒・仏・道三教比較交渉論	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	林文孝				

●**授業の概要** 今年度は、中国の伝統的な経済倫理思想の特徴と意義を、儒・仏・道三教それぞれの場合を比較しながら考える。前期ではとくにこの問題を考える際の理論的枠組みを中心的に検討し、マックス・ウェーバーの見解および理論的枠組みと、これに対する批判を企図した余英時の見解に焦点を絞る。  
／**検索キーワード** 経済倫理 マックス・ウェーバー 余英時

●**授業の一般目標** 1. 中国思想の問題を考えるに際して儒・仏・道三教のにわたる基礎知識と広い視野を獲得する。 2. さまざまな問題をめぐる思想間の異同をふまえて、問題の多面的な考察ができるようになる。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1. 儒・仏・道三教あるいはそれらを捉える理論的枠組みについて、論題に必要な限りでの基礎的事項を説明できる。**思考・判断の観点**：1. 特定の問題をめぐる思想間の異同を、自分なりの観点から指摘できる。 2. 思想間の異同をふまえながら、自分なりの批判的考察を行うことができる。**関心・意欲の観点**：1. 一つの問題をめぐる多様な考え方の存在に関心をもつ。

●**授業の計画（全体）** 序論において経済倫理を取り上げる問題意識を述べたあと、『儒教と道教』等におけるマックス・ウェーバーの理論的枠組みと見解の紹介、これを批判しようとした余英時の見解とその反響の紹介を順次行う。この過程で、それぞれの仕事に関連する儒教、道教、仏教の諸側面と相互関係をあわせて確認していく。質疑応答と討論を随時行い、理解を深めていく。

●**成績評価方法（総合）** 期末レポート 80 %、質疑応答・討論への参加 20 %。

●**教科書・参考書** 教科書：なし。資料を適宜配布する。／参考書：宗教社会学論選, マックス・ヴェーバー, みすず書房, 1972 年；中国近世の宗教倫理と商人精神, 余英時, 平凡社, 1991 年；下記のほかは適宜紹介する。

●**連絡先・オフィスアワー** fumitaka@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部 5 階 オフィスアワー：火曜日 12:00 ～ 13:30

開設科目	儒・仏・道三教比較交渉論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	林文孝				

- 授業の概要** 前期に引き続き、中国の伝統的な経済倫理思想の特徴と意義を、儒・仏・道三教それぞれの場  
合を比較しながら考える。後期は、儒教を中心としつつ、三教それぞれの経済倫理の諸側面を解説する。  
／検索キーワード 経済倫理 義・利 禁欲
- 授業の一般目標** 1. 中国思想の問題を考えるに際して儒・仏・道三教のにわたる基礎知識と広い視野を獲得  
する。 2. さまざまな問題をめぐる思想間の異同をふまえて、問題の多面的な考察ができるようになる。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 1. 儒・仏・道三教あるいはそれらを捉える理論的枠組みについて、  
論題に必要な限りでの基礎的事項を説明できる。 **思考・判断の観点**： 1. 特定の問題をめぐる思想間の  
異同を、自分なりの観点から指摘できる。 2. 思想間の異同をふまえながら、自分なりの批判的考察を行  
うことができる。 **関心・意欲の観点**： 1. 一つの問題をめぐる多様な考え方の存在に関心をもつ。
- 授業の計画（全体）** 最初に、前期における理論的枠組みの検討成果を概括した後、儒教における義利観  
の歴史の変遷を中軸としつつ、各時代における仏教、道教の倫理思想との交渉に触れていく。余裕があれ  
ば、日本における儒教的・仏教的経済倫理の諸相をも視野に入れる。質疑応答や討論を随時取り入れる。
- 成績評価方法（総合）** 期末レポート 80 %、質疑応答・討論への参加 20 %。
- 教科書・参考書** 教科書： なし。資料を適宜配布する。／参考書： 中国近世の宗教倫理と商人精神, 余英  
時, 平凡社, 1991 年； いまなぜ東洋の経済倫理か, 芹川博通, 北樹出版, 2003 年； 下記のほかは適宜紹介  
する。
- 連絡先・オフィスアワー** fumitaka@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部 5 階 オフィスアワー：火曜日 12:00 ～  
13:30

開設科目	中国思想史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高木智見				

●**授業の概要** 司馬遷の史記を精読する。昨年に引き続き、仲尼弟子列伝を読む。テキストは瀧川亀太郎の史記会注考証を使用し、当然のことながら、史記集解、史記索隱、史記正義、さらに考証の見解と論理をその引用書物にわたって詳しく検討する。中国古来のいわゆる注疏の学を、史部の書の読解を通じて学ぶ。／**検索キーワード** 史記、孔子の弟子 春秋時代 歴史、思想 人物

●**授業の一般目標** 自分の力で古代中国の資料を読み進める様々な能力ならびに意欲を獲得する。一見難しい漢文史料には、歴代学者達の真理の追求に対するすざましいエネルギーが、充ち満ちている。それを感じ取ることも重要な目標である。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：古代中国語の文法、語彙の理解の方法、調べ方など古典理解の一般的方法を身に付けて、他の分野や時代の書物に臨んでも、自分なりの対処が出来るような力を獲得したい。**思考・判断の観点**：一つの文字や単語の理解の仕方如何で、全文の解釈が変わってしまうといった古代中国語理解の困難さを面白いと感じられるような思考力を養う。**関心・意欲の観点**：いわゆる漢文史料を見ても、調べれば理解できるという自信をつける

●**授業の計画（全体）** 史記の原文、歴代の注釈を順に読み進めていく。史記の原史料とかつての日本人が行った訓読読みの資料を配布して、毎週、議論しながら少しずつ読み進めていく。進度は、原史料に応じて、また学生の能力に応じて、当然一定ではない。一字の解釈で2時間使うことも考えられる。

●**成績評価方法（総合）** 日常的な授業への取り組み姿勢、ならびにレポートによって、古代世界を理解しようとする積極性を基準にする

●**教科書・参考書** 教科書：テキストはプリントを配布します／参考書：授業の中で指示

●**メッセージ** 古典は、帰納的な意味解釈を重ねていけば、誰でも理解できます。難しくはありません。要するに、自分の頭で自分の読み方をすれば良いのであって、やる気と根性のみが問題です。

●**連絡先・オフィスアワー** 人文学部5階510研究室 金曜16時から17時

開設科目	中国思想史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高木智見				

- 授業の概要 前期と同じ／検索キーワード 前期と同じ
- 授業の一般目標 前期と同じ
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：前期と同じ 思考・判断の観点：前期と同じ 関心・意欲の観点：前期と同じ
- 授業の計画（全体） 前期と同じ
- 成績評価方法（総合） 前期と同じ
- 教科書・参考書 教科書：前期と同じ／参考書：前期と同じ
- メッセージ 前期と同じ
- 連絡先・オフィスアワー 人文学部5階510研究室 金曜日16時から17時

開設科目	中国思想資料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	林文孝				

●**授業の概要** 中国の代表的もしくは特色ある思想文献を読解し、その内容を理解するとともに、解説・研究の文献をも参照することで理解を深めていく。今年度は王陽明関係の資料を選読する。和刻本や既存の訳文を適宜利用しながら、より正確な読解をめざす。

●**授業の一般目標** 1. 高校漢文もしくは初級中国語の知識を前提に、構文の把握、語義の調査などをつうじて中国語史料を現代日本語に訳出するための基礎力を養う。2. 原典とその著者の思想について、解説・研究の文献を検討することで理解を深め、かつ批判的考察の端緒を得る。3. 原典読解、文献検索、報告やレポート作成などの各段階で必要な、パソコンや目録・索引類といった工具書の利用法を身に付ける。

●**授業の到達目標** / **知識・理解の観点**：1. 中国の思想文献の読解に必要な語学的知識を身につける。2. 読解対象の文献と著者について基本的事項を理解できる。3. 文献史料に語られた思想内容を理解できる。4. 辞書、目録、索引などの工具書の使い方を理解できる。 **思考・判断の観点**：1. 史料に語られた思想内容について、自分なりの視角から批判的に吟味できる。 **関心・意欲の観点**：1. 異文化の発想法、思考法に関心をもつ。 **態度の観点**：1. 読解作業にまじめに取り組むことができる。 **技能・表現の観点**：1. 語学知識や文脈の把握をつうじて古代漢語の文章を読解できる。2. 読解の結果を現代日本語の文章に定着させることができる。3. 工具書を活用できる。

●**授業の計画（全体）** 第1回で参加者の顔合わせ、使用するテキストの説明、進め方の説明、当面の分担の割り当てなどを行う。第2回から講読を進めていく。

●**成績評価方法（総合）** 発表 40 %、授業への参加度 20 %、授業外レポート 40 %。

●**教科書・参考書** 教科書：コピーを配布する。 / 参考書：適宜紹介する。

●**連絡先・オフィスアワー** fumitaka@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部5階 オフィスアワー：火曜日 12:00～13:30

開設科目	中国思想史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	林文孝				

- 授業の概要** 中国の代表的もしくは特色ある思想文献を読解し、その内容を理解するとともに、解説・研究の文献をも参照することで理解を深めていく。今年度は王陽明関係の資料を選読する。和刻本や既存の訳文を適宜利用しながら、より正確な読解をめざす。
- 授業の一般目標** 1. 高校漢文もしくは初級中国語の知識を前提に、構文の把握、語義の調査などをつうじて中国語史料を現代日本語に訳出するための基礎力を養う。 2. 原典とその著者の思想について、解説・研究の文献を検討することで理解を深め、かつ批判的考察の端緒を得る。 3. 原典読解、文献検索、報告やレポート作成などの各段階で必要な、パソコンや目録・索引類といった工具書の利用法を身に付ける。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 1. 中国の思想文献の読解に必要な語学的知識を身につける。 2. 読解対象の文献と著者について基本的事項を理解できる。 3. 文献史料に語られた思想内容を理解できる。 4. 辞書、目録、索引などの工具書の使い方を理解できる。 **思考・判断の観点**： 1. 史料に語られた思想内容について、自分なりの視角から批判的に吟味できる。 **関心・意欲の観点**： 1. 異文化の発想法、思考法に関心をもつ。 **態度の観点**： 1. 読解作業にまじめに取り組むことができる。 **技能・表現の観点**： 1. 語学知識や文脈の把握をつうじて古代漢語の文章を読解できる。 2. 読解の結果を現代日本語の文章に定着させることができる。 3. 工具書を活用できる。
- 授業の計画（全体）** 第1回で参加者の顔合わせ、使用するテキストの説明、進め方の説明、当面の分担の割り当てなどを行う。第2回から講読を進めていく。
- 成績評価方法（総合）** 発表 40 %、授業への参加度 20 %、授業外レポート 40 %。
- 教科書・参考書** 教科書： コピーを配布する。／ 参考書： 適宜紹介する。
- 連絡先・オフィスアワー** fumitaka@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部5階 オフィスアワー：火曜日 12:00～13:30

開設科目	中国思想史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	何曉毅				

- 授業の概要** 中国の思想史に関する資料を講読する。／**検索キーワード** 中国 思想
- 授業の一般目標** 中国思想史に関する資料の講読を通じて、中国人の思想や、考えに理解を深める。中国語の文献にふれることにより、中国語の習得も繋がる。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：中国の思想に関する資料を読破し、意味合いを理解する。**思考・判断の観点**：文献に対する理解に基づき、中国思想の本質を追求し、中国の社会現象や、日本における中国思想の影響を分析する。**関心・意欲の観点**：文献講読を通じて、中国思想に積極的に関わるようになる。**態度の観点**：文献調べなど、興味を持って積極的に関わるようにする。**技能・表現の観点**：辞書を調べながら原文を読めるようにする。
- 授業の計画（全体）** 近代中国を代表する作家・思想家の林語堂が20世紀三十年代英語で書かれた『My country and My People』の中国語翻訳版を使用し、文献講読を中心とする。随時レポートによるまとめや、授業中のディスカッションを行う。
- 成績評価方法（総合）** レポートや授業の参加度を考慮し、総合判断する。
- 教科書・参考書** 教科書：中国人, 林語堂, 中国 学林出版社, 1994年；中国 学林出版社出版の 林語堂 著 『My Country and My People』の中国語翻訳版『中国人』を使用する。購入できればいいが、購入できなければプリントを配布する。
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室：研究一号館 310 電話：933-5065 オフィスアワー：火曜日午後4：00～5：00

開設科目	中国思想史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	何曉毅				

- 授業の概要** 中国の思想史に関する資料を講読する。／**検索キーワード** 中国 思想
- 授業の一般目標** 中国思想史に関する資料の講読を通じて、中国人の思想や、考えに理解を深める。中国語の文献にふれることにより、中国語の習得も繋がる。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：中国の思想に関する資料を読破し、意味合いを理解する。**思考・判断の観点**：文献に対する理解に基づき、中国思想の本質を追求し、中国の社会現象や、日本における中国思想の影響を分析する。**関心・意欲の観点**：文献講読に通じて、中国思想に積極的に関わるようになる。**態度の観点**：文献調べなど、興味を持って積極的に関わるようにする。**技能・表現の観点**：辞書を調べながら原文を読めるようにする。
- 授業の計画（全体）** 近代中国を代表する作家・思想家の林語堂が20世紀三十年代英語で書かれた『My country and My People』の中国語翻訳版を使用し、文献講読を中心とする。随時レポートによるまとめや、授業中のディスカッションを行う。
- 成績評価方法（総合）** レポートや授業の参加度を考慮し、総合判断する。
- 教科書・参考書** 教科書：中国人, 林語堂, 中国 学林出版社, 1994年；中国 学林出版社出版の 林語堂 著 『My Country and My People』の中国語翻訳版『中国人』を使用する。購入できればいいが、購入できなければプリントを配布する。
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室：研究一号館 310 電話：933-5065 オフィスアワー：火曜日午後4：00～5：00



開設科目	中国思想演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	林文孝				

- 授業の概要** 現代中国語で書かれた中国思想関係の入門書や論文から、比較的平易なものを選んで読んでいく。余力があれば、そのテーマに関連してどのようなことが研究されており、どのようなことが問題となるのかについて発表と討論を行う。
- 授業の一般目標** 1. 論文調の現代中国語の読解力をつける。 2. 多様な論文テーマに触れることにより、自らの研究テーマ選択へのヒントを得る。
- 授業の到達目標** / **知識・理解の観点**： ・現代中国語の中でも論文で頻用される表現を理解する。 **思考・判断の観点**： ・テキストの内容について、自分なりの観点から吟味できる。 **関心・意欲の観点**： ・多様な研究テーマに関心をもつ。 ・自分なりの問題意識に即して先行研究を探索する意欲をもつ。 **態度の観点**： ・発表や討議に積極的に参加できる。 **技能・表現の観点**： ・論文調の現代中国語について、日本語の訳文を作成できる。
- 授業の計画（全体）** 第1回に進め方の説明、当面使用するテキストの配付と担当の割り当てなど、導入を行い、翌週から演習に入る。
- 成績評価方法（総合）** 発表 40 %、授業への参加度 20 %、授業外レポート 40 %。
- 教科書・参考書** 教科書： 担当教員が用意し、プリントを配付する。受講者が自分で見つけてもよい。 / 参考書： なし

開設科目	中国思想演習（3・4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	高木智見				

- 授業の概要** 中国哲学の論文作成を目指す学生が、具体的なテーマの決定、先行研究の有無の確認ならびに検索方法、関連史・資料の収集、論文の構想ならびに論理構成などについて、それぞれの段階において報告し、参加者全員で討論しつつ授業を進めていく。／**検索キーワード** 卒論、資料収集、構想、討論
- 授業の一般目標** 与えられたものを型どおりに消化する姿勢ではなく、各自が何を知りたいのか自分自身に問いかけ、求める物を明確にした上で、自らの力でそれを追求するという積極的な姿勢が望まれる。卒論の完成度は、この授業への取り組み方によって大きく異なるはずである。3年生は、先輩の論文作成作業の進め方を間近で観察し、様々な教訓を得て、実際の作成作業に生かす。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：自らのテーマを確定することが出来る。史料状況を明確に把握する。過去の研究の蓄積を把握、消化する。**思考・判断の観点**：自分の考えを明確にして、論理的に文章表現できるようにする。**関心・意欲の観点**：自らが問題を発見し、自らの力で解決していく積極的な姿勢をもてるようにする。
- 授業の計画（全体）** 学生諸君の様々な条件により、授業の進め方は様々に変わってくる。しかし、5月中には、テーマを具体化して、論文の骨組みを作り、夏休みにそれについて各自が研究する。10月には論文の構想を明確化して、それ以降、軌道修正などを行い、12月半ばで9割の完成度を目指す。
- 成績評価方法（総合）** 日常的な授業における姿勢、ならびにレポートの完成度により、判断する。
- 教科書・参考書** 教科書：特になし／参考書：授業の中で指示
- メッセージ** 研究は、積極性とねばり強さだけでほとんどが決まる。
- 連絡先・オフィスアワー** 5階 金曜日16時から17時

開設科目	中国思想演習（3・4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	高木智見				

- 授業の概要 前期と同じ／検索キーワード 前期と同じ
- 授業の一般目標 前期と同じ
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：前期と同じ 思考・判断の観点：前期と同じ 関心・意欲の観点：前期と同じ
- 授業の計画（全体） 前期と同じ
- 成績評価方法（総合） 前期と同じ
- 教科書・参考書 教科書：特になし／参考書：授業中に指示
- メッセージ 前期と同じ
- 連絡先・オフィスアワー 5階 金曜日16時から17時

開設科目	中国思想演習（3・4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	林文孝				

- 授業の概要** 中国哲学をテーマとして卒業論文を書こうとする学生のための卒論演習である。受講者は、テーマ決定、論文検索、資料収集、構想、論理構成などの各段階において報告し、それについて参加者全員で討論する。
- 授業の一般目標** ・4年生：卒業論文題目を確定し、初歩的な構想を立てる。 ・3年生：4年生の報告に触れ、討論に参加することを通じて、自らの問題意識を明確化する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： ・自分の研究テーマについて必要な事項を調査・理解できる。 **思考・判断の観点**： ・自分の研究テーマを適切に意味づけることができる。 ・テーマにふさわしい構想を立てることができる。 **関心・意欲の観点**： ・自分の問題意識を洗練し、問いとして定式化できる。 ・他の参加者のテーマにも広く興味をもつ。 **態度の観点**： ・口頭発表や討議に積極的に参加できる。 **技能・表現の観点**： ・口頭報告、レポートにおいて適切な表現ができる。
- 授業の計画（全体）** 第1回で顔合わせを行う。参加者がそれぞれの問題関心を簡潔に述べた後、発表予定などを決める。第2回以降、演習に入る。
- 成績評価方法（総合）** 発表、参加度、授業外レポートを総合評価する。下記の割合を目安とする。
- 教科書・参考書** 教科書： なし。／ 参考書： なし。

開設科目	中国思想演習（3・4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	林文孝				

- 授業の概要** 中国哲学をテーマとして卒業論文を書こうとする学生のための卒論演習である。受講者は、テーマ決定、論文検索、資料収集、構想、論理構成などの各段階において報告し、それについて参加者全員で討論する。
- 授業の一般目標** ・4年生：卒論執筆過程の各段階で問題点を克服しながら論文を完成させる。執筆後においては自らの到達点と不十分だった点を明確に把握する。 ・3年生：論文執筆過程での必要事項を認識する。自らの問題に関連した資料収集などを進め、おおよそのテーマを決定する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： ・自分の研究テーマについて必要な事項を調査・理解できる。 **思考・判断の観点**： ・自分の研究テーマを適切に意味づけることができる。 ・テーマにふさわしい構想を立てることができる。 **関心・意欲の観点**： ・自分の問題意識を洗練し、問いとして定式化できる。 ・他の参加者のテーマにも広く興味をもつ。 **態度の観点**： ・口頭発表や討議に積極的に参加できる。 **技能・表現の観点**： ・口頭報告、レポートにおいて適切な表現ができる。
- 授業の計画（全体）** 第1回で、それぞれの卒業論文に関する進捗状況を報告した後、発表予定を決める。第2回以降、演習に入る。
- 成績評価方法（総合）** 発表、参加度、授業外レポートを総合評価する。下記の割合を目安とする。
- 教科書・参考書** 教科書： なし。／ 参考書： なし。

開設科目	日本倫理思想史 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	柏木寧子				

- 授業の概要** —中世日本の倫理思想— 『平家物語』『徒然草』について主として講述します。昨年度は古代・中世の思想史を概観しましたが、今年度は採り上げるテキストを限り、本文を味読しながら、中世日本倫理思想の一端に触れることをめざします。／**検索キーワード** 『平家物語』 『徒然草』
- 授業の一般目標** 『平家物語』『徒然草』およびその周辺テキストに即して、その思想内容を具体的に知ること。
- 授業の計画（全体）** テキストの抜粋本文を読みます。受講者はあらかじめ配付される資料（『日本思想史入門』より）に目を通して授業に臨み、授業の終わりに 10 分程度の小レポートを書いて提出します。
- 成績評価方法（総合）** (1) 授業内の小レポート（論理的な思考と文章表現、および、自発的に問いを見出し追求する姿勢を求めます）。(2) 期末試験（基本的なことからについての知識と理解を求めます）。なお、出席が所定の回数に満たない場合は期末試験を受けることができません。
- 教科書・参考書** 教科書：以下の本の必要箇所をコピーしあらかじめ配付します。相良亨編『日本思想史入門（第二版）』ペリかん社、1986年。また、適宜必要な資料をプリントとして配付します。
- 連絡先・オフィスアワー** kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部 4 階 410 研究室

開設科目	日本倫理思想史 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	豊澤 一				

- 授業の概要** 「日本の倫理思想の諸相」 日本の過去の倫理思想の諸相を解説します。15年度は武士の思想，儒学・国学の思想を対象 としましたが，16年度は，近世庶民の思想，幕末の思想，近現代の思想を対象 とします。／**検索キーワード** 日本の倫理思想
- 授業の一般目標** 日本の過去の倫理思想を理解します。もって自己の考え方，ものの感じ方をとらえかえし，自己認識を深めます。
- 授業の計画（全体）** 次のような人々やテーマの思想を，順次，解説します。近松門左衛門，石田梅岩，安藤昌 益，二宮尊徳，和魂洋才，福沢諭吉，中村敬宇，西田幾多郎，和辻哲郎，等々。
- 成績評価方法（総合）** 各授業時間の最後に，10 分程度を費やして，授業内レポートを課します（40 点）。期末試験を実施します（60 点）。
- 教科書・参考書** 教科書： 使用しません（適宜、複写資料を配付します）。／ 参考書： 佐藤正英著『日本倫理思想史』東京大学出版会，2003
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室：人文学部棟 409 号研究室 オフィスアワー：木曜日 12:50 ～ 14:20

開設科目	比較思想論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	土井 廣子				

- 授業の概要** 「仏教説話の思想」＜後期集中＞ 「輪廻転生」「因果応報」という観念は、仏教を受容することによって日本社会にもたらされ定着したが、これらの観念が意味を持つ人間観、世界観とはどのようなものであるのか、また、これらの観念が意味を持つということには、どのような問題があるのか、『今昔物語集』を資料として、天竺巻を中心に検討して行く。／**検索キーワード** 輪廻転生、因果応報、宿命
- 授業の一般目標** ある人間が、他でもなく、現にそのように存在しているということを理解する、ひとつのモデルを学び検討することによって、現代日本社会で、自分自身が固有の生を生きているということを見つめる意識の糧を得てほしい。
- 授業の計画（全体）** 『今昔物語集』のいくつかの説話を紹介しながら、概要、目標に即して進めて行く。
- 成績評価方法（総合）** レポートによる（100％）。
- 教科書・参考書** 教科書： 使用しない（授業時にプリントを配布する）。／ 参考書： 授業時に紹介する。
- 備考** 集中授業



開設科目	日本思想論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	豊澤 一				

- 授業の概要** 「中世～近世初期の神道思想」 国学以前の、中世から近世にかけての神道思想を解説します。中世には神本仏迹（反本地 垂迹）説が出現しました。近世には、朱子学の理気論と習合した儒家神道が出現しました。奇妙な説が多いですが、そのことの意味を考えます。／**検索キーワード** 伊勢神道、吉田神道、理当心地神道、林羅山、垂加神道、山崎闇斎
- 授業の一般目標** 国学以前の神道思想を理解します。日本思想を扱う場合、わたくし自身、どうしてもイデオロギー的に捉えがちです。それは、まったく容易なことです。しかし、それでは、イデオロギー的にも超えることができないでしょう。正義感と後知恵とを抑制しつつ、過去の人々の考えたことを何とか理解しようと試みます。
- 授業の計画（全体）** 国学以前の神道思想には、牽強附会が多く、思わず顔がほころんでしまいます。それでも、精一杯考えていたのですから、その意味を汲み取らなくてはならない、と考えます。伊勢神道、吉田神道、理当心地神道（林羅山）、垂加神道（山崎闇斎）等々を扱います。
- 成績評価方法（総合）** 学期末にレポートを課します（100％）。
- 教科書・参考書** 教科書： 使用しません（複写資料を配付します）。／ 参考書： 授業の際に紹介します。
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室:人文学部棟 409 号研究室 オフィスアワー：木曜日 12:50 ～ 14:20

開設科目	日本思想論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	柏木寧子				

- 授業の概要** —説経の思想— 『説経集』を読みながらその思想について講述します。昨年度は『神道集』所収の物語的縁起を読みましたが、今年度は同じ関心の延長上に、中世から近世にかけて流行した語り物文芸、説経の作品を読みます。／**検索キーワード** 『説経集』
- 授業の一般目標** 『説経集』に即して、中世から近世にかけての神仏習合思想の一端に触れること。
- 授業の計画（全体）** いくつかの作品を順次採り上げて読み解きます。受講者は指示に従ってあらかじめ教科書を読んで授業に臨み、授業の終わりの10分程度で小レポートを書いて提出します。
- 成績評価方法（総合）** (1) 授業内の小レポート（論理的な思考と文章表現、および、自発的に問いを見出し追求する姿勢を求めます）。(2) 期末試験（基本的なことからについての知識と理解を求めます）。なお、出席が所定の回数に満たない場合は期末試験を受けることができません。
- 教科書・参考書** 教科書：『説経集』（新潮日本古典集成）、室木弥太郎校注、新潮社、1977年；受講者は必ず教科書を購入すること。販売店：文栄堂。¥3,000。／参考書：参考書は授業中随時紹介します。
- 連絡先・オフィスアワー** kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部4階410研究室

開設科目	日本思想文献講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	豊澤 一				

- 授業の概要** 「和辻哲郎研究」 和辻哲郎の日本文化研究を振り返ります。／**検索キーワード** 和辻哲郎
- 授業の一般目標** 和辻哲郎の倫理学的思想史研究の方法を理解します。
- 授業の計画（全体）** 和辻哲郎『日本精神史研究』（岩波文庫）を読みます。
- 成績評価方法（総合）** 期末レポートを課します。また、レポーター、司会の任を課します。
- 教科書・参考書** 教科書：和辻哲郎『日本精神史研究』（岩波文庫）／参考書：講義の際に、適宜、紹介します。
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室:人文学部棟 409 号研究室 オフィスアワー：木曜日 12:50～14:20

開設科目	日本思想文献講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	豊澤 一				

- 授業の概要 「和辻哲郎研究」 前期から引き続き、和辻哲郎を読みます。／検索キーワード 和辻哲郎
- 授業の一般目標 前期を参照。
- 授業の計画（全体） 前期を参照。
- 成績評価方法（総合） 前期を参照。
- 教科書・参考書 教科書： 前期を参照／ 参考書： 前期を参照
- 連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部棟 409 号研究室 オフィスアワー：木曜日 12:50 ～ 14:20

開設科目	日本思想文献講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	柏木寧子				

●**授業の概要** —説話集を読む— 扱うテキストは、受講生の希望も聞いた上で決めたいと考えますが、目下（2004年2月時点）『閑居友』『古本説話集』を読む予定です（他の可能性としては昨年度に引き続き『源氏物語』を読み進めることを考えています）。前者は鎌倉初期の仏教説話集、後者は平安末期の説話集で上巻は和歌にかかわる世俗説話、下巻は観音靈驗にかかわる仏教説話を収めます。毎週数話を読み進めながら、説話の思想を探ります。／**検索キーワード** 『閑居友』『古本説話集』

●**授業の一般目標** 恣意を排し、かつ主体的にテキストを読む姿勢・素養を涵養すること。

●**授業の計画（全体）** 全員があらかじめテキストを読み、問題点を考えて授業に臨みます。受講者は当番制で報告者となり、読解上の要点や疑問点を示し、それをめぐる自分の考えも述べます。その後全員で議論をしながら読解を深めます。なお、予習時点で考えたことをカードに記し、授業後に提出することとします。

●**成績評価方法（総合）** (1) 授業内の報告（テキストの精読、自分なりの視点を定めて問いを発見する姿勢、論理的な思考と文章表現、を求めます）。(2) 期末レポート（ただし、授業内の報告を所定の回数以上行った場合は課しません）。なお、出席が所定の回数に満たない場合は単位を取得できません。

●**教科書・参考書** 教科書：古本説話集（上）・同（下）（講談社学術文庫1489,1490）、高橋貢全訳注、講談社、2001年；上記の通り、教科書はあくまで受講者の希望を聞く以前の予定ですので、注意して下さい。なお、『閑居友』についてはプリントを配付します。『古本説話集』は上・下とも販売店：文栄堂、各1,200。

●**メッセージ** 初回授業には必ず出席して下さい。テキストを正式に決め、報告者の順番を割り振ります。やむを得ず欠席した場合は、二回目の授業以前に受講意思を告げに来て下さい（テキストについて確認し、二回目から予習をして授業に臨んで下さい）。無断欠席はなるべくしないで下さい。進度（一回に扱う説話の数）など、授業計画にかかわる要望・意見はいつでも遠慮なくお寄せください。

●**連絡先・オフィスアワー** kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部4階410研究室

開設科目	日本思想文献講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	柏木寧子				

●**授業の概要** 一室町物語草子（御伽草子）を読むー 扱うテキストは、受講生の希望も聞いた上で決めたいと考えますが、目下（2004年2月時点）『室町物語草子集』を読む予定です（他の可能性としては、昨年度に引き続き『源氏物語』を読み進めることを考えています）。毎週一話を採り上げ、方法的に何らかの視点を設定し問いを立てながら、中世庶民の思想の一端を探ります。／**検索キーワード** 室町物語草子 御伽草子

●**授業の一般目標** 恣意を排し、かつ主体的にテキストを読む姿勢・素養を涵養すること。

●**授業の計画（全体）** 全員があらかじめテキストを読み、問題点を考えて授業に臨みます。受講者は当番制で報告者となり、読解上の要点や疑問点を示し、それをめぐる自分の考えも述べます。その後全員で議論をしながら読解を深めます。なお、予習時点で考えたことをカードに記し、授業後に提出することとします。場合によっては、途中で関連論文を読む回を設けることもあります。

●**成績評価方法（総合）** (1) 授業内の報告（テキストの精読、自分なりの視点を定めて問いを発見する姿勢、柔軟な思考と論理的な文章表現、を求めます）。(2) 期末レポート（ただし、授業内の報告を所定の回数以上行った場合は課しません）。なお、出席が所定の回数に満たない場合は単位を取得できません。

●**教科書・参考書** 教科書：『室町物語草子集』（新編日本古典文学全集 63）、大島建彦・渡浩一校注・訳、小学館、2002年；上記の通り、教科書はあくまで受講者の希望を聞く以前の予定ですので、注意して下さい。販売店：文栄堂。4,480。

●**メッセージ** 初回授業には必ず出席して下さい。テキストを正式に決め、報告者の順番を割り振ります。初回にやむを得ず欠席した場合は、二回目の授業以前に一言知らせに来て下さい（テキストについて確認し、予習カード等を受け取り、二回目から予習をして授業に臨んで下さい）。無断欠席はなるべくしないで下さい。進度（一回に扱う説話の数）など、授業計画にかかわる要望・意見はいつでも遠慮なくお寄せください。

●**連絡先・オフィスアワー** kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部 4階 410 研究室

開設科目	日本思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	豊澤 一				

- 授業の概要 「『古事記』研究」 『古事記』を読みます。／検索キーワード 古事記
- 授業の一般目標 『古事記』を読み，理解する。
- 授業の計画（全体） 『古事記』の最初から丁寧に読んでいきます。
- 成績評価方法（総合） 期末レポートを課します。また，レポーター，司会の任を課します。
- 教科書・参考書 教科書：西宮一民校注『古事記』（新潮日本古典集成），新潮社，1979／参考書：講義の際に，適宜，紹介します。
- 連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部棟 409 号研究室 オフィスアワー：木曜日 12:50～14:20

開設科目	日本思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	柏木寧子				

●**授業の概要** — 『日本霊異記』を読む— 日本最古の仏教説話集『日本霊異記』を読みます。毎回十話程度を採り上げ、編者が表現を意図したこと（例えば教訓）のみならず、巧まずして表現したと考えられること（例えば動物観）も含め、思想の解明を試みます。／**検索キーワード** 『日本霊異記』

●**授業の一般目標** 恣意を排し、かつ主体的にテキストを読む姿勢・素養を涵養すること。

●**授業の計画（全体）** 全員があらかじめテキストを読み、問題点を考えて授業に臨みます。受講者は当番制で報告者となり、読解上の要点や疑問点を示し、それをめぐる自分の考えも述べます。その後全員で議論をしながら読解を深めます。なお、予習時点で考えたことをカードに記し、授業後に提出することとします

●**成績評価方法（総合）** (1) 授業内の報告（テキストの精読、自分なりの視点を定めて問いを発見する姿勢、論理的な思考と文章表現、を求めます）。(2) 期末レポート（ただし、授業内の報告を所定の回数以上行った場合は課しません）。なお、出席が所定の回数に満たない場合は単位を取得できません。

●**教科書・参考書** 教科書：『日本霊異記』（新潮日本古典集成）、小泉道校注、新潮社、1984年；販売店：文栄堂。¥3,600。／参考書：授業中に紹介します。

●**メッセージ** 初回授業には必ず出席して下さい。テキストを正式に決め、報告者の順番を割り振ります。初回にやむを得ず欠席した場合は、二回目の授業以前に一言知らせに来て下さい（テキストについて確認し、予習カード等を受け取り、二回目から予習をして授業に臨んで下さい）。無断欠席はなるべくしないで下さい。進度（一回に扱う説話の数）など、授業計画にかかわる要望・意見はいつでも遠慮なくお寄せください。

●**連絡先・オフィスアワー** kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部 4 階 410 研究室



開設科目	日本思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	豊澤 一				

- 授業の概要** 「卒業論文執筆のための演習」 日本思想を卒業論文のテーマとする3, 4年生を対象として, 研究を具体的に指導します。受講生は, 各自のテーマについて定期的に発表します。他の受講生は, その発表を聴いて知見を共有するとともに, そのテーマについて討論します。また, 期末レポート相互に批評します。
- 授業の一般目標** ○ 論文執筆の作法を身につけることを目指します。○ 日本思想に関する知見を広め, 幅広い考え方ができることを目指します。○ 学友の前で研究の成果を発表し, 質疑応答の場を経験することによって, より柔軟な態度を涵養することを目指します。
- 授業の計画(全体)** ○ 論文執筆作法, また研究作法の書物を数冊読みます。○ 受講生は, 自らのテーマについての研究成果を発表します。○ 他の受講生は, その成果発表に質問をします。
- 成績評価方法(総合)** 各自のテーマに応じた研究成果発表を課します。その成果を文章化する期末レポートを課します。
- 教科書・参考書** 教科書: 未定/ 参考書: 参考文献リストを配付します。
- 連絡先・オフィスアワー** 大抵の時間は研究室にいますので, いつでもどうぞ。

開設科目	日本思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	豊澤 一				

●授業の概要 前期を参照

●授業の一般目標 前期を参照

●授業の計画（全体） 前期を参照

●成績評価方法（総合） 前期を参照

●教科書・参考書 教科書： 前期を参照／ 参考書： 前期を参照

●連絡先・オフィスアワー 前期を参照

開設科目	日本思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	柏木寧子				

- 授業の概要** —卒業論文演習— 日本思想に関わるテーマで卒業論文を執筆する3, 4年次生を対象として、各自の研究を具体的に指導します。受講生には、数週間毎に研究の途中経過を口頭報告すること、当番の回以外にも出席して議論に参加すること、を義務として課します。時には受講生同士、互いの期末レポートを読み合い、質疑応答を行う機会も設けます。／**検索キーワード** 卒業論文
- 授業の一般目標** 2年間で各自の卒業論文を仕上げるために必要・十分なもろもろの過程を積み重ねることを目指します。各人のペースで研究を進めることが大切なのは言うまでもありませんが、授業の場で互いに率直に批評し合う経験を通じ、より柔軟な発想、精密な推論、広い視野、有機的な関心、明晰な文章、等々を獲得していけるよう、目指します。
- 授業の計画（全体）** 受講生各自が数週間に一度ずつ当番となり、卒論研究の途中経過を口頭報告します。受講生からの希望があれば、何らかの論文作法の本も併行して読み進めます。
- 成績評価方法（総合）** (1) 授業中の口頭発表。(2) 期末レポート（3000字程度）。
- 教科書・参考書** 教科書：受講者からの希望があれば、論文作法について何らかの本を読み進めます。書名等は授業中に知らせます。／参考書：参考文献リストは授業中に配付します。
- メッセージ** 無断欠席はなるべくしないで下さい。研究上の疑問等は授業時間外でも随時相談に来て下さい。
- 連絡先・オフィスアワー** kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	柏木寧子				

●**授業の概要** —卒業論文演習— 日本思想に関わるテーマで卒業論文を執筆する3, 4年次生を対象として、各自の研究を具体的に指導します。受講生には、数週間毎に研究の途中経過を口頭報告すること、当番の回以外にも出席して議論に参加すること、を義務として課します。時には受講生同士、期末レポートを読み合い質疑応答を行う機会も設けます。／**検索キーワード** 卒業論文

●**授業の一般目標** 2年間で各自の卒業論文を仕上げるために必要・十分な、もろもろの過程を積み重ねることを目指します。各人のペースで研究を進めることが大切なのは言うまでもありませんが、授業の場で互いに率直に批評し合う経験を通じ、より柔軟な発想、精密な推論、広い視野、有機的な関心、明晰な文章、等を獲得していけるよう目指します。

●**授業の計画（全体）** 受講生各自が数週間に一度ずつ当番となり、卒論研究の途中経過を口頭報告します。受講生からの希望があれば、何らかの論文作法の本も併行して読み進めます。

●**成績評価方法（総合）** (1) 授業中の口頭発表。(2) 期末レポート（3000字程度）。

●**教科書・参考書** 教科書：受講者からの希望があれば、論文作法について何らかの本を読み進めます。書名等は授業中に知らせます。／参考書：参考文献リストは授業中に配付します。

●**メッセージ** 無断欠席はなるべくしないで下さい。研究上の疑問等は授業時間外でも随時相談に来て下さい。

●**連絡先・オフィスアワー** kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	宗教学概論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	Djumali Alam				

●**授業の概要** 宗教学における基礎理論と主要なテーマを知ることからはじめ、宗教的な現象と表象の「理解」とそのための「方法」について考察する。宗教に特有かつ普遍的な事象を、宗教学および関連領域（宗教社会学、宗教心理学、宗教人類学など）の古典的な理論と方法論の視点から分析し、人間が全体としてどのようにして自らの宗教的行為、宗教的観念、宗教の様式、宗教的規範、宗教的経験などを構成したり位置付けたり認知したり具体化したりしているのかについて包括的・体系的に考察する。／**検索キーワード** 宗教、宗教学、宗教社会学、宗教心理学、宗教人類学、民族宗教、民間信仰・民俗宗教、国教、世界宗教

●**授業の一般目標** 宗教学という学問分野と宗教とは何かという課題について、一定の図式と枠組みを身につけ、個々の宗教現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。**思考・判断の観点**：個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。**関心・意欲の観点**：身近な宗教現象について関心を抱くこと。**技能・表現の観点**：宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。

●**授業の計画（全体）** 授業は以下の授業計画通りに行う予定であるが、日付については、変更が生じる場合がある。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** イントロダクション **内容** (1) 授業の進め方の説明。(2) 宗教へのアプローチ。 **授業外指示** 教科書の序章を予習・復習すること。
- 第 2 回 **項目** 宗教学とは何か？ **内容** 研究対象、研究方法、研究分野。 **授業外指示** 教科書の 1 章を予習・復習すること。
- 第 3 回 **項目** 宗教と社会変動 **内容** (1) 宗教と近代化・世俗化・政教分離。(2) 変動期の宗教。 **授業外指示** 教科書の 2 章を予習・復習すること。参考書は 4 章。
- 第 4 回 **項目** 宗教心理学 1 **内容** (1) ジェームズと宗教心理学。(2) ルサンチマンと宗教心理学。 **授業外指示** 教科書の 3 章を予習・復習すること。
- 第 5 回 **項目** 宗教心理学 2 **内容** (1) 宗教心の核心・ヌミノーズ。(2) ユングの宗教心理学。 **授業外指示** レジュメを事前に配布するので、予習・復習をすること。
- 第 6 回 **項目** 宗教社会学 1 **内容** ウェーバーの宗教社会学。 **授業外指示** 教科書の 4 章を予習・復習すること。参考書は 1 章。
- 第 7 回 **項目** 宗教社会学 2 **内容** (1) デュルケームの宗教社会学。(2) パーソンの宗教社会学。 **授業外指示** 教科書の 4 章を予習・復習すること。参考書は 1 章。
- 第 8 回 **項目** 宗教人類学 **内容** (1) 宗教起源論。(2) 機能主義と構造主義。(3) 解釈人類学。 **授業外指示** 教科書の 4 章を予習・復習すること。参考書は 2 章。
- 第 9 回 **項目** 現代日本の宗教 **内容** (1) 宗教意識の問題。(2) 宗教へのかかわりと宗教の役割。(3) 宗教をとりまく社会的背景。 **授業外指示** 教科書の 1 4 章を予習・復習すること。参考書は 3 章。
- 第 10 回 **項目** 呪術と民間信仰・民俗宗教 **内容** (1) 呪術論。(2) 民間信仰・民俗宗教としての呪術。 **授業外指示** レジュメを事前に配布するので、予習・復習をすること。
- 第 11 回 **項目** 新宗教 **内容** (1) 新宗教という日本の宗教分類。(2) 新宗教のケース。(3) 新宗教を取り巻く日本の宗教事情。 **授業外指示** レジュメを事前に配布するので、予習・復習をすること。参考書は 5 章。
- 第 12 回 **項目** 民族宗教 **内容** (1) ヒンドゥー教とその派生。(2) 民族宗教という宗教形態。 **授業外指示** 教科書の 8 章を予習・復習すること。また、レジュメを事前に配布するので、予習・復習をすること。

第13回 **項目** 国教 **内容** (1) タイの上座仏教。(2) 国教という宗教形態。 **授業外指示** レジュメを事前に配布するので、予習・復習をすること。

第14回 **項目** 世界宗教 **内容** (1) イスラム教の事例。(2) 聖と俗の共存。 **授業外指示** 教科書の9章を予習・復習すること。

第15回 **項目** 期末試験

●**成績評価方法(総合)** 1. 出席は10回を単位取得の条件とする。出欠は主に以下の小テストでとる。2. 小テストは13回(ほぼ毎回)行うが、10回の参加を単位取得の条件とする。小テストは毎回採点し、翌週に返す。3. レポートを一回課す(6月中)。4. 筆記試験を学期末の試験期間中に一回行う。5. 遅刻や途中退室は、ケースによっては欠席とみなす。6. 教育実習に参加する学生に関しては別途配慮するので、事前に連絡すること。

●**教科書・参考書** 教科書：宗教学を学ぶ, 井上順孝・他, 有斐閣, 1996年; 教科書は参加者各自で入手すること。教科書のすべての箇所(章)が授業内容に関連するわけではない。また、教科書にはない授業内容があるが、その場合は、各自で参考書を参照すること。教科書にも参考書にも該当しない授業内容については、レジュメを配布する。/ 参考書：現代日本の宗教社会学, 井上順孝, 世界思想社, 1994年; 参考書のいくつかの章が授業内容に密接する。

●**メッセージ** 授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収することを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の予習と復習をする必要がある。

●**連絡先・オフィスアワー** ジュマリ・アラム / 電子メール: djumali@yamaguchi-u.ac.jp / 電話(研究室): 083-933-5220 / 研究室: 人文学部 413号室

開設科目	比較宗教論特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	Djumali Alam				

- 授業の概要** エリアーデの理論と研究（比較宗教学）について学ぶ。宗教学における基礎理論と主要なテーマを知り、宗教的な現象と表象の「理解」とそのための「方法」について考察する。宗教に特有かつ普遍的な事象を、宗教学の理論と方法論の視点から分析し、人間が全体としてどのようにして自らの宗教的行為、宗教的観念、宗教的様式、宗教的規範、宗教的経験などを構成したり位置付けたり認知したり具体化したりしているのかについて包括的・体系的に考察する。／**検索キーワード** 宗教、宗教学、エリアーデ
- 授業の一般目標** 宗教学という学問分野と宗教とは何かという課題について、一定の図式と枠組みを身につけ、個々の宗教現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 **思考・判断の観点**： 個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。  
**関心・意欲の観点**： 身近な宗教現象について関心を抱くこと。 **技能・表現の観点**： 宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。
- 授業の計画（全体）** 授業は全 1 4 回行い、内容は教科書の構成に基づいて進める。教科書は全 1 3 章からなっており、授業の内容はほぼ毎回教科書の一チャプターに相当する。毎回の授業（初回と最終回は多少異なる）は、次のようなかたちで進める（多少の工夫や変更はありうる）。(1) 小テスト (2) 前回の小テストの解説 (3) 教科書に沿った当日のテーマの講義
- 成績評価方法（総合）** 1. 出席は 1 0 回を単位取得の条件とする。出欠は主に以下の小テストでとる。 2. 小テストは 1 3 回（ほぼ毎回）行うが、1 0 回の参加を単位取得の条件とする。小テストは毎回採点し、翌週に返す。 3. 学期末の試験期間中にレポートを一回課す。 4. 遅刻や途中退室は、ケースによっては欠席とみなす。 5. 教育実習に参加する学生に関しては別途配慮するので、事前に連絡すること。
- 教科書・参考書** 教科書： 太陽と天空神（エリアーデ著作集 1）, エリアーデ, せりか書房, 1974 年； 豊饒と再生（エリアーデ著作集 2）, エリアーデ, せりか書房, 1974 年； 聖なる空間と時間（エリアーデ著作集 3）, エリアーデ, せりか書房, 1974 年； 教科書は原本を研究室におき（または代表の学生に預ける）、参加者各自でコピーすること。
- メッセージ** 授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収することを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の予習と復習をする必要がある。
- 連絡先・オフィスアワー** ジュマリ・アラム / 電子メール: djumali@yamaguchi-u.ac.jp / 電話（研究室）: 083-933-5220 / 研究室: 人文学部 413 号室

開設科目	比較宗教論特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	Djumali Alam				

- 授業の概要** エリアーデの理論と研究（シャーマニズム）について学ぶ。宗教学における基礎理論と主要なテーマを知り、宗教的な現象と表象の「理解」とそのための「方法」について考察する。宗教に特有かつ普遍的な事象を、宗教学の理論と方法論の視点から分析し、人間が全体としてどのようにして自らの宗教的行為、宗教的観念、宗教的様式、宗教的規範、宗教的経験などを構成したり位置付けたり認知したり具体化したりしているのかについて包括的・体系的に考察する。／**検索キーワード** 宗教、宗教学、エリアーデ
- 授業の一般目標** 宗教学という学問分野と宗教とは何かという課題について、一定の図式と枠組みを身に付け、個々の宗教現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 **思考・判断の観点**： 個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。  
**関心・意欲の観点**： 身近な宗教現象について関心を抱くこと。 **技能・表現の観点**： 宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。
- 授業の計画（全体）** 授業は全 1 4 回行い、内容は教科書の構成に基づいて進める。教科書は全 1 4 章からなっており、授業の内容はほぼ毎回教科書の一チャプターに相当する。毎回の授業（初回と最終回は多少異なる）は、次のようなかたちで進める（多少の工夫や変更はありうる）。(1) 小テスト (2) 前回の小テストの解説 (3) 教科書に沿った当日のテーマの講義
- 成績評価方法（総合）** 1. 出席は 1 0 回を単位取得の条件とする。出欠は主に以下の小テストでとる。 2. 小テストは 1 3 回（ほぼ毎回）行うが、1 0 回の参加を単位取得の条件とする。小テストは毎回採点し、翌週に返す。 3. 学期末の試験期間中にレポートを一回課す。 4. 遅刻や途中退室は、ケースによっては欠席とみなす。 5. 教育実習に参加する学生に関しては別途配慮するので、事前に連絡すること。
- 教科書・参考書** 教科書： シャーマニズム, エリアーデ, 冬樹社, 1974 年；教科書は原本を研究室におき（または代表の学生に預ける）、参加者各自でコピーすること。
- メッセージ** 授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収することを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の予習と復習をする必要がある。
- 連絡先・オフィスアワー** ジュマリ・アラム / 電子メール: djumali@yamaguchi-u.ac.jp / 電話（研究室）: 083-933-5220 / 研究室: 人文学部 413 号室



開設科目	比較宗教論特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	関 一敏				

●**授業の概要** アジア的視野にたった宗教学入門をこころみる。日本の「無宗教」の風土の特殊性をしっかりとふまえたうえで、世界宗教群やローカルな宗教群をどうとらえたらよいかを考えたい。多くの文化は宗教的基礎にたっているので、宗教の知識とそれにもとづく正しい判断は21世紀のわれわれには不可欠である。／**検索キーワード** アジア、宗教・習俗・法・国家、植民地、信と儀礼、世界観

●**授業の一般目標** (1) 宗教を知る。(2) 宗教から学ぶ。(3) 世界を見る。

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 宗教の基礎知識の獲得。 **思考・判断の観点**： 正確な知識にもとづく、よりよい判断のレッスン。

●**授業の計画（全体）** はじめに一人文学としての宗教学方法論 1. 宣教師たちの到来 1) 宗教の不在 2) 宣教の理由 3) 仏陀の誘惑 4) 原型と変形/差異と反復 2. 慣習と法 1) 慣習法という矛盾 2) 習俗か宗教か 3) 離床する制度群 4) 慣習とことば 3. 心理という罫、社会という仮構 1) 内面の加工 2) 魂の世俗化 3) 行と知と信と 4) 救済と安心 4. ことばの力、文字の憂鬱 1) ことばの始原 2) 文字の力 3) 聖典 4) 神話という表象群 5. 命名する根拠 1) 教会とその残余 2) 悪魔祓いの舞台 3) 評判と権威 4) 司祭と神秘家たち 6. 王法と仏法 1) 法源と正義 2) サンガとウンマと無教会 3) 天皇制というモダニズム 4) 宗教・法・国家 おわりにーアジアという角度。植民地的知のねじれのはずし方。

●**成績評価方法（総合）** 講義の最後に試験をおこなう。

●**教科書・参考書** 教科書： 宗教人類学入門, 関一敏・大塚和夫編, 弘文堂, 2004年／ 参考書： 世界が分かる宗教社会学入門, 橋爪大三郎, 筑摩書房, 2001年； 文化人類学キーワード, 山下晋司・船曳建夫編, 有斐閣双書, 1997年

●**メッセージ** いま自分にできることは何だろうか。 [http://www.lit.kyushu-u.ac.jp/com\\_reli/enter.htm](http://www.lit.kyushu-u.ac.jp/com_reli/enter.htm)

●**連絡先・オフィスアワー** seki@lit.kyushu-u.ac.jp

●**備考** 集中授業

開設科目	宗教学文献講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	Djumali Alam				

- 授業の概要** 宗教学の基本文献を購読し理解し、個々の研究への適用を試みる。今回は、デュルケームの『宗教生活の原初形態』（前半）を読む。／**検索キーワード** 宗教、宗教学、デュルケーム、アニミズム、トーテミズム
- 授業の一般目標** 宗教学の理論と方法論について学び、個々の宗教現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：宗教学の主要な理論と方法論を身につけること。 **思考・判断の観点**：個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。 **関心・意欲の観点**：身近な宗教現象について関心を抱くこと。 **技能・表現の観点**：宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。
- 授業の計画（全体）** 授業は全14回行い、内容は教科書の構成に基づいて進める。教科書は約400ページからなっており、毎回約30ページについて授業を行う。毎回の授業（初回と最終回は多少異なる）は、次のようなかたちで進める（多少の工夫や変更はありうる）。(1) 数人による小レポートのプレゼンテーション（小レポートは全員が毎回提出）(2) 教科書に沿った当日のテーマの解説
- 成績評価方法（総合）** 1. 出席は10回を単位取得の条件とする。 2. 小レポートは13回（ほぼ毎回）課すが、10回の提出を単位取得の条件とする。小レポートは毎回採点し、翌週に返す。 3. 筆記試験を学期末の試験期間中に一回行う。 4. 遅刻や途中退室は、ケースによっては欠席とみなす。 5. 教育実習に参加する学生に関しては別途配慮するので、事前に連絡すること。
- 教科書・参考書** 教科書：宗教生活の原初形態（上）、デュルケーム、岩波書店、1975年；教科書は原本を研究室におき（または代表の学生に預ける）、参加者各自でコピーすること。
- メッセージ** 授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収することを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の予習と復習をする必要がある。
- 連絡先・オフィスアワー** ジュマリ・アラム / 電子メール:djumali@yamaguchi-u.ac.jp / 電話（研究室）: 083-933-5220 / 研究室：人文学部 413 号室

開設科目	宗教学文献講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	Djumali Alam				

- 授業の概要** 宗教学の基本文献を購読し理解し、個々の研究への適用を試みる。今回は、デュルケームの『宗教生活の原初形態』（後半）を読む。／**検索キーワード** 宗教、宗教学、デュルケーム、アニミズム、トーテミズム
- 授業の一般目標** 宗教学の理論と方法論について学び、個々の宗教現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：宗教学の主要な理論と方法論を身につけること。 **思考・判断の観点**：個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。 **関心・意欲の観点**：身近な宗教現象について関心を抱くこと。 **技能・表現の観点**：宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。
- 授業の計画（全体）** 授業は全14回行い、内容は教科書の構成に基づいて進める。教科書は約400ページからなっており、毎回約30ページについて授業を行う。毎回の授業（初回と最終回は多少異なる）は、次のようなかたちで進める（多少の工夫や変更はありうる）。(1) 数人による小レポートのプレゼンテーション（小レポートは全員が毎回提出）(2) 教科書に沿った当日のテーマの解説
- 成績評価方法（総合）** 1. 出席は10回を単位取得の条件とする。 2. 小レポートは13回（ほぼ毎回）課すが、10回の提出を単位取得の条件とする。小レポートは毎回採点し、翌週に返す。 3. 筆記試験を学期末の試験期間中に一回行う。 4. 遅刻や途中退室は、ケースによっては欠席とみなす。 5. 教育実習に参加する学生に関しては別途配慮するので、事前に連絡すること。
- 教科書・参考書** 教科書：宗教生活の原初形態（下）、デュルケーム、岩波書店、1975年；教科書は原本を研究室におき（または代表の学生に預ける）、参加者各自でコピーすること。
- メッセージ** 授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収することを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の予習と復習をする必要がある。
- 連絡先・オフィスアワー** ジュマリ・アラム / 電子メール:djumali@yamaguchi-u.ac.jp / 電話（研究室）: 083-933-5220 / 研究室：人文学部 413 号室

開設科目	宗教学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	Djumali Alam				

●**授業の概要** 参加者各自が研究したい、または関心のある宗教現象を取り上げ、宗教学的な考察と分析を行う。宗教学の領域範囲内の自由発表形式となるが、宗教学的な視点・枠組み・理論・方法論が十分に活かされるように、プレゼンテーションの準備段階または初回のプレゼンテーションで、個別的な指導やアドバイスをを行い、実際のプレゼンテーションや次回のプレゼンテーションにおいて反映されるようにする。／**検索キーワード** 宗教、宗教学

●**授業の一般目標** 宗教という単純なカテゴリーや固定観念にとらわれず、宗教のもっとも自然なかたちを、その本質と表象の両面から捉える、宗教学的な枠組みと視点を身につけた上で、それを実際の研究に応用できるようにすることを目標とする。

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 **思考・判断の観点**：個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。 **関心・意欲の観点**：身近な宗教現象について関心を抱くこと。 **態度の観点**：宗教に関するいろいろな課題について積極的に知ろうとすること。 **技能・表現の観点**：宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。

●**授業の計画（全体）** 授業は全14回行い、毎回の授業（初回と最終回は多少異なる）は、次のようなかたちで進める（多少の工夫や変更はありうる）。(1) 当日のテーマ1のプレゼンテーション、コメント、ディスカッション (2) 当日のテーマ2のプレゼンテーション、コメント、ディスカッション (3) 次週のテーマ1と2の計画・プロポーサルの発表・紹介

●**成績評価方法（総合）** 1. 出席は10回を単位取得の条件とする。 2. プレゼンは各参加者に2回行ってもらう予定である（初回と2回目の間に一ヶ月以上の期間をあける）。ただし、参加者の人数や授業スケジュールなどによって、異なる場合がある。それとは別に、プレゼンの計画・プロポーサルを事前に発表・紹介してもらう。 3. プレゼンテーションの順番でないセッションには、できるだけディスカッションに積極的に参加する（毎回発言がなくてもよいが、2・3回に一度の発言を期待する）。 4. 学期末の試験期間中にレポートを一回課す。 5. 遅刻や途中退室は、ケースによっては欠席とみなす。 6. 教育実習に参加する学生に関しては別途配慮するので、事前に連絡すること。

●**教科書・参考書** 教科書：使用しない／参考書：適宜、個別に案内する

●**メッセージ** 授業・演習に参加することによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収したり新たな視点や情報を身につけたりすることを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回出席し、演習に積極的に参加する必要がある。宗教学研究室（または哲学・倫理学・宗教学教室）以外の学生も、広い意味での宗教に関心があれば参加できる（歓迎する）。

●**連絡先・オフィスアワー** ジュマリ・アラム / 電子メール:djumali@yamaguchi-u.ac.jp / 電話（研究室）: 083-933-5220 / 研究室：人文学部 413 号室

開設科目	宗教学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	Djumali Alam				

●**授業の概要** 参加者各自が研究したい、または関心のある宗教現象を取り上げ、宗教学的な考察と分析を行う。宗教学の領域範囲内の自由発表形式となるが、宗教学的な視点・枠組み・理論・方法論が十分に活かされるように、プレゼンテーションの準備段階または初回のプレゼンテーションで、個別的な指導やアドバイスをを行い、実際のプレゼンテーションや次回のプレゼンテーションにおいて反映されるようにする。／**検索キーワード** 宗教、宗教学

●**授業の一般目標** 宗教という単純なカテゴリーや固定観念にとらわれず、宗教のもっとも自然なかたちを、その本質と表象の両面から捉える、宗教学的な枠組みと視点を身につけた上で、それを実際の研究に応用できるようにすることを目標とする。

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 **思考・判断の観点**：個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。 **関心・意欲の観点**：身近な宗教現象について関心を抱くこと。 **態度の観点**：宗教に関するいろいろな課題について積極的に知ろうとすること。 **技能・表現の観点**：宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。

●**授業の計画（全体）** 授業は全 14 回行い、毎回の授業（初回と最終回は多少異なる）は、次のようなかたちで進める（多少の工夫や変更はありうる）。(1) 当日のテーマ 1 のプレゼンテーション、コメント、ディスカッション (2) 当日のテーマ 2 のプレゼンテーション、コメント、ディスカッション (3) 次週のテーマ 1 と 2 の計画・プロポーサルの発表・紹介

●**成績評価方法（総合）** 1. 出席は 10 回を単位取得の条件とする。 2. プレゼンは各参加者に 2 回行ってもらう予定である（初回と 2 回目の間に一ヶ月以上の期間をあける）。ただし、参加者の人数や授業スケジュールなどによって、異なる場合がある。それとは別に、プレゼンの計画・プロポーサルを事前に発表・紹介してもらう。 3. プレゼンテーションの順番でないセッションには、できるだけディスカッションに積極的に参加する（毎回発言がなくてもよいが、2・3 回に一度の発言を期待する）。 4. 学期末の試験期間中にレポートを一回課す。 5. 遅刻や途中退室は、ケースによっては欠席とみなす。 6. 教育実習に参加する学生に関しては別途配慮するので、事前に連絡すること。

●**教科書・参考書** 教科書：使用しない／参考書：適宜、個別に案内する

●**メッセージ** 授業・演習に参加することによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収したり新たな視点や情報を身につけたりすることを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回出席し、演習に積極的に参加する必要がある。宗教学研究室（または哲学・倫理学・宗教学教室）以外の学生も、広い意味での宗教に関心があれば参加できる（歓迎する）。

●**連絡先・オフィスアワー** ジュマリ・アラム / 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp / 電話（研究室）：083-933-5220 / 研究室：人文学部 413 号室

開設科目	史学概論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	真木隆行				

- 授業の概要** 学問としての歴史学とはいかなるものか。その一端をお話しする。但し、歴史学全般を論じるというよりは、私の専門とする日本史分野を基軸としたい。とりわけ史料批判や年代比定などについては、皆さんに体感していただく機会を設けたい。
- 授業の一般目標** ・歴史小説と歴史学との違いを理解する。 ・史料批判の方法について学び、文献そのものを吟味する目を養う。 ・歴史学には歴史叙述・歴史観の更新が求められ、単なる史料の羅列によっては成り立たないことを理解する。
- 授業の計画（全体）** 当面、次のようなテーマを考えている。 ・歴史小説と歴史学との違い ・史料批判と史料論 ・年代比定の実際 ・歴史叙述・歴史観をめぐる諸問題 詳細については、初回講義で提示したい。
- 成績評価方法（総合）** 出席点、授業内レポートの内容、定期試験、それらから総合的見地に立って評価する。
- 教科書・参考書** 教科書：プリントを配布する。／参考書：講義時間内に紹介する。

開設科目	史学概論 IV	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	馬彪				

●**授業の概要** 史学概論とは、史学発展の特徴や成績についての概括な論述である。この講義の内容は、歴史と史学との関係を中心として、史料・史書・史学及びその現代価値を述べるものである。又、本講義は、講師の知識によって、中国史学に制限されるのである点を説明すべきだ。

●**授業の一般目標** 本講義は歴史的遺産と史学的遺産についてどう受けたらよいか諸問題を説明することを目標とする。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：なるべく多くかつ奥深い史学的知識を学生に教えてあげる。**思考・判断の観点**：教員の思考を教えた上に、授業の対象にも考えられるように努力する。**関心・意欲の観点**：受講生の関心・意欲を喚起しようと工夫する。**態度の観点**：精いっぱい教育の熱意を出す。**技能・表現の観点**：討論・質問・レジュメなど手段で分かりやすく表現する。**その他の観点**：授業者と受講者の交流を大切にする。

●**授業の計画（全体）** 本講義は全部で6講の15回に分けて、進む予定である。それは、第一講、「学問以上のものである」史学は何か；第二講、伝承から文献への史学形成；第三講、史学の超大国の「汗牛充棟」；第四講、技がある史書の読み方；第五講、方法論と歴史研究；第六講、史学の科学性と大衆文化性などである。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

第1回 **項目** 導入 **内容** 本講義の内容と目標の紹介。

第2回 **項目** 第一講、「学問以上のものである」史学は何か（上） **内容** 史学と他の学問の関係は何であるか。

第3回 **項目** 第一講（下）。 **内容** なぜ史学は他の学問と違うか。

第4回 **項目** 第二講、伝承から文献への史学形成（上） **内容** 伝承的な史学。

第5回 **項目** 第二講（下）。 **内容** 文献的な史学。

第6回 **項目** 第三講、史学の超大国の「汗牛充棟」（上） **内容** 史料の分類

第7回 **項目** 第三講、（下） **内容** 史料の特徴

第8回 **項目** 第四講、技がある史書の読み方（上） **内容** 史書の読み方（1）

第9回 **項目** 第四講、（中） **内容** 史書の読み方（2）

第10回 **項目** 第四講、（下） **内容** 史書の読み方（2）

第11回 **項目** 第五講、方法論と歴史研究（上） **内容** 歴史研究法（1）

第12回 **項目** 第五講、（中） **内容** 歴史研究法（2）

第13回 **項目** 第五講、（下） **内容** 歴史研究法（3）

第14回 **項目** 第六講、史学の科学性と大衆文化性（上） **内容** 史学と哲学

第15回 **項目** 第六講、（下） **内容** 史学と文学

●**成績評価方法（総合）** レポート（8割）と出席（2割）を合わせて評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：特になし。／参考書：支那史学史（全集第11巻）、内藤湖南、筑摩書房、1969年；史学概論、白寿彝、寧夏人民出版社、1983年；中国歴史研究法、趙光賢、中国青年出版社、1988年

開設科目	日本史概論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	橋本義則				

●**授業の概要** 日本の古代宮都（宮殿と都城）は律令を基本とした日本における古代統一国家の首都である。そしえその構造は古代国家の政治体制を直接的に反映していると考えられる。それゆえに宮都の構造上の変化は古代国家の政治体制、さらに国家自身の変化をも意味することになる。本授業では、このような観点のもと、飛鳥時代から平安時代の宮都をめぐる諸問題を具体的に取り上げて古代宮都の実態をできうる限り明らかにするとともに、さらに日本の古代についても考えを及ぼしてみたい。今学期は特に平城宮と平城京を中心に奈良時代の宮都について述べることとする。／**検索キーワード** 日本古代史、宮都、複都制、平城宮、平城京、恭仁宮、難波宮、甲賀宮、保良宮、由義宮、文献史料、遺跡、遺構

●**授業の一般目標** 宮都の歴史的展開過程を理解することを通じて、日本古代の歴史を再確認するとともに、研究上の常識や通説を疑い学問・研究する姿勢を養う。

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：授業で講じられた、奈良時代の宮都個々について正確に説明できる。**思考・判断の観点**：授業で講じられた、奈良時代の宮都の変遷について歴史的観点から論理的に説明できる。**関心・意欲の観点**：歴史及び歴史学への興味・関心をいさぐ。**態度の観点**：学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。**技能・表現の観点**：正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。

●**授業の計画（全体）** 日本の古代宮都（宮殿と都城）は律令を基本とした日本における古代統一国家の首都である。そしえその構造は古代国家の政治体制を直接的に反映していると考えられる。それゆえに宮都の構造上の変化は古代国家の政治体制、さらに国家自身の変化をも意味することになる。本授業では、このような観点のもと、飛鳥時代から平安時代の宮都をめぐる諸問題を具体的に取り上げて古代宮都の実態をできうる限り明らかにするとともに、さらに日本の古代についても考えを及ぼしてみたい。今学期は特に平城宮と平城京を中心に奈良時代の宮都について述べることとする。

●**教科書・参考書** 教科書：指定されたホームページにアクセスして講義レジュメをダウンロードする必要がある。／参考書：授業中に適宜指摘する。

●**メッセージ** 高等学校で日本史の授業を受講し、飛鳥・奈良・平安の各時代について高等学校修了程度の予備知識をもっていることが望ましい。また講義レジュメのダウンロードと受講のためにノートパソコンを携帯することが望ましい。

●**連絡先・オフィスアワー** y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・木の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも



開設科目	日本史概論 III	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	田中誠二				

- 授業の概要** 日本近世史について概説する。他の時代と比較しての近世社会の特質を説明する。日本近世の政治・経済・社会にわたる固有の相を説明する。日本近世の時期を追っての変化を説明する。／**検索キーワード** 日本近世史、歴史学、概論
- 授業の一般目標** 1. 近代と前近代の論理的対比、日本史上における近世という時代の特徴を理解する。 2. 日本近世の政治・経済・社会の基本的知識を得る。 3. 日本近世の時期を追っての流れを理解する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 1. 日本近世の政治・経済・社会の基本的事実を説明できる。 2. 日本史上における近世という時代の特徴を説明できる。 **思考・判断の観点**： 1. 歴史の流れをマクロ的に把握する力を培う。 2. ものごとを批判的に見る眼を養う。 **技能・表現の観点**： 1. 自分の見解を論理的に文章で表現できる。
- 授業の計画（全体）** 歴史学の方法、日本史上の近世という時代の特徴、兵農分離・石高制・鎖国、將軍権力の確立、幕藩関係、知行制、検地と年貢、近世村落、近世都市、藩財政、貨幣・流通、藩政改革、等にわたって講義を行う。
- 成績評価方法（総合）** 定期試験によって成績評価を行う。試験は論述問題である。
- 教科書・参考書** 教科書： なし。適宜プリントを配布する。／ 参考書： 朝尾直弘『朝尾直弘著作集』（岩波書店）。

開設科目	古文書・古記録	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田中誠二				

●**授業の概要** 1. 近世のくずし字で書かれた史料を読解する能力を養う授業である。 2. 近世の基本的用語の読み・意味を説明する。／**検索キーワード** 古文書、くずし字、史料

●**授業の一般目標** 1. 1年間で、近世史料の簡単なくずし字であれば、読解できる。 2. 近世の基本的用語の読み・意味を説明できる。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1. 近世史料の簡単なくずし字を読解できる。 2. 近世史料の基本的用語の読み・意味を説明できる。 **関心・意欲の観点**： 1. 近世史料を原本で読解する醍醐味を味わう。

●**授業の計画（全体）** 最初の3コマくらいは、平仮名のくずし字に慣れる。4コマ目から毛利家文庫史料の写真版を用いて、くずし字の読解能力を養う。担当箇所を当てるので、当たった学生はパソコンで積文を作成し、読みかつ現代語訳を行う。これを訂正しつつ授業を進める。

●**成績評価方法（総合）** 定期試験によって成績評価を行う。減点法による足きり（41箇所間違いがあれば不可とする）がある。

●**教科書・参考書** 教科書：なし。適宜プリントを配布する。／参考書：古文書解読辞典を各自持つこと。例えば、児玉幸多編『くずし字解読辞典』（東京堂出版）、同編『くずし字用例辞典』など。

●**連絡先・オフィスアワー** オフィスアワー月曜・木曜昼休み

開設科目	古文書・古記録	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	田中誠二				

●**授業の概要** 1. 近世のくずし字で書かれた史料を読解する能力を養う授業である。 2. 近世の基本的用語の読み・意味を説明する。／**検索キーワード** 古文書、くずし字、史料

●**授業の一般目標** 1. 1年間で、近世史料の簡単なくずし字であれば読解できる。 2. 近世の基本的用語の読み・意味を説明できる。

●**授業の到達目標／知識・理解の観点**： 1. 近世史料の簡単なくずし字を読解できる。 2. 近世史料の基本的用語の読み・意味を説明できる。

●**授業の計画（全体）** 毛利家文庫史料の写真版を用いて、くずし字の読解能力を養う。前期よりも少し難度の高い史料の写真版を用いる。担当箇所を当てるので、当たった学生はパソコンで釈文を作成し、読みかつ現代語訳を行う。これを訂正しつつ授業を進める。

●**成績評価方法（総合）** 定期試験によって成績評価を行う。減点法による足きり（4 1箇所間違いがあれば不可とする）がある。

●**教科書・参考書** 教科書：なし。適宜プリントを配布する。／参考書：古文書読解辞典を各自持つこと。

●**連絡先・オフィスアワー** オフィスアワー月曜・木曜の昼休み。

開設科目	古文書・古記録	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	橋本義則				

●**授業の概要** この授業では平安時代の貴族が記した日記を翻刻されたテキストに従いつつ読み進めていきます。撰関時代に活躍した藤原実資の日記『小右記』を読んでいます。この授業は史料講読に準ずる内容のものであり、それと同様に受講者が分担して史料を読み、それに基づく解説を行います。担当した個所についてはレジュメの作成が必須です。また、レジュメの作成に当たっては当時の貴族の世界を詳しく知るために図面や系図、あるいは儀式書や法制書などからの引用が必要になってきます。授業では受講生全員が担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要で、しばしば指名して意見を求めます。／**検索キーワード** 日本古代史、平安時代、文献史料、漢文史料、日記、古記録、貴族、小右記

●**授業の一般目標** 平安時代の標準的史料である貴族の日記を読解する力を養成する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：平安時代の貴族の日記を読みこなすための基礎的知識を獲得する。

**思考・判断の観点**：様々な史料を用いて日記の内容を論理的に解釈する力を身につける。 **関心・意欲の観点**：古代貴族の日常生活に関心・興味を抱く。 **態度の観点**：学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。 **技能・表現の観点**：1, 古代の典型的漢文史料を正しく訓読・読み下し及び解釈できる。2, 正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。

**技能・表現の観点**：1, 古代の典型的漢文史料を正しく訓読・読み下し及び解釈できる。2, 正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。

●**授業の計画（全体）** この授業では平安時代の貴族が記した日記を翻刻されたテキストに従いつつ読み進めていきます。撰関時代に活躍した藤原実資の日記『小右記』を読んでいます。この授業は史料講読に準ずる内容のものであり、それと同様に受講者が分担して史料を読み、それに基づく解説を行います。担当した個所についてはレジュメの作成が必須です。また、レジュメの作成に当たっては当時の貴族の世界を詳しく知るために図面や系図、あるいは儀式書や法制書などからの引用が必要になってきます。授業では受講生全員が担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要で、しばしば指名して意見を求めます。

●**教科書・参考書** 教科書：なし。最初の授業で指示する。／参考書：なし

●**メッセージ** 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが期待される。毎回の担当者はあらかじめワードを用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に参加者全員にワードのファイルで配布することが義務づけられる。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。

●**連絡先・オフィスアワー** y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・木の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	古文書・古記録	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	橋本義則				

●**授業の概要** この授業では平安時代の貴族が記した日記を翻刻されたテキストに従いつつ読み進めていきます。撰関時代に活躍した藤原実資の日記『小右記』を読んでいます。この授業は史料講読に準ずる内容のものであり、それと同様に受講者が分担して史料を読み、それに基づく解説を行います。担当した個所についてはレジュメの作成が必須です。また、レジュメの作成に当たっては当時の貴族の世界を詳しく知るために図面や系図、あるいは儀式書や法制書などからの引用が必要になってきます。授業では受講生全員が担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要で、しばしば指名して意見を求めます。／**検索キーワード** 日本古代史、平安時代、文献史料、漢文史料、日記、古記録、貴族、小右記

●**授業の一般目標** 平安時代の標準的史料である貴族の日記を読解する力を養成する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：平安時代の貴族の日記を読みこなすための基礎的知識を獲得する。

**思考・判断の観点**：様々な史料を用いて日記の内容を論理的に解釈する力を身につける。 **関心・意欲の観点**：古代貴族の日常生活に関心・興味を抱く。 **態度の観点**：学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。 **技能・表現の観点**：1, 古代の典型的漢文史料を正しく訓読・読み下し及び解釈できる。2, 正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。

**●授業の計画（全体）** この授業では平安時代の貴族が記した日記を翻刻されたテキストに従いつつ読み進めていきます。撰関時代に活躍した藤原実資の日記『小右記』を読んでいます。この授業は史料講読に準ずる内容のものであり、それと同様に受講者が分担して史料を読み、それに基づく解説を行います。担当した個所についてはレジュメの作成が必須です。また、レジュメの作成に当たっては当時の貴族の世界を詳しく知るために図面や系図、あるいは儀式書や法制書などからの引用が必要になってきます。授業では受講生全員が担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要で、しばしば指名して意見を求めます。

●**教科書・参考書** 教科書：なし。最初の授業で指示する。／参考書：なし

●**メッセージ** 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが期待される。毎回の担当者はあらかじめワードを用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に参加者全員にワードのファイルで配布することが義務づけられる。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。

●**連絡先・オフィスアワー** y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・木の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	古文書・古記録	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	真木隆行				

●**授業の概要** 題目：中世の古文書（前期） 概要：中世文書の写真コピーを使い、文書様式の基礎も踏まえながら読解を行う。

●**授業の一般目標** ・中世の古文書について、くずし字判読能力を養う。 ・中世の古文書について、内容解釈力を養う。 ・中世の文書様式の基礎を学ぶ。

●**授業の計画（全体）** 宗像大社文書の中世文書を読みすすめる予定。受講生が読解を分担して原稿を作成し、それに基づいて検討し、復習を重ねる。

●**成績評価方法（総合）** 定期試験において、3通の古文書を出題する。そのうち2通は、授業時間内に検討済みのものからそのまま出題。片方は、くずし字を楷書体に改めるのみ、もう片方は、楷書体に改めた上で、それに読点・返り点・送り仮名をつける。残り1通は、未検討の古文書から出題し、楷書体に改める。採点は減点方式とし、80点以上を優、70～79点を良、60～69点を可、59点以下を不可とする。

●**教科書・参考書** 教科書：写真コピーを配布する。／参考書：(1)くずし字用例辞典, 児玉幸多, 東京堂出版 (2)くずし字解読辞典, 児玉幸多, 東京堂出版 (1)(2)の購入はいずれかでよい。(1)(¥ 5,800)のひき方は、漢和辞書に近い。(2)(¥ 2,200)は、一筆目の形からひくことができる。私は(1)を薦めたい。この他、漢和辞書（例えば『角川新字源』など）や日本史事典（『角川日本史辞典』など）・日本史年表（歴史学研究会編『新版日本史年表』岩波書店など）を持っておくと便利。

●**メッセージ** はじめは慣れないかもしれませんが、復習を繰り返せば、確実に読めるようになります。

開設科目	古文書・古記録	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	真木隆行				

- 授業の概要** 題目：中世の古文書（後期） 概要：中世文書の写真コピーを使い、文書様式の基礎も踏まえながら読解を行う。
- 授業の一般目標** ・中世の古文書について、くずし字判読能力を養う。 ・中世の古文書について、内容解釈力を養う。 ・中世の文書様式の基礎を学ぶ。
- 授業の計画（全体）** 身近な地域の中世文書を読みすすめる予定。受講生が読解を分担して原稿を作成し、それに基づいて検討し、復習を重ねる。
- 成績評価方法（総合）** 定期試験において、3通の古文書を出題する。そのうち2通は、授業時間内に検討済みのものからそのまま出題。片方は、くずし字を楷書体に改めるのみ、もう片方は、楷書体に改めた上で、それに読点・返り点・送り仮名をつける。残り1通は、未検討の古文書から出題し、楷書体に改める。採点は減点方式とし、80点以上を優、70～79点を良、60～69点を可、59点以下を不可とする。
- 教科書・参考書** 教科書：写真コピーを配布する。／参考書：(1)くずし字用例辞典, 児玉幸多, 東京堂出版 (2)くずし字解読辞典, 児玉幸多, 東京堂出版 (1)(2)の購入はいずれかでよい。(1)(¥ 5,800)のひき方は、漢和辞書に近い。(2)(¥ 2,200)は、一筆目の形からひくことができる。私は(1)を薦めたい。この他、漢和辞書（例えば『角川新字源』など）や日本史事典（『角川日本史辞典』など）・日本史年表（歴史学研究会編『新版日本史年表』岩波書店など）を持っておくと便利。
- メッセージ** はじめは慣れないかもしれませんが、復習を繰り返せば、確実に読めるようになります。

開設科目	日本政治・社会史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田中誠二				

●**授業の概要** 「萩藩天保期の借銀をめぐる」という主題で講義を行う。従来村田清風の「八万貫目の大敵」という言葉のみが有名であるが、この期の借銀額の推移とその内容、馳走米の推移、米価、札銀の発行高、大坂廻米といった藩財政の重要要素とその連関をおさえながら、具体的に主題を解明する。／**検索キーワード** 萩藩、藩財政、馳走米、借銀、札銀、大坂廻米

●**授業の一般目標** 1. 藩財政を構造的に理解する。 2. 天保期という時期の時代相を知る。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1. 近世の経済について基本的知識を得る。 2. 時期的な特徴を理解する。**思考・判断の観点**： 1. 重要要素の連関を把握する。 2. 自分の見解を論理的に述べる力を培う。**技能・表現の観点**： 1. 理解したことを文章で適切に表現できる。

●**授業の計画（全体）** 「萩藩天保期の借銀をめぐる」という主題について、(1) 近世後期の藩財政の構造的特徴、(2) 借銀額の推移とその内容、(3) 馳走米・米価・大坂廻米・札銀発行高といった藩財政の重要要素と借銀の連関、(4) 天保三年仕組の内容、(5) 天保9・11年仕組の内容、(6) 借銀返済の結果とその要因・内容、(7) 撫育銀と初期の仕置銀の比較、等にわたって解明する。

●**成績評価方法（総合）** 定期試験をレポートにかえ、その内容によって成績評価を行う。レポートは、400字詰10枚以上。

●**教科書・参考書** 教科書：なし。適宜プリントを配布する。

●**連絡先・オフィスアワー** オフィスアワー月曜・木曜昼休み。



開設科目	日本政治・社会史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	橋本義則				

●**授業の概要** 日本古代の喪葬儀礼や喪葬に関わる制度については、考古学や民族学の調査・研究成果を踏まえつつ、主として所謂大化前代を対象に研究が行われ、多くの成果を上げてきました。しかし律令を基本とした古代国家が成立した8世紀以降の喪葬に関する研究はまだ少なく、またそれらの研究は極めて不十分なものでしかないと思われます。本講義では、このような研究の現状に鑑み、まず8世紀の喪葬の具体的な様相について貴族階級を対象をおいてできる限り明かにし、次いで律令国家の喪葬政策やそれをめぐる政治・社会状況を考えることにしたいと思います。そしてこれらの検討を通じて律令国家の喪葬に対する政策の意図やその変化、さらにそれを推し進め、貴族社会の変化などについても考えてみたいと思っています。／**検索キーワード** 日本古代史、貴族社会、喪葬、墳墓

●**授業の一般目標** 日本古代の喪葬儀礼や喪葬に関わる制度とその成立の経緯を理解することを通じて、日本古代の貴族社会について理解を深める。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：古代の喪葬制度とその背景にある政治・社会状況を説明できる。  
**思考・判断の観点**：史料や資料を用いて、古代貴族社会の実態を論理的に解釈する能力を身につける。  
**関心・意欲の観点**：古代貴族社会に関心・興味を抱く。**態度の観点**：学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。**技能・表現の観点**：1, 古代の史料・資料を博捜し、正しく解釈できる。2, 正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。

●**授業の計画（全体）** 日本古代の喪葬儀礼や喪葬に関わる制度については、考古学や民族学の調査・研究成果を踏まえつつ、主として所謂大化前代を対象に研究が行われ、多くの成果を上げてきました。しかし律令を基本とした古代国家が成立した8世紀以降の喪葬に関する研究はまだ少なく、またそれらの研究は極めて不十分なものでしかないと思われます。本講義では、このような研究の現状に鑑み、まず8世紀の喪葬の具体的な様相について貴族階級を対象をおいてできる限り明かにし、次いで律令国家の喪葬政策やそれをめぐる政治・社会状況を考えることにしたいと思います。そしてこれらの検討を通じて律令国家の喪葬に対する政策の意図やその変化、さらにそれを推し進め、貴族社会の変化などについても考えてみたいと思っています。

●**教科書・参考書** 教科書：指定されたホームページにアクセスして講義レジュメをダウンロードする必要がある。／参考書：授業中に適宜指摘する。

●**メッセージ** 日本史概説を受講し、飛鳥・奈良・平安の各時代についてやや詳しい知識をもっていることが望ましい。また講義レジュメのダウンロードと受講のためにノートパソコンが必携である。

●**連絡先・オフィスアワー** y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・木の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	日本政治・社会史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	真木隆行				

●**授業の概要** 鳥羽法皇の生涯とその呪術的世界についてお話しする。いわゆる「院政時代」の3代の院権力、白河—鳥羽—後白河のうち、白河院政期はその最初として注目度は高い。また後白河院政期は、平氏政権・鎌倉幕府が成立する激動の時代として周知である。ところが、その間にはさまれた鳥羽院政期については、前後の時期に比してあまり目立たず、歴史的な位置づけも必ずしも明確ではない。そこで本講義では、鳥羽法皇の前半生（＝白河院政期後半）とその後半生（鳥羽院政期）に注目し、とりわけその呪術的世界や宗教勢力の動向を捉えながら、中世初頭における王権の動向の一端を明らかにしたい。

●**授業の一般目標** 白河院政後期および鳥羽院政期の歴史的な位置について、理解を深める。

●**授業の計画（全体）** 当面、以下の時期ごとに検討したい。／(1) 鳥羽天皇即位以前／(2) 鳥羽天皇在位期／(3) 白河院政下の鳥羽上皇／(4) 鳥羽院政期前半（出家以前）／(5) 鳥羽院政期後半（出家以後）／(6) 鳥羽法皇の死と保元の乱／(7) 鳥羽法皇の追善仏事／／今期は、このうち(1)(2)(3)の時期を中心に講義を行いたい。

●**成績評価方法（総合）** 授業内レポートと期末レポートによって評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：プリントを配布する。／参考書：講義時間中に紹介する。

開設科目	日本政治・社会史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	田中俊明				

●**授業の概要** 朝鮮古代王都の研究。 朝鮮三国、具体的には高句麗・百濟・新羅のそれぞれの王都について、その立地・構造、定都の経緯、政治的背景などについて詳述し、三国の国家史の変遷のなかに位置づける。また東アジア都城制における位置づけにもふれる。／**検索キーワード** 朝鮮古代、高句麗、百濟、新羅、王都

●**授業の一般目標** (1) 朝鮮古代史の基礎知識を身につけ、現在の課題を知る。(2) 東アジアにおける普遍性・特殊性などについての認識を高める。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：朝鮮古代史の概要を理解することができる。**思考・判断の観点**：諸問題について自分の意見を述べることができる。**関心・意欲の観点**：朝鮮史に関する問題意識を高めることができる。**態度の観点**：朝鮮との関わりについて再認識できる。

●**授業の計画(全体)** 1, 高句麗の建国と卒本、2, 高句麗の国内遷都、3, 高句麗の平壤遷都、4, 高句麗長安城の築造、5, 百濟の建国と漢城、6, 百濟の熊津遷都、7, 百濟の泗遷都、8, 泗王都の都市構造、9, 新羅王京の成立、10, 新羅王京の改造、11, 新羅人の王京生活、12, 新羅五小京の意義、13, 三国王都の比較、14, 東アジア都城制における位置づけ

●**備考** 集中授業

開設科目	日本政治・社会史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平 雅行				

●**授業の概要** 武士中心史観や新仏教中心史観への批判により中世仏教史は激変した。中世仏教の中心が新仏教から旧仏教に代わっただけではなく、「鎌倉新仏教」概念まで批判されている。本講では、旧仏教の最盛期を院政時代と指定し、古代仏教の中世仏教への変革過程を論じながら、鎌倉仏教研究の現状や問題点を紹介する。／**検索キーワード** 顕密体制論、宗教政策、末法思想、強訴、戒律、叡尊、親鸞

●**授業の一般目標** 古代仏教の中世仏教への変革過程を考察しながら、古代から中世への転換の意味を考え、理解することを目指す。

●**授業の計画（全体）** 下記の構成で授業を進める。(1) 鎌倉新仏教は中世仏教か? ……「鎌倉新仏教」概念はなぜ破綻したか (2) 中世の祈りと呪い ……祈祷の暴力性とその実効性について (3) 王朝国家における仏教政策の転換 (4) 旧仏教の中世的変容 ……旧仏教の発展を支えた民衆的基盤は何か? (5) 仏教改革運動と禅律僧 ……悪僧の否定と鎌倉仏教 (6) 異端としての専修念佛 ……呪縛からの解放

●**成績評価方法（総合）** 講義内容の理解度を試験によってはかる。

●**教科書・参考書** 教科書：プリントを配布する。／参考書：平雅行『親鸞とその時代』（法蔵館、2001年）平雅行『日本中世の社会と仏教』（塙書房、1992年）

●**備考** 集中授業

開設科目	日本政治・社会史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	倉地克直				

●**授業の概要** 「近世社会と絵図」という主題で、江戸時代につくられた国絵図・郡絵図・村絵図について概観し、それが社会のなかでどのような機能を果たしたか、具体的に考える。／**検索キーワード** 近世、絵図

●**授業の一般目標** 1. 絵図を見る楽しさの発見。 2. 歴史史料として絵図を見るポイントを知る。 3. 絵図から近世社会のあり方を考える。

●**授業の計画（全体）** 「近世社会と絵図」という主題で、次のような内容について講義する予定である。はじめに－ 絵図とは何か、1. 近世の国絵図－ (1) 国絵図とは何か、(2) 備前慶長国絵図、(3) 備前九郡絵図、 2. 国境争論と国絵図－ (1) 正保国絵図前後、(2) 元禄国絵図前後、(3) 国絵図の運命、 3. 郡絵図と村絵図－ (1) 絵図と領域支配、(2) 郡絵図、(3) 村絵図

●**成績評価方法（総合）** 試験。

●**教科書・参考書** 教科書： 特になし。授業時にレジュメ・資料を配付する。／ 参考書： 授業時に紹介する。手頃なものとしては、川村博忠『国絵図』（吉川弘文館）。

●**備考** 集中授業

開設科目	日本史史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田中誠二				

- 授業の概要** 萩藩法制史料を精読する。基本的用語の読み・意味を正確に身につけさせ、時代背景・機構・変化を読み取っていく。／**検索キーワード** 史料講読、法制史料、萩藩
- 授業の一般目標** 1. 萩藩法制史料を講読し、近世法制の内容や権力機構・時代背景を理解する。 2. 近世の基本的用語の読み・意味を知り、近世史料を用いて研究・考察する力を培う。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1. 近世の基本的用語の読み・意味を正確に理解する。 2. 近世の法制について理解を深める。 **思考・判断の観点**： 1. 法制史料に現れる一定の法則性を把握し、それを論理的に説明できる力を培う。
- 授業の計画（全体）** 授業は、史料の講読とその解釈という形で進める。担当箇所を当てるので、当たった箇所を読み上げ、解釈を加える。それを訂正し解説を加える形で授業を進める。
- 成績評価方法（総合）** 定期試験によって成績評価を行う。減点法による足きり（4 1 箇所以上の間違いがあれば不可とする）がある。
- 教科書・参考書** 教科書： なし。適宜プリントを配布する。
- 連絡先・オフィスアワー** オフィスアワー月曜・木曜昼休み。

開設科目	日本史史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	田中誠二				

- 授業の概要** 萩藩政治史史料を精読する。基本的用語の読み・意味を正確に身につけさせ、時代背景・権力機構の特質を読み取っていく。／**検索キーワード** 萩藩、政治史史料、史料講読
- 授業の一般目標** 1. 萩藩政治史史料を講読し、近世政治権力の機構・実態を理解する。 2. 近世の基本的用語の読み・意味を知り、近世史料を用いて研究・考察する力を培う。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1. 近世の基本的用語の読み・意味を正確に理解する。 2. 近世政治史の課題について理解を深める。 **思考・判断の観点**： 1. 近世政治史史料に現れる一定の法則性・連関を把握し、それを論理的に説明する力を養う。
- 授業の計画（全体）** 授業は、史料の講読とその解釈という形で進める。担当箇所を当てるので、当たった箇所を読み上げ、解釈を加える。それを訂正し解説を加える形で授業を進める。
- 成績評価方法（総合）** 定期試験によって成績評価を行う。減点法による足きり（4 1 箇所以上の間違いがあれば不可とする）がある。
- 教科書・参考書** 教科書： なし。適宜プリントを配布する。
- 連絡先・オフィスアワー** オフィスアワー月曜・木曜昼休み。

開設科目	日本史史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	橋本義則				

●**授業の概要** 古代の史料を正確に読み解く力を身につけるために、その代表的な史料、つまり典型的な漢文史料を選んで読み進めてゆきます。この授業では『類聚三代格』を読んでいます。授業で『類聚三代格』を取り上げた理由は、それが奈良時代から平安時代に出された諸種多様な法令を集大成したものであり、また奈良・平安時代の最も典型的な漢文史料であることにあります。授業では受講者が分担して史料解読の報告を行い、解読の正否を含めて検討を加えます。本授業の受講生は、全員が3～4回程度報告することになります。報告に当たっては丹念な史料収集を行った上でのレジュメの作成が義務づけられます。また授業では報告者を含めた受講生全員に積極的に発言を求めたり、あるいは指名して意見を求めたりします。従って受講生は担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要となります。なお、この授業は外国語の授業と同じ、所謂語学の授業でもありますから、史料を読解する力を養うため根気強く辞書を引くことが必須となります。／**検索キーワード** 日本古代史、奈良時代、平安時代、文献史料、漢文史料、法制史料、類聚三代格

●**授業の一般目標** 典型的な漢文史料を読解する力を養成する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：奈良時代・平安時代の法制史料（法律）を正確に解釈するための基礎的知識を獲得する。**思考・判断の観点**：様々な史料を用いて法制史料（法律）の内容を論理的に解釈する力を身につける。**関心・意欲の観点**：古代法制書の世界、政治制度の変遷に関心・興味を抱く。**態度の観点**：学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。**技能・表現の観点**：1, 古代の典型的漢文史料を正しく訓読・読み下し及び解釈できる。2, 正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。

●**授業の計画（全体）** 古代の史料を正確に読み解く力を身につけるために、その代表的な史料、つまり典型的な漢文史料を選んで読み進めてゆきます。この授業では『類聚三代格』を読んでいます。授業で『類聚三代格』を取り上げた理由は、それが奈良時代から平安時代に出された諸種多様な法令を集大成したものであり、また奈良・平安時代の最も典型的な漢文史料であることにあります。授業では受講者が分担して史料解読の報告を行い、解読の正否を含めて検討を加えます。本授業の受講生は、全員が3～4回程度報告することになります。報告に当たっては丹念な史料収集を行った上でのレジュメの作成が義務づけられます。また授業では報告者を含めた受講生全員に積極的に発言を求めたり、あるいは指名して意見を求めたりします。従って受講生は担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要となります。なお、この授業は外国語の授業と同じ、所謂語学の授業でもありますから、史料を読解する力を養うため根気強く辞書を引くことが必須となります。

●**教科書・参考書** 教科書：教科書に関する自由記述コメント：／参考書：なし

●**メッセージ** 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが期待される。毎回の担当者はあらかじめワードを用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に参加者全員にワードのファイルで配布することが義務づけられる。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。

●**連絡先・オフィスアワー** y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・木の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも



開設科目	日本史史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	橋本義則				

●**授業の概要** 古代の史料を正確に読み解く力を身につけるために、その代表的な史料、つまり典型的な漢文史料を選んで読み進めてゆきます。この授業では『類聚三代格』を読んでいます。授業で『類聚三代格』を取り上げた理由は、それが奈良時代から平安時代に出された諸種多様な法令を集大成したものであり、また奈良・平安時代の最も典型的な漢文史料であることにあります。授業では受講者が分担して史料解読の報告を行い、解読の正否を含めて検討を加えます。本授業の受講生は、全員が3～4回程度報告することになります。報告に当たっては丹念な史料収集を行った上でのレジュメの作成が義務づけられます。また授業では報告者を含めた受講生全員に積極的に発言を求めたり、あるいは指名して意見を求めたりします。従って受講生は担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要となります。なお、この授業は外国語の授業と同じ、所謂語学の授業でもありますから、史料を読解する力を養うため根気強く辞書を引くことが必須となります。／**検索キーワード** 日本古代史、奈良時代、平安時代、文献史料、漢文史料、法制史料、類聚三代格

●**授業の一般目標** 典型的な漢文史料を読解する力を養成する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：奈良時代・平安時代の法制史料（法律）を正確に解釈するための基礎的知識を獲得する。**思考・判断の観点**：様々な史料を用いて法制史料（法律）の内容を論理的に解釈する力を身につける。**関心・意欲の観点**：古代法制書の世界、政治制度の変遷に関心・興味を抱く。**態度の観点**：学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。**技能・表現の観点**：1, 古代の典型的漢文史料を正しく訓読・読み下し及び解釈できる。2, 正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。

●**授業の計画（全体）** 古代の史料を正確に読み解く力を身につけるために、その代表的な史料、つまり典型的な漢文史料を選んで読み進めてゆきます。この授業では『類聚三代格』を読んでいます。授業で『類聚三代格』を取り上げた理由は、それが奈良時代から平安時代に出された諸種多様な法令を集大成したものであり、また奈良・平安時代の最も典型的な漢文史料であることにあります。授業では受講者が分担して史料解読の報告を行い、解読の正否を含めて検討を加えます。本授業の受講生は、全員が3～4回程度報告することになります。報告に当たっては丹念な史料収集を行った上でのレジュメの作成が義務づけられます。また授業では報告者を含めた受講生全員に積極的に発言を求めたり、あるいは指名して意見を求めたりします。従って受講生は担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要となります。なお、この授業は外国語の授業と同じ、所謂語学の授業でもありますから、史料を読解する力を養うため根気強く辞書を引くことが必須となります。

●**教科書・参考書** 教科書：なし／参考書：なし

●**メッセージ** 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが期待される。毎回の担当者はあらかじめワードを用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に参加者全員にワードのファイルで配布することが義務づけられる。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。

●**連絡先・オフィスアワー** y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・木の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	日本史史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	真木隆行				

●**授業の概要** 題目：貴族日記『勘仲記』を読む（6） 概要：『勘仲記』は、鎌倉後期中流貴族、勘解由小路兼仲（1244～1308）の日記であり、質量共に鎌倉時代を代表する記録史料の一つである。兼仲は、摂関家の家司をつとめ、朝廷では蔵人・弁官を歴任し、やがて公卿となって権中納言まで昇進する。これまでの輪読対象としては、兼仲がまだ摂関家の家司であった頃の検討を続けており、今期は弘安6（1283）1月条の検討を予定。テキストには史料大成本を使用するとともに、兼仲の自筆本の写真版コピーで校訂を行いながら輪読する。

●**授業の一般目標** ・史料の読解力を養う。 ・日本中世史の研究方法の一端を学ぶ。

●**授業の計画（全体）** 受講者全員が分担して校合・読解をおこない、その報告にもとづき検討する。

●**成績評価方法（総合）** 定期試験を実施する。授業時間内に検討した史料を抜粋し、それに基づき出題する。

●**教科書・参考書** 教科書：活字版・写真版のコピーを配布する。／参考書：人文学部所在の図書や付属図書館内の図書をはじめとし、場合によっては山口県立図書館や山口市立図書館の図書も活用しながら、十分な報告準備をおこなう必要がある。また、東京大学史料編纂所が公開しているサイトも利用させていただく必要がある。

●**メッセージ** ゼミナール形式で行います。基本的事項の説明にとどまるのではなく、なんらかの検討課題を独自に発見し、深く掘り下げられた報告を求めます。

開設科目	日本史史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	真木隆行				

●**授業の概要** 題目：貴族日記『勘仲記』を読む（7） 概要：『勘仲記』は、鎌倉後期中流貴族、勘解由小路兼仲（1244～1308）の日記であり、質量共に鎌倉時代を代表する記録史料の一つである。兼仲は、摂関家の家司をつとめ、朝廷では蔵人・弁官を歴任し、やがて公卿となって権中納言まで昇進する。これまでの輪読対象としては、兼仲がまだ摂関家の家司であった頃の検討を続けており、今年度前期には弘安6（1283）1月条を検討したため、今期にはその続きを検討する。テキストには史料大成本を使用するとともに、兼仲の自筆本の写真版コピーで校訂を行いながら輪読する。

●**授業の一般目標** ・史料の読解力を養う。 ・日本中世史の研究方法の一端を学ぶ。

●**授業の計画（全体）** 受講者全員が分担して校合・読解をおこない、その報告にもとづき検討する。

●**成績評価方法（総合）** 定期試験を実施する。授業時間内に検討した史料を抜粋し、それに基づき出題する。

●**教科書・参考書** 教科書：活字版・写真版のコピーを配布する。／参考書：人文学部所在の図書や付属図書館内の図書をはじめとし、場合によっては山口県立図書館や山口市立図書館の図書も活用しながら、十分な報告準備をおこなう必要がある。また、東京大学史料編纂所が公開しているサイトも利用させていただく必要がある。

●**メッセージ** ゼミナール形式で行います。基本的事項の説明にとどまるのではなく、なんらかの検討課題を独自に発見し、深く掘り下げられた報告を求めます。

開設科目	日本史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田中誠二				

- 授業の概要** 日本近世史を専攻する学生が、日本史上の諸問題について、各自の立てた主題にしたがって報告を行い、討論を行って、研究内容を深化させる授業である。／**検索キーワード** 日本近世史、歴史学、演習
- 授業の一般目標** 1. 各自の立てた主題についての研究史を整理する。 2. 史料を提示し、正確に解釈し、立論する。 3. 自分の見解を論理的に述べる。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 1. 時代背景について理解を深める。 2. 各自の主題についての基礎知識を得る。 **思考・判断の観点**： 1. 各自の主題についての研究史の現状を把握し、自分の見解を論理的に述べる力を養う。 2. 史料を使って論証する力を培う。 **技能・表現の観点**： 1. 考察した結果を述べたり、文章で適切に表現できる。
- 授業の計画（全体）** 各自の立てた主題について報告し、討論を行う。
- 成績評価方法（総合）** 定期試験にかえてレポートを提出させ、その内容によって成績評価を行う。授業での報告内容も加味した評価を行う。
- 教科書・参考書** 教科書： なし。適宜レジュメを配布する。
- 連絡先・オフィスアワー** オフィスアワー月曜・木曜の昼休み。

開設科目	日本史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	田中誠二				

- 授業の概要** 日本近世史を専攻する学生が、日本史上の諸問題について、各自の立てた主題にしたがって報告を行い、討論を行って、研究内容を深めていく授業である。／**検索キーワード** 日本近世史、歴史学、演習
- 授業の一般目標** 1. 各自の立てた主題についての研究史を整理する。 2. 史料を提示し、正確に解釈し、立論する。 3. 自分の見解を論理的に述べる。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 1. 時代背景についての理解を深める。 2. 各自の主題についての基礎知識を得る。 **思考・判断の観点**： 1. 各自の主題についての研究史の現状を把握し、自分の見解を論理的に述べる力を培う。 2. 史料を使って論証する力を培う。 **技能・表現の観点**： 1. 考察した結果を述べたり、文章で適切に表現できる。
- 授業の計画（全体）** 各自の立てた主題について報告し、討論を行う。
- 成績評価方法（総合）** 定期試験にかえてレポートを提出させ、その内容によって成績評価を行う。授業での報告内容も加味する。
- 教科書・参考書** 教科書： なし。適宜レジュメを配布する。
- 連絡先・オフィスアワー** オフィスアワー月曜・木曜昼休み。

開設科目	日本史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	橋本義則				

●**授業の概要** 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい卒業論文の作成を目指したいと考えています。／**検索キーワード** よりよい卒業論文の作成を目指す。

●**授業の一般目標** 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい卒業論文の作成を目指したいと考えています。

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：卒業論文作成に必要な日本古代史のより高度な知識を獲得する。  
**思考・判断の観点**：卒業論文作成に必要な論理的考察力を獲得する。 **関心・意欲の観点**：卒業論文作成に当たり、自らの興味・関心に基づいて、問題を設定する力をつける。 **態度の観点**：卒業論文の作成を通じて、自ら学問上の常識や通説を疑い、解決する姿勢を養う。 **技能・表現の観点**：1, 論文作成に必要な史料を正確に解釈できる。2, 正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。

●**授業の計画（全体）** 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい修士論文の作成を目指したいと考えています。

●**教科書・参考書** 教科書：なし／参考書：なし

●**メッセージ** 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが必須とされる。また毎回の研究報告発表者はあらかじめワープロソフト（ワード）を用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に教官および受講生全員に資料をワードのファイルで配布することが義務付けられます。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。

●**連絡先・オフィスアワー** y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・木の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	日本史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	橋本義則				

●**授業の概要** 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい卒業論文の作成を目指したいと考えています。／**検索キーワード** 卒業論文

●**授業の一般目標** よりよい卒業論文の作成を目指す。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：卒業論文作成に必要な日本古代史に関するより高度な知識を獲得する。**思考・判断の観点**：卒業論文作成に必要な論理的考察力を獲得する。**関心・意欲の観点**：1, 卒業論文作成に当たり、自らの興味・関心に基づいて、問題を設定する力をつける。2, 先学の研究を十分に咀嚼して自らの問題設定との関係を明確に把握できる力をつける。**態度の観点**：卒業論文の作成を通じて、学問上の常識や通説を疑い、かつそれを明確に指摘しうる姿勢を養う。**技能・表現の観点**：1, 論文作成に必要な史料を正確に解釈できる。2, 正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。

●**授業の計画（全体）** 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい修士論文の作成を目指したいと考えています。

●**教科書・参考書** 教科書：なし／参考書：なし

●**メッセージ** 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが必須とされる。また毎回の研究報告発表者はあらかじめワープロソフト（ワード）を用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に教官および受講生全員に資料をワードのファイルで配布することが義務付けられます。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。

●**連絡先・オフィスアワー** y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・木の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	日本史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	真木隆行				

- 授業の概要** 題目：日本中世史の諸問題 概要：3・4年を対象とし、卒業論文の作成に向けた指導を行う。  
報告担当者は各自の関心を深めて、充実した研究報告を行う。報告担当者以外の参加者も、報告内容をめぐって活発に議論し、中世史の諸問題を掘り下げていってほしい。
- 授業の一般目標** 卒業論文作成につながるような研究成果を重ねる。
- 授業の計画（全体）** 各自が設定した卒業論文のテーマを掘り下げ、研究報告を行う。
- 成績評価方法（総合）** 演習時間内の報告内容と、提出レポートで評価する。
- メッセージ** いい卒業論文を読ませてください。



開設科目	日本史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	真木隆行				

- 授業の概要** 題目：日本中世史の諸問題 概要：3・4年を対象とし、卒業論文の作成に向けた指導を行う。報告担当者は各自の関心を深めて、充実した研究報告を行う。報告担当者以外の参加者も、報告内容をめぐって活発に議論し、中世史の諸問題を掘り下げていってほしい。
- 授業の一般目標** 卒業論文作成につながるような研究成果を重ねる。4年：よりよい卒業論文に仕上げて提出する。
- 授業の計画（全体）** 各自が設定した卒業論文のテーマを掘り下げ、研究報告を行う。
- 成績評価方法（総合）** 演習時間内の報告内容と、提出レポートで評価する。
- メッセージ** いい卒業論文を読ませてください。

開設科目	東洋史概説 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	馬彪				

●**授業の概要** 本講義は、以前行った中国古代社会史の続きと言える中国古代精神史である。古代精神史は時代精神史の一部である。「時代精神」とは長い歴史上、各時代の人の主な精神状態と思想観念を指す。「中国人とはなんですか」という質問に対しては簡単には答えられない。しかし、人間と人間あるいは民族と民族の相違点は一見生活習慣の違いの様に見えるが、実はその深層における観念、思想など所謂「精神」の違いの方が論理的により本源的である。換言すれば、「中国人とはなんですか」という質問に対しては、中国人の「精神」の面から、紹介すべきだと言えるであろう。本講義は古代中国人の精神についての紹介である。

●**授業の一般目標** 本講義は、伝統時代精神と歴史との関係という論題から論じ、上古時代における中国の崇拜や思潮や人間的な気迫といくつの面を通じ、中国における古代精神の諸特徴を説明できる目標とする。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：中国古代における優れる精神に関する知識を説明できる。 **思考・判断の観点**：人間の精神と人間の社会・歴史との関係の重要性を指摘できる。 **関心・意欲の観点**：受講生は人間性への関心を一層喚起するのを寄与できる。 **態度の観点**：討論の参加でき、質問の応答を協調できる。

●**授業の計画（全体）** 本講義は全部で五講に分けて行う。それは、第一講、伝統時代精神と歴史；第二講、遠古の素朴幻想：崇拜と中国人の天・地・人の観念；第三講、周代の学問：学・問・思・辨の時代気風；第四講、秦漢の「大一統」気魄：天子気・士大夫気・民気；第五講、古代精神の諸特徴。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 序言 内容 導入
- 第 2 回 項目 第一講、伝統時代精神と歴史 内容 中国における伝統社会の時代精神
- 第 3 回 項目 第二講、遠古の素朴な幻想と崇拜（上） 内容 遠古の素朴な幻想
- 第 4 回 項目 第二講（下） 内容 上古の崇拜
- 第 5 回 項目 第三講、周代の学問：学・問・思・辨の時代気風 内容 学と問の重視
- 第 6 回 項目 第三講（中） 内容 思・弁の時代風気
- 第 7 回 項目 第三講（下） 内容 行の精神追求
- 第 8 回 項目 第四講、秦漢の「大一統」気魄（1） 内容 「大一統」の気魄
- 第 9 回 項目 第四講（2） 内容 天子の強気
- 第 10 回 項目 第四講（3） 内容 士大夫の志気
- 第 11 回 項目 第四講（4） 内容 民衆の勇氣
- 第 12 回 項目 第五講、古代精神の諸特徴 内容 探求の精神
- 第 13 回 項目 第五講 内容 調和の精神
- 第 14 回 項目 第五講 内容 伝統観
- 第 15 回 項目 予備

●**成績評価方法（総合）** レポートと出席を合わせて判断する。

●**教科書・参考書** 教科書： 特になし。／ 参考書： 授業中指示する。

開設科目	東洋史概説 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	滝野正二郎				

●**授業の概要** 中国明清時代の社会・経済の歴史について概説する。／**検索キーワード** 銀経済・社会の集団化・流動化

●**授業の一般目標** 明清時代の歴史について、社会・経済的要因から理解する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：明清時代の歴史について、社会・経済的要因から理解する。**思考・判断の観点**：歴史の動きについて、社会・経済的要因という層位から思考する。**関心・意欲の観点**：歴史の動きの表層の奥にある要因に関心を持つ。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** 序論—アジア・東アジア・中国 — **内容** 歴史を考える場を設定する。
- 第 2 回 **項目** 明清時代の政治史 **内容** 明清時代の大きな政治史について講義し、大まかな時間的な流れを理解させる。
- 第 3 回 **項目** 明初の社会 **内容** 明初、里甲制が文字どおりに実施されていた「固い」社会を検討する。
- 第 4 回 **項目** 銀経済の発展 **内容** 明代発展しつつあった銀経済を検討し、「固い」社会の溶解を理解させる。
- 第 5 回 **項目** 賦・役銀納化の進展 1 **内容** 里甲制の変質から十段法・門銀・丁銀まで税役徴収・納入の銀納化について講義する
- 第 6 回 **項目** 賦・役銀納化の進展 2 **内容** 一条鞭法・地丁銀制の施行まで、税役徴収・納入の銀納化について講義する。
- 第 7 回 **項目** 商工業の発展 1 **内容** 銀経済の結果でもあり要因でもある商工業の発展、とくに手工業の発展について講義する。
- 第 8 回 **項目** 商工業の発展 2 **内容** 流通経済の発展と商人の集団化について検討する。
- 第 9 回 **項目** 郷紳支配の拡大 **内容** 流動化した新しい社会の地域エリートとしての郷紳と、それを支えた社会のあり方を検討する。
- 第 10 回 **項目** 予備日 **内容** 授業の進捗状況に応じて弾力的に（質問等も）
- 第 11 回 **項目** 人口の増大と開発 **内容** 清代の人口爆発とそれを支えた山区の開発について検討する。
- 第 12 回 **項目** 移住と宗族 **内容** 開発の結果ひきおこされる移住と、その単位となる宗族形成の活発化について検討する。
- 第 13 回 **項目** 民衆反乱 **内容** 社会的弱者の集団化と蜂起、社会の軍事化について検討する。
- 第 14 回 **項目** まとめ **内容** 社会の流動化と集団化
- 第 15 回 **項目** 試験 **内容** 小論文形式による試験 **授業外指示** 手書きノート・配布プリント持ち込み可

●**成績評価方法（総合）** 学期末に行う筆記試験で評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：なし。授業の都度プリントを配布する。／参考書：明清と李朝の時代、岸本美緒・宮嶋博史著 東アジアの「近世」、岸本美緒著 中国民衆反乱史 3、谷川道雄・森正夫編 清朝中期史研究、鈴木中正著 清代社会経済史研究、重田徳著 明清社会経済史研究、百瀬弘著 明清社会経済史研究、小山正明著 中国の社会 イーストマン著、上田信・深尾葉子訳 移住民の秩序 山田賢著 明清交替と江南社会、岸本美緒著 その他、著書・論文多数。授業中に紹介する。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室：人文学部 517、内線 5229、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：木曜日 5/6 時限

開設科目	中国社会・経済史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	馬彪				

●**授業の概要** 百年前、甲骨文の発見と同じく意味していて、20C 末～21C の初、中国古代の秦漢時代 (BC.220 ～ AD.220) の出土文字資料——簡牘を大量に発見したのは、中国歴史学上に画期的な時代を迎えています。世界の第八大奇観と呼ばれている秦始皇帝の兵馬俑は考古学の大発見ですが、残念ながら今のところには文字史料が発見されていない。これと違う、出土した簡牘の史料文字は、すでに百万字を超えました。この数は『史記』の 50 万字の倍以上になる貴重な史料です。本講義は辺境簡と内地簡の二部構造に分けて、紹介したいと計画する。

●**授業の一般目標** 出土文字の研究によって、2 1 世紀における中国史研究の先端動態を説明できる目標である。

●**成績評価方法 (総合)** レポート。

開設科目	中国社会・経済史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	滝野正二郎				

●**授業の概要** 中国明清時代の中央政府と地方政府の関係について文書送達および財政収入の処理を中心に検討する。／**検索キーワード** 中央、地方、総督・巡撫、奏摺、駅伝

●**授業の一般目標** 所謂「中央集権的専制国家」を相対化した上で、明清国家がいかにその大きな領土を統治していたか、その制度的、技術的側面を再検討し、再認識する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：中国明清時代の中央—地方関係を支えた制度的条件を理解する。  
**思考・判断の観点**：「皇帝独裁」、「中央集権」などと言われる政治を、技術的、制度的な裏打ちから組み上げて思考する力を身につける。  
**関心・意欲の観点**：中国の政治がよって立っていた制度的・技術的側面に関心を持つ。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** 序論 **内容** 中央—地方関係を検討することによって明らかになるもの
- 第 2 回 **項目** 現代日本における中央と地方 **内容** 現代日本社会における中央政府と地方政府の関係および行政通信手段
- 第 3 回 **項目** 中国明代の行政制度 1 **内容** 明代の中央行政制度の概説と内閣大学士の経歴
- 第 4 回 **項目** 中国明代の行政制度 2 **内容** 明代の地方行政制度の概説と総督・巡撫制の発生
- 第 5 回 **項目** 中国明代の行政制度 3 **内容** 張居正の政治手法（地方長官あて書簡の分析）
- 第 6 回 **項目** 中国清代の行政制度 1 **内容** 清代の中央行政制度の概説と内閣大学士・議政王大臣・軍機大臣
- 第 7 回 **項目** 中国清代の行政制度 2 **内容** 清代の地方行政制度の概説と総督・巡撫制
- 第 8 回 **項目** 中国清代の行政制度 3 **内容** 奏摺制度の発生と発展
- 第 9 回 **項目** 奏摺政治の分析 1 **内容** 雍正時代の奏摺を分析する。
- 第 10 回 **項目** 奏摺政治の分析 2 **内容** 乾隆時代の奏摺を分析する。
- 第 11 回 **項目** 奏摺の送達制度 1 **内容** 駅伝制と奏摺
- 第 12 回 **項目** 奏摺の送達制度 2 **内容** 奏摺の送達所要日数
- 第 13 回 **項目** 奏摺送達の事例研究 1 **内容** 粵海関徴税報告 遅延問題 1
- 第 14 回 **項目** 奏摺送達の事例研究 2 **内容** 粵海関徴税報告 遅延問題 2
- 第 15 回 **項目** まとめ **内容** 行政と空間

●**成績評価方法（総合）** 学期末に提出するレポートによって評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：なし。授業中にプリントを配布する。／参考書：授業中に紹介する。

●**メッセージ** 漢文史料を紹介しつつ授業を進めるので、漢文史料に興味のある学生の聴講を望む。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室：人文学部 517 号室、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー（前期）：月曜日 9/10 時限

開設科目	中国社会・経済史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	大塚博久				

●**授業の概要** 【清末～辛亥革命期におけるジャーナリズムの展開と社会変革運動】 この講義は、19 世紀 60 年代「天津・北京条約」以降～辛亥革命（1911）に至る清末社会 変革運動の諸相を、中国における近代的ジャーナリズムの発生と展開過程として捉え、その観点から (1)19 世紀末の啓蒙思想家、早期ジャーナリスト、および (2) 辛丑条約（1901）～辛亥革命間の政治運動諸潮流の各種「報刊（新聞・雑誌）」活動の実態に即して考察する。これらの大半は「政論」型の性格をもつが、(1) が清朝に対峙して、権力を相対化しつつ、世論形成、参加を目指すのに対し、(2) は各派の政治主張を公開の論争を通じて、国民統合の方策、近代国家建設構想を明確にし、運動主体を強化しつつ、大衆の政治動員を企図した点、また清朝の対抗政策についても明らかにしたいと考える。／**検索キーワード** 近代中国、清末～辛亥革命期、ジャーナリズム、改革、革命、立憲、新民叢報、民報

●**授業の一般目標** (1) 19 世紀後半～20 世紀初頭における中国の歴史的状況を理解する。(2) 当時の中国をとりまく国際環境（列強帝国主義との関係）について考える。(3) 世界史における「近代」とは何か、また一般に「近代化」の指標は何と考えるか。(4) 当時の「君主立憲」（体制内改革）と「共和立憲」（民族革命）との違いを知る。(5) 各報刊の出版基盤、編集方針・編集陣、発行形態、読者層と、その推移を知る。

●**授業の到達目標／知識・理解の観点**： 19 世紀後半～20 世紀初頭における中国の歴史的状況を理解する。当時の「君主立憲」（体制内改革）と「共和立憲」（民族革命）との違いを知る。各報刊の出版基盤、編集方針・編集陣、発行形態、読者層と、その推移を知る。**思考・判断の観点**： 当時の中国をとりまく国際環境（列強帝国主義との関係）について考える。**関心・意欲の観点**： 約百年前、苦難の中に「近代化」への情熱を燃やし続けた中国人民の精神と努力について関心を持つ。**態度の観点**： 約百年前、苦難の中に「近代化」への情熱を燃やし続けた中国人民の精神と努力について思いを致す態度をもつ。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 外国宣教師らの発行雑誌と王韜の『循環日報』
- 第 2 回 項目 変法派康有為と『強学報』
- 第 3 回 項目 啓蒙思想家嚴復と『国聞報』
- 第 4 回 項目 梁啓超と『時務報』
- 第 5 回 項目 変法派「報刊」の全国的拡大、湖南の『湘報』等
- 第 6 回 項目 孫文と『中国日報』、海外華僑の動向
- 第 7 回 項目 留日各省学生雑誌の盛行とその影響
- 第 8 回 項目 章太炎と上海『蘇報』事件、鄒容『革命軍』
- 第 9 回 項目 梁啓超の『清議報』と報刊思想の発展
- 第 10 回 項目 中国同盟会『民報』の発刊と『新民叢報』の論戦
- 第 11 回 項目 ジャーナリスト 于右任と章士ショウの言論活動
- 第 12 回 項目 上海・香港の商業ジャーナリズム
- 第 13 回 項目 立憲運動、利権回収運動と諸「報刊」論調
- 第 14 回 項目 「女権」確立運動と女性雑誌の伸張
- 第 15 回

●**成績評価方法（総合）** 期末試験（自筆ノート持ち込み可）の成績を主に評価する。ただし、出席率 50 % 以上を受験条件とする。

●**教科書・参考書** 教科書：なし／参考書：その都度、必要に応じてプリント、コピー等参考資料を配布、参考文献・史料も紹介する。

- **メッセージ** 今日、目覚ましい発展を続ける中国の現状からはなかなか想像し得ない約百年 前の歴史を回顧し、苦難の中に「近代化」への情熱を燃やし続けた中国人民の 精神と努力を感得し、一層の国際理解を深めて頂きたい。

開設科目	中国社会・経済史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山本英史				

●**授業の概要** 中国の史料が作られる過程を様々な角度から検討し、中国人の歴史に対する考え方や文字に記録する姿勢のあり方を明らかにしていく。また、そうした観点を踏まえて中国史研究においてその史料を用いる際の留意点について述べる。／**検索キーワード** 史料、中国、虚実

●**授業の一般目標** 奥義を聞くことで中国の史料が持っている独特の性質を認識し、それを通して中国の歴史と伝統の複雑さを理解する。また、中国の史料を扱う際の注意点を知り、専門研究の基礎とする。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：中国の史料が持っている独特の性質を理解し、それを通して中国の歴史の複雑さを理解する。**思考・判断の観点**：史料が作られる過程を様々な角度から検討し、中国人の歴史に対する考え方や文字に記録する姿勢のあり方を考える。**関心・意欲の観点**：中国の歴史や現代中国の政治に関心をもつ。**態度の観点**：史料を基礎にして歴史を考える態度を持つ。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** 序論 **内容** 中国史料入門の心得
- 第 2 回 **項目** 中国の史料とは **内容** 中国史料の特徴 を語る
- 第 3 回 **項目** 正史の伝統 **内容** 史記をはじめとする史料の性質 を語る
- 第 4 回 **項目** 朱元璋は死なず **内容** 史料と明初政治 との関係を語る
- 第 5 回 **項目** 李巖という幻 **内容** 史料と明末社会 との関係を語る
- 第 6 回 **項目** 実録ができるまで **内容** 明清両朝の王朝 記録について語る
- 第 7 回 **項目** 雍正帝の陰謀 **内容** 雍正時代の史料 論
- 第 8 回 **項目** 新学偽経考 **内容** 史料と清末政治 との関係を語る
- 第 9 回 **項目** 史料の発見 **内容** 20 世紀の史料の 発見が持つ意味 を考える
- 第 10 回 **項目** 故宫博物院 **内容** 史料と現代政治 との関係を語る
- 第 11 回 **項目** 写真は写真にあらず **内容** フェイク写真と 現代政治との関係について語る
- 第 12 回 **項目** 大躍進報道 **内容** 現代中国の報道 のあり方について考える
- 第 13 回 **項目** 影射史学 **内容** 史料と現代政治 との関係を語る
- 第 14 回 **項目** まとめ **内容** 中国史料入門を 総括する
- 第 15 回 **項目** 試験 **授業外指示** 持ち込み可

●**成績評価方法（総合）** 講義への出席度数と授業での理解を求める試験との二つを基本的な評価対象とする。

●**教科書・参考書** 教科書：使用しない。プリントを配布する。／参考書：講義の際にそのつど紹介する。

●**メッセージ** 中国の歴史や現代中国の政治に関心のある方であれば、どなたでも受講してください。細かな専門知識がなくてもかまいません。知的意欲のある方の受講を 望みます。

●**備考** 集中授業



開設科目	アジア文化交流史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	滝野正二郎				

- 授業の概要** 近代日本に留学した中国留学生の手記や日記を主に検討し、中国の「近代化」に日本留学が果たした役割を探る。／**検索キーワード** 日本留学、中国同盟会、「近代化」、ナショナリズム、宋教仁、魯迅、周恩来
- 授業の一般目標** 近代の日中間の関係を中国人の日本留学という点に於いて捉え、その正負両面の相互関係について理解する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 近代の日中関係について知識を獲得し、理解する。 **思考・判断の観点**： 日中両国の正負両面にわたる深い関係について考える。 **関心・意欲の観点**： 「交流」というものがもたらす影響の複雑さに関心を持つ。
- 授業の計画（全体）** まず19世紀末20世紀前半の中国人による日本留学を概観し、魯迅、宋教仁、周恩来などの手記・日記の中から主にナショナリズムの形成に関わる部分を抜き出し、検討する。
- 成績評価方法（総合）** 学期末レポートによって評価する。
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室：人文学部517号室、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー（後期）木曜日5/6時限

開設科目	アジア文化交流史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高木尚子				

●**授業の概要** 中華文明世界の南方に位置する嶺南地域＝現在の広東・広西からヴェトナム中部に至る 地域は、かつて「越」と呼ばれる人々が独自の世界を形成していた。越の世界と中華文明 世界との交流は新石器時代に遡ると考えられるが、BC 2 c以降、次第に越世界は中華文明 世界の中へと巻き込まれ、やがて AD10 cにはヴェトナム世界が現ヴェトナム北部に成立する。異なる文化世界間にどのような交渉・関係があり、それが各時代の地域文化世界の形成とどのように関わるのかについて、史料に即し具体的に考察する。／**検索キーワード** 中華文明、地域文化、ヴェトナム、嶺南、越、歴史世界

●**授業の一般目標** 現在、「歴史」は、近代ヨーロッパにおいて成立した近代国民国家を地理的枠組みとして描かれるのが普通である。しかし、過去の歴史世界をありのままに理解するならば、現在の国境線は意味をもたず、しかも、過去の歴史世界は、ある意味において、現在に至る まで意味を持ち続けている。近代国家の枠組みにとらわれることなく、中華文明世界における地域文化世界が、中華文明との関わりにおいて、どのように形成され、どのような歴史をたどったのかを、具体的に理解する。

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 中華文明世界南部の地域文化世界と中華文明との関係史を説明できる。 **思考・判断の観点**： 現在の国境線にとらわれることなく、地域文化世界を理解できる。 **関心・意欲の観点**： 中華文明世界のあり方に関心をもつ。 **態度の観点**： 自己の価値観を相対化できる。

●**授業の計画（全体）** 嶺南地域に関する史料を通して、嶺南の文化世界と中華文明とが、どのような関係・交渉をもったのか、その結果、どのような嶺南の文化世界が主体的に形成されたのかを、中華文明世界の歴史・時代性の中に位置づけながら、具体的に考察する。時代は、講義の進 度によるが、AD 5・6 c位まで（隋唐帝国成立以前）を予定している。

●**成績評価方法（総合）** 期末試験により、目標の達成度を評価する。受講態度が悪い場合は、欠格とすることがある。

●**教科書・参考書** 教科書： なし。適宜プリントを配布する。

●**メッセージ** 史料から、自分で地域世界を構成する姿勢を求める。

開設科目	アジア文化交流史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高木尚子				

●**授業の概要** 中華文明世界の南方に位置する嶺南地域＝現在の広東・広西からヴェトナム中部に至る 地域は、かつて「越」と呼ばれる人々が独自の世界を形成していた。越の世界と中華文明 世界との交流は新石器時代に遡ると考えられるが、BC 2 c以降、次第に越世界は中華文明 世界の中へと巻き込まれ、やがて AD10 cにはヴェトナム世界が現ヴェトナム北部に成立する。異なる文化世界間にどのような交渉・関係があり、それが各時代の地域文化世界の形成とどのように関わるのかについて、史料に即し具体的に考察する。／**検索キーワード** 中華文明、地域文化、ヴェトナム、嶺南、越、歴史世界

●**授業の一般目標** 現在、「歴史」は、近代ヨーロッパにおいて成立した近代国民国家を地理的枠組みとして描かれるのが普通である。しかし、過去の歴史世界をありのままに理解するならば、現在の国境線は意味をもたず、しかも、過去の歴史世界は、ある意味において、現在に至る まで意味を持ち続けている。近代国家の枠組みにとらわれることなく、中華文明世界における地域文化世界が、中華文明との関わりにおいて、どのように形成され、どのような歴史をたどったのかを、具体的に理解する。

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 中華文明世界南部の地域文化世界と中華文明との関係史を説明できる。 **思考・判断の観点**： 現在の国境線にとらわれることなく、地域文化世界を理解できる。 **関心・意欲の観点**： 中華文明世界のあり方に関心をもつ。 **態度の観点**： 自己の価値観を相対化できる。

●**授業の計画（全体）** 嶺南地域に関する史料を通して、嶺南の文化世界と中華文明とが、どのような関係・交渉をもったのか、その結果、どのような嶺南の文化世界が主体的に形成されたのかを、中華文明世界の歴史・時代性の中に位置づけながら、具体的に考察する。時代は、講義の進 度によるが、AD 5・6 c位まで（隋唐帝国成立以前）を予定している。

●**成績評価方法（総合）** 期末試験により、目標の達成度を評価する。受講態度が悪い場合は、欠格とすることがある。

●**教科書・参考書** 教科書： なし。適宜プリントを配布する。

●**メッセージ** 史料から、自分で地域世界を構成する姿勢を求める。

開設科目	東洋史史料講読	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	滝野正二郎				

●**授業の概要** 王慶雲著『石渠余記』講読。王慶雲は清代道光9年の進士。順天府尹・戸部侍郎・両広総督・工部尚書などを歴任した。この筆記は清代の行政・財政・経済に特に詳しい。本書の標点本を受講学生が中心となって読み、担当教官がそれに解説を加えていく。／**検索キーワード** 『石渠余記』、筆記、財政、行政、政治制度、訓読、読解、解説

●**授業の一般目標** (1) 漢文史料の基礎的読解力を涵養する。(2) 清代基本史料の収集・操作力を涵養する。(3) 清代の基本的政治制度について理解する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：清代の行政制度および史料読解に必要な知識をもつ。**思考・判断の観点**：史料から歴史的事実を思考し、判断して抜き出す。**関心・意欲の観点**：原史料に関心を持つ。**態度の観点**：原史料を自分の力で読んでいこうとする態度をとる。**技能・表現の観点**：漢文史料を読解する技能をもつ。

●**授業の計画（全体）** 受講学生ごとに担当箇所を分担し、それを学生が読解し、別系統の史料と比較検討することによって分析していく。教官はそれに解説を加える。

●**教科書・参考書** 教科書：『石渠余記』、王慶雲、北京古籍出版社、1985年のコピーを配布する。／参考書：『清実録』、奉勅修、中華書局、1985年 光緒『欽定大清会典』・『会典事例』、崑岡等撰、中華書局、1963年『清史稿』、趙爾巽等撰、中華書局、1977年『清国行政法』、織田萬編、大安、1965年

●**メッセージ** 歴史学の基礎は正確な史料読解、史料操作である。この史料講読という授業はその能力を養成する授業である。地域歴史文化論コースの東洋史分野を専攻しようとする学生にとって本授業は必須である。積極的な参加を期待している。上述のように、本分野を専攻しようとする学生にとって不可欠であり、また 予め分担を決め、学生が中心となって授業を進めていくので、欠席・中途脱落は厳に慎むこと。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室：人文学部 517 号室、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー（前期）月曜日 9/10 時限

開設科目	東洋史史料講読	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	滝野正二郎				

●**授業の概要** 王慶雲著『石渠余記』講読。王慶雲は清代道光9年の進士。順天府尹・戸部侍郎・両広総督・工部尚書などを歴任した。この筆記は清代の行政・財政・経済に特に詳しい。本書の標点本を受講学生が中心となって読み、担当教官がそれに解説を加えていく。／**検索キーワード** 『石渠余記』、筆記、財政、行政、政治制度、訓読、読解、解説

●**授業の一般目標** (1) 漢文史料の基礎的読解力を涵養する。(2) 清代基本史料の収集・操作力を涵養する。(3) 清代の基本的政治制度について理解する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：清代の行政制度および史料読解に必要な知識をもつ。**思考・判断の観点**：史料から歴史的事実を思考し、判断して抜き出す。**関心・意欲の観点**：原史料に関心を持つ。**態度の観点**：原史料を自分の力で読んでいこうとする態度をとる。**技能・表現の観点**：漢文史料を読解する技能をもつ。

●**授業の計画（全体）** 受講学生ごとに担当箇所を分担し、それを学生が読解し、別系統の史料と比較検討することによって分析していく。教官はそれに解説を加える。

●**教科書・参考書** 教科書：『石渠余記』、王慶雲、北京古籍出版社、1985年のコピーを配布する。／参考書：『清実録』、奉勅修、中華書局、1985年 光緒『欽定大清会典』・『会典事例』、崑岡等撰、中華書局、1963年『清史稿』、趙爾巽等撰、中華書局、1977年『清国行政法』、織田萬編、大安、1965年

●**メッセージ** 歴史学の基礎は正確な史料読解、史料操作である。この史料講読という授業はその能力を養成する授業である。地域歴史文化論コースの東洋史分野を専攻しようとする学生にとって本授業は必須である。積極的な参加を期待している。上述のように、本分野を専攻しようとする学生にとって不可欠であり、また、予め分担を決め、学生が中心となって授業を進めていくので、欠席・中途脱落は厳に慎むこと。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室：人文学部 517 号室、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー（後期）木曜日 5/6 時限

開設科目	東洋史史料講読	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	馬彪				

- 授業の概要** 講義は東洋史を学びたい学生が必ず読まなければならない中国古典名著から引き取った名篇をテキストとして、担当教官の指導の下、学生たちが担当にしたがって予習し、それをレジメに書いて発表する。
- 授業の一般目標** 学生の古代漢語を読解する能力や史料を搜集する能力を一層高めることを目標とする。
- 成績評価方法 (総合)** 筆記試験。

開設科目	東洋史史料講読	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	馬彪				

- 授業の概要** 講義は東洋史を学びたい学生が必ず読まなければならない中国古典名著から引き取った名篇をテキストとして、担当教官の指導の下、学生たちが担当にしたがって予習し、それをレジメに書いて発表する。
- 授業の一般目標** 学生の古代漢語を読解する能力や史料を搜集する能力を一層高めることを目標とする。
- 成績評価方法 (総合)** 筆記試験。

開設科目	中国史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	馬彪				

- 授業の概要** 近年来大量に出土した秦漢時代の木（竹）簡より、代表的な書類（法律文書・官署簿籍・占い書・詩賦など）を引き出して、テキストとして、簡牘学の知識を勉強しながら、学生自身が原始写真を参照して、古代文字の資料を読み、発表、討論を行う演習で構成される。
- 授業の一般目標** 学生に文献史料以外出土した「第一手資料」と呼ばれる簡牘文字資料を読ませて、一層東洋史に対する研究の興味を喚起することを目標とする。
- 成績評価方法（総合）** レポート。



開設科目	中国史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	馬彪				

- 授業の概要** 近年来大量に出土した秦漢時代の木（竹）簡より、代表的な書類（法律文書・官署簿籍・占い書・詩賦など）を引き出して、テキストとして、簡牘学の知識を勉強しながら、学生自身が原始写真を参照して、古代文字の資料を読み、発表、討論を行う演習で構成される。
- 授業の一般目標** 学生に文献史料以外出土した「第一手資料」と呼ばれる簡牘文字資料を読ませて、一層東洋史に対する研究の興味を喚起することを目標とする。
- 成績評価方法（総合）** レポート。

開設科目	中国史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	滝野正二郎				

- 授業の概要** 清代行政文書の研究。清代の行政文書「奏摺」を読み、そこから清代中期の時代像を構築する。本年度は、中国南部の農業社会史料を中心に読む。／**検索キーワード** 清代、奏摺、農業、広東
- 授業の一般目標** 清朝の行政文書を読み、その基礎的読解力を獲得するとともに、中国南部の農業社会を分析し、理解する。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：清朝の行政文書に関する基礎的知識を獲得する。中国近世の中国南部の農業社会に関する理解を得る。**思考・判断の観点**：中国の農業社会の性質に関して考える。**関心・意欲の観点**：前近代社会の生産力の基礎である農業と、それをなりわいとした民衆の生活に関心を持つ。**態度の観点**：社会を民衆側から見る態度をもつ。**技能・表現の観点**：清朝の行政文書を扱う基礎的技能を獲得する。
- 授業の計画（全体）** 史料を受講生が分担して読み、そこから受講生が担当者とともに議論して当該時代の農業社会に関する歴史像を構築する。
- 成績評価方法（総合）** 授業における発表と期末レポートで成績を評価する。
- 教科書・参考書** 教科書：『宮中档雍正朝奏摺』『宮中档乾隆朝奏摺』のコピーを配布する。／参考書：『清実録』『欽定大清会典事例』『清国行政法』『台湾私法』『広東通志』『広東新語』など
- メッセージ** 受講生諸君の積極的な史料調査、発表、議論参加が必須である。
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室：人文学部 517 号室、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー（前期）月曜日 9/10 時限

開設科目	中国史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	滝野正二郎				

- 授業の概要** 清代行政文書の研究。清代の行政文書「奏摺」を読み、そこから清代中期の時代像を構築する。本年度は、中国南部の農業社会史料を中心に読む。／**検索キーワード** 清代、奏摺、農業、広東
- 授業の一般目標** 清朝の行政文書を読み、その基礎的読解力を獲得するとともに、中国南部の農業社会を分析し、理解する。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：清朝の行政文書に関する基礎的知識を獲得する。中国近世の中国南部の農業社会に関する理解を得る。**思考・判断の観点**：中国の農業社会の性質に関して考える。**関心・意欲の観点**：前近代社会の生産力の基礎である農業と、それをなりわいとした民衆の生活に関心を持つ。**態度の観点**：社会を民衆側から見る態度をもつ。**技能・表現の観点**：清朝の行政文書を扱う基礎的技能を獲得する。
- 授業の計画（全体）** 史料を受講生が分担して読み、担当者とともに議論してそこから当該時代の農業社会に関する歴史像を構築する。
- 成績評価方法（総合）** 授業における発表と期末レポートで成績を評価する。
- 教科書・参考書** 教科書：『宮中档雍正朝奏摺』『宮中档乾隆朝奏摺』のコピーを配布する。／参考書：『清実録』『欽定大清会典事例』『清国行政法』『台湾私法』『広東通志』『広東新語』など
- メッセージ** 受講生諸君の積極的な史料調査、発表、議論参加が必須である。
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室：人文学部 517 号室、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー（後期）木曜日 5/6 時限

開設科目	西洋史概説 III	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤永康政				

●**授業の概要** スペイン、ポルトガル、イギリス、オランダ、フランスなお、いわゆるヨーロッパ列強は、アメリカ大陸において大規模な奴隷制度を展開しつつ植民事業をおこなった。今年度の西洋史概説では、この近代の世界の歴史においてきわめて重要な意味をもつ奴隷制度を、現在の国民国家の境界に限定されることなく、多角的な視野から考察する。／**検索キーワード** 奴隷制度、近代、アメリカ

●**授業の一般目標** 世界各地の奴隷制を比較考察することを通じ、アメリカ近代の特異性を把握する

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： わけてもカリブ海域を含む南北アメリカの地域による奴隷制の特徴を説明できる **思考・判断の観点**： 既存の学説にとらわれることなく、それを理解しつつも乗り越えていく思考法を身につける **関心・意欲の観点**： 歴史学、わけても近代の歴史に興味をもつ **態度の観点**： 積極的に発言し、意見を交換することが自分の学問的知を拡大するものだという「思考法」を身につける

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 イントロダクション
- 第 2 回 項目 アメリカ奴隷制概説（その 1）
- 第 3 回 項目 アメリカ奴隷制概説（その 2）
- 第 4 回 項目 奴隷制の構成要素
- 第 5 回 項目 権力のイデオロム（その 1）
- 第 6 回 項目 権力のイデオロム（その 2）
- 第 7 回 項目 権威・疎外・社会的な死（その 1）
- 第 8 回 項目 権威・イデオロム・社会的な死（その 2）
- 第 9 回 項目 名誉と蔑視（その 1）
- 第 10 回 項目 名誉と蔑視（その 2）
- 第 11 回 項目 自由民の奴隷化（その 1）
- 第 12 回 項目 自由の奴隷化（その 2）
- 第 13 回 項目 出生奴隷（その 1）
- 第 14 回 項目 出生奴隷（その 2）
- 第 15 回 項目 総まとめとディスカッション

●**成績評価方法（総合）** (1) テキストを理解しまとめる力を養成するため、授業では報告を求める (2) 授業末にレポートの提出を求める

●**教科書・参考書** 教科書：『世界の奴隷制の歴史』、オルランド・パターソン、明石書店、2001 年；教科書販売場所：大学会館内ブックセンター（紀伊國屋書店）

●**メッセージ** 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。（ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること）

●**連絡先・オフィスアワー** メールアドレス：yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp 水：11 時 50 分から 12 時 50 分

開設科目	西洋史概説 IV	区分	演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤永康政				

●**授業の概要** スペイン、ポルトガル、イギリス、オランダ、フランスなお、いわゆるヨーロッパ列強は、アメリカ大陸において大規模な奴隷制度を展開しつつ植民事業をおこなった。今年度の西洋史概説では、この近代の世界の歴史においてきわめて重要な意味をもつ奴隷制度を、現在の国民国家の境界に限定されることなく、多角的な視野から考察する。／**検索キーワード** 奴隷制度、近代、アメリカ

●**授業の一般目標** 世界各地の奴隷制を比較考察することを通じ、アメリカ近代の特異性を把握する

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： わけてもカリブ海域を含む南北アメリカの地域による奴隷制の特徴を説明できる **思考・判断の観点**： 既存の学説にとらわれることなく、それを理解しつつも乗り越えていく思考法を身につける **関心・意欲の観点**： 歴史学、わけても近代の歴史に興味をもつ **態度の観点**： 積極的に発言し、意見を交換することが自分の学問的知を拡大するものだという「思考法」を身につける

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 イントロダクション
- 第 2 回 項目 前期の授業のまとめ
- 第 3 回 項目 奴隷の取得 (1)
- 第 4 回 項目 奴隷の取得 (2)
- 第 5 回 項目 奴隷の境遇 (1)
- 第 6 回 項目 奴隷の境遇 (2)
- 第 7 回 項目 奴隷の境遇 (3)
- 第 8 回 項目 奴隷解放
- 第 9 回 項目 解放奴隷の身分
- 第 10 回 項目 解放の形式 (1)
- 第 11 回 項目 解放の形式 (2)
- 第 12 回 項目 究極の奴隷 (1)
- 第 13 回 項目 究極の奴隷 (2)
- 第 14 回 項目 パラサイトとしての奴隷制
- 第 15 回 項目 総括

●**成績評価方法（総合）** (1) テキストを理解しまとめる力を養成するため、授業では報告を求める (2) 授業末にレポートの提出を求める

●**教科書・参考書** 教科書：『世界の奴隷制』、オルランド・パターソン、明石書店、2001 年；教科書販売場所：大学会館内ブックセンター（紀伊國屋書店）

●**メッセージ** 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。（ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること）

●**連絡先・オフィスアワー** メールアドレス：yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp 水：11時50分から12時50分

開設科目	ヨーロッパ史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	尼川創二				

●**授業の概要** 【19 世紀末までのロシア史の展開】9 世紀のキエフ国家の成立から反体制知識人たちが「人民主義」の革命運動を開始し挫折した 19 世紀末のロシア帝国の状況までのロシア史を通観するが、ロシアの反体制知識人たちが常に意識していた西ヨーロッパの国家・社会の歴史とロシアのそれとの対比も絶えず行なうことにしたい。

●**授業の一般目標** 専制政治と農奴制を特徴とするロシア帝国が何ゆえ、またどのようにして形成されたのか、そして 19 世紀末に始まりまもなく挫折する人民主義者の革命運動がいかなる問題点を内包していたかについての理解を深める。西ヨーロッパとロシアでの国家・社会の形成過程および反体制運動の類似点と相違点にも留意する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：上記の点について知識をもち、理解する。**思考・判断の観点**：上記の点について自分で深く考えてみる。**関心・意欲の観点**：ロシアとヨーロッパの歴史に強い関心をもつ。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 はじめに
- 第 2 回 項目 ロシアの自然環境とその影響 1
- 第 3 回 項目 ロシアの自然環境とその影響 2
- 第 4 回 項目 キエフ国家の成立
- 第 5 回 項目 キエフ国家の崩壊
- 第 6 回 項目 モスクワ国家からロシア帝国へ 1 軍事的中央集権国家の出現
- 第 7 回 項目 モスクワ国家からロシア帝国へ 2 農奴制の形成
- 第 8 回 項目 モスクワ国家からロシア帝国へ 3 農奴制の確立
- 第 9 回 項目 皇帝と貴族
- 第 10 回 項目 ラジーシチェフとデカブリストたち
- 第 11 回 項目 スラヴ主義者対西欧主義者の大論争
- 第 12 回 項目 ゲルツェンの「ロシア社会主義」論
- 第 13 回 項目 農奴解放と人民主義運動
- 第 14 回 項目 人民主義の思想家たち
- 第 15 回 項目 人民主義運動の展開と挫折

●**成績評価方法（総合）** 授業外レポート 100 点。無断欠席 1 回につきマイナス 5 点。

●**教科書・参考書** 教科書：用いない。適宜プリントを配付する。／参考書：授業中に適宜紹介する。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室：人文学部 4 階 407 号室 (TEL: 933-5227/ E-mail: amak@yamaguchi-u.ac.jp)

開設科目	ヨーロッパ史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尼川創二				

●**授業の概要** 【ロシア革命の考察】19世紀の末に人民主義に代わってマルクス主義がロシアの革命的インテリゲンツィアの心を捉え始めたのはなぜなのか。1902年にレーニンが提起した党組織論はどのような問題点を孕んでいたか。社会主義革命が、資本主義の発達した西欧においてではなく、発展途上国ロシアで達成されたのはなぜなのか。そもそも西欧で社会主義革命を目指す大きな動きが生じなかったのはなぜだろう。レーニンに率いられたボリシェヴィキ党（共産党の前身）がロシアの革命勢力の中心になりえたのはなぜか。同党とロシアの労働者、農民、少数民族との関係はどのようであったか。同党が革命体制形成過程で逢着した問題はなんであったのか。その革命体制はのちに出現するスターリンの強権的政治体制とどの点でつながり、どの点で断絶しているのか。——こうした問題を考えてみたい。

●**授業の一般目標** 概要に記したような諸問題の考察を通じて、ロシア革命についての理解を深める。

●**授業の到達目標／知識・理解の観点**：ロシア革命について知識を得、理解を深める。 **思考・判断の観点**：ロシア革命の原因・経過・結果について自分で考えてみる。 **関心・意欲の観点**：ロシアとヨーロッパの歴史に強い関心をもつ。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 ロシアにおける マルクス主義の 受容と拡大 1
- 第 2 回 項目 ロシアにおける マルクス主義の 受容と拡大 2
- 第 3 回 項目 レーニンの党組織論
- 第 4 回 項目 ボリシェヴィキ とメンシェヴィキ
- 第 5 回 項目 西欧における革命運動の退潮
- 第 6 回 項目 1905年革命
- 第 7 回 項目 1917年の2月革命
- 第 8 回 項目 2月革命から10月革命へ
- 第 9 回 項目 創建期ソヴィエト政府の諸政策
- 第 10 回 項目 内戦の勃発
- 第 11 回 項目 「戦時共産主義」
- 第 12 回 項目 内戦の終結、「戦時共産主義」の続行、農民反乱
- 第 13 回 項目 ネップ（新経済政策）への転換、共産党一党独裁の完成
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 予備日

●**成績評価方法（総合）** 授業外レポート100点。無断欠席1回につきマイナス5点。

●**教科書・参考書** 教科書：用いない。適宜プリントを配付する。／参考書：授業中に適宜紹介する。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室：人文学部4階407号室(TEL: 933-5227/ E-mail: amak@yamaguchi-u.ac.jp)

開設科目	ヨーロッパ史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	阿河雄二郎				

●**授業の概要** 近年の西洋史研究では、「グローバル化」時代を反映して、人、モノ、情報などの流れに着目した研究が多い。本講義では、近世のフランスに滞在した外国人の動きを多面的に考察し、当時のフランスが外部世界とどのようなつながりをもっていたかを検討する。／**検索キーワード** 外国人、海洋帝国、ネットワーク

●**授業の一般目標** 従来の研究では、フランスの大陸的・農民的性格が指摘され、「絶対王政」の側面が強調されたが、近年では海洋的・商人的な性格も注目されている。外国人研究を通して、これまでのフランス像の見直しをはかりたい。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：近世ヨーロッパの全体的な流れをつかむ。**思考・判断の観点**：フランスという国のイメージを見直す。**関心・意欲の観点**：外国人とは何かという問題を認識する。

●**授業の計画（全体）** フランスの近世（16-18世紀）のなかで、外国人の動向は、当時のヨーロッパの政治・経済・社会の動きの反映でもある。ここでは、時間とともに、南欧系から北欧系への変化がみられることに着目しつつ、その意味を探ってゆきたい。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 近世フランスの外国人研究の状況
- 第 2 回 項目 近世フランスの対外発展と海港都市 1
- 第 3 回 項目 近世フランスの対外発展と海港都市 2
- 第 4 回 項目 「オーバン」としての外国人 1
- 第 5 回 項目 「オーバン」としての外国人 2
- 第 6 回 項目 フランスの「帰化状」
- 第 7 回 項目 フランスのなかのイタリア人（イタリア的フランスの展開） 1
- 第 8 回 項目 フランスのなかのイタリア人（イタリア的フランスの展開） 2
- 第 9 回 項目 近世フランスにおけるユダヤ人の問題 1
- 第 10 回 項目 近世フランスにおけるユダヤ人の問題 2
- 第 11 回 項目 17 世紀末の外国人居住状況 1
- 第 12 回 項目 17 世紀末の外国人居住状況 2
- 第 13 回 項目 18 世紀のパリに滞在した外国人 1
- 第 14 回 項目 18 世紀のパリに滞在した外国人 2
- 第 15 回 項目 試験

●**成績評価方法（総合）** 講義終了時に試験を実施する。

●**備考** 集中授業



開設科目	アメリカ史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤永康政				

●**授業の概要** アメリカの人種関係を根底から変化させた1960年代の公民権運動について、口述筆記史料をもとに、考察を深めていく。また多くの映像史料と映画での表象を比較しながら、「60年代」が今日においていかなる意味をもつのかについて考えていく。／**検索キーワード** アメリカ、黒人。社会運動

●**授業の一般目標** (1) 史料を論理的に且つイマジネーション豊かに解釈していく力を学ぶ (2) 現代史特有の問題点に関し理解を含める

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 運動の年代記だけでなく、その社会政治経済的背景への理解を深める **思考・判断の観点**： 既存の学説にとらわれることなく斬新的な解釈をする力を身につける **関心・意欲の観点**： 現代社会の諸事情と現代史の関係について理解を深める **態度の観点**： 積極的に発言し、意見を交換することが学問的知を拡大するものだという「思考法」を身につける

●**授業の計画（全体）** できれば前・後期通年の受講が望ましい

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

第 1 回 項目 インTRODクシヨン

第 2 回 項目 セルマ運動 (1)

第 3 回 項目 セルマ運動 (2)

第 4 回 項目 セルマ運動 (3)

第 5 回 項目 セルマ運動 (4)

第 6 回 項目 セルマ運動 (5)

第 7 回 項目 ドキュメンタリー、Eyes on the Prize に見る歴史

第 8 回 項目 映画「フォレスト・ガンブ」にみる60年代の表象 (1)

第 9 回 項目 映画「フォレスト・ガンブ」にみる60年代の表象 (2)

第 10 回 項目 セルマ運動 (6)

第 11 回 項目 セルマ運動 (7)

第 12 回 項目 セルマ運動の関する主要学説

第 13 回 項目 総括

第 14 回

第 15 回

●**成績評価方法（総合）** 毎回課題の読書箇所を指示し、それに基づいて発言をしてもらう。その発言の内容がもっとも重視される。予習なしには当然質問に答えられるはずがなく、単なる出席は評価しない。

●**教科書・参考書** 教科書： My Soul Is Rested, Howell Raines, Penguin, 1977 年；教科書販売場所：大学会館内ブックセンター（紀伊國屋書店）

●**メッセージ** 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。（ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること）

●**連絡先・オフィスアワー** メールアドレス： yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp 水： 11時50分から12時50分

開設科目	アメリカ史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤永康政				

●**授業の概要** アメリカの人種関係を根底から変化させた1960年代の公民権運動について、口述筆記史料をもとに、考察を深めていく。また多くの映像史料と映画での表象を比較しながら、「60年代」が今日においていかなる意味をもつのかについて考えていく。／**検索キーワード** アメリカ、黒人、社会運動

●**授業の一般目標** (1) 史料を論理的に且つイマジネーション豊かに解釈していく力を学ぶ (2) 現代史特有の問題点に関し理解を含める

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：運動の年代記だけでなく、その社会政治経済的背景への理解を深める **思考・判断の観点**：既存の学説にとらわれることなく斬新的な解釈をする力を身につける **関心・意欲の観点**：現代社会の諸事情と現代史の関係について理解を深める **態度の観点**：積極的に発言し、意見を交換することが学問的知を拡大するものだという「思考法」を身につける

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨン
- 第 2 回 項目 ミシシッピ・フリーダム・サマー (1)
- 第 3 回 項目 ミシシッピ・フリーダム・サマー (2)
- 第 4 回 項目 ミシシッピ・フリーダム・サマー (3)
- 第 5 回 項目 ミシシッピ・フリーダム・サマー (4)
- 第 6 回 項目 ミシシッピ・フリーダム・サマー (5)
- 第 7 回 項目 ドキュメンタリー、Eyes on the Prize に見る歴史
- 第 8 回 項目 映画『ミシシッピ・バーニング』の見る歴史 (1)
- 第 9 回 項目 映画『ミシシッピ・バーニング』の見る歴史 (2)
- 第 10 回 項目 ミシシッピ・フリーダム・サマー (6)
- 第 11 回 項目 ミシシッピ・フリーダム・サマー (7)
- 第 12 回 項目 ミシシッピ・フリーダム・サマー (8)
- 第 13 回 項目 ミシシッピ・フリーダム・サマー (9)
- 第 14 回 項目 総括
- 第 15 回

●**成績評価方法（総合）** 毎回課題の読書箇所を指示し、それに基づいて発言をしてもらう。その発言の内容がもっとも重視される。予習なしには当然質問に答えられるはずがなく、単なる出席は評価しない。

●**教科書・参考書** 教科書：My Soul Is Rested, Howell Raines, Penguin, 1977 年；教科書販売場所：大学会館内ブックセンター（紀伊國屋書店）

●**メッセージ** 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。（ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること）

●**連絡先・オフィスアワー** メールアドレス：yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp 水：11時50分から12時50分

開設科目	西洋史学講読（英語）	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤永康政				

●**授業の概要** 公民権運動の主要論文、ならびにその論文に使われた史資料を併せて読む。論文の読み方と史料の読み方の違いを把握し、英語読解能力を高める。／**検索キーワード** 英語、アメリカ史

●**授業の一般目標** (1) 英語を英語で理解し、速読ができるようになる (2) 史料と論文の読み方の違いを体得する

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：論文の主な論点を早くつかめるようになる。**思考・判断の観点**：論文の構造、論理を理解できるようになる

●**授業の計画（全体）** できれば前期・後期通年での受講が望ましい

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

第 1 回 **項目** イントロダクション

第 2 回 **項目** 翻訳の技法 (1)

第 3 回 **項目** 翻訳の技法 (2)

第 4 回 **項目** 論文読解 (1)

第 5 回 **項目** 論文読解 (2)

第 6 回 **項目** 論文読解 (3)

第 7 回 **項目** 史料読解 (1)

第 8 回 **項目** 史料読解 (2)

第 9 回 **項目** 論文読解 (1)

第 10 回 **項目** 論文読解 (2)

第 11 回 **項目** 論文読解 (3)

第 12 回 **項目** 史料読解 (1)

第 13 回 **項目** 史料読解 (2)

第 14 回 **項目** 総括

第 15 回

●**成績評価方法（総合）** 授業での発言を何よりも重視する。したがって、予習なしに出席し、質問・問いかけに答えられない場合、出席とはみなさないし、単なる「出席点」は与えない。

●**教科書・参考書** 教科書：The Civil Rights Movement, Jack E. Davis, Blackwell, 2001 年；翻訳の方法, 川本皓嗣, 東京大学出版会, 1997 年；教科書販売場所：大学会館内ブックセンター（紀伊國屋書店）

●**メッセージ** 質問などがあれば気楽にメールで連絡しえてください。（ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること）

●**連絡先・オフィスアワー** メールアドレス：yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp 水：11時50分から12時50分

開設科目	西洋史学講読（英語）	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤永康政				

●**授業の概要** 公民権運動の主要論文、ならびにその論文に使われた史資料を併せて読む。論文の読み方と史料の読み方の違いを把握し、英語読解能力を高める。／**検索キーワード** 英語、アメリカ史

●**授業の一般目標** (1) 英語を英語で理解し、速読ができるようになる (2) 史料と論文の読み方の違いを体得する

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：論文の主な論点を早くつかめるようになる。**思考・判断の観点**：論文の構造、論理を理解できるようになる

●**授業の計画（全体）** できれば前期・後期通年での受講が望ましい

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

第 1 回 **項目** イントロダクション

第 2 回 **項目** 翻訳の技法 (1)

第 3 回 **項目** 翻訳の技法 (2)

第 4 回 **項目** 論文読解 (1)

第 5 回 **項目** 論文読解 (2)

第 6 回 **項目** 論文読解 (3)

第 7 回 **項目** 史料読解 (1)

第 8 回 **項目** 史料読解 (2)

第 9 回 **項目** 論文読解 (1)

第 10 回 **項目** 論文読解 (2)

第 11 回 **項目** 論文読解 (3)

第 12 回 **項目** 史料読解 (1)

第 13 回 **項目** 史料読解 (2)

第 14 回 **項目** 史料読解 (3)

第 15 回 **項目** 総括

●**成績評価方法（総合）** 授業中の発言を最重視する。したがって、予習もせずに授業に参加しても、質問や問いかけに答えられないならば、出席とはみなさない。

●**教科書・参考書** 教科書：The Civil Rights Movement, Jack E. Davis, Blackwell, 2001 年；翻訳の方法, 川本皓嗣, 東京大学出版会, 1997 年；教科書販売場所：大学会館内ブックセンター（紀伊國屋書店）

●**メッセージ** 質問などがあれば気楽にメールで連絡しえてください。（ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること）

●**連絡先・オフィスアワー** メールアドレス：yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp 水：11時50分から12時50分

開設科目	西洋史学講読（ドイツ語）	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	尼川創二				

●**授業の概要** 学生諸君はおそらくドイツ語を学び始めたばかりであろうから、史料や研究書ではなく、比較的平易なドイツの大学基礎課程の歴史教科書を読んでいく。テキストは Joahim Immisch(Hrsg.), Politik, Gesellschaft, Wirtschaft von 1919 bis 1945 (Zeiten und Menschen. Ausgabe K. Band 4/1), Paderborn, Verlag Ferdinand Schoeningh, 1990 である。

●**授業の一般目標** ドイツ語文献読解力の向上を第一の目標としている。

●**授業の到達目標／知識・理解の観点**：（１）ドイツ語読解力を高める。（２）20 世紀前半のヨーロッパ、特にドイツの歴史の大筋を理解する。

●**授業の計画（全体）** テキストのコピーを受講生に配付し、充分予習させた上で、14 週にわたって読み進む。最後に期末試験（独和辞典持込可）を行なう。

●**成績評価方法（総合）** 期末試験と出席点（無断欠席 1 回につきマイナス 5 点とする）。

●**教科書・参考書** 教科書：上記のとおり。／参考書：適宜紹介する。

開設科目	西洋史学講読(ドイツ語)	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尼川創二				

- 授業の概要 前期と同じ。
- 授業の一般目標 前期と同じ。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：前期と同じ。
- 授業の計画(全体) 前期と同じ(続き)。
- 成績評価方法(総合) 試験と出席点(無断欠席1回につきマイナス5点)。
- 教科書・参考書 教科書：前期と同じ(続き)。／参考書：適宜紹介する。

開設科目	西洋史学講読（フランス語）	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	尼川創二				

- 授業の概要** 学生諸君はおそらくフランス語を学び始めたばかりであろうから、史料や研究書ではなく、比較的平易なフランスの高等学校の歴史教科書を読んでいく。テキストは Jean- Michel Lambin (dir.), Histoire Seconde, Paris, Hachette, 2001 である。
- 授業の一般目標** 辞書を用いて初・中級程度のフランス語の文章を正確にそして早く読み取ることができるようになる。—これが第1の目標である。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点**：（1）フランス語の読解能力を高める。（2）ヨーロッパ史、特にフランス史の基礎知識を習得する。
- 授業の計画（全体）** テキストのコピーを受講生に配付し、充分予習させた上で、14週にわたって読み進む。最後に期末試験（仏和辞典持込可）を行なう。
- 教科書・参考書** 教科書：上記のとおり。／参考書：適宜紹介する。

開設科目	西洋史学講読 (フランス語)	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尼川創二				

- 授業の概要 前期と同じ。
- 授業の一般目標 前期と同じ。
- 授業の到達目標 / 知識・理解の観点：前期と同じ。
- 授業の計画（全体） 前期と同じ（続き）。
- 成績評価方法（総合） 期末試験と出席点（無断欠席 1 回につきマイナス 5 点）。
- 教科書・参考書 教科書：前期と同じ（続き）。 / 参考書：適宜紹介する。



開設科目	西洋史学講読（ロシア語）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	尼川創二				

- 授業の概要** 受講生はロシア語の初級文法を習得しておいていただきたい。テキストについては、ロシアで現在使用されている歴史の教科書などを考えているが、4月の最初の授業のさいに受講生と話し合っ  
て決定する。
- 授業の一般目標** ロシア語の初・中級程度の文章を、辞書を用いて、正確に早く読み取ることができるよ  
うになる。—これが第1の目標である。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点**：（1）ロシア語の読解力を高める。（2）ロシア史についての基  
礎知識を習得する。
- 授業の計画（全体）** テキストのコピーを受講生に配付し、充分予習させた上で、14週にわたって読み進  
む。最後に期末試験（露和辞典持込可）を行なう。
- 成績評価方法（総合）** 期末試験と出席点（無断欠席は1回につきマイナス5点）。
- 教科書・参考書** 教科書：上記のとおり。／参考書：適宜紹介する。

開設科目	西洋史学講読（ロシア語）	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尼川創二				

- 授業の概要 前期の概要を参照のこと。
- 授業の一般目標 前期と同じ。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：前期と同じ。
- 授業の計画（全体） 前期と同じ（続き）。
- 教科書・参考書 教科書：前期と同じ（続き）。／参考書：適宜紹介する。

開設科目	西洋史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	尼川創二				

- 授業の概要** 3・4年生を対象としている。毎回各自が関心をもっているテーマについて発表してもらい、それぞれの発表ののち、研究史の把握、問題点の摘出、素材の用い方、論のはこび方、等々について出席者全員で討議し、検討する。
- 授業の一般目標** 学生の自発的な研究意欲を高めるとともに、相互批判を通じてそれぞれの研究を改善し深化させていくこと、
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 各自の発表テーマについての知識・理解が充分であること。 **思考・判断の観点**： 問題点を見出すことができ、それについて深く考え、的確な判断をくだせること。  
**関心・意欲の観点**： 研究対象に強い関心をもっていること。 **技能・表現の観点**： 適切な発表の仕方を心得ていること。
- 授業の計画（全体）** 毎回1人または2人の学生に発表してもらう。期末試験は実施しないが、最後に各自のそれまでの研究のまとめと今後の展望を記したレポートを提出してもらう。
- 成績評価方法（総合）** 平常点が90点。レポートが10点。無断欠席1回につきマイナス5点。

開設科目	西洋史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尼川創二				

●授業の概要 前期と同じ。

●授業の一般目標 前期と同じ。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：各自の発表テーマについての知識・理解が充分であること。思考・判断の観点：問題点を見出すことができ、それについて深く考え、的確な判断をくだせること。関心・意欲の観点：研究対象に強い関心をもっていること。技能・表現の観点：適切な発表の仕方を心得ていること。

●授業の計画（全体） 前期と同じ。ただし、4年生については学期末のレポートを免除する。

●成績評価方法（総合） 3年生：平常点 90 点。レポート 10 点。 4年生：平常点 100 点。無断欠席 1 回につきマイナス 5 点。

開設科目	西洋史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤永康政				

●**授業の概要** 3, 4年生を対象（それ以外の学年でも、単位は与えないが、傍聴は歓迎する）とし、米英諸地域の歴史について演習を行う。3年生は、現在最先端の歴史学認識を把握することを目的に、学術論文を精読する。4年生は、卒業論文の研究報告をお粉ル。なお講読論文は、参加者の関心にしたがって決定する／**検索キーワード** ゼミ、アメリカ史

●**授業の一般目標** (1) 歴史学諸理論の把握 (2) 理解した理論をいかに展開していくかを学ぶ (3) 時代錯誤の研究、背理の考察、イデオロギーに染まりきった設問を考察することにならないように、「問い」のたてかたを学ぶ

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：現代思想と歴史議論、現代社会と歴史学との関係について理解を深める **思考・判断の観点**：歴史学理論の展開の仕方を会得し、それに則った論理的思考を身につける

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 インTRODク ション
- 第 2 回 項目 日本語論文を読む
- 第 3 回 項目 日本語論文を読む
- 第 4 回 項目 日本語論文を読む
- 第 5 回 項目 日本語論文を読む
- 第 6 回 項目 英語論文を読む
- 第 7 回 項目 英語論文を読む
- 第 8 回 項目 英語論文を読む
- 第 9 回 項目 英語論文を読む
- 第 10 回 項目 英語論文を読む
- 第 11 回 項目 英語論文を読む
- 第 12 回 項目 英語論文を読む
- 第 13 回 項目 英語論文を読む
- 第 14 回 項目 英語論文を読む
- 第 15 回 項目 英語論文を読む

●**成績評価方法（総合）** 授業での報告、ならびに参加者の報告に対する議論等々、積極的な授業参加を求め、そのみを評価基準とする。

●**メッセージ** 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。（ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること）

●**連絡先・オフィスアワー** メールアドレス：yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp 水：11時50分から12時50分

開設科目	西洋史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤永康政				

●**授業の概要** 3. 4年生を対象（それ以外の学年でも、単位は与えないが、「傍聴」は歓迎する）とし、米英諸地域の歴史について演習を行う。3年生は、現在最先端の歴史学理論を把握することを目的に、学術論文を読む。4年生は、卒業論文の研究の報告を行う。なお論文は、参加者の関心にしたがって決定する。／**検索キーワード** ゼミ、アメリカ史

●**授業の一般目標** (1) 歴史学諸理論の把握 (2) 理解した理論をいかに展開していくかを学ぶ (3) 時代錯誤の研究、背理の考察、イデオロギーに染まりきった設問を考察することにならないように、「問い」のたてかたを学ぶ (4) 4年生は卒業論文を完成する

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：現代思想と歴史議論、現代社会と歴史学との関係について理解を深める **思考・判断の観点**：歴史学理論の展開の仕方を会得し、それに則った論理的思考を身につける

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 インTRODク ション
- 第 2 回 項目 卒業論文中間 発表
- 第 3 回 項目 卒業論文中間 発表
- 第 4 回 項目 卒業論文中間 発表
- 第 5 回 項目 英語論文を読む
- 第 6 回 項目 英語論文を読む
- 第 7 回 項目 英語論文を読む
- 第 8 回 項目 英語論文を読む
- 第 9 回 項目 卒業論文中間 発表
- 第 10 回 項目 卒業論文中間 発表
- 第 11 回 項目 卒業論文中間 発表
- 第 12 回 項目 英語論文を読む
- 第 13 回 項目 英語論文を読む
- 第 14 回 項目 英語論文を読む
- 第 15 回 項目 英語論文を読む

●**成績評価方法（総合）** 授業での報告、ならびに参加者の報告に対する議論等々、積極的な授業参加を求め、それのみを評価基準とする。

●**メッセージ** 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。（ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること）

●**連絡先・オフィスアワー** メールアドレス：yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp 水：11時50分から12時50分

開設科目	社会学概論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	横田尚俊				

●**授業の概要** 社会学における基本概念と理論的視角、並びにそれらを通して現実の社会や具体的な社会現象がどのように分析・解明されるのかという点を学ぶ。前期には、主に現代産業社会のマクロな構造と過程について概観する。／**検索キーワード** 社会的行為、社会構造、社会変動、近代化、社会階層、官僚制、情報化・消費化社会

●**授業の一般目標** (1) 社会学の基本概念や理論的視角を学ぶ。(2) 社会学の概念と方法を用いて、現代社会の構造と変動を解明する。

●**授業の計画 (全体)** 社会学の歴史、基本概念、現代社会の構造と変動について学んでいく。

●**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 社会学の研究对象としての「社会」
- 第 2 回 項目 社会学の誕生
- 第 3 回 項目 社会学の成立と発展
- 第 4 回 項目 社会学の成立と発展 (2)
- 第 5 回 項目 社会学の成立と発展 (3)
- 第 6 回 項目 近代化と産業化
- 第 7 回 項目 産業社会と階級・階層
- 第 8 回 項目 産業社会と階級・階層 (2)
- 第 9 回 項目 産業社会と官僚制組織
- 第 10 回 項目 高度産業化と「ゆたかな社会」
- 第 11 回 項目 産業社会における中心的価値観の変容
- 第 12 回 項目 「情報化・消費化社会」の成立
- 第 13 回 項目 高度産業社会のゆくえ
- 第 14 回 項目 高度産業社会のゆくえ (2)
- 第 15 回 項目 試験

●**成績評価方法 (総合)** 定期試験 50% 出席 40% 小レポート・授業への参加度 10%

●**教科書・参考書** 教科書：教科書を使用せず、資料のプリントにそって授業を進める。／参考書：社会学小辞典、浜嶋朗ほか、有斐閣、1997年；社会学講義、富永健一、中央公論新社（中公新書）、1995年；現代社会学講義、佐藤慶幸、有斐閣、1999年；社会学（改訂第3版）、A. ギデンズ、而立書房、1998年；クロニクル社会学、那須壽、有斐閣、1997年；できるだけ『社会学小辞典』を用意し、授業に出てくる用語、人名などを各自で調べてほしい。その他の参考文献は、授業のなかで適宜紹介する。

●**メッセージ** 社会学概論の講義内容は、前期と後期で相互に関連しているので、できれば年間を通して受講することが望ましい。

●**連絡先・オフィスアワー** メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟 3階 307 室

開設科目	社会学概論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	小谷典子				

●**授業の概要** 社会学に特徴的な研究方法としての社会調査とはどのようなものか、その基本を理解しながら、社会的ものの見方を知る。／**検索キーワード** 社会学、社会調査、統計的調査、質的調査、事例調査、フィールドワーク

●**授業の一般目標** 社会学とはどのような学問であるかを理解する。社会学に特徴的な研究方法としての社会調査について基本的な理解ができる。

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：社会学に関する基本的知識を身につける 社会調査に関する基本的知識を身につける **思考・判断の観点**：社会現象が社会調査によって切り取れる可能性について考える **関心・意欲の観点**：社会問題や社会現象を分析する意欲を持つ **態度の観点**：社会を体験的に理解することに関心を持つ

●**授業の計画（全体）** 参考文献を提示し、資料をもちいて講義する

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 社会学の方法としての社会調査
- 第 2 回 項目 社会調査の歴史
- 第 3 回 項目 中範囲理論と社会的想像力 内容 科学的目的の社会調査
- 第 4 回 項目 量的調査と質的調査 内容 社会調査方法の選択
- 第 5 回 項目 統計調査に見る 家族の変容 内容 官庁統計・統計 データ
- 第 6 回 項目 統計調査に見る 地域社会の変容 内容 官庁統計・統計 データ
- 第 7 回 項目 労働者家族の生活実態 内容 質的調査の実際
- 第 8 回 項目 日本の下層社会 内容 質的調査の実際
- 第 9 回 項目 都市社会のモノ グラフ（シカゴ学派の事例研究） 内容 事例調査の実際
- 第 10 回 項目 ミドルタウンの変容（参与観察） 内容 参与観察の実際
- 第 11 回 項目 スラム社会の社会構造（ストリートコーナース ャエティ） 内容 参与観察の実際
- 第 12 回 項目 社会階層と社会移動（SSM調査から） 内容 統計的調査の実際
- 第 13 回 項目 社会移動と生活構造（コミュニティモラル研究から） 内容 統計的調査の実際
- 第 14 回 項目 フィールド調査の楽しみと調査倫理 内容 社会調査の責任と貢献
- 第 15 回 項目 社会学と社会調査

●**成績評価方法（総合）** 出席と小レポートと期末試験で総合的に評価する

●**教科書・参考書** 参考書：講義中に適宜紹介する

●**メッセージ** 参考書をできるだけ読んでほしい

●**連絡先・オフィスアワー** otani@yamauguchi-u.ac.jp



開設科目	現代社会論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	小谷典子				

●**授業の概要** 産業都市における企業組織とコミュニティの関わりを、前期・後期通して、テキストを使って具体的な事例を紹介しながら考察する／**検索キーワード** 産業都市、企業組織、企業の社会的責任、コミュニティ

●**授業の一般目標** 産業都市の企業組織とコミュニティのかかわりを認識し、よりよいまちづくりについて考える。前期は特に環境問題に焦点をおく。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：産業都市の企業組織についての理解を深める **思考・判断の観点**：コミュニティとアソシエーションの関係について考える **関心・意欲の観点**：身近な地域社会の社会問題についてに関心を持つ **態度の観点**：身近な地域に目を向けるようになる

●**授業の計画（全体）** テキストを用いて、具体的な産業都市の企業組織と地域社会のかかわりについて紹介し、地域形成に関する理解を深める。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 産業都市の成立
- 第 2 回 項目 企業と都市の関わり（1）
- 第 3 回 項目 企業と都市の関わり（2）
- 第 4 回 項目 地場産業都市の地域形成（1）
- 第 5 回 項目 地場産業都市の地域形成（2）
- 第 6 回 項目 地場産業都市の地域形成（1）
- 第 7 回 項目 地場産業都市の地域形成（2）
- 第 8 回 項目 企業進出とコミュニティ（1）
- 第 9 回 項目 企業進出とコミュニティ（2）
- 第 10 回 項目 企業の環境対策
- 第 11 回 項目 公害都市の再生
- 第 12 回 項目 公害都市から環境国際協力都市へ（1）
- 第 13 回 項目 公害都市から環境国際協力都市へ（2）
- 第 14 回 項目 公害都市から環境国際協力都市へ（3）
- 第 15 回 項目 企業と都市の関わり

●**成績評価方法（総合）** 出席と小レポートと期末テストで総合的に判断する

●**教科書・参考書** 教科書：三浦典子『企業の社会貢献とコミュニティ』ミネルヴァ書房、2004年／参考書：適宜紹介する

●**メッセージ** 前期・後期通して使用するので、購入すること

●**連絡先・オフィスアワー** tani@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	現代社会論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	小谷典子				

●**授業の概要** 産業都市における企業組織とコミュニティの関わりを、前期・後期通して、テキストを使って、具体的な事例を紹介しながら考察する／**検索キーワード** 企業組織、企業の社会貢献、企業メセナ、コミュニティ

●**授業の一般目標** 産業都市の企業組織とコミュニティのかかわりを認識し、よりよいまちづくりについて考える。後期は特に企業の地域社会への社会貢献に焦点をおく

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：企業の社会貢献についての理解を深める **思考・判断の観点**：コミュニティとアソシエーションの関係について考える **関心・意欲の観点**：身近な地域社会の企業の社会貢献活動についてに関心を持つ **態度の観点**：身近な地域社会の企業活動に目を向けるようになる

●**授業の計画（全体）** テキストを用いて、具体的な産業都市の企業組織と地域社会のかかわりについて紹介し、地域形成に関する理解を深める。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 企業の経営理念 と社会貢献活動
- 第 2 回 項目 企業の社会貢献 活動（1）
- 第 3 回 項目 企業の社会貢献 活動（2）
- 第 4 回 項目 山口県における 企業の社会貢献 活動（1）
- 第 5 回 項目 山口県における 企業の社会貢献 活動（2）
- 第 6 回 項目 防府市における 企業の社会貢献 活動（1）
- 第 7 回 項目 防府市における 企業の社会貢献 活動（2）
- 第 8 回 項目 防府市における 企業の社会貢献 活動（1）
- 第 9 回 項目 宇部市における 企業文化の形成
- 第 10 回 項目 宇部市における 企業の社会貢献 活動（1）
- 第 11 回 項目 宇部市における 企業の社会貢献 活動（2）
- 第 12 回 項目 山口市における 企業の社会貢献 活動（1）
- 第 13 回 項目 産業都市における 環境市民団体（1）
- 第 14 回 項目 産業都市における 環境市民団体（2）
- 第 15 回 項目 企業と都市の関わりを考える

●**成績評価方法（総合）** 出席と小レポートと期末テストで総合的に判断する

●**教科書・参考書** 教科書：三浦典子『企業の社会貢献とコミュニティ』ミネルヴァ書房、2004年／参考書：適宜紹介する

●**メッセージ** 前期・後期通して使用するので、購入すること

●**連絡先・オフィスアワー** tani@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	現代社会論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	直井道子				

- 授業の概要** 「高齢社会：調整と対応」をテーマとして、高齢社会はどのように登場し、進展していくのか、その中でどのような問題が生じるのか、を概説する。また、その対応策（社会保障・社会福祉サービス）について考え、議論する。／**検索キーワード** 高齢化、高齢者、高齢社会
- 授業の一般目標** （１）高齢社会、少子化などについて基本的に理解する。（２）高齢者をめぐる社会保障、社会福祉サービスについて基礎的な論点を理解する。（３）これからの日本の社会の高齢者サービスについて問題意識、関心をもって考えていく。
- 授業の計画（全体）** （１）高齢社会はどのようにして生まれ、進展していくのか（２）どのような問題が生じ、どのような高齢者サービスが必要になるのか（３）それらのサービスの今日的争点はどこにあるか（４）これからの日本の選択について討論
- 成績評価方法（総合）** （１）基本的には授業終了後提出のレポートで評価する。（２）授業中での発言等も加味する場合がある。
- 教科書・参考書** 教科書：なし／参考書：現代社会論, 古城利明・矢澤修次郎編, 有斐閣
- 備考** 集中授業

開設科目	現代政治社会論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	額額厚				

●**授業の概要** 戦後日本社会の急激な変容ぶりは、戦後日本人の意識構造にも決定的な影響を及ぼした。本講義では、そのなかで特に戦争観や平和観の変容に焦点を当てて、考察を加えていく。それは同時に戦後日本人の政治観や国家観をも問う試みとしてもある。そのことを通して、最終的には国家と人間、市民社会と市民の相互関係の理想的かつ合理的な関係を模索していきたい。／**検索キーワード** 戦争認識 平和認識 歴史認識 意識変容

●**授業の一般目標** (1) 戦争観や平和観が何を媒介として形成されていくか認識を深める。(2) 国家や社会を対象化する手法を獲得していく。(3) 自らの言葉で戦争・平和・国家・社会を語れる素養を身につける。

●**授業の到達目標／知識・理解の観点**： 1. 戦争や平和の歴史事実を再確認し、論証することができる。 2. 本テーマで主体的な議論を展開できる。 3. 本テーマについて、独自性ある小論文を作成できる。

**思考・判断の観点**： 1. 戦争や平和が国家による恣意的な判断によってのみ結果されるものではなく、そこに民衆の意識が介在していることが指摘できる。 2. 戦争や平和の内実を決定するものは、民衆自身であることが自覚できる。 **関心・意欲の観点**： 1. 自らの社会的立場を客観的に把握する手段として、現代史への関心と社会事象への興味を持つ。 2. 21世紀が再び戦争の時代であるとする認識を持つ。 **態度の観点**： 1. 既存の歴史認識や社会認識の有り様に疑問を持つ。 2. 他者との言語や文章を媒体とするコミュニケーションに関心を持つ。

●**授業の計画（全体）** 戦後日本に表出した戦争観や平和観の変容を具体的に例示する。それを踏まえて、より多くの文献・資料を活用しながら、そこに見出される日本人の意識構造を浮き彫りにしていく。テキストは、額額厚著『侵略戦争 歴史事実と歴史認識』（筑摩書房、1999年刊）など。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** 日本人の戦争観の変容 (1) **内容** 1) 戦争観の転換を迫る者 2) 日本人の戦争観の実際 3) 時代と戦争観の変容 **授業外指示** テキスト『侵略戦争』の精読と配布レジュメによる事前学習（以下、毎回同様の指示をする）
- 第 2 回 **項目** 日本人の戦争観の変容 (2) **内容** 4) 戦争観の形成と政治的文化的状況 5) 戦争認識を阻害するもの
- 第 3 回 **項目** 時代の変容と戦争認識の変容 **内容** 1) 1950年代の特色 2) 風化の政治的時代的背景と原因
- 第 4 回 **項目** アジア太平洋戦争の総括をめぐって **内容** 1) 「太平洋戦争の呼称をめぐって 2) 解放戦争論の登場
- 第 5 回 **項目** 戦後の戦争と日本人 **内容** 1) 朝鮮戦争論 2) ベトナム戦争論
- 第 6 回 **項目** 日本再軍備をめぐる国論の動き **内容** 1) 戦争アレルギーと軍隊アレルギー 2) 日米安保の受容過程
- 第 7 回 **項目** 戦争責任論の登場とアジア民衆からの批判 **内容** 1) 戦争責任論 2) 過去の克服
- 第 8 回 **項目** 軍隊慰安婦問題への反応 **内容** 1) いま、なぜ軍隊慰安婦問題か 2) アジア民衆の対日批判
- 第 9 回 **項目** 教科書問題に示された日本の戦争・平和観 (1) **内容** 1) 教科書問題 2) 歴史修正主義グループの意味
- 第 10 回 **項目** 教科書問題に示された日本の戦争・平和観 (2) **内容** 3) 歴史修正主義批判の展開 4) 教科書問題への世論の動き
- 第 11 回 **項目** 湾岸戦争とイラク戦争時における日本人の戦争観 (1)
- 第 12 回 **項目** 湾岸戦争とイラク戦争時における戦争観 (2)
- 第 13 回 **項目** 総括と補論 (1)

第14回 項目 総括と補論(2)

第15回 項目 総括と補論(3)

- 成績評価方法(総合)** 何よりも、自らの言葉と論理で課題の説明と展開を説得的に論述できる能力を身につけているかを重視します。そこでは、講義の理解と事前学習によって蓄積された知識や情報を消化する技量が問われます。
- 教科書・参考書** 教科書：侵略戦争，瀬瀬厚，筑摩書房，1999年；現代政治の課題，瀬瀬厚，北樹出版，1996年；検証・新ガイドライン安保体制，瀬瀬厚，インパクト出版会，1998年
- メッセージ** 現代社会に内在する矛盾をどこまで指摘可能か思考せよ
- 連絡先・オフィスアワー** 瀬瀬厚 koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Office Hour Thu.PM 1:00-2:30

開設科目	現代政治社会論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	額 厚				

●**授業の概要** 現代の政治社会における人間の所在と位置について考察していく。そこでは国家と人間、社会と人間、組織と人間などを大きなテーマとして設定しつつ、現代社会における人間の営みの理想型を模索していく。／**検索キーワード** 政治的人間 政治の人間化 国家・社会と人間

●**授業の一般目標** 「人間は政治的かつ社会的な存在」である限り、私たちは政治とは無縁で有り得ない。まらば。政治社会にあつて、これと豊かにコミットしていくための処方箋が不可欠である。本講義は、言うならばその処方箋探しの場となるであろう。

●**授業の計画（全体）** 多義にわたるテーマ及び課題を提示していくので、毎回レジュメを配布していく。受講生諸君は講義に臨むにあたって事前にレジュメの精読が求められる。レジュメと講義と自らの思考という循環によって、政治社会に果敢にコミットし、豊かなコミュニケーション能力を獲得して欲しい。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 国家・社会・組織と人間の関わり方とは 内容 国家とは何かをめぐって
- 第 2 回 項目 「政治社会」とはどのような社会を言うのか 内容 国家・社会とのスタンスの取り方
- 第 3 回 項目 企業社会と人間を結ぶもの 内容 企業社会の中で
- 第 4 回 項目 企業国家と日本人 内容 日本株式会社を超えて
- 第 5 回 項目 近代化・資本主義化と人間 内容 上からの近代化と共同体秩序の形成
- 第 6 回 項目 国家主義・愛国主義・愛郷主義と人間 内容 ファシズム・イデオロギーへの取り込み
- 第 7 回 項目 戦後民主主義の変容と展望 内容 戦後民主主義は人間を解放したか
- 第 8 回 項目 自由・安全・平等の思想と観念のゆくへ 内容 動員・統制・管理の思想と観念との対抗
- 第 9 回 項目 高度経済成長と成長神話のなかで 内容 大国ナショナリズムの形成から私生活主義まで
- 第 10 回 項目 競争社会と差別社会の諸相 内容 競争と差別が生み出される戦後日本の意識
- 第 11 回 項目 学歴社会と階層社会の実態 内容 高度学歴社会化と階層社会化の帰結
- 第 12 回 項目 政治の人間化と人間の政治化との間（1） 内容 政治と人間の対抗と融合をめぐって
- 第 13 回 項目 政治の人間化と人間の政治化との間（2） 内容 政治と人間の対抗融合をめぐって
- 第 14 回 項目 全体の纏めと討論（1）
- 第 15 回 項目 全体の纏めと討論（2）

●**成績評価方法（総合）** 何よりも、自らの言葉と論理で課題の説明と展開を説得的に論述できる能力を身につけているかを重視します。そこでは、講義の理解と事前学習によって蓄積された知識や情報を消化する技量が問われます。

●**教科書・参考書** 教科書：現代政治の課題、額 厚、北樹出版、2001 年

●**メッセージ** 君は、政治の解体と創造への道程をどうつけるのか

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail koketu@yamaguti-u.ac.jp、電話 933 - 5278、研究室 411 - 2、オフィスアワー木曜日 PM 1:00 - 2:30

開設科目	現代政治社会論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	朴 賢珠				

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス、国際移動の現状地図化
- 第 2 回 項目 日本における外国人人口の変化
- 第 3 回 項目 入管法と外国人人口の変動、国内の地域変動
- 第 4 回 項目 地域住民としての外国籍者（オールドカマーとニューカマー）
- 第 5 回 項目 地域社会でのコリアンタウン（新宿を事例に）
- 第 6 回 項目 地域の変化と住民の対応
- 第 7 回 項目 外国人生活共同体の出現とその背景
- 第 8 回 項目 韓国における外国人人口の変化
- 第 9 回 項目 労働力としての外国人
- 第 10 回 項目 韓国人の国際移動
- 第 11 回 項目 韓国人ニューカマーの日本流入とその背景
- 第 12 回 項目 留学生から事業者へ、一時定住者から永住権を取得するまで
- 第 13 回 項目 日韓文化交流と対外国人認識の変化
- 第 14 回 項目 外国人との共生は可能か（成功例）
- 第 15 回 項目 アメリカ、ヨーロッパの移民の現状と日本の将来展望

開設科目	コミュニティ論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	横田尚俊				

●**授業の概要** 近現代都市における貧困、階層格差の問題と、都市下層の生活実態や共同性の位相、さらには都市下層社会の変容について、社会学的な調査記録や調査データに依拠しながら、概観していく。／**検索キーワード** 都市下層、スラム、シカゴ学派、社会調査、社会事業、寄せ場、ホームレス

●**授業の一般目標** (1) 近現代の欧米や日本における都市化を、都市下層社会の変容という視点から見つめ直すことによって、都市化過程の重層的な理解を促す。(2) 現代社会における階層格差のありようを、社会学的なデータに基づいて理解し、都市問題、社会問題に対する関心を深める。

●**授業の計画 (全体)** 都市と貧困との関係、および都市下層社会の諸相、都市下層調査の変遷等を概観する。

●**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨN (授業の進め方についての説明)
- 第 2 回 項目 都市と貧困
- 第 3 回 項目 イギリス産業都市における貧困
- 第 4 回 項目 イギリス産業都市における貧困 (2)
- 第 5 回 項目 シカゴ学派の調査モノグラフにみる都市下層社会
- 第 6 回 項目 シカゴ学派の調査モノグラフにみる都市下層社会 (2)
- 第 7 回 項目 近代日本の都市下層 (1) - 「貧民窟調査」の記録 -
- 第 8 回 項目 近代日本の都市下層 (2) - 「細民調査」と「月島調査」 -
- 第 9 回 項目 近代日本の都市下層 (3) - 草間八十雄と都市下層調査 -
- 第 10 回 項目 近代日本の都市下層 (4) - 社会事業の展開 -
- 第 11 回 項目 現代日本の都市下層 (1) - 「バタヤ社会」の形成と消滅 -
- 第 12 回 項目 現代日本の都市下層 (1) - 「バタヤ社会」の形成と消滅 - (続き)
- 第 13 回 項目 現代日本の都市下層 (2) - 寄せ場とホームレス -
- 第 14 回 項目 現代日本の都市下層 (2) - 寄せ場とホームレス - (続き)
- 第 15 回 項目 試験

●**成績評価方法 (総合)** 定期試験 (論述式) 50 % 出席 40 % 小レポート・授業参加度 10 %

●**教科書・参考書** 教科書: 教科書は特に使用しない。／参考書: シカゴ社会学の研究, 宝月誠他, 恒星社厚生閣, 1997 年; 日本の下層社会, 横山源之助, 岩波書店 (文庫), 1985 年; 日本の都市下層, 中川清, 勁草書房, 1985 年; 月島調査 (復刻版), 内務省衛生局, 光生館, 1970 年; 場所をあける - 寄せ場 / ホームレスの社会学 -, 青木秀男他, 松籟社, 1999 年; その他の参考文献に関しては、授業の中で適宜紹介する。

●**連絡先・オフィスアワー** メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟 3 階 307 室



開設科目	社会学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	小谷典子				
<p>●<b>授業の概要</b> 日本の近代化と社会変動に関するテキストを分担して、レポートし、研究課題について 議論しながら、現代社会に関する関心を深める。 各自の研究テーマを明確にし、テーマに基づく文献を読む ／検索キーワード 近代化、社会変動、社会階層</p> <p>●<b>授業の一般目標</b> 日本の近代化と社会変動に関するテキストを読み込み、理解し、各自の研究テーマを見つける</p> <p>●<b>授業の到達目標</b>／ <b>知識・理解の観点</b>： 現代社会に関する知識と理解を深める <b>思考・判断の観点</b>： 現代社会に関する現状を判断する <b>関心・意欲の観点</b>： 現代社会に関する関心を深める 研究テーマを明確化する</p> <p>●<b>授業の計画（全体）</b> テキストを分担して、レポートし、研究課題について議論していく</p> <p>●<b>授業計画（授業単位）</b>／<b>内容・項目等</b>／<b>授業外学習の指示等</b></p> <p>第 1 回 項目 授業の概要  第 2 回 項目 課題報告 1  第 3 回 項目 課題報告 2  第 4 回 項目 課題報告 3  第 5 回 項目 課題報告 4  第 6 回 項目 課題報告 5  第 7 回 項目 課題報告 6  第 8 回 項目 研究テーマ中間 報告  第 9 回 項目 課題報告 7  第 10 回 項目 課題報告 8  第 11 回 項目 課題報告 9  第 12 回 項目 課題報告 1 0  第 13 回 項目 課題報告 1 1  第 14 回 項目 課題報告 1 2  第 15 回 項目 日本の近代化と 社会変動を総括 する</p> <p>●<b>成績評価方法（総合）</b> 出席、報告、最終レポートを総合的に評価する</p> <p>●<b>教科書・参考書</b> 教科書： 富永健一『日本の近代化と社会変動』講談社 1990 年／ 参考書： 適宜紹介する</p> <p>●<b>メッセージ</b> 小谷を指導教官とする 4 年生は必ず受講すること</p>					

開設科目	社会学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	小谷典子				

●**授業の概要** 各自の研究テーマを明確にし、テーマに基づく文献を読み、レポートし、研究課題について議論しながら、現代社会に関する関心を深める。／**検索キーワード** 近代化、社会変動、現代社会 社会問題

●**授業の一般目標** 現代社会と社会問題に関する文献を各自読み込み、理解し、各自の研究テーマを明確化する

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：現代社会に関する知識と理解を深める **思考・判断の観点**：現代社会と社会問題に関する現状を判断する **関心・意欲の観点**：現代社会に関する関心を深める 研究テーマを明確化する

●**授業の計画（全体）** 参考文献についてレポートし、研究課題について議論していく

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 授業の概要
- 第 2 回 項目 課題報告 1
- 第 3 回 項目 課題報告 2
- 第 4 回 項目 課題報告 3
- 第 5 回 項目 課題報告 4
- 第 6 回 項目 課題報告 5
- 第 7 回 項目 課題報告 6
- 第 8 回 項目 研究課題中間報告会
- 第 9 回 項目 課題報告 7
- 第 10 回 項目 課題報告 8
- 第 11 回 項目 課題報告 9
- 第 12 回 項目 課題報告 1 0
- 第 13 回 項目 課題報告 1 1
- 第 14 回 項目 課題報告 1 2
- 第 15 回 項目 現代社会と社会 変動を総括 する

●**成績評価方法（総合）** 出席、報告、最終レポートを総合的に評価する

●**教科書・参考書** 参考書：適宜紹介する

●**メッセージ** 小谷を指導教官とする 4 年生は必ず受講すること

開設科目	社会学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	横田尚俊				

- 授業の概要** 環境問題と地域社会、市民生活との関係を扱った社会学の文献を取り上げ、受講生全員で読んでいく。特に、河川や水と人間生活との関わりが近代以降どのように変化してきたのか、それは何故か、また、環境保全のためにどのような取り組みが行われており、市民・住民、行政、企業といった各主体が今後どのような役割を果たし、いかに連携すべきなのか、といった点を皆で議論しながら考えていく。  
／**検索キーワード** 環境問題、水環境、コモンズ、NPO、ボランティア、地域住民組織、地域環境主義
- 授業の一般目標** (1) 現代における環境問題の実態とその原因を、社会学の視点から理解する。(2) 環境保全への取り組みの現状・課題を理解するとともに、環境問題とその解決への道筋を、われわれの日常生活世界のありように関連づけて考える。
- 授業の計画 (全体)** 以下のテキストの中から、2冊を選んで、受講生全員で読んでいく。授業は、受講生による報告、質疑、討論によって進められていく。また、時間があれば、身近な河川環境を観察したり、環境保全活動に取り組んでいる人たちにお話を伺ったりする機会をつくりたいと考えている。
- 成績評価方法 (総合)** 出席 40% 報告・授業参加度 40% 課題レポート (必須) 20%
- 教科書・参考書** 教科書：環境ボランティア・NPOの社会学, 鳥越皓之ほか, 新曜社, 2000年; コモンズの社会学, 鳥越皓之ほか, 新曜社, 2001年; 水をめぐる人と自然, 嘉田由紀子, 有斐閣, 2003年 / 参考書：参考文献に関しては、授業の中で適宜紹介する
- メッセージ** 初回の授業で、テキストの入手法や授業の進め方などについて説明するので、必ず初回に出席すること。
- 連絡先・オフィスアワー** メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟 3階 307室

開設科目	社会学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	横田尚俊				

●**授業の概要** 近年注目を集めているボランティア活動やNPO活動など市民活動の社会的機能、現状と可能性などについて社会学的な考察を加える。テキストを読みながら、受講生自身による報告と質疑、討論によって授業は進められていく。同時に、3年生には、卒業論文作成に備えて、各自の研究テーマに沿った研究報告をしてもらう。／**検索キーワード** ボランティア活動、NPO、市民活動、コミュニティ

●**授業の一般目標** (1) ボランティア活動やNPO活動など市民活動の社会的機能、組織や担い手の特性、現代的意義、可能性などを社会学的に分析し理解することを目標とする。(2) 各自の研究テーマを深め、卒業論文作成の準備を進める。

●**授業の計画(全体)** 以下のテキストのいずれかを選んで、受講生全員で読んでいく。授業は、受講生による報告、質疑、討論によって進められていく。時間があれば、自治体の市民活動支援センター、ボランティア・センターなどを訪問して、見学したりお話をうかがったりする機会をつくりたいと考えている。また、3年生には、授業の後半に、卒業論文の作成をにらんで、各自の研究テーマに基づく報告をしてもらう予定である。

●**成績評価方法(総合)** 出席 40% 報告・授業への参加度 40% 課題レポート(必須) 20%

●**教科書・参考書** 教科書：環境ボランティア・NPOの社会学, 鳥越皓之ほか, 新曜社, 2000年; 震災ボランティアの社会学, 山下祐介ほか, ミネルヴァ書房, 2002年 / 参考書：参考文献に関しては、授業の中で適宜紹介する。

●**メッセージ** 初回の授業で、テキストの入手法や授業の進め方などについて説明するので、必ず初回に出席すること。

●**連絡先・オフィスアワー** メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟3階307室

開設科目	社会学演習(4年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	横田尚俊				

- 授業の概要** 本演習では、4年生の卒業論文作成に向けた指導を行う。／**検索キーワード** 卒業論文、社会学
- 授業の一般目標** 受講生が、自分自身で設定した研究課題にしたがって、卒業論文を執筆できるようにする。
- 授業の計画(全体)** 受講生には、卒業論文作成に必要な資料・データや文献を渉猟した上で、研究報告をしてもらう。報告に対して、受講生全員で質疑と討論を行い、卒業論文の構想と内容を肉付けしていく。後期には、報告と並行して、実際に卒業論文の執筆に入ってもらう。
- 成績評価方法(総合)** 出席・報告 100%
- 教科書・参考書** 教科書：教科書は特に使用しない。／参考書：参考文献に関しては、授業の中で適宜紹介する。
- メッセージ** 受講生の卒業論文提出のスケジュールに鑑みて、正規の演習は12月初旬で終了し、以降は各自の進度に応じた個別指導を実施する。
- 連絡先・オフィスアワー** メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟3階307室

開設科目	社会学演習 (4 年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	横田尚俊				

- 授業の概要** 本演習では、4年生の卒業論文作成に向けた指導を行う。／**検索キーワード** 卒業論文、社会学
- 授業の一般目標** 受講生が、自分自身で設定した研究課題にしたがって、卒業論文を執筆できるようにする。
- 授業の計画 (全体)** 受講生には、卒業論文作成に必要な資料・データや文献を渉猟した上で、研究報告をしてもらう。報告に対して、受講生全員で質疑と討論を行い、卒業論文の構想と内容を肉付けしていく。
- 成績評価方法 (総合)** 出席・報告 80 % 課題レポート (必須) 20 %
- 教科書・参考書** 教科書：教科書は特に使用しない。／参考書：参考文献に関しては、授業の中で適宜紹介する。
- メッセージ** 受講生には、卒業論文に対する準備を早めに進めてほしい。
- 連絡先・オフィスアワー** メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟 3階 307 室

開設科目	現代政治社会学演習（3年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	額額厚				

●**授業の概要** いま、日本社会はポスト冷戦の時代と言う名の「第二の戦後」を迎えている。1950年代以降の日本社会は、冷戦構造に規定されてきた特殊日本的な社会構造を特質としている。その社会構造のなかで現行憲法の平和主義に形骸化が公然と進められ、安保が憲法に優越する存在としてすら存在してきた。同時に、冷戦構造に後押しされた戦後日本の保守体制と保守思想は、日本社会をして”経済的繁栄”を結果させる一方で、種々の非人権的な諸相を様々な領域で露呈させる要因ともなった。唯一の「冷戦構造の受益者」としての日本人は、冷戦構造を背景として成立した軍事政権の権威主義的支配に苦しめられているアジア民衆との間に埋めたい距離を創り上げてきた。その日本人も、戦後社会に冷戦構造を支えにもたらされた高度成長経済体制のなか、企業によって支配された日本国家に対置する自己を確立し得ないまま、依然として「市民」としての意識も行動力も持ち得ていない。本演習では、こうした問題意識を念頭に据えつつ、以下のようなテーマで出席者全員で報告と討論を重ねていきたいと思う。／**検索キーワード** 国家 社会 市民

●**授業の一般目標** 出席者が現状分析において明確に自己の見解を表明できるようになること、相互のコミュニケーションに果敢に取り組むスタンスを身につけることを第一の目標としていきたい。そして、論旨が明快な文章執筆能力の向上に資するために新聞記事の解説など並行して進めていく。

●**授業の計画（全体）** 3年次演習の成果として年度末には額額ゼミ誌『現代政治社会学論集』への寄稿を義務づける。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 戦後保守体制論
- 第2回 項目 保守イデオロギーと国家イデオロギー
- 第3回 項目 権威的支配構造と企業社会論
- 第4回 項目 日本株式会社論を超えて
- 第5回 項目 国家暴力装置の実態
- 第6回 項目 現代官僚制の問題点
- 第7回 項目 安保体制・安保構造・安保文化
- 第8回 項目 安保と憲法の強制的共存
- 第9回 項目 戦後国家論の展開
- 第10回 項目 閉塞する戦後日本社会
- 第11回 項目 日本人の国際認識
- 第12回 項目 現代マスコミの課題と展望
- 第13回 項目 マス・メディアとジャーナリズム
- 第14回 項目 情報社会と人権
- 第15回 項目 世論とマスコミ

●**成績評価方法（総合）** 報告内容と討論への参加態度

●**教科書・参考書** 教科書：現代の戦争、額額 厚、岩波書店、2002年／参考書：検証・新ガイドライン安保体制、額額 厚、インパクト出版会、1998年；周辺事態法、額額 厚、社会評論社、2000年；現代政治の課題、額額 厚、北樹出版、2001年；有事法制とは何か、額額 厚、インパクト出版会、2002年；有事法制の罠にだまされるな、額額 厚、凱風社、2002年

●**メッセージ** 徹底した議論と思考の向こうに見えるものは何か

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail koketu@yamaguchi-u.ac.jp、電話 933 - 5278、研究室 411 - 2、オフィスアワー木曜日 PM 1:00 - 2:30

開設科目	現代政治社会学演習（3年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	額額厚				

●**授業の概要** 前期での報告を踏まえて、年度末までに以下の日程で額額ゼミ誌『現代政治社会科学論集』に寄稿する小論種の執筆に全力をあげる。従って、後期の報告内容は、小論文の区尾性内容を前提としたものとする。／**検索キーワード** 説得的かつ論理的な論述

●**授業の一般目標** 10月より各自の報告を行う。12月8日（日米開戦日）までに草稿を完成させる。1月28日までに完全原稿を提出する。2月から編集作業を開始し、3月初旬に発行する。

●**授業の計画（全体）** 報告内容と小論集で評価する。

●**授業計画（授業単位）**／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 **項目** 報告者のテーマ設定と報告の順番を決定する。

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

●**メッセージ** 書くことの喜びを共に分かち合おう1

●**連絡先・オフィスアワー** koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Office Hour Thu.PM1:00-2:30 研究室 TEL.933-5278



開設科目	現代政治社会学演習（4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	額額厚				

●**授業の概要** 演習参加者各自の問題意識がクリアに反映された課題を設定し、文献・資料を収集・精読する作業を通して卒業論文の作成を目標とする。

●**授業の一般目標** 社会学領域の論文の執筆活動を通して、将来逞しい「市民」として自立していくための機会とする。そこでは大いなる批判精神や説明能力の習得を求めたい。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** 報告者の順番を決定。
- 第 2 回 **項目** 以下、順次報告と討論を重ねていく。
- 第 3 回
- 第 4 回
- 第 5 回
- 第 6 回
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

●**メッセージ** 逞しい「市民」への第一歩を！

●**連絡先・オフィスアワー** koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Office Hour Thu.PM1:00-2:30 TEL/933-5278

開設科目	現代政治社会学演習（4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	額瀨厚				

●**授業の概要** 説得的かつろんりてきな論文の執筆

●**授業の一般目標** 論文の作成とゼミ誌『現代政治社会論』の発行

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回 項目 各自のテーマ設定と広告順の決定

第 2 回 項目 以下、報告

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

●**連絡先・オフィスアワー** koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Office Hour Thu.PM1:00-2:30 TEL/933-5278

開設科目	現代政治社会学演習（2）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山本真弓				

- 授業の概要** 世界最後のチベット仏教王国であるブータンの現代史を、インド北部、ネパール、チベットなどの地域からなるヒマラヤ地方のなかに位置づけ、そのうえで、1964年のブータン首相暗殺事件と1974年のブータン国王暗殺未遂事件の関連を考察する。
- 授業の一般目標** ノン・フィクションを歴史のなかにどのように位置づけ、資料・史料のない分野の歴史をどのように埋めていくかについて考察することを目標とする。
- 授業の計画（全体）** ブータンという国を概観してから、1964年当時インド政府からブータンに派遣されていたインド人政務官の回想録を読む。
- 成績評価方法（総合）** 出席、および授業への貢献（テキストの訳）。
- 教科書・参考書** 教科書: The Dragon Kingdom in Crisis, Nari Rustomji, Oxford University Press, 1978年

開設科目	現代政治社会学演習（1）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	山本真弓				

- 授業の概要** ブータン現代史最大のなぞと言われている1964年のジグメ・ドルジ首相暗殺事件と、ほとんど注目されていない1974年ジグメ・センゲ・ワンチュック国王暗殺未遂事件との関連を、同時代をブータンの政務官として過ごしたインド官僚の追想から考察する。
- 授業の一般目標** 個人の経験と記憶が歴史のなかでどのように位置付けることができるかという、個人的なものの位置付けを、ブータン現代史を例に自分で試みることを目標とする。
- 授業の計画（全体）** チベットを含むヒマラヤ地域のなかにブータンを位置付け、それからテキストを読みすすめる。
- 教科書・参考書** 教科書: The Dragon Kingdom in Crisis, Nari Rustomji, Oxford University Press, 1978年

開設科目	現代政治社会学演習（1）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山本真弓				

●**授業の概要** 多民族国家ではないと考えられている現在の日本社会に生きていくと、民族という概念について考察する機会はあまりない。それは日常生活のなかでほとんど必要とされていないからだと考えられるが、一方、日本人論は、たとえば日本語ということばに焦点を当てるような形で、絶えず再生産されているかのような状況にある。この授業では、ユダヤ教徒がユダヤ人となっていく過程を追いながら、近代の産物である民族の歴史性と虚構性について考えていく。

●**授業の一般目標** いわゆる近代のユダヤ人問題を扱いつつ、社会科学の基本となる用語、たとえば、民族、国家、アイデンティティーなどについて、それらを自明のこととせず、自分のことばで理解することを目標とする。

●**成績評価方法（総合）** 出席、および授業への参加、ならびに期末試験を総合的に評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：西欧とユダヤのはざま、野村真理，南窓社，1992年；La Juda Stato, T.Herzl, 1934年／参考書：虚構としての民族，小坂井敏晶，東京大学出版会，2002年

開設科目	現代政治社会学演習（2）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	山本真弓				

- 授業の概要** 近代主義からユダヤ民族主義へ向かい、シオニズム運動の中心的人物となったテオドール・ヘルツルを中心に、当時のロシア、ドイツ、ポーランドなどの社会状況と彼の思想的背景を探っていく。
- 授業の一般目標** ひとりの人間の思想の変容とその背景を理解することで、ユダヤ人問題を構成する歴史の一部分を重層的に理解することを目標とする。
- 成績評価方法（総合）** 出席、およびディスカッションへの参加、ならびに期末試験の成績を総合的に評価する。
- 教科書・参考書** 教科書： その都度、配布する。

開設科目	社会学調査実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	小谷典子				

●**授業の概要** 社会学的社会調査の方法を学び、仮説の検証のための社会調査を実施する。／**検索キーワード** 社会調査、統計的調査、事例調査、調査票作成、フィールド調査

●**授業の一般目標** 研究目的の社会調査を経験することによって、社会調査の目的・方法・結果の利用を学習する

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：社会調査の概要について理解する **思考・判断の観点**：仮説の検証の方法の有効性を考える **関心・意欲の観点**：社会現象を切り取る方法に関心を持つ **技能・表現の観点**：社会調査の実践の技術を身につける

●**授業の計画（全体）** 仮説を設定し、それにふさわしい社会調査の方法を決定し、調査の対象を設定し、社会調査を実践する。調査結果の利用を考えながら、調査結果の集計、整理を行う

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 社会調査の設計 1 内容 問題の決定と調査方法の検討
- 第 2 回 項目 社会調査の対象 内容 具体的な調査対象の決定
- 第 3 回 項目 社会調査の方法 の 1 内容 先行研究を検討
- 第 4 回 項目 社会調査の方法 2 内容 先行研究の検討 から仮説を設定 し調査方法を確定する
- 第 5 回 項目 社会調査の計画 1 内容 調査票の検討
- 第 6 回 項目 社会調査の計画 2 内容 調査票の検討
- 第 7 回 項目 社会調査の計画 3 内容 調査票の作成
- 第 8 回 項目 社会調査の計画 4 内容 調査対象のサンプリング
- 第 9 回 項目 社会調査の実施 1 内容 フィールド調査 の計画
- 第 10 回 項目 社会調査の実施 2 内容 フィールド調査 の実施
- 第 11 回 項目 社会調査の実施 3 内容 フィールド調査 の実施
- 第 12 回 項目 社会調査の実施 4 内容 フィールド調査 の総括
- 第 13 回 項目 調査結果の集約 1 内容 データ処理の方法を学ぶ
- 第 14 回 項目 調査結果の集約 2 内容 データ処理
- 第 15 回 項目 調査結果の集約 3 内容 調査結果のまとめ

●**成績評価方法（総合）** 出席と、社会調査実習への参加、調査結果のとりまとめを総合的に評価する

●**教科書・参考書** 参考書：大谷信介ほか編『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房 1999 年

●**メッセージ** 出席と実習への参加を義務とする

開設科目	社会学調査実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	横田尚俊				

●**授業の概要** 具体的なテーマを設定し、社会調査の方法にしたがって、調査を実施する。調査テーマの設定、テーマにかかわる資料収集と事前学習、調査手法の検討、調査票の設計、ラポール、調査によるデータの収集と整理・分析、調査報告書の執筆、という一連のプロセスを、実習形式で修得していく。なお、本年度は、「環境問題と地域社会」をテーマに、主として、河川環境整備や資源リサイクルに取り組んでいる市民活動グループを対象に、聞き取り調査を実施する予定である。／**検索キーワード** 社会調査、統計調査、事例調査、聞き取り調査、調査票、単純集計、クロス集計

●**授業の一般目標** 社会調査の方法を学習し、受講生自身が、グループで協力しあいながら、社会調査を企画・実践できるようにする。

●**授業の計画（全体）** 社会調査の一連の過程を実践する。受講生各自で分担して調査データを分析し、調査報告書の形にまとめる。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 インTRODakション（授業の進め方についての説明）
- 第 2 回 項目 調査テーマの設定と確認／調査スケジュールの検討
- 第 3 回 項目 調査テーマに関する資料収集、事前学習
- 第 4 回 項目 調査テーマに関する資料収集、調査方法の検討
- 第 5 回 項目 調査項目の抽出
- 第 6 回 項目 調査票の設計
- 第 7 回 項目 調査票の設計と再検討
- 第 8 回 項目 調査スケジュールの検討及びラポール
- 第 9 回 項目 調査によるデータ収集
- 第 10 回 項目 調査によるデータ収集
- 第 11 回 項目 調査によるデータ収集
- 第 12 回 項目 調査データの処理・整理
- 第 13 回 項目 調査データの処理・整理
- 第 14 回 項目 調査データの分析／報告書目次（案）と執筆分担の決定
- 第 15 回 項目 調査データの分析／報告書の執筆

●**成績評価方法（総合）** 授業への参加度（調査のプロセス・作業への参加） 70 % 調査レポート 30 %

●**教科書・参考書** 教科書：テキストは特に使用しない。／参考書：社会学小辞典，浜嶋朗ほか，有斐閣，1997 年；社会調査へのアプローチ，大谷信介ほか，ミネルヴァ書房，1999 年；ガイドブック 社会調査，森岡清志，日本評論社，1998 年；その他の参考文献は、授業の中で適宜紹介する。

●**メッセージ** 調査実施期間中は、正規の授業時間以外にもある程度の時間を費やさなければならない。受講生には、あらかじめこの点を了解してほしい。

●**連絡先・オフィスアワー** メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟 3 階 307 室



開設科目	社会心理学概論 I	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高橋征仁				

●**授業の概要** 社会心理学は、社会学や心理学のみならず、人類学、政治学等々の学問からなる非常に学際的な研究領域である。この講義では、「ケータイ」という日常的な題材を取り上げながら、これまでの社会心理学研究における基本的問題や知見について紹介していく。／**検索キーワード** 社会心理学 コミュニケーション ケータイ

●**授業の一般目標** 1) 社会心理学の基礎概念について学ぶ 2) 社会心理学の学説史を学ぶ 3) 社会心理学の多様なアプローチについて学ぶ 4) 現代社会の諸問題と社会心理学のかかわりを考える

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 社会心理学入門
- 第 2 回 項目 社会心理学の誕生
- 第 3 回 項目 社会心理学の課題
- 第 4 回 項目 ケータイから学ぶということ
- 第 5 回 項目 メディア変容へのアプローチ
- 第 6 回 項目 都市空間とケータイ
- 第 7 回 項目 ケータイ・コミュニケーションの特性
- 第 8 回 項目 中間考察
- 第 9 回 項目 ケータイに映る「わたし」
- 第 10 回 項目 ケータイ利用から見えるジェンダー
- 第 11 回 項目 ケータイの流行学
- 第 12 回 項目 ケータイとうわさ
- 第 13 回 項目 モバイル社会のゆくえ
- 第 14 回 項目 青少年とケータイ
- 第 15 回 項目 まとめ

●**教科書・参考書** 教科書：ケータイ学入門, 岡田朋之・松田美佐編, 有斐閣, 2002 年

開設科目	社会心理学概論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	辻 正二				

●**授業の概要** 社会心理学においては、社会調査はきわめて重要な意味を持っている。本講義では、社会調査に必要な理論と技法について学ぶ。／**検索キーワード** 調査設計、仮説構成、質問文、標本調査、調査技法

●**授業の一般目標** (1) 社会心理学に必要な社会調査の方法についての知識、技法について学ぶ。(2) 視聴率や政党支持率などがいずれも現在では社会調査の理論を使ってなされていることを学ぶ。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** 社会心理学と調査 **内容** 講義の目的・内容・テキストについて
- 第 2 回 **項目** 社会心理学と調査 **内容** 講義の目的・内容・テキストについて
- 第 3 回 **項目** 社会調査概説 **内容** 社会調査が抱える諸問題（世論操作、調査公害、人権・プライバシー）
- 第 4 回 **項目** 何のための社会調査か **内容** 何を調べるか（社会学的想像力の必要性、情報資源を如何に拾い出すか）
- 第 5 回 **項目** 社会調査の基本 **内容** 社会調査の基本ルール、記述することと説明すること
- 第 6 回 **項目** 社会調査と仮説構成 **内容** 調査にとって概念とは、変数、仮説構成
- 第 7 回 **項目** 調査票の作り方（1） **内容** 調査の種類によって異なる調査票、
- 第 8 回 **項目** 調査票の作り方（2） **内容** 質問文をつくる選択肢の作り方
- 第 9 回 **項目** ギャラップの勝利と標本調査の確立 **内容** サンプリングの歴史とサンプリング理論
- 第 10 回 **項目** 標本調査と標本誤差・正規分布
- 第 11 回 **項目** サンプリングの方法 **内容** サンプリングの種類、無作為抽出
- 第 12 回 **項目** 社会調査技法の種類とその利点 **内容** 郵送調査法、面接調査法、電話調査、
- 第 13 回 **項目** 調査データの集計 **内容** コーディングと入力
- 第 14 回 **項目** 調査結果の分析 **内容** 統計的検定
- 第 15 回 **項目** 講義のまとめ

●**教科書・参考書** 教科書：大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋・永野武編『社会調査へのアプローチ』（ミネルヴァ書房）1999年

●**連絡先・オフィスアワー** 人文学部辻研究室（309室）

開設科目	コミュニケーション論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	高橋征仁				

●**授業の概要** コミュニケーションが問われる場合、「情報の共有」や「情緒的結合」が理念的前提とされていることが少なくない。しかし、こうした前提は、必ずしも現実的ではないし、諸々のコミュニケーション現象を説明する上で、困難に直面してしまうことになる。授業では、これらの観点から古典的コミュニケーション論の限界と、新しいコミュニケーション論の出発点について、検討を進めていく。／**検索キーワード** コミュニケーション、メディア、公共圏

●**授業の一般目標** 1. 古典的コミュニケーションモデルの限界を認識する 2. メディアの基本機能と新しいコミュニケーション論の基礎を検討する 3. 公共圏や民主主義、社会システムなどについて、新たな議論を展開するための基礎をつくる 4. パワーポイントを用いたプレゼンテーションやメーリングリストによる討論の方法を学ぶ

●**授業の計画（全体）** テキストを用いながら、N. ルーマンやJ. ハーバーマスの新しいコミュニケーション論について学ぶ。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 **項目** 授業ガイダンス **内容** 授業方法の解説 コミュニケーションをめぐるロマン主義的誤謬 **授業外指示** メーリングリストの登録
- 第2回 **項目** メディアの役割 **内容** 機械論的コミュニケーション論の限界 **授業外指示** メーリングリストによる課題提出
- 第3回 **項目** メディアとしての貨幣 **内容** 第1章1, 2, 3 **授業外指示** パワーポイント 資料作成
- 第4回 **項目** 現代社会におけるリスク **内容** 第1章4, 5 **授業外指示** パワーポイント 資料作成
- 第5回 **項目** パーソナル・メディア **内容** 第2章1, 2, 3 **授業外指示** パワーポイント 資料作成
- 第6回 **項目** マス・メディアと電子メディア **内容** 第2章4, 5 **授業外指示** パワーポイント 資料作成
- 第7回 **項目** 第1中間考察 **内容** ここまでの疑問点、問題点をめぐる質疑応答
- 第8回 **項目** 相互行為と間主観性 **内容** 第3章1, 2 **授業外指示** パワーポイント 資料作成
- 第9回 **項目** コミュニケーションと合意 **内容** 第3章3, 4, 5 **授業外指示** パワーポイント 資料作成
- 第10回 **項目** 真理・規範・権力・影響力 **内容** 第3章6, 7, 8 **授業外指示** パワーポイント 資料作成
- 第11回 **項目** 第2中間考察 **内容** ここまでの疑問点、問題点をめぐる質疑応答 **授業外指示** パワーポイント 資料作成
- 第12回 **項目** 強制的権力と生成的権力 **内容** 第4章1, 2 **授業外指示** パワーポイント 資料作成
- 第13回 **項目** 「公共圏」の変容 **内容** 第4章3, 4 **授業外指示** パワーポイント 資料作成
- 第14回 **項目** 社会的コミュニケーションの構造 **内容** 第5章1, 2 **授業外指示** パワーポイント 資料作成
- 第15回 **項目** 原初的コミュニケーションによる自己組織化 **内容** 第5章3, 4, 5 **授業外指示** パワーポイント 資料作成

●**教科書・参考書** 教科書：コミュニケーション・メディア, 正村俊之, 世界思想社, 2001年

開設科目	現代社会意識論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	辻 正二				

●**授業の概要** 現代の日本社会は大きな変革期にかかっているが、そのために犯罪や自殺などの逸脱行動が多様化し深刻化もしている。こうした逸脱行動は、社会病理現象ともたらずが、この講義では社会病理や逸脱行動が何故生じるのか、逸脱行動の理論を通して学ぶ。／**検索キーワード** 逸脱行動、アノミー論、ラベリング論、サブカルチャー論、機会構造、状況規定

●**授業の一般目標** 1) 逸脱行動や社会病理の学説・理論について理解する。 2) それを生かして現実起こっている現象を如何に説明するかを学ぶ 3) こうしたさまざまな逸脱行動が生じないようにするにはどのようなことが必要かを学ぶ

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** 講義のねらい **内容** 今回の授業の狙いと全体の流れを説明する
- 第 2 回 **項目** 現代の社会問題 **内容** 現在の社会問題、理論と実証論
- 第 3 回 **項目** 社会病理学の考え方 **内容** 社会病理現象を説明する理論の種類と歴史
- 第 4 回 **項目** デュルケームの自殺論と病理的視点 **内容** デュルケームの『自殺論』と彼の問題意識
- 第 5 回 **項目** マートンのアノミー論
- 第 6 回 **項目** マートン後のアノミー論
- 第 7 回 **項目** シカゴ学派の逸脱論 **内容** シカゴの都市研究と社会病理学（パーク、トーマスなど）
- 第 8 回 **項目** 分化接触論とサブカルチャー論
- 第 9 回 **項目** サブカルチャー論と非行
- 第 10 回 **項目** 社会的相互作用と社会的反作用論
- 第 11 回 **項目** ベッカーのラベリング論
- 第 12 回 **項目** ベッカー後のラベリング論
- 第 13 回 **項目** キツセの社会問題論
- 第 14 回 **項目** 構築主義の逸脱論の現在
- 第 15 回 **項目** まとめ **内容** 講義の全体的なまとめ

●**教科書・参考書** 参考書：高原正興『社会病理学と少年非行』法政出版 デュルケーム『自殺論』中公文庫 マートン『社会理論と社会構造』みすず書房 ベッカー『アウトサイダーズ』新泉社 サザーランド『犯罪の原因 I・II』有信堂

●**メッセージ** 参考書は最低 1 冊は、該当箇所を読んでおくこと。

●**連絡先・オフィスアワー** 辻研究室（309 室）

開設科目	現代社会意識論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	辻 正二				

●**授業の概要** 高齢化社会が抱える問題について考える／**検索キーワード** 高齢化、少子化、生涯現役、エイジング、ライフサイクル、ラベリング

●**授業の一般目標** (1) 高齢化がもたらす意味とその社会心理学的諸問題についての知識を身につける。(2) 高齢化社会の問題への対応を考え、それへの適切なあり方を考える態度を学ぶ。(3) 生涯現役に向けての諸方策を捉え、あるべき方向性を考える。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** 講義の狙い **内容** 高齢化社会とは何か、今期の授業の狙いを概説する
- 第 2 回 **項目** 高齢化社会とは何か **内容** しのび寄る超高齢化社会、高齢化社会の課題
- 第 3 回 **項目** 高齢者の自我
- 第 4 回 **項目** 高齢者の社会化
- 第 5 回 **項目** 高齢者文化と時間
- 第 6 回 **項目** 高齢者の人間関係
- 第 7 回 **項目** 高齢者の社会参加
- 第 8 回 **項目** 高齢者のグループ活動 **内容** 日本と世界の老人クラブ、これからの老人クラブのあり方
- 第 9 回 **項目** 高齢者の生活意識
- 第 10 回 **項目** 高齢者の生きがい論
- 第 11 回 **項目** 高齢者と死の問題
- 第 12 回 **項目** 老人差別と高齢者ラベリング
- 第 13 回 **項目** 介護意識と福祉意識
- 第 14 回 **項目** 生涯現役社会づくりについて
- 第 15 回 **項目** 全体のまとめ

●**教科書・参考書** 教科書：辻正二・船津衛編『エイジングの社会心理学』北樹出版 2003年／参考書：辻正二『高齢者ラベリングの社会学』恒星社厚生閣 2000年 総務庁編『高齢社会白書』平成15年版

●**メッセージ** 授業は、テキストと資料を使って進行します。講義の前にテキストは必ず読んでおいてください。

●**連絡先・オフィスアワー** 辻研究室（309室）

開設科目	現代社会意識論	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	清水 新二				

●**授業の概要** 現代は嗜癖的 (addictive) な時代と言われる。その実態と背景について学び、かつこれらの問題をどう考え対処していったらいいのかを考える。またこれらの問題を家族問題の視点から捉え直し、家族サポートの問題についても学ぶ。／**検索キーワード** アディクション、アルコール関連問題、自殺、社会的対応

●**授業の一般目標** 1) 現実の具体的問題に即して社会病理学の中でも、臨床社会学と言われる昨今注目を集めている分野の最新知識を習得する。 2) 臨床的な事柄を社会学的にどう取り扱い得るかを学ぶ過程で、具体的経験を一般的な知へと展開する仕方について学ぶ。 3) 実践例を提示したり問題解決志向性を強調することで、応用科学への関心を高め、そのセンスを磨く。

●**授業の計画 (全体)** 授業目標に照らして、できるだけ具体的データを示しつつ、前者のテーマでは主にアルコール・薬物問題を、後者に関しては自殺問題を取り上げる。

●**成績評価方法 (総合)** 集中講義のため、小論文的テストによって評価する。その際、できるだけ個人的、具体的な体験を一般的な経験、知識としてどれだけ整理できているかを特に注目する。

●**教科書・参考書** 教科書：教科書：特になし／参考書：畠中宗一・清水新二・広瀬卓爾編、社会病理学講座4：臨床社会学、ミネルヴァ書房。清水新二、共依存とアディクションー心理・家族・社会一、培風館。清水新二、アルコール関連問題の社会病理学的研究ー文化、臨床、政策一、ミネルヴァ書房。清水新二、アルコール依存症と家族、培風館。清水新二、酒飲みの社会学、新潮OH文庫。シェフ、嗜癖する社会、誠信書房。C. ベプコ、フェミニズムとアディクションー共依存セラピーを見直すー、日本評論社 A.W. G. ゴーラー、死と悲しみの社会学、ヨルダン社。高橋規子・吉川悟、ナラティブ・セラピー入門、金剛出版。浅野智彦、自己への物語論的接近ー家族療法から社会学へー、頸草書房。桜井厚・好井裕明、フィールドワークの経験、せりか書房。好井裕明・山田富秋編、実践のフィールドワーク、せりか書房。

●**備考** 集中授業

開設科目	社会心理学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	辻 正二				

- 授業の概要** 3年生と4年生を対象にした演習形態の授業です。授業では、逸脱行動論の代表的な文献の幾つかを外書購読や訳書の購読から、それらの理論の特徴と問題点を洗い出し、現在の逸脱行動のなかで捉えることを学びます。／**検索キーワード** マートン、アノミー、ラベリング、構築主義
- 授業の一般目標** (1) レポートの課題を通して専門的な知識を学ぶとともに解釈の仕方やプレゼンテーションの方法について学ぶ。(2) 専門的な知識を深めるとともに議論に参加し、自分の見解を述べる姿勢を身につける。

開設科目	社会心理学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官					

- 授業の概要** 3年生と4年生を対象にした演習形態の授業です。授業では、高齢化社会の進行のなかで地域社会がどのような課題を抱えているか考えます。／**検索キーワード** 高齢化、まちづくり、過疎、社会参加、老人クラブ
- 授業の一般目標** (1) レポートの課題を通して専門的な知識を学ぶとともに解釈の仕方やプレゼンテーションの方法について学ぶ。(2) 専門的な知識を深めるとともに議論に参加し、自分の見解を述べる姿勢を身につける。



開設科目	社会心理学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高橋征仁				

●**授業の概要** 現在、青少年犯罪の凶悪化や低年齢化がまことしやかに囁かれている。しかし、都合のいいように加工されたグラフやショッキングな映像の数々は、不安を売り物にするマスコミと予算獲得をねらう省庁との合作劇であることも少なくない。この授業では、歴史社会学的観点から、「不良少年」や「非行少年」というまなざしの誕生とその制度化について考察していく。／**検索キーワード** 不良少年、逸脱、教育社会学

●**授業の一般目標** 1. 「青年期」の歴史的背景について学ぶ 2. 逸脱をめぐる諸々のアプローチについて学ぶ 3. 歴史社会学の視座を学ぶ

●**授業の計画（全体）** 毎週4年生の卒論発表1名、3年生による教科書の報告2名（1章分）をもとに、全員で議論を進めていく。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 ガイダンス 内容 授業方法 年間予定 発表・報告方法 討論方法 等々
- 第2回 項目 ガイダンス 内容 辞書 文献検索 テキストの概要
- 第3回 項目 左傾学生 内容 第1章
- 第4回 項目 雄弁青年 内容 第2章
- 第5回 項目 書生風俗 内容 第3章
- 第6回 項目 女学生文化 内容 第4章
- 第7回 項目 1920年代の風紀・「不良」問題 内容 第5章
- 第8回 項目 盆踊り 内容 第6章
- 第9回 項目 男女交際 内容 第7章
- 第10回 項目 卒論構想発表会 1 内容 卒論構想発表
- 第11回 項目 高等女学校 内容 第8章
- 第12回 項目 ナチズムと海賊団 内容 第9章
- 第13回 項目 封印礼状 内容 第10章
- 第14回 項目 少年保護院の誕生 内容 第11章
- 第15回 項目 卒論構想発表会 2 内容 卒論構想発表

●**教科書・参考書** 教科書：不良・ヒーロー・左傾，稲垣恭子 竹内洋編著，人文書院，2002年

開設科目	社会心理学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高橋征仁				

●**授業の概要** 3年生は卒論の執筆準備のための先行研究レビューを行う。4年生は資料、データの処理、分析、執筆報告を行う。／**検索キーワード** 卒論

●**授業の一般目標** 卒業論文を作成するための基本的ノウハウを学ぶ

●**授業の計画（全体）** 毎週4年生1名、3年生2名の報告を行う。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 **項目** ガイダンス **内容** 授業計画、卒論執筆計画について
- 第2回 **項目** 先行研究および卒論経過報告 **内容** 発表と討議
- 第3回 **項目** 先行研究および卒論経過報告
- 第4回 **項目** 先行研究および卒論経過報告
- 第5回 **項目** 先行研究および卒論経過報告
- 第6回 **項目** 先行研究および卒論経過報告
- 第7回 **項目** 中間報告会
- 第8回 **項目** 先行研究および卒論経過報告
- 第9回 **項目** 先行研究および卒論経過報告
- 第10回 **項目** 先行研究および卒論経過報告
- 第11回 **項目** 先行研究および卒論経過報告
- 第12回 **項目** 先行研究および卒論経過報告
- 第13回 **項目** 先行研究および卒論経過報告
- 第14回 **項目** 先行研究および卒論経過報告
- 第15回 **項目** 最終報告会

開設科目	社会心理学調査実習	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	辻 正二				

●**授業の概要** 社会心理学調査とは何かを学び、調査の方法、問題意識と調査、調査票の作成、フィールドワークの経験を主たる狙いとする。／**検索キーワード** フィールドワーク、質的調査と量的調査、質問紙法、サンプリング、抽出法

●**授業の一般目標** (1) 社会調査のための基礎的な知識を身につけ、調査票の作成をおこなう。(2) 調査地との関係を形成して、実際にフィールドワークを経験する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** 授業の狙い **内容** 今回の調査実習 どのようなこと をするのか。グループ分けをする
- 第 2 回 **項目** 社会調査の基礎 (1) **内容** 社会調査の歴史、
- 第 3 回 **項目** 社会調査の基礎 (2)
- 第 4 回 **項目** 高齢者問題を調べる **内容** 高齢者問題とは何か、何を調べるか グループで話し合い問題意識を生み出す
- 第 5 回 **項目** 問題意識から仮説 構成へ
- 第 6 回 **項目** 調査票の作成 (1)
- 第 7 回 **項目** 調査票の作成 (2)
- 第 8 回 **項目** 調査地の選定
- 第 9 回 **項目** サンプリング
- 第 10 回 **項目** 調査の準備と調査地の概況調べ **内容** 山口県東和町が抱える地域問題や高齢者問題を調べる、地域社会の課題などを調べる。
- 第 11 回 **項目** 地域と高齢者問題
- 第 12 回 **項目** 調査の実施 1
- 第 13 回 **項目** 調査の実施 2
- 第 14 回 **項目** 調査の実施 3
- 第 15 回 **項目** 調査の実施 4

開設科目	社会心理学調査実習	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高橋征仁				

●**授業の概要** この授業においては、前期の授業において収集した調査データについて、学生自身が実際に、記述や分析、報告を行う。また、必要な場合には、補足調査も行ったうえで、報告書を作成する。／**検索キーワード** 時間意識 生活時間 ドキュメント分析

●**授業の一般目標** 1. 実際に調査を企画し、実施し、報告書を作成するまでのプロセスを体験することによって、自らが調査を実施していく能力を身につける。 2. 調査データの性質や意味を十分考慮し、公平かつ客観的に現象を記述する態度を身につける。 3. 社会心理学の理論と調査研究とを相互に往復する思考様式を身につける。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 実習スケジュールの確認 資料・インタビュー記録の整理
- 第 2 回 項目 調査データのカード化とコーディング
- 第 3 回 項目 調査データのカード化とコーディング
- 第 4 回 項目 事実と物語の検討
- 第 5 回 項目 事実と物語の検討
- 第 6 回 項目 時間意識の再構成（解釈と発見）
- 第 7 回 項目 中間報告会による問題提起
- 第 8 回 項目 補足調査の企画
- 第 9 回 項目 補足調査の実施
- 第 10 回 項目 補足調査の実施
- 第 11 回 項目 補足調査データのまとめ
- 第 12 回 項目 解釈・知見の修正
- 第 13 回 項目 各人の担当箇所についての報告書作成
- 第 14 回 項目 報告書の各班ごとの担当部分の編集、完成
- 第 15 回 項目 報告書編集全体調整

●**教科書・参考書** 教科書：社会調査へのアプローチ, 大谷信介ほか編著, ミネルヴァ書房, 1999 年／参考書：実践フィールドワーク入門, 佐藤郁哉, 有斐閣, 2002 年

開設科目	社会調査データ解析法	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高橋征仁				

●**授業の概要** 社会調査におけるデータは、はじめから「客観性」を保証されているわけではない。調査項目やサンプリングの方法、質問文の表現や回答法、データの分析技法やその解釈等々によって、巨大な「ウソ」が作られることは、決して珍しいことではない。日本社会においては、予算や補助金獲得のために、または問題隠蔽や責任回避のために、あるいはイデオロギーの補強のために、連日のように「ウソ」が量産されているのが実情である。授業では、そうしたデータの産出を批判的に吟味するとともに、調査データに関する基本的な取り扱い方法について学ぶ。／**検索キーワード** 測定水準 クロス集計 相関係数

●**授業の一般目標** 1. 官庁統計や簡単な調査報告書・フィールドワーク論文が読めるための基礎的知識を習得する。 2. 度数分布やクロス集計、相関係数などについて、それらの計算や図表作成を実際に行う技能を身につける。 3. 調査データに対する、社会学者としての倫理観、責任感を養う。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 社会調査におけるデータの多様性
- 第 3 回 項目 理論命題と操作 仮説、測定水準
- 第 4 回 項目 度数分布表の作成と代表値
- 第 5 回 項目 クロス集計表とカイ二乗検定 1
- 第 6 回 項目 クロス集計表とカイ二乗検定 2
- 第 7 回 項目 疑似相関と交互作用
- 第 8 回 項目 小テストと復習
- 第 9 回 項目 統計的推測と仮説検定
- 第 10 回 項目 平均の差の検定
- 第 11 回 項目 相関係数
- 第 12 回 項目 回帰分析の基礎
- 第 13 回 項目 多変量解析の考え方 1 内容 重回帰分析
- 第 14 回 項目 多変量解析の考え方 2 内容 因子分析
- 第 15 回 項目 まとめと復習

●**教科書・参考書** 教科書：社会調査へのアプローチ，大谷信介ほか編著，ミネルヴァ書房，1999 年／参考書：社会統計学，ボンシュテット&ノーキ，ハーベスト社，1990 年

開設科目	質的調査データ解析法	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	横田尚俊				

●**授業の概要** 社会調査のうち、質的調査 (qualitative survey) によるデータ収集・解析の手法について、基本的な知識を学ぶ。質的調査の方法的特徴、データ収集の技法、調査方法としてのメリットと留意点、データから知見を導き出す手法 (分析方法)、などについて、優れた先行研究の事例を参照しながら、学習していく。／**検索キーワード** 社会調査、質的調査、事例調査、生活史記録、聞き取り調査、参与観察法、ドキュメント分析

●**授業の一般目標** 社会調査における質的調査の特徴やデータ解析の方法について、基本的な知識を身につける。

●**授業の計画 (全体)** 質的調査の特徴、技法を概観していく。

●**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨンー授業の目的・内容と進め方についてー
- 第 2 回 項目 1 質的調査とは何か
- 第 3 回 項目 2 質的データの収集法
- 第 4 回 項目 3 質的調査のメリットと留意点
- 第 5 回 項目 4 聞き取り調査の方法 (1)
- 第 6 回 項目 4 聞き取り調査の方法 (2)ー災害調査の事例からー
- 第 7 回 項目 4 聞き取り調査の方法 (3)ー生活史データの収集と分析ー
- 第 8 回 項目 4 聞き取り調査の方法 (3) (続き)
- 第 9 回 項目 5 聞き取り調査の方法 (3) (続き)
- 第 10 回 項目 6 参与観察の方法
- 第 11 回 項目 6 参与観察の方法 (続き)
- 第 12 回 項目 7 ドキュメント分析の方法
- 第 13 回 項目 7 ドキュメント分析の方法 (続き)
- 第 14 回 項目 8 聞き取り調査の実践ー簡単な模擬調査と収集データの吟味ー
- 第 15 回 項目 試験

●**成績評価方法 (総合)** 授業への参加度、小テスト・小レポート 50 % 定期試験 50 %

●**教科書・参考書** 教科書：社会調査へのアプローチ, 大谷信介ほか, ミネルヴァ書房, 1999 年 / 参考書：生活記録の社会学, ケン・プラマー, 光生館, 1991 年 ; ライフ・ヒストリーを学ぶ人のために, 谷富夫, 世界思想社, 1996 年 ; その他の参考文献は、授業の中で適宜紹介する。

●**連絡先・オフィスアワー** メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟 3 階 307 室

開設科目	比較社会文化論 I	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山本真弓				

●**授業の概要** ことばは単にコミュニケーションの手段ではなく、個人のアイデンティティーや、文学などを通じた言語共同体の文化そのものを形成している。このようなことばの多面的な側面を、世界のさまざまなことばを通じて紹介し、ことばと人間とのかかわり、ことばと社会とのかかわり、ことばの政治性などについて明らかにしていく。ここでは、ことばの言語学的側面ではなく、社会的 政治的側面に焦点を置いた講義を行なう。／**検索キーワード** ひとつの言語、言語の呼称、言語共同体、国家語、母語、母国語

●**授業の一般目標** 日本社会に生きていくと、ことばについてさまざまな誤解や幻想を抱いている。それは、日本社会がいわゆる単一言語社会と形容されるような言語状況にあることと無関係ではない。したがって、ここでは多言語社会と形容されるさまざまな地域の事例を通じて、ことばをめぐる人間の能力の可能性を認識することを目標とする。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：言語は社会や政治と切り離されて存在しているものではないことを、論理的に理解する。**思考・判断の観点**：ヨーロッパ近代言語学の成立の背景を踏まえて、言語とはなにか？について、自らの視点で考える **関心・意欲の観点**：自らの問題として考えつつも、身の回りの事象のみにとらわれず、積極的に異なる言語状況にある社会を知ろうとする **態度の観点**：出席と質問（授業の最後に質問票を配布する）

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 言語の呼称
- 第 2 回 項目 言語的近代の成立と日本
- 第 3 回 項目 ことばが<通じる><通じない>とはどういうことか？
- 第 4 回 項目 ことばが<できる><できない>とはどういうことか？
- 第 5 回 項目 「母語」「ネイティブ」という概念について
- 第 6 回 項目 近代言語学が言語とみなしてこなかった言語
- 第 7 回 項目 「学んだ言語」を「自分の言語」にすること
- 第 8 回 項目 ことばの乱れとことばの変化はどうちがうのか？
- 第 9 回 項目 <翻訳する>とはどういうことか？
- 第 10 回 項目 言語は土地に根ざすのか？それともヒトに根ざすのか？
- 第 11 回 項目 南アジアの多言語状況と言語的近代の受容過程 (1)
- 第 12 回 項目 南アジアの多言語状況と言語的近代の受容過程 (2)
- 第 13 回 項目 ロシア語を話すユダヤ人は、ロシア人か？ユダヤ人か？
- 第 14 回 項目 ヨーロッパの多言語状況の動向
- 第 15 回 項目 予備

●**成績評価方法（総合）** 出席および授業内レポートと定期試験を総合して評価する。

開設科目	比較社会文化論 II	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	湯川洋司				

●**授業の概要** 民俗学者の宮本常一著『忘れられた日本人』を素材とし、こうれに他の民俗事例を加えて、日本の地域社会・文化の多様性を見る。そして現在の日本の姿との対比をする。／**検索キーワード** 民俗 比較 社会 文化

●**授業の一般目標** 1.『忘れられた日本人』の記述（当時の）に見られる日本の地域社会・文化の対比・比較をする。 2.『忘れられた日本人』に記述された社会・文化と現代の社会のありようとの対比・比較をする。 3. 上記1. 2. を通じて、現代の日本の社会・文化の姿を再考する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1. 比較することの役割と意義を理解する。 **思考・判断の観点**： 1. 現代の日本社会・文化を新しい視点から捉え直す。 **関心・意欲の観点**： 1. 事前にテキストの該当部分をよく読んでくる。 **態度の観点**： 1. 授業によく出席し、毎回、授業後のコメントを提出する。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

第 1 回 **項目** 宮本常一と『忘れられた日本人』について

第 2 回 **項目** 「対馬にて」を読む **内容** 寄あいを中心に読み、解説をする **授業外指示** 該当箇所を読んでくる。

第 3 回 **項目** 「村の寄あい」を読む（1） **内容** 「村の寄あい」を読み、内容の解説をする。 **授業外指示** 該当箇所を読んでくる。

第 4 回 **項目** 「村の寄あい」を読む（2） **内容** 引き続き、「村の寄あい」を読み、内容の解説をする。 **授業外指示** 該当箇所を読んでくる。

第 5 回 **項目** 「名倉談義」を読む **内容** 「名倉談義」を読み、解説をする。 **授業外指示** 該当箇所を読んでくる。

第 6 回 **項目** 「子供をさがす」を読む。 **内容** 「子供をさがす」を読み、解説をする。 **授業外指示** 該当箇所を読んでくる。

第 7 回 **項目** 中間まとめ **内容** 2回から6回までに読んだ内容のうち、日本の地域社会の多様性を示しているいくつかの特徴点を整理して、その意味を解説する。 **授業外指示** 該当箇所を読んでくる。

第 8 回 **項目** 「女の世間」を読む。 **内容** 「女の世間」を読み、解説する。 **授業外指示** 該当箇所を読んでくる。

第 9 回 **項目** 「土佐源氏」を読む。 **内容** 「土佐源氏」を読み、解説をする。 **授業外指示** 該当箇所を読んでくる。

第 10 回 **項目** 「梶田富五郎翁」を読む。 **内容** 「梶田富五郎翁」を読み、解説をする。 **授業外指示** 該当箇所を読んでくる。

第 11 回 **項目** 「私の祖父」を読む。 **内容** 「私の祖父」を読み、解説をする。 **授業外指示** 該当箇所を読んでくる。

第 12 回 **項目** 「世間師（一）」を読む。 **内容** 「世間師（一）」を読み、解説をする。 **授業外指示** 該当箇所を読んでくる。

第 13 回 **項目** 「世間師（二）」を読む。 **内容** 「世間師（二）」を読み、解説をする。 **授業外指示** 該当箇所を読んでくる。

第 14 回 **項目** 「文字を持つ伝承者」を読む。 **内容** 「文字を持つ伝承者」を読み、解説をする。 **授業外指示** 該当箇所を読んでくる。

第 15 回 **項目** まとめ **内容** 8回以後の箇所から読み取れる、日本の地域社会の多様性を示すいくつかの特徴点を整理して、その意味を解説するとともに、それらに基づき、現代社会との対比比較を行い、現在の日本社会・文化を考え直す。

●**教科書・参考書** 教科書：宮本常一『忘れられた日本人』岩波文庫／参考書：授業中に随時紹介します。



- メッセージ** 宮本常一は、山口県大島郡東和町出身。今年は地元宮本常一記念館がオープンします。テキストには山口の話題もたくさん盛り込まれています。山口を知ることできます。
- 連絡先・オフィスアワー** yukawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部棟 2階 210号室 オフィスアワー：原則、毎日の昼休み。その他、いつでも随時訪ねください

開設科目	アジア比較社会論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山本真弓				

●**授業の概要** 牛糞を燃やし、多数の貧困層を擁しつつ、核兵器を持ち、最先端のコンピュータ・ソフト産業が急成長する大国インドを、その戦略、指導者たちの動向・思考を通して、政治、経済、軍事、外交などの多方面から分析する。アメリカの世界戦略との関連が中心となる。

●**授業の一般目標** 日本人のあいだに根強くはびこっている偏見に満ちたインド像から離れ、従来のインド認識を覆し、アメリカの世界戦略とグローバリゼーションのなかで、現在進行形のインド社会を理解する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 インドの位置付け (1)
- 第 2 回 項目 インドの位置付け (2)
- 第 3 回 項目 インドの戦略エリートの世界観 (1)
- 第 4 回 項目 インドの戦略エリートの世界観 (2)
- 第 5 回 項目 「イエスと言えないインド」 (1)
- 第 6 回 項目 「イエスと言えないインド」 (2)
- 第 7 回 項目 インド国内では何がおきているか (1)
- 第 8 回 項目 インド国内では何がおきているか (2)
- 第 9 回 項目 インドとアメリカ (1)
- 第 10 回 項目 インドとアメリカ (2)
- 第 11 回 項目 台頭するインド (1)
- 第 12 回 項目 台頭するインド (2)
- 第 13 回 項目 9. 1 1 とインド (1)
- 第 14 回 項目 9. 1 1 とインド (2)
- 第 15 回 項目 予備

●**成績評価方法（総合）** 出席を兼ねて、毎回、授業の終わりの約 20～30 分を使って、小レポートを提出してもらう。これらの小レポートと試験を総合して評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：アメリカはなぜインドに注目するのか、スティーヴン・フィリップ・コーエン、明石書店、2003 年

開設科目	アジア比較社会論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	山本真弓				

●**授業の概要** いわゆるヨーロッパ近代国家とは異なる歴史を経つつも、政教分離で世界最大の民主主義国家を誇るインドの現在を、その指導者たちの動向・思考を通して読み解く。とりわけ、南アジア地域政治内におけるインドの位置付け、アジアの大国としてのインドという側面を中心に講義する。

●**授業の一般目標** 軍事大国としてのインド現代史を理解すること、および、アジアの国際政治における国家理念、政治文化が占める位置について、新しい視点をもつことを目標とする。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 インド・パキスタン分離独立とその背景 (1)
- 第 2 回 項目 インド・パキスタン分離独立とその背景 (2)
- 第 3 回 項目 軍事大国としてのインド (1)
- 第 4 回 項目 軍事大国としてのインド (2)
- 第 5 回 項目 核保有国としてのインド (1)
- 第 6 回 項目 核保有国としてのインド (2)
- 第 7 回 項目 インドとパキスタンはなぜ対立するのか (1)
- 第 8 回 項目 インドとパキスタンはなぜ対立するのか (2)
- 第 9 回 項目 アジアの大国としてのインド (1)
- 第 10 回 項目 アジアの大国としてのインド (2)
- 第 11 回 項目 インドから見たアメリカ (1)
- 第 12 回 項目 インドから見たアメリカ (2)
- 第 13 回 項目 世界のなかのインド (1)
- 第 14 回 項目 世界のなかのインド (2)
- 第 15 回 項目 予備

●**成績評価方法（総合）** 毎回、授業時間中に小レポートを課し、それらと期末試験を総合して評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：アメリカはなぜインドに注目するのか、スティーヴン・フィリップ・コーエン、明石書店

開設科目	現代民俗論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	湯川洋司				

●**授業の概要** 現代民俗論は、民俗を通じて現代社会のありようを考えることをめざしています。この授業では、民俗の1つとして祭を取り上げ、ビデオ等の映像を用いつつ、各地に伝えられている祭の様子を紹介するとともに、祭のもつ多様性や現代的意義を考えます。／**検索キーワード** 民俗 現代社会 祭

●**授業の一般目標** 1. さまざまに祭が存在し現在も伝承されていることを知る 2. 祭の意味や内容にも多様性があることを知り、その多様性の要因を考える。 3. 祭を伝えている社会の文化や歴史のありようを探り、祭の現代的意義を考える。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1. さまざまな祭を知る。 **思考・判断の観点**： 1. 祭の意義を考える。 **関心・意欲の観点**： 1. 授業によく出席し、毎回、授業後のコメントを提出する。 **態度の観点**： 1. 授業によく出席し、毎回、授業後のコメントを提出する。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** はじめに **内容** 授業の趣旨と授業 方法についての説明
- 第 2 回 **項目** 町の祭り (1)
- 第 3 回 **項目** 町の祭り (2)
- 第 4 回 **項目** 農村の祭り (1)
- 第 5 回 **項目** 農村の祭り (2)
- 第 6 回 **項目** 山の祭り (1)
- 第 7 回 **項目** 山の祭り (2)
- 第 8 回 **項目** 海の祭り (1)
- 第 9 回 **項目** 海の祭り (2)
- 第 10 回 **項目** 風変わった祭り (1)
- 第 11 回 **項目** 風変わった祭り (2)
- 第 12 回 **項目** 祭と現代 (1)
- 第 13 回 **項目** 祭と現代 (2)
- 第 14 回 **項目** まとめ
- 第 15 回 **項目** 試験

●**教科書・参考書** 教科書：用いない。／参考書：授業中に適宜紹介する。

●**連絡先・オフィスアワー** yukawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部棟 2 階 2 1 0 号室 オフィスアワー：原則、毎日の昼休み。その他、いつでも随時訪ねてください

開設科目	現代民俗論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	湯川洋司				

●**授業の概要** 現代民俗論は、民俗を通じて現代社会のありようを考えることをめざしています。この授業では、民俗の1つとして通過儀礼を取り上げ、ビデオ等の映像を用いつつ、各地に伝えられている通過儀礼の様子を紹介するとともに、通過儀礼がもつ現代的意義を考えます。／**検索キーワード** 民俗 現代社会 通過儀礼

●**授業の一般目標** 1. さまざまに通過儀礼が存在し現在も行われていることを知る 2. 通過儀礼の意味や内容をその儀礼が行われている時と場に即して理解する。 3. 通過儀礼が担ってきた役割と意味を確認して、その現代的意義を考える。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1. さまざまな通過儀礼を知る。 **思考・判断の観点**： 1. 通過儀礼の意義を考える。 **関心・意欲の観点**： 1. 授業によく出席し、毎回、授業後のコメントを提出する。 **態度の観点**： 1. 授業によく出席し、毎回、授業後のコメントを提出する。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** はじめに **内容** 授業の趣旨と授業 方法についての説明
- 第 2 回 **項目** 通過儀礼とは何か
- 第 3 回 **項目** 子供の儀礼（1）
- 第 4 回 **項目** 子供の儀礼（2）
- 第 5 回 **項目** 大人になるための 儀礼（1）
- 第 6 回 **項目** 大人になるための 儀礼（2）
- 第 7 回 **項目** 大人になるための 儀礼（3）
- 第 8 回 **項目** 大人になるための 儀礼（4）
- 第 9 回 **項目** 老いの儀礼（1）
- 第 10 回 **項目** 老いの儀礼（2）
- 第 11 回 **項目** 日本周辺地域の通 過儀礼（1）
- 第 12 回 **項目** 日本周辺地域の通 過儀礼（2）
- 第 13 回 **項目** 通過儀礼の変容あ るいは喪失（1）
- 第 14 回 **項目** 通過儀礼の変容あ るいは喪失（2）、まとめ
- 第 15 回 **項目** 試験

●**教科書・参考書** 教科書：用いない。／参考書：授業中に適宜紹介する。

●**連絡先・オフィスアワー** yukawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部棟 2 階 2 1 0 号室 オフィスアワー：原則、毎日の昼休み。その他、いつでも随時訪ねてください

開設科目	生活文化論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	坪郷英彦				

- 授業の概要** 人間の暮らしをものの視点から考察する。文化人類学の物質文化研究、民俗学の民具研究の諸成果を示し、さらに現代の視点からの検討を加えながら授業を進めていきます。／**検索キーワード** 文化人類学、物質文化、民具、暮らし、もの
- 授業の一般目標** 人間が作り出した様々なものを社会的、システムの、技術的に読み解く力を養う。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 基本的理論、用語の説明ができる。 **思考・判断の観点**： 日常を機能・システムの視点から読み解くことができる。 **関心・意欲の観点**： 消費社会の表層と本質的な部分を読み分けることができる。 **態度の観点**： 日常のもの・ことに新たな視点で接することができる。  
**技能・表現の観点**： 自分の考えを正確に論述できる。
- 授業の計画（全体）** スキルについて講義を行います。人類の発生における手の持つ意味、技能から技術への展開の意味を事例を示しながら考えていきます。最後に改めて現代におけるスキルの意味を考えます。
- 教科書・参考書** 教科書：教科書は使用しませんが、適宜必要な資料をコピーして配布します。／参考書：その都度紹介します。
- メッセージ** できるだけ視覚情報を使って理解を助けます。
- 連絡先・オフィスアワー** Email [hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp) 電話 5239 、研究室 213 オフィスアワー 木曜日 10：00～12：00

開設科目	生活文化論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	坪郷英彦				

- 授業の概要** 人間の暮らしをものの視点から考察する。文化人類学の物質文化研究、民俗学の民具研究の諸成果を示し、さらに現代の視点からの検討を加えながら授業を進めていきます。／**検索キーワード** 文化人類学、物質文化研究、民俗学、民具研究、暮らし、もの
- 授業の一般目標** 人間が作り出した様々なものを社会的、システムの、技術的に読み解く力を養う。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 基本的理論、用語の説明ができる。 **思考・判断の観点**： 日常を機能・システムの視点から読み解くことができる。 **関心・意欲の観点**： 消費社会の表層と本質的な部分を読み分けることができる。 **態度の観点**： 日常のもの・ことに新たな視点で接することができる。  
**技能・表現の観点**： 自分の考えを正確に論述できる。
- 授業の計画（全体）** 人間の手による産物として工芸があります。庶民の工芸に対する見方を民具論の立場と民芸論の立場から話していきます。最後に現代における民具・民芸の意味を考察していきます。
- 教科書・参考書** 教科書： 教科書は使用しませんが、適宜必要な資料をコピーして配布します。／ 参考書： その都度紹介します。
- メッセージ** 映像やスライドなど画像情報を用いてわかりやすく授業を行います。
- 連絡先・オフィスアワー** Email [hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp) 電話 5239、研究室 213、オフィスアワー 木曜日 10：00～12：00

開設科目	生活文化論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	面矢慎介				

●**授業の概要** 近代以降の工業化によって、生活環境を構成するもの（生活用品・生活機器）は大きく変容してきた。本講義では、近代以降に登場した家庭用生活機器・生活道具を中心に、それらの成立・発展・普及の経緯やデザインの変容について、経済的・社会的・文化的・技術的背景との関係から考察する。  
／**検索キーワード** 生活文化、デザイン、道具

●**授業の一般目標** 生活道具のデザインが恣意的な外形上の操作ではなく、産業社会における生産と生活の形態と深く結びついた活動であることを理解する。

●**授業の計画（全体）** 近代以降における欧米の道具について、そのデザインの変容の流れを概説した後、授業期間の後半では、いくつかの具体的製品の事例について個別的に論じる。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 講義の概要・テーマの説明
- 第 2 回 項目 デザイナーなしのデザインの時代 内容 19 世紀・欧米
- 第 3 回 項目 初期機能主義のデザイン 内容 1920-30 年代欧
- 第 4 回 項目 インダストリアルデザイナーの誕生 内容 1930 年代アメリカ
- 第 5 回 項目 企業をデザイン 内容 1940-50 年代アメリカ
- 第 6 回 項目 家事の機械化 内容 1900-1940 年代アメリカ
- 第 7 回 項目 台所の近代化 内容 19-20 世紀英米 独日
- 第 8 回 項目 事例研究 1 内容 イギリスの電気やかんと日本の魔法瓶
- 第 9 回 項目 事例研究 2 内容 真空掃除機 日・英
- 第 10 回 項目 事例研究 3 内容 イギリスと日本の風呂
- 第 11 回 項目 事例研究 4 内容 イギリスと日本の鍋
- 第 12 回 項目 ラジオのデザイン 内容 1920-40 年代 米・英・日
- 第 13 回 項目 プラスチックとデザイン 内容 19-20 世紀
- 第 14 回 項目 戦後日本のインダストリアルデザイン
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 レポート執筆・提出

●**成績評価方法（総合）** 第 1 回の授業でレポートのテーマを出題、各自で資料探しに入る。最終回の授業中にレポートを仕上げ提出する。出席を重視する。

●**教科書・参考書** 教科書：適宜、資料を配付する。／参考書：A. フォーティ「欲望のオブジェ」鹿島出版会 1992 ほか

●**備考** 集中授業



開設科目	文化人類学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	坪郷英彦				

●**授業の概要** 文化的ひとともの関係について考える内容です。消費社会の現代ではものが記号的に扱われていますが、本来は身体の延長として実体を伴っていました。この授業ではもの とひとの基本的関係を知るための方法を学び、基本的関係について考察していきます。／**検索キーワード** ひとともの 文化的ひと

●**授業の一般目標** 文化人類学の基本を理解すること。文化人類学的ひとの見方を把握すること。

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：近代以降の都市文化（アーバニズム）について説明できる。 **思考・判断の観点**：人々の日常の視点から対象を見据え、日常をみるための行動を起こすことができる。 **関心・意欲の観点**：人々の日常を客観的な目で観察し、記録し、分からない原理は文献によって考える。この連関を繰り返す姿勢が身に付く。 **態度の観点**：自らの考えを簡潔にまとめ、発表することができる。他の人との議論の中で自分の意見をまとめることができる。 **技能・表現の観点**：講読した内容を的確に要約し、人に伝えるための効果的なプレゼンテーションができる。自分の考えをまとめ人に伝えることができる。

●**授業の計画（全体）** J・ジェイコブス著「アメリカ大都市の死と生」を講読します。この本は都市を生き生きと活性化させているのは建物ではなく、街路だと指摘した本です。文化人類学的な参与観察の方法をもとに書かれており、都市をみる重要な視点を与えてくれます。授業は輪読の形で進め、書かれた内容を理解するとともに自らが都市の日常を分析する際の視点を持つように討論を進めていきます。

●**教科書・参考書** 教科書：「アメリカ大都市の死と生」 J・ジェイコブス著、黒川紀章訳 SD選書を使います。／参考書：適宜紹介します。また、関連資料を配付します。

●**メッセージ** 各自の発表はプレゼンテーションソフトを用い、コンピュータを使用して行います。

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239 研究室 213 オフィスアワー 木曜日 10:00～12:00

開設科目	文化人類学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	坪郷英彦				

- 授業の概要** 文化的ひとともの関係について考える内容です。消費社会の現代ではものが記号的に扱われていますが、本来は身体の延長として実体を伴っていました。この授業ではもの とひとの基本的関係を知るための方法を学び、基本的関係について考察していきます。／**検索キーワード** 文化人類学 文化的ひと ひとともの
- 授業の一般目標** 文化人類学の基本を理解すること。文化人類学的ひとの見方を把握すること。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：各自が設定したテーマについて基本的内容、用語の説明ができる。  
**思考・判断の観点**：各自が設定したテーマについて、自分の問題として理解し、次の行動を起こすことができる。  
**関心・意欲の観点**：自ら積極的に関連文献を探して読むことができる。  
**態度の観点**：自分の考えをまとめて発表できる。議論の中で自分の考えを組み立てていくことができる。  
**技能・表現の観点**：効果的な発表手法の基本を理解する。
- 授業の計画（全体）** 前半は未開社会の物質文化に関する英文テキストを取り上げ輪読していきます。後半は各自の卒論に関連する文献を読み発表し、テーマを絞っていく時間に充てます。
- 教科書・参考書** 教科書：英文文献はまとめるものを各自が選択します。コピーを作成し配布します。／参考書：発表英文に関連する文献、卒論に関連する文献は適宜アドバイスします。
- メッセージ** 卒論へ向けて自分の関心がまとまっていくことを期待します。プレゼンテーションはコンピュータを用いて行います。
- 連絡先・オフィスアワー** E-mail [hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp) 電話 5239 研究室 213 オフィスアワー 木曜日 10：00～12：00

開設科目	民俗学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	湯川洋司				

- 授業の概要** 民俗学の基本的テキストを受講者で読み合い、討論を行うことにより、民俗学の基本的概念や思考法について理解を深めるとともに、自らの研究課題の発見を模索する。／**検索キーワード** 民俗学演習
- 授業の一般目標** 1. 民俗学上の課題追究を行うことを通じて、民俗学的発想の質を知る。 2. 受講生との討論を通じて、相互に啓発しあう人間（友人）関係を築く。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 1. 民俗学の基本的概念を使って発表や討論ができる。 **関心・意欲の観点**： 1. 授業において積極的に発表を行う。 2. テキスト以外の文献を自主的に参照する。 **態度の観点**： 1. 他者の発表をよく聞く。 2. 他者の発表に対して積極的に発言をする。 **技能・表現の観点**： 1. 分かりやすいレジュメを用意する。 2. 構成や文章表現のしっかりしたレポートを作成する。
- 授業の計画（全体）** 1. 民俗学の基本を知ることのできる内容をもつテキストを受講者で読み合い、討論を行う。 2. 受講者間で当番を決めて、読み進むべきスケジュールを決める。 3. スケジュールに従って読み進め、関心のあるテーマに関するレポートを作成する。
- 成績評価方法（総合）** 1・出席をして、他の受講生の発表を聞いたり、自ら発表したりする態度や状況を重視する。 2. 発表当番の責任を十分に果たしたどうか。 3. 内容や表現のしっかりしたレポートを作成し提出できたか。
- 教科書・参考書** 教科書：新谷尚紀ほか編『暮らしの中の民俗学 1 日』吉川弘文館、2003年刊／参考書：授業中に適宜紹介する
- 連絡先・オフィスアワー** yukawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部棟2階210室 オフィスアワー：原則として昼休みには研究室にいるようにしますが、その他随時訪ねてください。

開設科目	民俗学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	湯川洋司				

- 授業の概要** 民俗学の基本的テキストを受講者で読み合い、討論を行うことにより、民俗学の基本的概念や思考法について理解を深めるとともに、自らの研究課題の発見を模索する。／**検索キーワード** 民俗学演習
- 授業の一般目標** 1. 民俗学上の課題追究を行うことを通じて、民俗学的発想の質を知る。 2. 受講生との討論を通じて、相互に啓発しあう人間（友人）関係を築く。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 1. 民俗学の基本的概念を使って発表や討論ができる。 **関心・意欲の観点**： 1. 授業において積極的に発表を行う。 2. テキスト以外の文献を自主的に参照する。 **態度の観点**： 1. 他者の発表をよく聞く。 2. 他者の発表に対して積極的に発言をする。 **技能・表現の観点**： 1. 分かりやすいレジュメを用意する。 2. 構成や文章表現のしっかりしたレポートを作成する。
- 授業の計画（全体）** 1. 民俗学の基本を知ることのできる内容をもつテキストを受講者で読み合い、討論を行う。 2. 受講者間で当番を決めて、読み進むべきスケジュールを決める。 3. スケジュールに従って読み進め、関心のあるテーマに関するレポートを作成する。
- 成績評価方法（総合）** 1・出席をして、他の受講生の発表を聞いたり、自ら発表したりする態度や状況を重視する。 2. 発表当番の責任を十分に果たしたどうか。 3. 内容や表現のしっかりしたレポートを作成し提出できたか。
- 教科書・参考書** 教科書： 新谷尚紀ほか編『暮らしの中の民俗学2 一年』吉川弘文館、2003年刊／参考書： 授業中に適宜紹介する
- 連絡先・オフィスアワー** yukawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部棟2階210室 オフィスアワー：原則として昼休みには研究室にいるようにしますが、その他随時訪ねてください。

開設科目	民俗学調査実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	坪郷英彦				

●**授業の概要** 民俗調査で得たデータを処理し報告文としてまとめる能力を養成します。聞き書き、スケッチ、写真撮影により収集されたデータをどのように処理すればよいか、チームによる調査で得られた多量のデータをどうまとめていくかについて、その方法を理解し実践します。最終的に報告文の形でまとめること、報告書作りのための編集を具体的にを行います。／**検索キーワード** 民俗 調査 実習 民俗学

●**授業の一般目標** 1, 文字情報、画像情報のデジタル化の方法を習得します。 2, 集められた多くのデータをグルーピング等によってまとめる方法を習得します。 3, 自分の考えをまとめ、文章・図表・画像等で表すことを行います。 4, 報告書としてまとめるための編集技術を習得します。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：デジタル化、データの集約、表現方法、編集技術に関する基本的方法を説明できる。報告書作りのための作業全体の手順、関連性を把握する。**思考・判断の観点**：多量のデータの内容を判断し体系的分類ができる。**関心・意欲の観点**：自らテーマを設定し、明らかになったことを報告文としてまとめる。全体をまとめることで一地域総体の民俗理解に寄与できる。**態度の観点**：表現し、まとめるために積極的な授業参加となる。**技能・表現の観点**：コンピュータによるデジタル処理ができる。個別的なデータをまとめテーマに沿った文章表現ができる。文章、図、表の表現手段を的確に選択し、表現ができる。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** 民俗調査実習の目標とスケジュールの説明 **内容** スケジュール表に沿った説明 **授業外指示** コンピュータ等 授業外学習のための機器の確認
- 第 2 回 **項目** フィールドデータの処理 **内容** 調査データのカード化とグルーピングの方法、エクセルへの入力及び検索方法を理解し作業を行う。 **授業外指示** 調査データのエクセル入力を各自が行う。
- 第 3 回 **項目** データ処理のためのコンピュータソフトの理解と相互の関連性の理解 **内容** テキスト・画像データを扱うソフトの操作を行う。 **授業外指示** 調査データのエクセル入力を各自が行う。
- 第 4 回 **項目** プレゼンテーション技法の理解 **内容** 経過発表に使うプレゼンテーションソフトの操作 **授業外指示** 調査データのエクセル入力を各自が行う。
- 第 5 回 **項目** 報告内容の企画 **内容** 個別データの集約化と、これを活用して各自の報告内容の企画を立てる
- 第 6 回 **項目** 報告テーマとその要旨の発表 (1) **内容** 個別に発表し、これに対する意見交換を行う。 **授業外指示** プレゼンテーションソフトを使った発表のための準備
- 第 7 回 **項目** 報告文テーマとその要旨の発表 (2) **内容** 個別に発表し、これに対する意見交換を行う。 **授業外指示** プレゼンテーションソフトを使った発表のための準備。
- 第 8 回 **項目** 報告文作成のための補足調査の実施 **内容** 報告文テーマとその要旨の発表で指摘された疑問点を解決するための現地調査を行う。 **授業外指示** 事前に各自の調査計画を立て、インフォマントへの事前確認を行う。
- 第 9 回 **項目** 補足調査データのまとめ **内容** 補足調査の結果報告と情報交換を行う。 **授業外指示** 調査データのエクセルへの追加入力を行う。
- 第 10 回 **項目** 報告文の要旨発表と全体との調整 (1) **内容** 報告文作成のための詳細な報告を行う。図表の内容検討を行う。 **授業外指示** プレゼンテーションソフトを使った発表のための準備。報告文の作成。
- 第 11 回 **項目** 報告文の要旨発表と全体との調整 (2) **内容** 報告文作成のための詳細な報告を行う。図表の内容検討を行う。 **授業外指示** プレゼンテーションソフトを使った発表のための準備。報告文の作成。

- 第12回 **項目** 報告書編集のためのフォーマット作成 **内容** 個別に編集ソフトへの入力を行うためのレイアウト等のフォーマットを作成する。 **授業外指示** 報告文の作成
- 第13回 **項目** 画像処理・編集・作図作表用のコンピュータソフトの理解と相互の関連性の理解 **内容** 画像・図表のデジタルデータを作成する。編集用ソフトへの画像・図表の入力を行う。 **授業外指示** 報告文の作成
- 第14回 **項目** 報告書個別編集 **内容** 各自の報告文を編集する。 **授業外指示** 各自の報告文を完成させる。
- 第15回 **項目** 報告書編集全体調整 **内容** 基本フォーマットを確認し、調整を行う。目次に沿って表題、ページ入力を行う。

●**教科書・参考書** 参考書：各自がまとめる報告分野にそって適宜指示する。

●**メッセージ** 授業ではコンピュータを多用します。各自のパソコンを持ってきてください。所持していない人はコースから借りることができます。ワード、エクセルなどに慣れておくことが望ましい。

●**連絡先・オフィスアワー** Email [hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp) 電話 5239 研究室 213 オフィスアワー 木曜日 10:00～12:00

開設科目	民俗調査実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	湯川洋司				
<p>●<b>授業の概要</b> 民俗調査を実施するための基礎的能力を養成します。調査を企画し、実施に向けた準備作業を経て、実際に調査を実施し、民俗調査の要領をのみこみます。その際、受講生全員の参加による集団的調査を行う中で、自らの役割を責任をもって担いつつ調査の全体像をつかむように努めます。／<b>検索キーワード</b> 民俗 調査 実習 民俗学</p> <p>●<b>授業の一般目標</b> 1. 民俗調査の実施に関する一連の手順を理解し、実行する。 2. フィールドワークを実施し、自前のデータを収集する。 3. 面接調査（聞き取り）を行い、話を通じて必要なデータを取得する経験をする。</p> <p>●<b>授業の到達目標</b>／<b>知識・理解の観点</b>： 1. 民俗調査の手順を理解する。 <b>思考・判断の観点</b>： 1. 民俗調査で得られるデータの質について考察する。 <b>関心・意欲の観点</b>： 1. 知りたいと思うテーマを明確に設定する。 2. テーマに接近するための方法をよく考え、準備する。 <b>態度の観点</b>： 1. 調査実施計画の立案に積極的に参加する。 2. 調査地における聞き取り調査に積極的に取り組む。 <b>技能・表現の観点</b>： 1. 聞きたいと知りたいことを明確に相手に伝えて理解を得る。 2. 調べたことを的確にまとめ、分かりやすく発表する。</p> <p>●<b>授業計画（授業単位）</b>／<b>内容・項目等</b>／<b>授業外学習の指示等</b></p> <p>第 1 回 <b>項目</b> 民俗調査実習のねらいのスケジュールの説明 <b>内容</b> 授業担当者による説明</p> <p>第 2 回 <b>項目</b> 調査対象地域の設定（1） <b>内容</b> 既刊の山口県内の民俗調査報告書を検討する。 <b>授業外指示</b> 民俗調査報告書を探しておく。</p> <p>第 3 回 <b>項目</b> 調査対象地域の設定（2） <b>内容</b> 既刊の山口県内の民俗調査報告書を検討し、対象地域を決定する。</p> <p>第 4 回 <b>項目</b> 受講生各自の調査テーマの企画（1） <b>内容</b> 既刊の報告書・論文等の学習を通じて考える。 <b>授業外指示</b> テーマの案を考えつつ参考文献を探してくる。（必要に応じて授業担当者に相談する）</p> <p>第 5 回 <b>項目</b> 受講生各自の調査テーマの企画（2） <b>内容</b> 既刊の報告書・論文等の学習を通じて考え、定める。 <b>授業外指示</b> テーマが決まらない場合は、第 6 回までに決定する。第 6 回の調査項目の作成に向けた原案を検討しておく。</p> <p>第 6 回 <b>項目</b> 調査項目の作成 <b>内容</b> 各自のテーマに応じた調査項目を作成する。 <b>授業外指示</b> 完成しない場合は、第 7 回までに完成させる。</p> <p>第 7 回 <b>項目</b> 質問文案・調査票の作成（1） <b>内容</b> 各自のテーマ・調査項目に即して必要になる質問文案・調査票を作成する。 <b>授業外指示</b> 進捗状況に応じて、第 8 回に完成するように作業を行なう。</p> <p>第 8 回 <b>項目</b> 質問文案・調査票の作成（2） <b>内容</b> 質問文案・調査票を全体で検討し、修正等を行い完成させる。 <b>授業外指示</b> 完成しない場合は、第 9 回までに完成させる。</p> <p>第 9 回 <b>項目</b> フィールドワークの方法を学ぶ（1） <b>内容</b> フィールドノート作成要領を説明する。</p> <p>第 10 回 <b>項目</b> フィールドワークの方法を学ぶ（2） <b>内容</b> 写真撮影法・地図の利用法・略測図の作成法などを説明する。</p> <p>第 11 回 <b>項目</b> フィールドワークの実施（1） <b>内容</b> 調査地へ出かけて調査を行なう。 <b>授業外指示</b> 調査データ整理を行なう。</p> <p>第 12 回 <b>項目</b> フィールドワークの実施（2） <b>内容</b> 調査地へ出かけて調査を行なう。 <b>授業外指示</b> 調査データ整理を行なう。</p> <p>第 13 回 <b>項目</b> フィールドワークの実施（3） <b>内容</b> 調査地へ出かけて調査を行なう。 <b>授業外指示</b> 調査データ整理を行なう。</p> <p>第 14 回 <b>項目</b> 報告案をまとめる。 <b>内容</b> 調査データ整理を行ない、報告案にまとめる。 <b>授業外指示</b> 調査データ整理を行ない、報告案にまとめる。</p>					

第15回 項目 調査報告会 内容 報告案を各自が発表する。

●成績評価方法(総合) 1. 調査のための準備に積極的に取り組んだか。 2. 各作業が確実に実行できたか。



開設科目	美術史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤川哲				

- 授業の概要** この講義では、「西欧美術史学」の歴史について講義します。日本の美術史学は、西欧美術史学から様々な問題意識を吸収してきました。グローバリゼーション時代に日本の大学で美術史を学ぶということについて受講生の皆さんとともに考えてみたいと思います。／**検索キーワード** 様式史、イコノロジー、芸術心理学、芸術社会学、フェミニズム、ポストコロニアリズム
- 授業の一般目標** 1. 西欧美術史学の知的遺産の基本部分を学ぶ。2. 西欧美術史学を相対化する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 西欧美術史学によって生み出された用語の意味が説明できる。  
**思考・判断の観点**： 西欧美術史学の有用性と問題について、独自の見解を述べることができる。 **関心・意欲の観点**： 西欧美術史学の影響下に、現在さまざまな国で展開されている「美術史学」と 西欧美術史学、という構図から、自ら一歩踏み出そうという知的意欲を持つ。 **態度の観点**： 「美術史とは何か」という問題意識をもって、さまざまな著作を渉猟し、独自の美術史観を育む。
- 授業の計画（全体）** 16世紀イタリアで活躍したヴァザーリ以後、ポストコロニアリズムの現在まで、全15回で 西欧美術史学の展開を追いつつ解説します。
- 成績評価方法（総合）** (1) 期末試験による評価、(2) コメント票による評価、(3) 出席による評価
- 教科書・参考書** 教科書： プリントを配布します。／ 参考書： 講義の中で適宜紹介します。
- メッセージ** 「見ること」を足場に私たちにはどれだけの知的冒険が可能だろうか？
- 連絡先・オフィスアワー** E-mail fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー 人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

開設科目	美術史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤川哲				

- 授業の概要** この講義では、メディア・アートの歴史を代表的な作品の紹介によって辿ります。ビデオ上映やウェブ上の作品体験、山口情報芸術センターの見学等を行います。／**検索キーワード** メディア・アート、山口情報芸術センター
- 授業の一般目標** メディア・アートの歴史と代表作について簡単な解説ができる。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：メディア・アートの歴史と代表作について簡単な解説ができる。  
**思考・判断の観点**：メディア・アートの歴史から現状の問題点を指摘できる。 **関心・意欲の観点**：メディア・アートの面白さ、違いがわかる。 **態度の観点**：山口情報芸術センターのさまざまな機能を主体的に活用できる。
- 成績評価方法 (総合)** (1) 期末試験による評価、(2) コメント票による評価、(3) 出席による評価
- 教科書・参考書** 教科書：プリントを配布します。／参考書：講義の中で適宜紹介します。
- メッセージ** 山口情報芸術センターが近くにオープンしたことは、今、山大で美術史を学ぶメリットの一つ。深く学んで積極的に活用しよう！
- 連絡先・オフィスアワー** E-mail fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー 人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

開設科目	芸術論特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	奥津 聖				
<p>●<b>授業の概要</b> イメージという言葉の意味は多義的です。従来のイメージの解釈学は、造形芸術におけるイメージの意味内容の解釈にその主題は限定されてきました。この講義では、現代芸術一般を対象とすることの可能な広義の「イメージの解釈学」の構築を目指します。／<b>検索キーワード</b> イメージ、解釈学、視覚的思索</p> <p>●<b>授業の一般目標</b> ルネッサンス以降の、視覚芸術の諸問題を考察することを通じて現代芸術に親しむための基礎を身につける。</p> <p>●<b>授業の到達目標</b>／ <b>思考・判断の観点</b>： イメージの解釈の実践 <b>技能・表現の観点</b>： レポート作成</p> <p>●<b>授業の計画（全体）</b> イメージの解釈学とは何かを考察する</p> <p>●<b>授業計画（授業単位）</b>／<b>内容・項目等</b>／<b>授業外学習の指示等</b></p> <p>第 1 回 <b>項目</b> 序論 オリエンテーション <b>内容</b> 講義内容、履修 方法等の説明。 Web 上の資料の活用。特に、 Web Gallery of Art の利用法。</p> <p>第 2 回 <b>項目</b> イメージとは何か <b>内容</b> イメージという言葉は多義的である。では、この講義で扱うイメージとは何か。言語の解釈学とイメージの解釈学について解説。</p> <p>第 3 回 <b>項目</b> 絵を読むことー ルネッサンス以前の芸術 <b>内容</b> 読むために描かれたルネッサンス以前の芸術の構造を検証。 ジョットの物語 絵の構成の独自性。</p> <p>第 4 回 <b>項目</b> 絵を読むことから絵を視ること への移行 1 <b>内容</b> 前期ルネッサンス芸術の新たな 試み。 マサッチオ、ボッチ チェリ の画面 構成。</p> <p>第 5 回 <b>項目</b> 絵を読むことから絵を視ること への移行 2 <b>内容</b> ミケランジェロ のシスティナ礼 拝堂天井画の構造。 旧約聖書 と新約聖書の神 秘的統一の視覚 化。</p> <p>第 6 回 <b>項目</b> 視るための絵画 <b>内容</b> レオナルド・ダ・ヴィンチの 思考実験。 空間の統一へ。</p> <p>第 7 回 <b>項目</b> 室内空間全体の ヴァーチャル化 <b>内容</b> バロック芸術におけるダ・ヴィンチの理想の実 現。 バロック の幻想天井画について。</p> <p>第 8 回 <b>項目</b> パトリック・ゲ デスの視覚的思 索 1 <b>内容</b> パトリック・ゲ デスの視覚的思 索と生の図式 の 新たな解釈。</p> <p>第 9 回 <b>項目</b> パトリック・ゲ デスの視覚的思 索 2 <b>内容</b> 第八回の続き</p> <p>第 10 回 <b>項目</b> ゲディスと明治 の美術・美術史 <b>内容</b> 島村抱月の感性的美術に見られる英国美術の受 容。 20 世紀初 頭の芸術論の比 較美学的考察。</p> <p>第 11 回 <b>項目</b> アジアの美術・ 美術史 <b>内容</b> 20 世紀初頭のア ヴァン・ギャルド芸術の中国に おける遅い受 容。 1989 年、 中国前衛芸術 展。</p> <p>第 12 回 <b>項目</b> 言語の構造としての現代芸術 <b>内容</b> 書の脱構築、と いう漢字文化圏 における新しい 実験。 徐冰、 谷文達、 王南溟 の場合</p> <p>第 13 回 <b>項目</b> 実践的現代芸術 論 <b>内容</b> 山口における先 端的な芸術活動 の紹介。 山口 現代芸術研究所 (YICA) の歴史 と現在。</p> <p>第 14 回 <b>項目</b> 新しい「イメー ジの解釈学」 <b>内容</b> 総合的な学としての新しい「イ メージの解釈 学」の 成立に向けて。</p> <p>第 15 回 <b>項目</b> 終論 エピロー グ <b>内容</b> 講義の補足と総 括。</p> <p>●<b>成績評価方法（総合）</b> レポートを随時提出</p> <p>●<b>教科書・参考書</b> 参考書： 参考文献は、講義中に提示する。</p> <p>●<b>メッセージ</b> 教科書は無い。プリント資料を配布。</p> <p>●<b>連絡先・オフィスアワー</b> okutsu@c-able.ne.jp <a href="http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html">http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html</a></p>					

開設科目	芸術論特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	奥津 聖				
<p>●<b>授業の概要</b> イメージという言葉の意味は多義的です。従来のイメージの解釈学は、造形芸術におけるイメージの意味内容の解釈にその主題は限定されてきました。この講義では、現代芸術一般を対象とすることの可能な広義の「イメージの解釈学」の構築を目指します。前期の継続。／<b>検索キーワード</b> イメージ、解釈学、視覚的思索</p> <p>●<b>授業の一般目標</b> ルネッサンス以降の、視覚芸術の諸問題を考察することを通じて現代芸術に親しむための基礎を身につける。</p> <p>●<b>授業の到達目標</b>／ <b>思考・判断の観点</b>： イメージの解釈の実践 <b>技能・表現の観点</b>： レポート作成</p> <p>●<b>授業の計画（全体）</b> イメージの解釈学とは何かを考察する</p> <p>●<b>授業計画（授業単位）</b>／<b>内容・項目等</b>／<b>授業外学習の指示等</b></p> <p>第 1 回 <b>項目</b> 序論 オリエンテーション <b>内容</b> 講義内容、履修 方法等の説明。 Web 上の資料の活用。特に、 Web Gallery of Art の利用法。</p> <p>第 2 回 <b>項目</b> イメージとは何か <b>内容</b> イメージという言葉は多義的である。では、この講義で扱うイメージとは何か。言語の解釈学とイメージの解釈学について解説。</p> <p>第 3 回 <b>項目</b> 絵を読むことー ルネッサンス以前の芸術 <b>内容</b> 読むために描かれたルネッサンス以前の芸術の構造を検証。 ジョットの物語 絵の構成の独自性。</p> <p>第 4 回 <b>項目</b> 絵を読むことから絵を視ること への移行 1 <b>内容</b> 前期ルネッサンス芸術の新たな 試み。 マサッチオ、ボッチ チェリ の画面 構成。</p> <p>第 5 回 <b>項目</b> 絵を読むことから絵を視ること への移行 2 <b>内容</b> ミケランジェロ のシスティナ礼 拝堂天井画の構造。 旧約聖書 と新約聖書の神 秘的統一の視覚 化。</p> <p>第 6 回 <b>項目</b> 視るための絵画 <b>内容</b> レオナルド・ダ・ヴィンチの 思考実験。 空間の統一へ。</p> <p>第 7 回 <b>項目</b> 室内空間全体の ヴァーチャル化 <b>内容</b> バロック芸術におけるダ・ヴィンチの理想の実 現。 バロック の幻想天井画について。</p> <p>第 8 回 <b>項目</b> パトリック・ゲ デスの視覚的思 索 1 <b>内容</b> パトリック・ゲ デスの視覚的思 索と生の図式 の 新たな解釈。</p> <p>第 9 回 <b>項目</b> パトリック・ゲ デスの視覚的思 索 2 <b>内容</b> 第八回の続き</p> <p>第 10 回 <b>項目</b> ゲディスと明治 の美学・美術史 <b>内容</b> 島村抱月の感性的美学に見られる英国美学の受 容。 20 世紀初 頭の芸術論の比 較美学的考察。</p> <p>第 11 回 <b>項目</b> アジアの美学・ 美術史 <b>内容</b> 20 世紀初頭のア ヴァン・ギャルド芸術の中国に おける遅い受 容。 1989 年、 中国前衛芸術 展。</p> <p>第 12 回 <b>項目</b> 言語の構造としての現代芸術 <b>内容</b> 書の脱構築、と いう漢字文化圏 における新しい 実験。 徐冰、 谷文達、 王南溟 の場合</p> <p>第 13 回 <b>項目</b> 実践的現代芸術 論 <b>内容</b> 山口における先 端的な芸術活動 の紹介。 山口 現代芸術研究所 (YICA) の歴史 と現在。</p> <p>第 14 回 <b>項目</b> 新しい「イメー ジの解釈学」 <b>内容</b> 総合的な学としての新しい「イメー ジの解釈学」の 成立に向けて。</p> <p>第 15 回 <b>項目</b> 終論 エピロー グ <b>内容</b> 講義の補足と総 括。</p> <p>●<b>成績評価方法（総合）</b> レポートを随時提出</p> <p>●<b>教科書・参考書</b> 参考書： 参考文献は、講義中に提示する。</p> <p>●<b>メッセージ</b> 教科書は無い。プリント資料を配布。</p> <p>●<b>連絡先・オフィスアワー</b> okutsu@c-able.ne.jp <a href="http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html">http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html</a></p>					

開設科目	芸術論特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤川哲				

●**授業の概要** この講義では、国内外で開催されている国際美術展の現況について解説します。デジタル画像やビデオの上映を交えながら国際美術展の歴史、代表的な国際美術展を紹介したのち、特に1990年代以降のグローバリゼーションの影響について、ヨーロッパとアジアとの対比の中で見ていきます。／**検索キーワード** 国際美術展、現代美術、グローバリゼーション、ビエンナリゼーション

●**授業の一般目標** (1) 国際美術展の現況について理解する。(2) 現代美術に関心をもつ。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1. 現代美術の面白さ、展覧会の面白さがわかる。2. 代表的な国際美術展について簡単な説明ができる。**思考・判断の観点**：1. 幅広く深い教養を背景に、美術作品の好悪巧拙の判断ができる。2. 国際美術展について肯定的な側面と課題とを指摘できる。**関心・意欲の観点**：1. 自分の感性を絶えず磨き続ける。2. 幅広い教養を身につける。**態度の観点**：1. 国内で開催されている展覧会情報をチェックし、心の琴線に触れた展覧会には実際に出掛けてみる。2. 海外旅行に出掛ける際には、旅先の美術館や美術展を訪れる。

●**授業の計画（全体）** 前半は、国際美術展の歴史、日本の参加・開催の経緯等について概観する。中盤は毎回1つの国際美術展を取り上げ、話題を集めた作品の紹介や、企画者の意図等の解説を行う。後半は、ヨーロッパとアジアとの対比の中で、国際美術展におけるグローバリゼーションの問題を究明する。

●**成績評価方法（総合）** (1) 期末試験による評価、(2) コメント票による評価、(3) 出席による評価

●**教科書・参考書** 教科書：プリントを配布します。／参考書：『12人の挑戦—大観から日比野まで』、茨城新聞社、2002年 石井元章『ヴェネツィアと日本—美術をめぐる交流』、ブリュッケ、1999年 『ヴェネツィア・ビエンナーレ—日本参加の40年』、国際交流基金、毎日新聞社、1995年、ほか講義の中で随時紹介します。

●**メッセージ** 「ビエンナリゼーション」という呼ばれ方で、アートの世界でもグローバリゼーションが進んでいます。現代美術の明日はどっちだ!?

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー 人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

開設科目	芸術論特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤川哲				

●**授業の概要** この講義では、2004 年度に開催される展覧会を紹介しします。特に、企画趣旨や出品作品、作家について解説しします。／**検索キーワード** 展覧会企画、現代美術、近代美術、西欧美術

●**授業の一般目標** (1) 各展覧会の企画趣旨について理解を深める。(2) 美術に関心をもつ。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1. 作品や展覧会の面白さがわかる。2. 美術史の基本的な用語を作品に即して説明できる。**思考・判断の観点**：1. 展覧会のテーマが社会に投げかける問いを読み解き、自らの考えを述べることができる。2. 展覧会企画における現実的な制約と先取的な企図とのせめぎあいを看取できる。

**関心・意欲の観点**：1. 自分の感性を絶えず磨き続ける。2. 幅広い教養を身につける。

**態度の観点**：1. 国内で開催されている展覧会情報をチェックし、心の琴線に触れた展覧会には実際に  
出掛けてみる。2. 海外旅行に出掛ける際には、旅先の美術館や美術展を訪れる。

●**授業の計画（全体）** 基本的に各週 1 つの展覧会を紹介しします。

●**成績評価方法（総合）** (1) 期末試験による評価、(2) コメント票による評価、(3) 出席による評価

●**メッセージ** 実戦経験を積んで強くなってください。芸術論における実戦経験とは、すなわち、作品を前にあなたが何を感じるができるか、です。むしろあなたが作品から挑まれている、と想像してみてください。さあ、展覧会へ出掛けましょう！

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー 人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

開設科目	芸術論特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	佐藤文昭				

●**授業の概要** この講義では、近代から現代に至る建築・都市における美の捉え方について解説します。特に近代都市計画家パトリック・ゲディスの理論である「生の図式」を中心としながら、当時の建築・都市計画における彼の理論の位置づけとその重要性について明らかにします。さらに、今日の社会において、ゲディスの理論が持つ意義とその新たな可能性について、実際の建築や都市景観などの事例を交えながら解説します。／**検索キーワード** 近代建築、近代都市計画、パトリック・ゲディスの「生の図式」、都市景観

●**授業の一般目標** 1. 近代から現代に至る建築・都市の概要について理解する。2. 建築・都市の美しさに関心を持つ。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1. パトリック・ゲディスの「生の図式」概要としくみについて理解する。2. 近代や現代の建築の特徴について理解し、説明することが出来る。**思考・判断の観点**： 1. 「生の図式」の理解を背景に、その理論を日常生活の中に応用することが出来る。2. 美しさの探求を通して、今日の社会が持つ問題点を発見することが出来る。**関心・意欲の観点**： 1. 身近にある美しさに関心を示す。2. 美を取り巻く社会状況に興味を持つ。**態度の観点**： 1. 国内の有名建築を訪ね、その美しさを体感する。2. 旅先で、町並みと歴史との関係について調べてみる。

●**授業の計画（全体）** 前半は、19世紀後半～20世紀初頭のヨーロッパ社会の変化と、それに伴う新たな建築や都市計画について概観する。その中で、パトリック・ゲディスの理論が持つ斬新な視点とアブローチについて、ル・コルビュジェなどの当時主流であった都市計画理論と対比しながら解説する。特にゲディスが構築した「生の図式」に注目し、彼が唱える社会学の視点から、都市や建築の捉え方について解説する。中盤は、批評的な立場から、近代理論のひとつとしてゲディスの理論を捉えることにより、それを現代社会に適用する上での限界について解説するとともに、今日の社会が抱える問題点についても言及する。後半は、前述のゲディス理論の批評を踏まえ、この理論の新たな解釈が、今日の社会において新たな美しさを見出すためのひとつのツールとしてどのような意義を持つか、さらには、それをを用いることによる新たな建築や都市を創造することが可能であるかなどについて幅広く検討する。その過程で、以下の事例について解説する。「日本の伝統的住宅における陰影の美学」「都市景観の形成過程と住民意識の変遷」

●**成績評価方法（総合）** (1) レポートによる評価、(2) 討議への参加度による評価、(3) 出席による評価。講義中盤にレポートを課し、後半はそのレポートを教材にゲディスの理論の今日的意義について討議し、受講生の発言内容によって理解度をはかる。

●**教科書・参考書** 教科書：プリントを配布する。／参考書：パトリック・ゲディス：『進化する都市』、鹿島出版会、1982年 ル・コルビュジェ：『輝く都市』、鹿島出版会、1988年 イーファー・トゥアン：『トポフィリア：人間と環境』、せりか書房、1992年 ガストン・バシュラール：『空間の詩学』、思潮社、1969年 谷崎潤一郎：『陰影礼賛』（改版）、中央公論社、1995年

●**メッセージ** 建築の美しさ、都市の美しさとは一体何か？それは、純粹芸術 (pure art) だけではない実用芸術 (practical art) としての魅力を秘めています。近代都市計画家パトリック・ゲディスの理論を用いながら、新たな美しさを発見してみよう！

●**備考** 集中授業

開設科目	美術史・芸術論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	奥津 聖				

- 授業の概要** 学生の発表と討論 卒論作成のための準備訓練と資料集積／**検索キーワード** 卒論、プレゼンテーション
- 授業の一般目標** 卒論を書けるようにする プレゼンテーションの技術を身につける
- 授業の到達目標**／ **思考・判断の観点**：自ら問題を立てて解決する能力の養成 **技能・表現の観点**：レポート作成、論文作成能力の錬磨 プレゼンテーションの方法
- 授業の計画（全体）** コロキウム形式であり、問題は個別にわたるので前もってのシラバス作成はできない。参加学生の個別指導となる。
- 成績評価方法（総合）** 演習中のプレゼンテーション レポート
- 教科書・参考書** 参考書：その都度指示する
- 連絡先・オフィスアワー** okutsu@c-able.ne.jp <http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html>



開設科目	美術史・芸術論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	奥津 聖				

- 授業の概要** 学生の発表と討論 卒論作成のための準備訓練と資料集積／**検索キーワード** 卒論、プレゼンテーション
- 授業の一般目標** 卒論を書けるようにする プレゼンテーションの技術を身につける
- 授業の到達目標**／ **思考・判断の観点**：自ら問題を立てて解決する能力の養成 **技能・表現の観点**：レポート作成、論文作成能力の錬磨 プレゼンテーションの方法
- 授業の計画（全体）** コロキウム形式であり、問題は個別にわたるので前もってのシラバス作成はできない。参加学生の個別指導となる。
- 成績評価方法（総合）** 演習中のプレゼンテーション レポート
- 教科書・参考書** 参考書：その都度指示する
- 連絡先・オフィスアワー** okutsu@c-able.ne.jp <http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html>

開設科目	美術史・芸術論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤川哲				

- 授業の概要** 受講者の研究テーマによる発表と、発表に対する質問、討論を中心とした演習です。／**検索キーワード** 研究発表、討議
- 授業の一般目標** 1. 自分の考えを持つこと。それを人にわかりやすく発表できるようになること。2. 人の発表を聞いて、建設的な発言、討議ができるようになること。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 自らの研究テーマについて基礎的な知識を身につける。 **思考・判断の観点**： 他の受講生の研究テーマも含めた美術史・芸術論の全体像の中に、自らの研究テーマをイメージできる。 **関心・意欲の観点**： 美術史・芸術論をめぐるさまざまなテーマに関心をもつ。 **態度の観点**： 自分の関心の所在を見定め、必要な文献を収集し、考えを文章でまとめるができる。
- 授業の計画（全体）** 最初の週に、各自関心のあるテーマを発表してもらいます。その後は、順番を決め、各週 2 人ずつ発表の形式をとります。発表者はレジュメ作成のこと。発表、討議を経て内容を深めた期末レポートの提出を求めます。
- 成績評価方法（総合）** (1) 研究発表による評価、(2) 他の発表者への質問・意見等、討議への参加度による評価、(3) 期末レポートによる評価
- メッセージ** 各自、自分が「言いたいことは何か」をはっきりさせて発表に臨んでください。関心のある作品や作家の「紹介」は発表として認めません。他の参加者は、発表者の「言いたいこと」に自分が賛成できるか出来ないか、しっかり自分の立場を確認しつつ発表を聞き、発言してください。前期の美術史実習を履修の上、Microsoft PowerPoint の操作に習熟しておいてください。
- 連絡先・オフィスアワー** E-mail fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー 人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

開設科目	美術史・芸術論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤川哲				

- 授業の概要** 受講者の研究テーマによる発表と、発表に対する質問、討論を中心とした演習です。／**検索キーワード** 研究発表、討議
- 授業の一般目標** 1. 自分の考えを持つこと。それを人にわかりやすく発表できるようになること。2. 人の発表を聞いて、建設的な発言、討議ができるようになること。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：自らの研究テーマについて基礎的な知識を身につける。**思考・判断の観点**：他の受講生の研究テーマも含めた美術史・芸術論の全体像の中に、自らの研究テーマをイメージできる。**関心・意欲の観点**：美術史・芸術論をめぐるさまざまなテーマに関心をもつ。**態度の観点**：自分の関心の所在を見定め、必要な文献を収集し、考えを文章でまとめるができる。
- 授業の計画（全体）** 最初の週に、各自関心のあるテーマを発表してもらいます。その後は、順番を決め、各週 2 人ずつ発表の形式をとります。発表者はレジュメ作成のこと。発表、討議を経て内容を深めた期末レポートの提出を求めます。
- 成績評価方法（総合）** (1) 研究発表による評価、(2) 他の発表者への質問・意見等、討議への参加度による評価、(3) 期末レポートによる評価
- メッセージ** 各自、自分が「言いたいことは何か」をはっきりさせて発表に臨んでください。関心のある作品や作家の「紹介」は発表として認めません。他の参加者は、発表者の「言いたいこと」に自分が賛成できるか出来ないか、しっかり自分の立場を確認しつつ発表を聞き、発言してください。前期の美術史実習を履修の上、Microsoft PowerPoint の操作に習熟しておいてください。
- 連絡先・オフィスアワー** E-mail fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー 人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

開設科目	美術史実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	奥津聖, 奥津聖				

●**授業の概要** コンピュータを用いてプレゼンテーション、資料収集、Web 作成等の技法の獲得／**検索キーワード** プレゼンテーション

●**授業の一般目標** コンピュータを用いてプレゼンテーション、資料収集、Web 作成等の技法の獲得

●**授業の到達目標**／ **技能・表現の観点**： コンピュータを用いてプレゼンテーション、資料収集、Web 作成等の技法の獲得

●**連絡先・オフィスアワー** okutsu@c-able.ne.jp <http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html>

開設科目	美術史実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤川哲				

- 授業の概要** インターネットを活用したドキュメントの収集とウェブ・コンテンツ作成を中心とした実習です。／**検索キーワード** インターネット、ウェブ・コンテンツ作成
- 授業の一般目標** 各自、自分の研究テーマにあったインターネット活用法を身につける。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1. インターネットを活用した情報収集ができる。2.HTML の基本タグがタイプできる。**思考・判断の観点**：インターネットで可能なこと、不可能なことの見当がつく。**関心・意欲の観点**：自分の関心にあったポータルサイトを持つ。**態度の観点**：インターネットを活用して自らの知的生活を豊かにできる。**技能・表現の観点**：1. 検索サイトを効率よく活用できる。2. ウェブ・コンテンツ作成支援ソフトの基本操作ができる。
- 授業の計画（全体）** インターネット活用の概略、ウェブ・コンテンツ作成支援ソフト等を紹介したのち、班分けを行い、班毎に作業内容、目標を決めて、研究室で作成中のウェブ・ページを教材として、同ウェブの機能やコンテンツに関する提案、作成を行ってまいります。
- メッセージ** インターネットを「ゴミだめ」にするのも「宝石箱」にするのもあなた次第！
- 連絡先・オフィスアワー** E-mail fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー 人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

開設科目	美術史実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤川哲				

- 授業の概要** Microsoft PowerPoint を使った効果的なヴィジュアル・プレゼンテーションに習熟するための実習です。／**検索キーワード** プレゼンテーション、インターネット
- 授業の一般目標** 各自、自分の研究テーマに関連する素材を蓄積、テーマ毎に整理し、プレゼンテーション・ドキュメントを作成、発表する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：自分の発表テーマに必要な素材が準備できる。 **思考・判断の観点**：簡潔で要領を得たプレゼンテーションができる。 **関心・意欲の観点**：他の学生のプレゼンテーションから優れた点を学ぶよう心掛ける。 **態度の観点**：テレビや映画をはじめとする日常生活の環境の中から、視覚的なコミュニケーションにおける手法上の工夫やトレンドを読み解くことができる。  
**技能・表現の観点**：1. スキャナーを使った画像の取り込みができる。2. OCR によるテキスト・データの作成と校正ができる。3. Microsoft PowerPoint の基本操作ができる。4. 効果的な視覚表現を工夫できる。
- 授業の計画（全体）** 前半は、画像とテキストそれぞれのデータの作成方法について学びます。中盤は、それらを活用したプレゼンテーション・ドキュメントの作成方法を学び、同時に必要素材の整理・収集を行います。後半は各自、実際にプレゼンテーションを行ってもらい、より効果的な視覚表現のあり方について全員で討議・探究します。
- メッセージ** ヴィジュアル・コミュニケーションの「作り手」の快感というものもあるのです。
- 連絡先・オフィスアワー** E-mail fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー 人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

開設科目	美術史実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	奥津聖, 奥津聖				

●**授業の概要** コンピュータを用いてプレゼンテーション、資料収集、Web 作成等の技法の獲得／**検索キーワード** プレゼンテーション

●**授業の一般目標** コンピュータを用いてプレゼンテーション、資料収集、Web 作成等の技法の獲得

●**授業の到達目標**／ **技能・表現の観点**： コンピュータを用いてプレゼンテーション、資料収集、Web 作成等の技法の獲得

●**連絡先・オフィスアワー** okutsu@c-able.ne.jp <http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html>

開設科目	考古学概説 I	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	村田裕一				

- 授業の概要** 日本考古学における基本的な方法論や研究成果・知識について解説する。／**検索キーワード**  
考古学
- 授業の一般目標** 1. 考古学の基本知識を獲得する。 2. 考古学の方法論への理解を深める。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： A. 土器や石器などの考古遺物について説明できる。 B. 考古学の方法論について説明できる。
- 授業の計画（全体）** 日本考古学が対象とする様々な事象とモノとをとり上げて、学史的・方法論的な立場から解説する。基礎的な知識の解説に重点を置く。前期は、考古学の方法、旧石器時代から縄文時代まで、後期は弥生時代から古墳時代までをとりあつかう。各時代の、自然環境、住居、集落、生業、衣類、道具、工芸、交易、埋葬、習俗、宗教について見てゆく。＜留意点＞開講期の設定は半期だが、講義の編成は実質的に通年であるため、通年受講が望ましい。前期に考古学の方法論を中心とした事項を重点的に解説するので、後期だけの受講には理解に困難が伴うことが予想される。
- 成績評価方法（総合）** 期末試験 100%。
- 教科書・参考書** 教科書： 使用しない。講義プリントを配布する。／ 参考書： 講義の中で文献を紹介する。
- 連絡先・オフィスアワー** E-mail： h-murata@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー： 水曜日 5・6 時限



開設科目	考古学概説 II	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	村田裕一				

- 授業の概要** 日本考古学における基本的な方法論や研究成果・知識について解説する。／**検索キーワード**  
考古学
- 授業の一般目標** 1. 考古学の基本知識を獲得する。 2. 考古学の方法論への理解を深める。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： A. 土器や石器などの考古遺物について説明できる。 B. 考古学の方法論について説明できる。
- 授業の計画（全体）** 日本考古学が対象とする様々な事象とモノとをとり上げて、学史的・方法論的な立場から解説する。基礎的な知識の解説に重点を置く。前期は、考古学の方法、旧石器時代から縄文時代まで、後期は弥生時代から古墳時代までをとりあつかう。各時代の、自然環境、住居、集落、生業、衣類、道具、工芸、交易、埋葬、習俗、宗教について見てゆく。＜留意点＞開講期の設定は半期だが、講義の編成は実質的に通年であるため、通年受講が望ましい。前期に考古学の方法論を中心とした事項を重点的に解説するので、後期だけの受講には理解に困難が伴うことが予想される。
- 成績評価方法（総合）** 期末試験 100%。
- 教科書・参考書** 教科書： 使用しない。講義プリントを配布する。／ 参考書： 講義の中で文献を紹介する。
- 連絡先・オフィスアワー** E-mail： h-murata@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー： 水曜日 5・6 時限

開設科目	東アジア考古学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	村田裕一				

●**授業の概要** 縄文時代から弥生時代への転換過程は、大陸からもたらされた文化要素を様々な形で受容することで成し遂げられる。講義では、特に石器と鉄器という物質文化に注目し、弥生社会の形成過程を概観する。具体的には、日本列島内における大陸系磨製石器の成立とその生産・流通、鉄器の流入と生産、石器から鉄器への転換過程といった問題について探求する。新来の要素の影響下に形成された弥生時代社会の一側面を描き出す。本講義は、上記のテーマで複数年次にわたり継続的に取り組んでいるものであるが、取り扱う個別の考古資料および題材は、毎年・開講学期毎に異なる。／**検索キーワード** 考古学、石器、鉄器、弥生時代、生産と流通

●**授業の一般目標** 1. 考古学の基礎の一つであるところの実測図に盛り込まれた情報を正確に読みとることができる力を養う。2. 遺物および遺構のデータの基礎的な操作方法、すなわち考古学の方法論の基礎について習得する。3. 学術論文を批判的に読解する力を養う。4. 石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会について学ぶ。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：A. 実測図に盛り込まれた情報を正確に読みとることができる。B. 石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会の事例を説明できる。**思考・判断の観点**：A. 学術論文を批判的に読解し問題点を抽出できる。B. 遺物および遺構のデータの基礎的な操作方法、すなわち考古学の方法論を、自分の選んだ考古学的題材に適用できる。**関心・意欲の観点**：A. 自分が関心を持つ考古資料をあげることができる。

●**授業の計画（全体）** 【弥生時代の石器・鉄器】 弥生時代の社会構造を石器と鉄器に注目しながら読み解いてゆく。日本列島各地の遺跡および地域について取り上げ、石器と鉄器の特徴について詳細に検討する。その上で、集落の動態とあわせて石器・鉄器の地域性を抽出し、製作技術・生産と流通のシステムといった観点から社会構造の解明へと考察を深める。前期の講義では、遺物解釈のための基本的な事項の整理解説に重点を置きながら、山口県や福岡県西部地域の状況を中心に扱う。後期の講義では、前期に整理した基本的な事項を基礎として、九州全域から瀬戸内・山陰地域へと視野を拡大する。＜留意点＞ 開講期の設定は半期だが、講義の編成は実質的に通年であるため、通年受講が望ましい。前期に基礎的事項を整理するので、後期だけの受講には理解に困難が伴うことが予想される。基本的には講義スタイルの授業だが、受講生の理解のために必要と判断すれば、遺物実測図の並べ替えといった、作業を伴うような時間を設定する。また、時間内に受講生に意見を求めることもあるので自分の考えをもって講義にのぞむように。考古学の基本知識を持っていることを前提として講義を進めるので、受講生は考古学概説の単位を取得しておくこと。

●**教科書・参考書** 教科書：使用しない。講義プリントを配布する。／参考書：石器入門事典—先土器—・—縄文—、加藤晋平・鶴丸俊明・鈴木道之助、柏書房、1991年；考古資料大観 第9巻 弥生・古墳時代 石器・石製品・骨角器、北条芳隆・禰宜田佳男 監修、小学館、2002年；倭人と鉄の考古学、村上恭通、青木書店、1998年；ここにあげたものは、特に代表的なものである。講義の中で他にも多数の文献を紹介する。

●**メッセージ** 石器や鉄器などの、個別の遺物について詳細に解説する場合や、あるいは統計学的手法の解説を行ったりする場合には、講義内容がやや難しくなることもあるかもしれませんが。解説のわかりにくいところ、あるいは意図のわかりにくいところなどは、講義時間の内外に関わらずどんどん質問してください。

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail : h-murata@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー：水曜日 5・6 時限

開設科目	東アジア考古学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	村田裕一				

●**授業の概要** 縄文時代から弥生時代への転換過程は、大陸からもたらされた文化要素を様々な形で受容することで成し遂げられる。講義では、特に石器と鉄器という物質文化に注目し、弥生社会の形成過程を概観する。具体的には、日本列島内における大陸系磨製石器の成立とその生産・流通、鉄器の流入と生産、石器から鉄器への転換過程といった問題について探求する。新来の要素の影響下に形成された弥生時代社会の一側面を描き出す。本講義は、上記のテーマで複数年次にわたり継続的に取り組んでいるものであるが、取り扱う個別の考古資料および題材は、毎年・開講学期毎に異なる。／**検索キーワード** 考古学、石器、鉄器、弥生時代、生産と流通

●**授業の一般目標** 1. 考古学の基礎の一つであるところの実測図に盛り込まれた情報を正確に読みとることができる力を養う。2. 遺物および遺構のデータの基礎的な操作方法、すなわち考古学の方法論の基礎について習得する。3. 学術論文を批判的に読解する力を養う。4. 石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会について学ぶ。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：A. 実測図に盛り込まれた情報を正確に読みとることができる。B. 石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会の事例を説明できる。**思考・判断の観点**：A. 学術論文を批判的に読解し問題点を抽出できる。B. 遺物および遺構のデータの基礎的な操作方法、すなわち考古学の方法論を、自分の選んだ考古学的題材に適用できる。**関心・意欲の観点**：A. 自分が関心を持つ考古資料をあげることができる。

●**授業の計画（全体）** 【弥生時代の石器・鉄器】 弥生時代の社会構造を石器と鉄器に注目しながら読み解いてゆく。日本列島各地の遺跡および地域について取り上げ、石器と鉄器の特徴について詳細に検討する。その上で、集落の動態とあわせて石器・鉄器の地域性を抽出し、製作技術・生産と流通のシステムといった観点から社会構造の解明へと考察を深める。前期の講義では、遺物解釈のための基本的な事項の整理解説に重点を置きながら、山口県や福岡県西部地域の状況を中心に扱う。後期の講義では、前期に整理した基本的な事項を基礎として、九州全域から瀬戸内・山陰地域へと視野を拡大する。＜留意点＞ 開講期の設定は半期だが、講義の編成は実質的に通年であるため、通年受講が望ましい。前期に基礎的事項を整理するので、後期だけの受講には理解に困難が伴うことが予想される。基本的には講義スタイルの授業だが、受講生の理解のために必要と判断すれば、遺物実測図の並べ替えといった、作業を伴うような時間を設定する。また、時間内に受講生に意見を求めることもあるので自分の考えをもって講義にのぞむように。考古学の基本知識を持っていることを前提として講義を進めるので、受講生は考古学概説の単位を取得しておくこと。

●**教科書・参考書** 教科書：使用しない。講義プリントを配布する。／参考書：石器入門事典—先土器—・—縄文—、加藤晋平・鶴丸俊明・鈴木道之助、柏書房、1991年；考古資料大観 第9巻 弥生・古墳時代 石器・石製品・骨角器、北条芳隆・禰宜田佳男 監修、小学館、2002年；倭人と鉄の考古学、村上恭通、青木書店、1998年；ここにあげたものは、特に代表的なものである。講義の中で他にも多数の文献を紹介する。

●**メッセージ** 石器や鉄器などの、個別の遺物について詳細に解説する場合や、あるいは統計学的手法の解説を行ったりする場合には、講義内容がやや難しくなることもあるかもしれませんが。解説のわかりにくいところ、あるいは意図のわかりにくいところなどは、講義時間の内外に関わらずどんどん質問してください。

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail : h-murata@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー：水曜日 5・6 時限

開設科目	東アジア考古学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	上原 真人				

- 授業の概要** 日本古代造瓦史論；律令体制盛期における造瓦体制を官窯体制ととらえ、その成立前史から崩壊に至るまでを、出土瓦をおもな材料に明らかにする。合わせて、瓦の生産遺跡（窯跡）と消費遺跡（寺院・官衙）に関するもふれる。／**検索キーワード** 律令制 官窯 瓦 寺院 窯跡
- 授業の一般目標** 日本の古代瓦の変遷について大まかな知識を取得し、出土瓦の検討から何がわかるか、その分析方法や資料的限界などを理解する。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：古代日本の瓦の変遷、寺院にかんする基礎知識 **思考・判断の観点**：考古資料としての瓦の分析方法 **関心・意欲の観点**：歴史考古学についての関心を深める **技能・表現の観点**：考古資料の数量的処理について
- 授業の計画（全体）** 全体を3部構成とし、第1部を律令制成立前の造瓦体制、第2部を律令制盛期の造瓦体制（官窯体制）、第3部を律令制崩壊期の造瓦体制に当てる
- 教科書・参考書** 教科書：指定せず。／参考書：授業中に紹介する。
- 備考** 集中授業

開設科目	比較考古学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	中村友博				

●**授業の概要** 縄紋・弥生過渡期の土器研究：各地の縄紋終末の土器と初期弥生土器を毎回プリントを教材として遺跡ごとに個別に検討する。今期は昨年との継続として愛知県の三河地方から始め、西の尾張地方に進む。今期は、縄紋・弥生の並行推移説というべき学説に留意しながら、土器を紹介する。／**検索キーワード** 水神平式土器 遠賀川式土器

●**授業の一般目標** 1. 考古学ではもっとも一般的な遺物である土器の資料化を修得する。 2. 考古学の方法論を実践的に修得する。

●**授業の計画（全体）** 旧年の継続で、今回は愛知県東部の三河の遺跡から順番に出土土器を検討してゆく。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 麻生田遺跡の土器
- 第 2 回 項目 引田遺跡の土器
- 第 3 回 項目 大西貝塚の土器
- 第 4 回 項目 白石遺跡の土器
- 第 5 回 項目 吉胡貝塚の土器
- 第 6 回 項目 稲荷山貝塚の土器
- 第 7 回 項目 清水貝塚の土器
- 第 8 回 項目 堀内貝塚の土器
- 第 9 回 項目 味噌粕岩遺跡の土器
- 第 10 回 項目 牧平遺跡の土器
- 第 11 回 項目 霊岩寺遺跡の土器
- 第 12 回 項目 西中町遺跡の土器
- 第 13 回 項目 古沢町遺跡の土器
- 第 14 回 項目 高倉遺跡の土器
- 第 15 回 項目 荒木集成館所蔵の土器

●**成績評価方法（総合）** 授業は専門的な分野であるから、成績は基本的に受講生の独自な分野の研究（ただし考古学に限定）をレポートとして提出していただき、判定することにする。個々の観点のうち、独創性を含めて得意な長所をできるだけ評価するが、みずから調べる努力の見られないものは評価しない。

●**教科書・参考書** 教科書：特になし。／参考書：授業中に言及する。

●**連絡先・オフィスアワー** tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー金曜日 16:10～17:40

開設科目	比較考古学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	中村友博				

●**授業の概要** 前期の続きで、縄文時代終末の土器と初期弥生土器を東海地方から近畿地方にかけて検討する。進行がはかどれば、中・四国地方におよぶが、いちおう下の資料を予定している。／**検索キーワード** 刻目突帯文土器 遠賀川式土器

●**授業の一般目標** 1. 考古学の一般的な資料である土器の資料化を修得する。 2. 考古学の方法論を実践的に修得する。

●**授業の計画（全体）** 前期の進行状況によるが、以下の内容を考えている。原則として1回1遺跡。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 愛知県西志賀貝 塚の土器
- 第 2 回 項目 愛知県牛牧遺跡 の土器
- 第 3 回 項目 愛知県貝殻山貝 塚の土器
- 第 4 回 項目 愛知県朝日遺跡 の土器
- 第 5 回 項目 愛知県一宮市内 出土の土器
- 第 6 回 項目 三重県四日市市 内出土の土器
- 第 7 回 項目 三重県上箕田遺 跡の土器
- 第 8 回 項目 滋賀県杉沢遺跡 の土器
- 第 9 回 項目 滋賀県上出遺跡 の土器
- 第 10 回 項目 滋賀県服部遺跡 の土器
- 第 11 回 項目 京都府京大構内 遺跡の土器
- 第 12 回 項目 京都府太田遺跡 の土器
- 第 13 回 項目 奈良県唐古遺跡 の土器
- 第 14 回 項目 大阪府鬼虎川遺 跡の土器
- 第 15 回 項目 大阪府縄手遺跡 の土器

●**成績評価方法（総合）** 授業は専門的な分野であるから、成績は受講生の独自の分野の研究（ただし考古学に限定）をレポートとして提出していただく。下のような個々の観点のうち、得意な長所をできるだけ評価するが、みずから調べる努力のないものは評価しない。

●**教科書・参考書** 教科書： 特になし。／ 参考書： 授業中に言及する。

●**連絡先・オフィスアワー** tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー金曜日 16:10～17:40

開設科目	考古学演習（4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	中村友博				

- 授業の概要** 卒業論文作成のための演習である。発表者の研究発表の向上をはかるためには、問題の明確さ、資料の実体化、収集・検索能力、説得力、口頭発表の仕方などを指導する。／**検索キーワード** 卒業論文
- 授業の一般目標** 卒業論文を作成する。
- 授業の計画（全体）** 毎回、発表分担者を決めて、当事者は資料を添えて口頭発表する。事情で欠席するばあいは、事前に申し出て、順番を変更することができる。
- 成績評価方法（総合）** 授業中の平常をもって評価・採点する。その時には、自己の能力をフルに活用して問題を解決するかどうか、決め手になり、計画的に課題を消化し、まとめる能力を重視する。また、口頭発表であるから文章能力よりも態度が要素に入るので注意すること。
- 教科書・参考書** 教科書：指定せず／参考書：発表者個々に指導する。
- 連絡先・オフィスアワー** tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー金曜日 16:10～17:40

開設科目	考古学演習 (4年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	中村友博				

●**授業の概要** 卒業論文作成のための演習である。問題点の明確化、資料の実体性などに加えて、論文執筆の要領を後期には教示する。／**検索キーワード** 卒業論文

●**授業の一般目標** 卒業論文の完成を図る。

●**授業の計画 (全体)** 発表者をあらかじめ決め、研究を口頭発表していただく。

●**成績評価方法 (総合)** 授業の発表、質問など平常の評価・採点をおこなう。自己の能力をフルに活用して問題探求、設定、解決に向かうかどうかを、重要なポリシーとする。

●**教科書・参考書** 教科書：特になし。／参考書：発表者個々に指導する。

●**連絡先・オフィスアワー** tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー金曜日 16:10～17:40



開設科目	考古学演習（4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	村田裕一				

●**授業の概要** 卒業論文作成に向けての演習である。卒業論文では、自らが設定したテーマにそって研究を進め、論理を展開する必要がある。膨大な考古資料の中から、特定の資料を検索・抽出し、適切で正確かつ効果的な資料操作を行い、自説を構築しなければならない。授業では、受講生の研究の進捗状況を確認するとともに、考古学的方法論の指導、具体的な資料操作方法についての指導を行うことで、よりよい卒業論文をなすための手助けを行う。

●**授業の一般目標** 卒業論文作成に向けての演習である。卒業論文では、自らが設定したテーマにそって研究を進め、論理を展開する必要がある。膨大な考古資料の中から、特定の資料を検索・抽出し、適切で正確かつ効果的な資料操作を行い、自説を構築しなければならない。授業では、受講生の研究の進捗状況を確認するとともに、考古学的方法論の指導、具体的な資料操作方法についての指導を行うことで、よりよい卒業論文をなすための手助けを行う。

●**授業の到達目標**／ **関心・意欲の観点**：A. 発表内容について討議できる。 **技能・表現の観点**：A. 論旨構築に必要な考古資料を抽出できる。B. 抽出した考古資料を、適切に資料操作できる。資料操作は、考古学的手法・統計学的手法・理化学的手法などによる資料分析のことである。C. 資料操作の過程、結果を図版・分析表などを効果的に使って説明できる。D. 資料操作の結果に基づいて論旨を構築・発表できる。

●**授業の計画（全体）** 【考古学の諸問題】 受講生は、各自が設定したテーマにそって、基本的には2回程度の研究発表を行う。発表については、受講生全員で問題点などの討議を行うことで発表者はもちろんのこと討議参加者も研究内容を深めてゆく。

●**メッセージ** 大学内外所蔵の遺跡発掘調査報告書を基本文献として、研究を開始することになります。研究の進展にしたがい、学外の調査研究機関に資料調査に行く必要も生じます。研究は一朝一夕に進展するものではなく、各自の日頃の取り組みが重要なので地道に努力することが大切です。途中何度も突き当たる壁を自ら乗り越えてゆく気概が必要ですが、教官の助言が有効な場合もあります。相談は随時受け付けます。研究発表は十分な準備を行い、全力で行ってください。授業の性格上、無断欠席はしないでください。

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail：h-murata@yamaguchi-u.ac.jp， オフィスアワー：水曜日 5・6時限

開設科目	考古学演習（4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	村田裕一				

●**授業の概要** 卒業論文作成に向けての演習である。卒業論文では、自らが設定したテーマにそって研究を進め、論理を展開する必要がある。膨大な考古資料の中から、特定の資料を検索・抽出し、適切で正確かつ効果的な資料操作を行い、自説を構築しなければならない。授業では、受講生の研究の進捗状況を確認するとともに、考古学的方法論の指導、具体的な資料操作方法についての指導を行うことで、よりよい卒業論文をなすための手助けを行う。

●**授業の一般目標** 卒業論文作成に向けての演習である。卒業論文では、自らが設定したテーマにそって研究を進め、論理を展開する必要がある。膨大な考古資料の中から、特定の資料を検索・抽出し、適切で正確かつ効果的な資料操作を行い、自説を構築しなければならない。授業では、受講生の研究の進捗状況を確認するとともに、考古学的方法論の指導、具体的な資料操作方法についての指導を行うことで、よりよい卒業論文をなすための手助けを行う。

●**授業の到達目標**／ **関心・意欲の観点**：A. 発表内容について討議できる。 **技能・表現の観点**：A. 論旨構築に必要な考古資料を抽出できる。B. 抽出した考古資料を、適切に資料操作できる。資料操作は、考古学的手法・統計学的手法・理化学的手法などによる資料分析のことである。C. 資料操作の過程、結果を図版・分析表などを効果的に使って説明できる。D. 資料操作の結果に基づいて論旨を構築・発表できる。

●**授業の計画（全体）** 【考古学の諸問題】 受講生は、各自が設定したテーマにそって、基本的には2回程度の研究発表を行う。発表については、受講生全員で問題点などの討議を行うことで発表者はもちろんのこと討議参加者も研究内容を深めてゆく。

●**メッセージ** 大学内外所蔵の遺跡発掘調査報告書を基本文献として、研究を開始することになります。研究の進展にしたがい、学外の調査研究機関に資料調査に行く必要も生じます。研究は一朝一夕に進展するものではなく、各自の日頃の取り組みが重要なので地道に努力することが大切です。途中何度も突き当たる壁を自ら乗り越えてゆく気概が必要ですが、教官の助言が有効な場合もあります。相談は随時受け付けます。研究発表は十分な準備を行い、全力で行ってください。授業の性格上、無断欠席はしないでください。

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail：h-murata@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー：水曜日 5・6時限

開設科目	考古学実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教官	中村友博				

●**授業の概要** この授業では、野外の発掘調査に不可欠な測量法を実習する。測量器械の操作方法と身のこなし方、計算法、作図法を教授する。ただし雨天のばあいは室内作業を実習する。／**検索キーワード** 発掘調査法

●**授業の一般目標** 1. 発掘調査に必要な測量ができるようになる。

●**授業の計画（全体）** 考古学のうち、測量分野は座学、独学ができない実践分野で、特に発掘担当者を志望する者はこの実習で教える骨格測量の原理を理解していなければならない。要するに、だれも教えてくれないが、専門職に就けば、知って得する内容を初心者に教えます。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回 項目 測距 内容 スチール・テープの扱い方

第 2 回 項目 測距 内容 レベルによる標高計測

第 3 回 項目 測角 内容 トランシユットの扱い方

第 4 回 項目 測角 内容 三脚の据え方

第 5 回 項目 測角 内容 副尺の読み方

第 6 回 項目 測角 内容 上下のネジの操作法

第 7 回 項目 測角 内容 内外角による多角測量

第 8 回 項目 測角 内容 方位角による多角測量

第 9 回 項目 計算法 内容 図根点の作図

第 10 回 項目 地形測量 内容 平板の据え方

第 11 回 項目 地形測量 内容 等高線の求め方

第 12 回 項目 作図 内容 図面の整合法

第 13 回 項目 測角 内容 三角法

第 14 回 項目 細部測量 内容 やり方の設置

第 15 回 項目 細部測量 内容 やり方測量

●**成績評価方法（総合）** 実習中の平常で評価・採点する。判定基準は実技が出来るか出来ないかであって、器用・不器用、上手・下手は、個性と経験によるからこの授業では重視しない。要するに、全員出来るようになってほしいし、全員できるまでやらせるので、資格のように判定する。

●**教科書・参考書** 教科書：測量学の図書はあるが、測量実技は図書からは学べないので、基本動作を体で覚えること。／参考書：特になし。

●**メッセージ** 考古学専攻の3年生に限る。また、授業前に全員そろって機材を用意しておくこと。さらに授業中には、交通事故などに注意すること。

●**連絡先・オフィスアワー** tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー金曜日 16:10～17:40

開設科目	考古学実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教官	村田裕一				

●**授業の概要** 考古学の基礎的技術である考古資料の取り扱いについて指導する。考古学の研究対象は過去の時代のモノ（遺構・遺物）である。その際、実物を取り扱うことが基本ではあるが、研究の大部分の段階では、二次的に加工された資料を取り扱うことが多い。この二次資料の代表的なものは図面や写真である。この授業では、考古学的な資料の取り扱いのための基礎的技術に習熟することを目的とする。この技術とは、下の一般目標に示す3項目であるが、2および3は表裏一体のものである。これらの技術はそれぞれ非常に高度な専門的技術であるため、その習得には受講生の多大な研鑽が必要とされるのは言うまでもない。考古学実習ではこれらの技術を習得するための初歩的な手ほどきを行うことで、考古遺物に対する理解を深める。／**検索キーワード** 考古学、石器、土器、発掘調査、資料調査、実習、実測

●**授業の一般目標** 1. 壊れやすく貴重な実物そのものを実際に取り扱うための技術を習得する。2. 実物の資料化（実物から二次資料への変換）のための技術の初歩を習得する。3. 二次資料（実測図・写真・拓本）に込められた情報を判読する技術を習得する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：A. 遺物取り扱いの留意点を状況に応じて具体的に指摘できる。B. 遺物整理から報告書作成までの作業のアウトラインを説明できる。**思考・判断の観点**：A. 遺物の解説を書くことができる。B. 報告書を作成することができる。**技能・表現の観点**：A. 遺物の実測図を作成することができる。B. 遺物の写真を撮影することができる。C. 遺物の拓本を採取することができる。

●**授業の計画（全体）** 【考古遺物の資料化】 1. ガイダンス \_\_\_\_ A. 道具の解説 2. 遺物洗浄 3. 接合・復元 4. 遺物実測 \_\_\_\_ A. 石器 \_\_\_\_ B. 土器 \_\_\_\_ C. 瓦 5. 拓本 6. 写真 7. 報告書作成 \_\_\_\_ A. DTP 全般 /// \*上記は、カリキュラムの概要であるが、資料・天候などの都合のため、上記の順で授業が進行するわけではない。

●**成績評価方法（総合）** 基本的には、授業中に所定の技術水準を習得することを目標とするので、出席が所定の回数に満たない受講生には単位を与えない。出席が重要な成績評価基準になる。欠席4回で良。5回で可。7回で不可。また決められた課題を提出しないと評価が下がる。

●**教科書・参考書** 参考書：授業の中で紹介する。

●**メッセージ** 考古学に必要とされる基本的な技術の習得を目的として開講する授業科目である。目的達成のためには非常な修練が必要であり、率直に言って設定時間内だけで完全に習得することは不可能である。そのため、時間外での受講生の積極的な取り組みが必要となる。宿題もしばしば課される。

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail：h-murata@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー：水曜日 5・6時限

# 言語文化学科

開設科目	文学概論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	鈴木陽一				

●**授業の概要** 中国古典の世界において、歴史叙述と物語の世界との境界は必ずしも明らかではない。司馬遷の『史記』に、多くの物語的叙述があり、六朝、唐代の物語の中に真実のみならず、数多くの史実が記録されている。そうした歴史と物語がクロスオーバーするジャンルに着目し、歴史と物語、史実と虚構とがどのように区別されるに至ったかを、漢代から出発し、六朝、唐宋、元明清と時代をおいながら眺めていくことにしよう。また、後半では、特に物語の「語り」のあり方にも着目し、読者はどのようにして物語を享受しているのかを検討し、中国の小説をこれまでとは異なった見方で「深読み」していくことにする。ここでは、書かれたテキストのみならず、演じられたテキストや、風景、絵画といった非文字のテキストも視野に入れながら考えて見る。無論、その合間に、古代より我々の祖先を魅了し続けた古典作品の面白さにもできるだけ触れていくことにする。／**検索キーワード** 歴史叙述、物語、中国文学

●**授業の一般目標** (1) 日本と関わりの深い中国文学史についての基本的な知識を習得する。(2) 歴史叙述と物語の「語り」の分析に有効な文学理論、言語論の基礎を習得し、テキスト分析の方法を学ぶ。(3) 古典の世界から学んだ知識と方法によって、今日の世界に氾濫する物語と歴史叙述について、論理的かつ幅広く、時に批判的にこれを分析しうる力を身につける。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：中国古典文学に関する初歩的知識を得る。**思考・判断の観点**：物語テキスト、歴史叙述のテキストを分析する方法を習得する。**関心・意欲の観点**：古典的世界に関心をもちながら、現代に生産、消費される物語についても批判的に分析する力を身につける。**技能・表現の観点**：授業を聴いて理解したこと、感じたこと、調べたこと、考えたことを短時間で文章にまとめ、発表する。

●**授業の計画（全体）** 全体は文学史の流れに沿い、司馬遷の『史記』から始め、六朝の「志怪」と言われる記録文学、虚構の物語の嚆矢とも言うべき唐宋の「伝奇」、そして宋元に流行した戯曲や様々な演芸、最後は明清の小説までを追いながら、歴史叙述と物語が、書かれたテキストと演じられたテキストがどのように関わっているかを考えていこう。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** 序論：物語とは何か **内容** 本授業の問題提起を行う
- 第 2 回 **項目** 『史記』の成立 **内容** 編年体から紀伝体への変化を通して、歴史叙述について考える。
- 第 3 回 **項目** 六朝志怪の世界 **内容** 六朝の人々は、なぜ怪奇なことを記録したのかを考える。
- 第 4 回 **項目** 唐代伝奇の世界 **内容** 新興官僚はサロンで物語を創造していた。一体何のために？
- 第 5 回 **項目** 宋代伝奇の世界 **内容** 物語に必要な因果論はここで完成する。同時に物語の墮落が始まる。
- 第 6 回 **項目** 宋元の演劇、そして芸能 (1) **内容** 少数民族の社会は漢字に頼らない物語の世界だった。
- 第 7 回 **項目** 宋元の演劇、そして芸能 (2) **内容** 都市の住民は、芸能を生産し、消費した。
- 第 8 回 **項目** 宋元の文字テキストの変容 (1) **内容** 歴史が口語に翻訳され出版されるようになっていく。それはなぜ、かつどのように？
- 第 9 回 **項目** 宋元の文字テキストの変容 (2) **内容** 語られていたはずの芸能が文字テキストになっていく。それは一体何のために？
- 第 10 回 **項目** 小説の誕生 (1) **内容** 15 世紀、虚構の物語が、書かれたテキストとして陸続と現れた。一体なぜ？
- 第 11 回 **項目** 小説の誕生 (2) **内容** 誕生した小説は他のジャンルとどこが違う？なぜ、読者に歓迎された？
- 第 12 回 **項目** 近代的小説へ向かって (1) **内容** 小説という形式は、西欧のそれに似た方向へと向かっていった。どのようにして？
- 第 13 回 **項目** 近代的小説へ向かって (2) **内容** 近代へ向かうかに見えた中国の小説は、結局西欧の翻訳に取って代わられた。なぜ？
- 第 14 回 **項目** まとめ (1) **内容** 欧米、あるいは日本の小説の歴史と比較して考えてみよう。

第15回 項目 まとめ(2) 内容 中国人が今古典をどのようにとらえ、未来へ向かおうとしているのかを考える。

●教科書・参考書 教科書：中国の英雄豪傑を読む，鈴木陽一編，大修館，2002年；『中国の英雄豪傑を読む』（大修館）、プリント／参考書：『歴史と文学の境界』（勁草書房）、『金庸は語る——中国武俠小説の魅力』（御茶の水書房）、『中国四大奇書を読む』（和泉書房）、『三国志演義の世界』（東方書店）、『新しい中国文学史』（ミネルヴァ書房）、『中国小説史略上・下』（平凡社・東洋文庫）

●メッセージ 『史記』、志怪、伝奇、小説などの作品が、岩波文庫、平凡社の「中国古典 文学大系」と「東洋文庫」に収められています。是非面白そうなものを読んで下さい。

●連絡先・オフィスアワー suzuki02@kanagawa-u.ac.jp

●備考 集中授業

開設科目	文学概論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官					

●備考 集中授業



開設科目	日本語学 III	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	磯部佳宏				

- 授業の概要** ～語彙 (1)～ 日本語の「語彙」について考察する。
- 授業の一般目標** 日本語の「語彙」に関する基礎知識を身に付けるとともに、「語彙」に関する諸問題について考える。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 日本語の「語彙」に関する基本的な知識が身に付いているかを判断する。 **思考・判断の観点**： 日本語の「語彙」に関する基本的な知識を使って、思考力を判断する。  
**関心・意欲の観点**： 授業に対しての取り組みを判断する。
- 授業の計画 (全体)** 日本語学の諸分野のうち、「語彙」に関する問題について取り扱う。
- 授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**
  - 第 1 回 **項目** 日本語学とは 日本語学の諸分野
  - 第 2 回 **項目** 語彙とは
  - 第 3 回 **項目** 語彙量 理解語彙と表現語彙
  - 第 4 回 **項目** 基本語彙と基礎語彙
  - 第 5 回 **項目** 語種による語彙の類別
  - 第 6 回 **項目** 語種の利用率
  - 第 7 回 **項目** 和語 (1)
  - 第 8 回 **項目** 和語 (2)
  - 第 9 回 **項目** 混種語
  - 第 10 回 **項目** 和語と漢語
  - 第 11 回 **項目** 漢語の種類と歴史 (1)
  - 第 12 回 **項目** 漢語の種類と歴史 (2)
  - 第 13 回 **項目** 和製漢語 (1)
  - 第 14 回 **項目** 和製漢語 (2)
  - 第 15 回 **項目** テスト
- 成績評価方法 (総合)** 期末試験を主たる評価の対象とする。 毎回、授業時に用紙を配布し、出席の確認を兼ねて、指示する内容について記入してもらおう。
- 教科書・参考書** 教科書： 日本語概説, 加藤彰彦他, おうふう, 1989 年； 日本語史, 沖森卓也, おうふう, 1989 年； (2) は昨年度、「日本語史」の授業で使用したものを継続使用。 教科書は生協で取り扱う。

開設科目	日本語学 IV	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	磯部佳宏				
<p>●<b>授業の概要</b> ～語彙 (2)～ 日本語の「語彙」について考察する。</p> <p>●<b>授業の一般目標</b> 日本語の「語彙」に関する基礎知識を身に付けるとともに、「語彙」に関する諸問題について考える。</p> <p>●<b>授業の到達目標</b>／<b>知識・理解の観点</b>：日本語の「語彙」に関する基本的な知識が身に付いているかを判断する。<b>思考・判断の観点</b>：日本語の「語彙」に関する基本的な知識を使って、思考力を判断する。<b>関心・意欲の観点</b>：授業に対する取り組みを判断する。</p> <p>●<b>授業の計画 (全体)</b> 日本語学の諸分野のうち、「語彙」に関する問題について取り扱う。</p> <p>●<b>授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等</b></p> <p>第 1 回 項目 洋語流入の歴史 (1)</p> <p>第 2 回 項目 洋語流入の歴史 (2)</p> <p>第 3 回 項目 和製英語</p> <p>第 4 回 項目 日本語と外国語</p> <p>第 5 回 項目 外来語の表記 (1)</p> <p>第 6 回 項目 外来語の表記 (2)</p> <p>第 7 回 項目 位相</p> <p>第 8 回 項目 現代語の位相</p> <p>第 9 回 項目 歴史的位相語</p> <p>第 10 回 項目 語構成による語彙の類別</p> <p>第 11 回 項目 和語の造語形式</p> <p>第 12 回 項目 合成に伴う音声現象</p> <p>第 13 回 項目 漢語の語構成</p> <p>第 14 回 項目 洋語の借用方式</p> <p>第 15 回 項目 テスト</p> <p>●<b>成績評価方法 (総合)</b> 期末試験を主たる評価の対象とする。毎回、授業時に用紙を配布し、出席の確認を兼ねて、指示する内容について記入してもらおう。</p> <p>●<b>教科書・参考書</b> 教科書：日本語概説, 加藤彰彦他, おうふう, 1989 年；日本語史, 沖森卓也, おうふう, 1989 年；(2) は昨年度、「日本語史」の授業で使用したものを継続使用。教科書は生協で取り扱う。</p>					

開設科目	日本語史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	添田建治郎				

- 授業の概要** 日本語の音韻史をたどって、日本語の特徴の理解を深める。／**検索キーワード** 音韻変化、音節構造の特徴、日本語音韻史
- 授業の一般目標** 日本語の上代～近世にわたる音韻史を学ぶことを通じて、日本語の特徴を理解する。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：日本語の上代～近世にわたる音韻史を学ぶ。**思考・判断の観点**：日本語の特徴を分析・理解する。**関心・意欲の観点**：日本語の意義・価値について再認識する。
- 授業の計画（全体）** 音韻史の資料、音韻変化の分類、日本語の音韻の歴史的変化の足取りを10数項目について述べる。例えば、ア行のeとヤ行のj e，ア行のoとワ行のw o，ア行のiとワ行のw i，ア行のeとワ行のw e，ハ行音の音価など。
- 成績評価方法（総合）** 定期試験，質問カード，出席。
- 教科書・参考書** 教科書：使用せず。適宜プリントを配布する。／参考書：中田祝夫『講座国語史2音韻史』（大修館書店）
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室：人文学部5階 オフィスアワー火曜日 10:00～12:00

開設科目	日本語史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	添田建治郎				

- 授業の概要** 日本語の音韻史をたどって、日本語の特徴についての理解を深める。／**検索キーワード** 音韻変化, 音節構造の特徴, 日本語音韻史
- 授業の一般目標** 日本語の上代～近世にわたる音韻史を学ぶことを通じて、日本語の特徴を理解する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：日本語の上代～近世にわたる音韻史を学ぶ。 **思考・判断の観点**：日本語の特徴を分析・理解する。 **関心・意欲の観点**：日本語の意義・価値について再認識する。
- 授業の計画（全体）** 音韻史の資料, 音韻変化の分類, 日本語の音韻の歴史的变化の足取りを10数項目について述べる。例えば, ハ行転呼, 上代特殊仮名遣い, 濁音の確立, タ行音の音価, サ行音の音価, 拗音と連声, 音便現象など。
- 成績評価方法（総合）** 定期試験, 質問カード, 出席
- 教科書・参考書** 教科書：使用しない。適宜プリントを配布する。／参考書：中田祝夫『講座国語史2 音韻史』（大修館書店）
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室：人文学部5階, オフィスアワー：火曜日 10:00～12:00

開設科目	日本語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官					

- 授業の概要** 日本語の形成過程やその特徴を考えながら，方言研究の意義を明らかにする。／**検索キーワード** 方言の形成，方言研究の意義
- 授業の一般目標** 日本語の方言とは何か，その特徴・意義を考える。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：日本語の方言の形成，変化，特徴について理解を深める。**思考・判断の観点**：日本語の方言についての分析視点を獲得する。**関心・意欲の観点**：日本語の方言の意義を再認識する。
- 授業の計画（全体）** 方言の概念規定，方言の意義，方言研究の意義，方言形成の要因などについて述べる。
- 成績評価方法（総合）** 定期試験，質問カード，出席
- 教科書・参考書** 教科書：佐田智明他『新しい国語学』（朝倉書店）／参考書：平山輝男『日本の方言』（講談社現代新書）
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室：人文学部5階 オフィスアワー：火曜日 10:00～12:00

開設科目	日本語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	林伸一				

●**授業の概要** 日本語教授法の一つとして考えた構成的グループ・エンカウンターについて体験的に理解する。実施の手順、留意点、効果などについて検討する。特にインストラクションの進め方、シェアリングのまとめかたなどについて、実際場面に近づけた形で実施しながら、授業参加者同士でディスカッションする。日本語教師になるための資質についても検討し、解説を加える。特に「言語と文化」の中では異文化間理解、「言語と教育」の分野では、第二言語習得の問題、「言語と心理」の中ではカウンセリングの分野を重点的に扱う。／**検索キーワード** 参加、体験、振り返り

●**授業の一般目標** 1、授業参加者間の人間関係・リレーションづくりを大切にする。2、授業を通しての自己理解、他者理解、相互理解を促進する。3、日本語教師・国語教師の役割と心構えなど教師論について考える。4、日本語を教えるとは、どういう意味をもつのかを検討する。5、適切なエクササイズを進め方、実施方法について考える。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1、構成的グループ・エンカウンターとは何か説明できる。2、人間関係づくり・リレーションづくりの大切さを体験的に理解する。**思考・判断の観点**：1、「言語と文化」の関係について考える。2、「言語と教育」の関係について考える。3、「言語と心理」の関係について考える。**関心・意欲の観点**：1、外国人に日本語を教えることに関心と意欲をもつ。2、日本人同士の中にある異文化に関心と興味をもつ。3、異文化とのコミュニケーションに意欲と関心をもつ。**態度の観点**：1、恥ずかしがらずに自己開示する。2、他者理解につとめ、他者を尊重する。**技能・表現の観点**：1、他者の立場を尊重しながらも、自己主張する。2、自分の考えを率直に簡潔に言い、書ける。3、適切な質問力を身につける。

●**授業の計画（全体）** 上記の目標達成のため実習を中心に授業を進め、関連するエクササイズを参加体験型で実施する。シェアリングを通して、認知の修正、拡大をはかる。各回ごとに「ふりかえりシート」に記入し、質問があれば答えるようにする。

●**成績評価方法（総合）** 主に授業内レポートと学期末レポートおよび出席により評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：未定／参考書：未定

●**メッセージ** 教員志望者、留学生の参加を歓迎する。

●**連絡先・オフィスアワー** 人文学部 2 階 210-2 号室、オフィスアワー：木曜 11 時～12 時 E-mail: hayashix@yamaguchi-u.ac.jp 携帯：090-6415-8203

開設科目	日本語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	林伸一				

●**授業の概要** 前期授業に準ずる。ただし、構成的グループ・エンカウンターを次の点で応用することを検討する。留学生支援の可能性、異文化間理解の可能性、キャリア教育の可能性など。日本語教師としての自己理解、他者理解、相互理解のためのエクササイズ開発の可能性についても検討する。ソーシャル・スキル・トレーニングと構成的グループエンカウンターの違いについても考える。／**検索キーワード** 参加、体験、振り返り、分かち合い

●**授業の一般目標** 1、異文化間理解に役立つエンカウンター・エクササイズを実施し、検討する。2、キャリア教育に役立つエンカウンター・エクササイズを実施し、検討する。3、ソーシャル・スキル・トレーニングとエンカウンター・エクササイズの違いを理解する。4、ペアワークの可能性とインタビューにおける質問力について検討する。5、その他

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1、内なる異文化：地域差、男女差、年齢差などについて理解する。2、生涯発達論の観点から、キャリア・デザインを考える。**思考・判断の観点**：1、類義語や類似表現について違いを考える。2、カタカナ語とその言い換え語について、その差異を考える。**関心・意欲の観点**：1、身の回りの日本語表現についての関心を高める。2、微妙なニュアンスの違いなどについて、調べてみる意欲をもつ。**態度の観点**：1、わからないことをそのままにしておかないで、積極的に調べたり、聞いたりする態度を形成する。2、授業内容に集中する態度を形成する。**技能・表現の観点**：1、他者理解のための質問力を身につける。2、他者の立場を尊重しながらも、自己主張できるようにする。

●**授業の計画（全体）** 上記の目標達成のために対話的な授業を行なう。参加体験型のコミュニケーション重視の授業を実施する。

●**成績評価方法（総合）** 出席、レポートを重視し、テストは行なわない。

●**教科書・参考書** 教科書：未定／参考書：未定

●**メッセージ** 日本語教師志望者、留学生の参加を歓迎する。他学科、他コースの学生の参加を歓迎する。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室：人文学部2階210-2号室、オフィスアワー：木曜11時～12時 E-mail: hayashix@yamaguchi-u.ac.jp 携帯：090-6415-8203

開設科目	日本語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	磯部佳宏				

- 授業の概要** ～待遇表現 (1)～ 日本語の「待遇表現」について、現代語を中心に考察する。
- 授業の一般目標** 日本語の「待遇表現」に関する基礎知識を身に付けるとともに、「待遇表現」に関する諸問題について考える。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：日本語の「待遇表現」に関する基本的な知識が身に付いているかを判断する。**思考・判断の観点**：日本語の「待遇表現」に関する基本的な知識を使って、思考力を判断する。**関心・意欲の観点**：授業に対する取り組みを判断する。
- 授業の計画 (全体)** 諸外国語と比較した日本語の特徴として、よく「敬語」の複雑さが話題となるが、この授業では「敬語」を「待遇表現」の一部として扱い、その性格について、現代語の場合を中心に、日本語史的な観点も取り入れながら考察を加える。
- 授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**
  - 第 1 回 項目 待遇表現とは
  - 第 2 回 項目 待遇表現の種類
  - 第 3 回 項目 敬語と待遇表現
  - 第 4 回 項目 人称代名詞
  - 第 5 回 項目 人物の呼称 (1)
  - 第 6 回 項目 人物の呼称 (2)
  - 第 7 回 項目 現代敬語の性格 (1)
  - 第 8 回 項目 現代敬語の性格 (2)
  - 第 9 回 項目 敬語の持つ効果
  - 第 10 回 項目 敬語の分類 (1)
  - 第 11 回 項目 敬語の分類 (2)
  - 第 12 回 項目 敬語の分類 (3)
  - 第 13 回 項目 美化語とは (1)
  - 第 14 回 項目 美化語とは (2)
  - 第 15 回 項目 テスト
- 成績評価方法 (総合)** 期末試験を主たる評価の対象とする。毎回、授業時に用紙を配布し、出席の確認を兼ねて、指示する内容について記入してもらう。
- 教科書・参考書** 教科書：特定の教科書は使用しない。



開設科目	日本語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	磯部佳宏				

- 授業の概要** ～待遇表現 (2)～ 日本語の「待遇表現」について、現代語を中心に考察する。
- 授業の一般目標** 日本語の「待遇表現」に関する基礎知識を身に付けるとともに、「待遇表現」に関する諸問題について考える。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：日本語の「待遇表現」に関する基本的な知識が身についているかを判断する。**思考・判断の観点**：日本語の「待遇表現」に関する基本的な知識を使って、思考力を判断する。**関心・意欲の観点**：授業に対する取り組みを判断する。
- 授業の計画 (全体)** 諸外国語と比較した日本語の特徴として、よく「敬語」の複雑さが話題となるが、この授業では「敬語」を「待遇表現」の一部として扱い、その性格について、現代語の場合を中心に、日本語史的な観点も取り入れながら考察を加える。
- 授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**
  - 第 1 回 項目 美化語の形式 (1)
  - 第 2 回 項目 美化語の形式 (2)
  - 第 3 回 項目 接頭辞 {お}「ご」の用法 (1)
  - 第 4 回 項目 接頭辞 {お}「ご」の用法 (2)
  - 第 5 回 項目 準敬語とは
  - 第 6 回 項目 丁寧語の用法 (1)
  - 第 7 回 項目 丁寧語の用法 (2)
  - 第 8 回 項目 尊敬語の用法 (1)
  - 第 9 回 項目 尊敬語の用法 (2)
  - 第 10 回 項目 謙譲語の用法 (1)
  - 第 11 回 項目 謙譲語の用法 (2)
  - 第 12 回 項目 丁寧語とは
  - 第 13 回 項目 問題となる敬語表現 (1)
  - 第 14 回 項目 問題となる敬語表現 (2)
  - 第 15 回 項目 テスト
- 成績評価方法 (総合)** 期末試験を主たる評価の対象とする。毎回、授業時に用紙を配布し、出席の確認を兼ねて、指示する内容について記入してもらう。
- 教科書・参考書** 教科書：特定の教科書は使用しない。随時、補助プリントを使用する。

開設科目	日本語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	友定賢治				

●**授業の概要** 本授業では、方言研究の中で未開拓分野である「習得と運用」を取り上げる。まず習得の様相を説明する。次に方言と共通語の運用の実態を分析し、それぞれがコミュニケーションにおいてどのように機能しているかを考察する。／**検索キーワード** 方言、共通語、習得と運用

●**授業の一般目標** 1) 方言と共通語の習得と運用に関する研究課題を理解し、関心をもつ。 2) コミュニケーションにおける方言と共通語のはたらきを理解し、関心をもつ。

●**授業の計画（全体）** 1) 言語運用の研究、言語習得研究に注目する必要性を説明する。 2) 方言習得の場を5つ設定し、具体的な様相を説明する。 3) 方言運用の様相を3つのケースで分析していく。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** 方言研究の新視点 **内容** 方言研究史からの問題点と新視点の提示
- 第 2 回 **項目** 方言研究の未開拓分野 **内容** 習得と運用の研究
- 第 3 回 **項目** 方言と共通語の習得の場（1） **内容** 家庭
- 第 4 回 **項目** 方言と共通語の習得の場（2） **内容** 友人
- 第 5 回 **項目** 方言と共通語の習得の場（3） **内容** 学校
- 第 6 回 **項目** 方言と共通語の習得の場（4） **内容** 地域
- 第 7 回 **項目** 方言と共通語の習得の場（5） **内容** 移住
- 第 8 回 **項目** 方言と共通語の運用（1） **内容** ベビートーク（1）
- 第 9 回 **項目** 方言と共通語の運用（2） **内容** ベビートーク（2）
- 第 10 回 **項目** 方言と共通語の運用（3） **内容** 教室談話
- 第 11 回 **項目** 方言と共通語の運用（4） **内容** 新方言
- 第 12 回 **項目** 方言と共通語の運用（5） **内容** 関西弁の広がり（1）
- 第 13 回 **項目** 方言と共通語の運用（6） **内容** 関西弁の広がり（2）
- 第 14 回 **項目** コミュニケーションの現在 **内容** スピーチスタイルの多様性
- 第 15 回 **項目** まとめ

●**成績評価方法（総合）**（1）授業内レポートを行う。（2）関心ある習得と運用についてのレポートを2000字程度で作成し提出する。（3）グループ討議を発表してもらう。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

●**備考** 集中授業

開設科目	日本語学講読	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官					

- 授業の概要** 万葉集の巻八～十所収の歌を対象に、万葉仮名で表記された本文の訓読に関して、従来の訓読説と新しく出た注釈書の訓みとを比較しながらその当否を考える。／**検索キーワード** 万葉仮名, 訓読, 古辞書
- 授業の一般目標** 古辞書の意義を理解しその活用方法に習熟しつつ、上代～中古の仮名文献から類例を検索して、万葉仮名で表記された歌謡本文の訓読についての従来説の再検討を試みる。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：古辞書の意義を理解しその活用方法に習熟する。 **思考・判断の観点**：古辞書の記述と類例とを対照させそれらを分析しながら、万葉仮名で表記された歌謡本文のあるべき訓読を考察する。 **関心・意欲の観点**：各歌の歌謡本文における万葉仮名表記の意図を考える。
- 授業の計画（全体）** 万葉集の巻八～十所収の歌の訓読に関して、受講者各自が、従来の訓読説と新しく出た注釈書の訓みとに相違のある箇所を探し、その当否を考える。
- 成績評価方法（総合）** 質問票, 出席, レポートの内容
- 教科書・参考書** 教科書：佐竹昭広他『万葉集本文篇』（塙書房）
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室：人文学部5階 オフィスアワー：火曜日 10:00～12:00

開設科目	日本語学講読	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	林伸一				

●**授業の概要** 一方的な講義形式ではなく、テーマごとに参加者の発表形式で進めていく。日本語教師または国語教師としての教育実習のリハーサルになるような発表を試みる。

●**授業の一般目標** 1、先輩の研究論文を先行研究として読み解いていく。2、すでに発表された論文でも批判的に読む。3、プレゼンテーションのしかたを体験的に学ぶ。4、フィードバックのしかたを体験的に学ぶ。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1、引用のしかたを学ぶ 2、参考文献の提示のしかたを学ぶ **思考・判断の観点**：1、先行研究を基に自論を展開できるようにする 2、先行研究を鵜呑みにするのではなく批判的に読む **関心・意欲の観点**：1、自分の関心のある分野でレポートを書いてみる 2、振り返りを意欲的に実行する **技能・表現の観点**：1、板書の仕方を工夫する 2、ハンドアウトの作り方を工夫し、わかりやすくする 3、パネルの提示の仕方を工夫する

●**授業の計画（全体）** 上記の目標達成のために対話的に授業を進めていく。分担者が発表し、参加が検討を加えていく。

●**成績評価方法（総合）** 出席とレポートを重視し、テストはしない。いちいち観点別評価はしない。

開設科目	日本語学講読	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	林伸一				

- 授業の概要** 日本語教育を異文化コミュニケーションの現場としてとらえ直すことによって、他者とのかわり方や自分自身のコミュニケーションスタイルなどについての「自己」への気づきを促す。／**検索キーワード** 自己理解、他者理解、異文化理解
- 授業の一般目標** 1、異文化とは何かを考える。 2、自分とは何かを考える。 3、イメージとステレオタイプについて考える。 4、人と出会うということについて考える。 5、人とコミュニケーションすることについて考える。 6、非言語コミュニケーションについて考える。 7、価値観の相違を考える。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 1、文化とは何か、異文化とは何かについて理解する 2、ジョハリの窓について知識と理解を深める **思考・判断の観点**： 1、ステレオタイプを崩していく 2、出会いと人生のドラマ **関心・意欲の観点**： 1、言語的コミュニケーションへの関心と意欲 2、非言語コミュニケーションへの関心と意欲 **態度の観点**： 1、価値観が違う者への態度 2、多文化共生社会への態度 **技能・表現の観点**： 1、自己開示、自己表現、自己主張能力 2、質問力
- 授業の計画（全体）** 上記目標を達成するために対話的な授業を行なう。テキストの章ごとの発表をする。
- 成績評価方法（総合）** 出席、発表、レポートを重視し、テストは行なわない。
- 教科書・参考書** 教科書：多文化共生のコミュニケーション、徳井厚子、アルク、2002年；授業初日割引購入できる／参考書：多文化共生時代の日本語教育、縫部義憲、瀝々社、2002年
- メッセージ** 日本語教師志望者、外国人留学生歓迎
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室：人文学部2階210-2号室、オフィスアワー：11時～12時 E-mail: hayashix@yamaguchi-u.ac.jp 携帯：090-6415-8203

開設科目	日本語学講読	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	磯部佳宏				

●**授業の概要** ～古文の文法～ 主として高校生や大学教養向けに執筆された古典文法のテキストの、「助動詞」「助詞」について説明された箇所を演習形式で購読する。

●**授業の一般目標** 古典語の「助動詞」「助詞」について、自発的に問題提起をし、調査発表をする。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：問題点の設定と取り組み。**思考・判断の観点**：発表資料のまとめ方。**関心・意欲の観点**：質疑応答への参加度。**技能・表現の観点**：口頭発表における技術、表現。

●**授業の計画（全体）** テキストにより提起されている問題点や、テキストとは異なる立場の学説などについて、調査を行い、資料を作成して口頭発表してもらう。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

第 1 回 項目 授業ガイダンス（1）

第 2 回 項目 授業ガイダンス（2）

第 3 回 項目 演習形式による発表（1）

第 4 回 項目 演習形式による発表（2）

第 5 回 項目 演習形式による発表（3）

第 6 回 項目 演習形式による発表（4）

第 7 回 項目 演習形式による発表（5）

第 8 回 項目 演習形式による発表（6）

第 9 回 項目 演習形式による発表（7）

第 10 回 項目 演習形式による発表（8）

第 11 回 項目 演習形式による発表（9）

第 12 回 項目 演習形式による発表（10）

第 13 回 項目 演習形式による発表（11）

第 14 回 項目 演習形式による発表（12）

第 15 回 項目 まとめ

●**成績評価方法（総合）** 授業時の口頭発表。 質疑応答への参加度。 テキストの例文の現代語訳。 期末レポート。（口頭発表が2度の場合は実施しない）

●**教科書・参考書** 教科書：古文の文法, 馬淵和夫, 武蔵野書院；テキストは現在絶版のため、プリント配布。

開設科目	日本語学講読	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	磯部佳宏				

●**授業の概要** ～古文の文法～ 主として高校生や大学教養向けに執筆された古典文法のテキストの、「助動詞」「助詞」について説明された箇所を演習形式で購読する。

●**授業の一般目標** 古典語の「助動詞」「助詞」について、自発的に問題提起をし、調査発表をする。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：問題点の設定と取り組み。**思考・判断の観点**：発表資料のまとめ方。**関心・意欲の観点**：質疑応答への参加度。**技能・表現の観点**：口頭発表における技術、表現。

●**授業の計画（全体）** テキストにより提起されている問題点や、テキストとは異なる立場の学説などについて、調査を行い、資料を作成して口頭発表してもらう。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 授業ガイダンス
- 第 2 回 項目 演習形式による発表（1）
- 第 3 回 項目 演習形式による発表（2）
- 第 4 回 項目 演習形式による発表（3）
- 第 5 回 項目 演習形式による発表（4）
- 第 6 回 項目 演習形式による発表（5）
- 第 7 回 項目 演習形式による発表（6）
- 第 8 回 項目 演習形式による発表（7）
- 第 9 回 項目 演習形式による発表（8）
- 第 10 回 項目 演習形式による発表（9）
- 第 11 回 項目 演習形式による発表（10）
- 第 12 回 項目 演習形式による発表（11）
- 第 13 回 項目 演習形式による発表（12）
- 第 14 回 項目 演習形式による発表（13）
- 第 15 回 項目 まとめ

●**成績評価方法（総合）** 授業時の口頭発表。 質疑応答への参加度。 テキストの例文の現代語訳。 期末レポート。（口頭発表が2度の場合は実施しない）

●**教科書・参考書** 教科書：古文の文法, 馬淵和夫, 武蔵野書院；テキストは現在絶版のため、プリント配布。

開設科目	日本語学演習（4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	添田建治郎				

- 授業の概要** 4年生を対象とする卒業論文指導と臨地に行う方言実地調査をセットにした授業を実施する。  
／**検索キーワード** 卒業論文, 方言実地調査
- 授業の一般目標** 卒業論文の中間発表などの指導・助言を通じて卒業論文の完成を目指す。方言調査の意図を理解させ、方言調査票の作成、実地調査の体験、資料分析、記述方法の習得を目指す。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：卒業論文と方言調査の意義を理解させる。**思考・判断の観点**：論文構成力、方言資料の分析力を高める。**関心・意欲の観点**：自国の言語への関心を高める。
- 授業の計画（全体）** 卒業論文指導に関しては題目の発表会を、方言調査は兵庫県全域のアクセント調査を予定している。
- 成績評価方法（総合）** 発表や調査への取組を判断する。
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室：人文学部5階 オフィスアワー：火曜日 10:00～12:00



開設科目	日本語学講読	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官					

- 授業の概要** 前半は前期の継続。後半は『日本言語地図』に見られる方言地図の分布について、その分布形成の過程の解明を試みる。／**検索キーワード** 方言地図, 方言語史, 分布解釈
- 授業の一般目標** 方言地図の分布には、日本語のたどってきた縦の歴史が、横に平面に分布している。方言分布の解釈から、日本語の語史を明らかにする。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：日本語の歴史に関心を寄せ、日本語の再発見に繋げる。 **思考・判断の観点**：方言地図の分布をみて分布図を分析・解釈する能力を身につける。 **関心・意欲の観点**：自国の言語に対する理解を深める。
- 授業の計画（全体）** 各自が担当する地図を持ち寄り一人が一枚の地図を読む。
- 成績評価方法（総合）** 質問票, 出席, レポートの内容
- 教科書・参考書** 教科書：研究室所蔵の国立国語研究所編『日本言語地図』／参考書：徳川宗賢編『日本の方言地図』（中央公論社）
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室：人文学部5階 オフィスアワー：火曜日 10:00～12:00

開設科目	日本語学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	添田建治郎				

- 授業の概要** 狂言資料としての、鶯流の山口大学棲息堂文庫所蔵本を読む。中世日本語の語彙等の表記について考える。／**検索キーワード** 狂言, 鶯流, 中世日本語, 流派
- 授業の一般目標** 山口大学棲息堂文庫所蔵本の本文の表記の確認, 鶯流諸本の比較と他流派の本文との系統関係について考察する。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：中世日本語の語彙, 文法について考える。**思考・判断の観点**：鶯流諸本の比較と他流派の本文との系統関係について考える。**関心・意欲の観点**：自国の言語の歴史を考える。
- 授業の計画（全体）** 山口大学棲息堂文庫所蔵本の本文を一人1ページ宛て読み1課題を報告する。
- 成績評価方法（総合）** 質問票, 出席, レポートの内容
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室：人文学部5階 オフィスアワー：火曜日 10:00～12:00

開設科目	日本語学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	添田建治郎				

- 授業の概要** 狂言資料としての、鶯流の山口大学棲息堂文庫所蔵本を読む。中世日本語の語彙等の表記について考える。／**検索キーワード** 狂言, 鶯流, 中世日本語, 流派
- 授業の一般目標** 山口大学棲息堂文庫所蔵本の本文の表記の確認, 鶯流諸本の比較と他流派の本文との系統関係について考察する。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**: 中世日本語の語彙・文法について考える。**思考・判断の観点**: 鶯流諸本の比較と他流派の本文との系統関係について考える。**関心・意欲の観点**: 自国の言語の歴史について考える。
- 授業の計画 (全体)** 山口大学棲息堂文庫所蔵本の本文を一人1ページ宛て読み1課題を報告する。
- 成績評価方法 (総合)** 質問票, 出席, レポートの内容
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室: 人文学部5階 オフィスアワー火曜日 10:00 ~ 12:00

開設科目	日本語学演習（4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	添田建治郎				

●**授業の概要** 4年生を対象とする卒業論文指導と臨地に行う方言実地調査をセットにした授業を実施する。  
 ／**検索キーワード** 卒業論文, 方言実地調査

●**授業の一般目標** 卒業論文の意義などの指導・助言を通じて卒業論文の課題を決定する。調査の意図を理解させ、方言調査票の作成、実地調査の体験、資料分析、記述方法の習得を目指す

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：卒業論文と方言調査の意義を理解させる。**思考・判断の観点**：論文構成力、方言資料の分析力を高める。**関心・意欲の観点**：自国の言語に対する関心を高める。

●**授業の計画（全体）** 卒業論文指導に関しては中間発表会を、方言調査は兵庫県全域のアクセント調査を予定している。

●**成績評価方法（総合）** 発表や調査への取組を判断する。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室：人文学部5階 オフィスアワー：火曜日 10:00～12:00

開設科目	日本語学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	林伸一				

- 授業の概要** 卒業研究論文のテーマの立て方、研究計画書の書き方、目次の立て方、データの集め方などの実際の事例を検討しながら進めていく。／**検索キーワード** 文章力、質問力、表現力
- 授業の一般目標** 1、卒業研究のテーマの立て方を具体的に考える。 2、研究計画書を個々人が実際に書いてみる。 3、研究計画に沿って、目次を書いてみる。 4、データの集め方、先行研究の集め方を検討する。 5、データの整理の仕方、分析の仕方を検討する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 1、引用の仕方 2、図や表のタイトルのつけかた 3、参考文献の示し方 **思考・判断の観点**： 1、一般論と具体例を区別する 2、論理の展開に一貫性があるかどうかを考える 3、説得力のある文章を考える **関心・意欲の観点**： 1、自分の関心・意欲を明確にする 2、前向きに困難に対処する 3、目標を立てて動機付けする **態度の観点**： 1、積極的に授業に参加する 2、わからないことをそのままにしないで調べる 3、不明な点は質問する **技能・表現の観点**： 1、口頭での発表力をつける 2、図や表でわかりやすく表現する能力をつける 3、コンピューターを使いこなす
- 授業の計画（全体）** 上記の目標達成のため、授業を対話的に進める
- 成績評価方法（総合）** 授業内の質問感想カード：20% 期末の授業外レポート：20% 授業内での発表：20% 出席：20% 授業態度：20%
- 教科書・参考書** 教科書： 山口支部紀要, JALT, JECA, 2004 年／ 参考書： 齋藤孝（2003）『質問力』筑摩書房
- メッセージ** 日本人だからといって読み書き能力が十分とは限らない。しっかりした文章が書けるようになるろう。
- 連絡先・オフィスアワー** hayashix@yamaguchi-u.ac.jp 木曜日：3・4時限（2コマ目） 携帯：090-6415-8203

開設科目	日本語学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	林伸一				

●**授業の概要** 前期の概要に準ずるが、その発展として、卒業論文の内容の吟味に入り、文章記述に一貫性、整合性、説得力があるか否かを検討する。参加者も傍観的に見るのではなく、もし自分が書き手だったら、どう考え、どう書くか主体的に関わるようにする。／**検索キーワード** 文章力、説得力、質問力、表現力、発表力

●**授業の一般目標** 1、文章記述に一貫性、整合性、説得力があるかという視点から検討する。 2、文章記述に無駄や重複がないか、簡潔に書かれているかを検討する。 3、文章記述にわかりやすい適切な具体例が示されているか否かを検討する。 4、気づいたこと、感じたこと、考えたことを書き留める習慣を形成する。 5、参加者の前で資料に基づいて発表する力：プレゼンテーション能力をつける。

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：前期に同じ **思考・判断の観点**：前期に同じ **関心・意欲の観点**：前期に同じ **態度の観点**：前期に同じ **技能・表現の観点**：前期に同じ

●**授業の計画（全体）** 上記の目標達成のために、授業を対話的に進める。

●**成績評価方法（総合）** 前期に同じ

●**教科書・参考書** 教科書：未定／参考書：プリント配布

●**メッセージ** 興味、関心を形にする。

●**連絡先・オフィスアワー** hayashix@yamaguchi-u.ac.jp 木曜 11-12 時 携帯 090 - 6415-8203

開設科目	日本語学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	磯部佳宏				

●**授業の概要** ～平安後期文学の語法・語彙(1)～ 平安後期物語『堤中納言物語』を演習形式で講読し、その語法・語彙について考察する。

●**授業の一般目標** 平安後期文学の語法・語彙について、自発的に問題提起をし、調査発表をする。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：問題点の設定と取り組み。**思考・判断の観点**：発表資料のまとめ方。**関心・意欲の観点**：質疑応答への参加度。**技能・表現の観点**：口頭発表における技術、表現。

●**授業の計画(全体)** 当該作品の語法・語彙について調査するとともに、適宜、『源氏物語』『枕草子』などの平安中期の作品や、中世の作品の語法・語彙との比較も行い、資料を作成して口頭発表してもらう。

●**授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 授業ガイダンス (1)
- 第 2 回 項目 授業ガイダンス (2)
- 第 3 回 項目 授業ガイダンス (3)
- 第 4 回 項目 演習形式による発表 (1)
- 第 5 回 項目 演習形式による発表 (2)
- 第 6 回 項目 演習形式による発表 (3)
- 第 7 回 項目 演習形式による発表 (4)
- 第 8 回 項目 演習形式による発表 (5)
- 第 9 回 項目 演習形式による発表 (6)
- 第 10 回 項目 演習形式による発表 (7)
- 第 11 回 項目 演習形式による発表 (8)
- 第 12 回 項目 演習形式による発表 (9)
- 第 13 回 項目 演習形式による発表 (10)
- 第 14 回 項目 演習形式による発表 (11)
- 第 15 回 項目 まとめ

●**成績評価方法(総合)** 授業時の口頭発表。 質疑応答への参加度。 テキストの現代語訳。 期末レポート。  
(口頭発表が2度の場合は実施しない)

●**教科書・参考書** 教科書： 堤中納言物語, 塚原鉄雄編, 武蔵野書院, 1959 年 ; 教科書は生協で取り扱う。

開設科目	日本語学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	磯部佳宏				

●**授業の概要** ～平安後期文学の語法・語彙(2)～院政期成立の女流日記文学『讃岐典侍日記』を演習形式で講読し、その語法・語彙について考察する。

●**授業の一般目標** 平安後期文学の語法・語彙について、自発的に問題提起をし、調査発表をする。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：問題点の設定と取り組み。**思考・判断の観点**：発表資料のまとめ方。**関心・意欲の観点**：質疑応答への参加度。**技能・表現の観点**：口頭発表における技術、表現。

●**授業の計画(全体)** 当該作品の語法・語彙について調査するとともに、適宜、『源氏物語』『枕草子』などの平安中期の作品や、中世の作品の語法・語彙との比較も行い、資料を作成して口頭発表してもらう。

●**授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 授業ガイダンス (1)
- 第 2 回 項目 授業ガイダンス (2)
- 第 3 回 項目 演習形式による発表 (1)
- 第 4 回 項目 演習形式による発表 (2)
- 第 5 回 項目 演習形式による発表 (3)
- 第 6 回 項目 演習形式による発表 (4)
- 第 7 回 項目 演習形式による発表 (5)
- 第 8 回 項目 演習形式による発表 (6)
- 第 9 回 項目 演習形式による発表 (7)
- 第 10 回 項目 演習形式による発表 (8)
- 第 11 回 項目 演習形式による発表 (9)
- 第 12 回 項目 演習形式による発表 (10)
- 第 13 回 項目 演習形式による発表 (11)
- 第 14 回 項目 演習形式による発表 (12)
- 第 15 回 項目 まとめ

●**成績評価方法(総合)** 授業時の口頭発表。 質疑応答への参加度。 テキストの現代語訳。 期末レポート。  
(口頭発表が2度の場合は実施しない)

●**教科書・参考書** 教科書： 讃岐典侍日記, 石井文夫編, 勉誠社文庫 ; テキストは現在絶版のため、プリント配布。



開設科目	日本語学演習（4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	磯部佳宏				

- 授業の概要** ～卒論演習(1)～ 卒業論文作成のための具体的方法を習得するための演習。
- 授業の一般目標** 学生各自のテーマにより、卒業論文作成を目指す。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：日本語学に関する基本的な知識の確認。 **思考・判断の観点**：問題への取り組み方法。 **関心・意欲の観点**：自発的な研究意欲。 **技能・表現の観点**：資料の取り扱い方、参考文献の検索方法。
- 授業の計画（全体）** 日本語学に関する基本知識の確認や、資料の取り扱い方、参考文献の検索方法などの指導を行う。口頭による題目発表を実施する。
- 成績評価方法（総合）** 卒業論文に対する取り組みを評価する。
- 教科書・参考書** 教科書：テキストは使用しない。

開設科目	日本語学演習（4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	磯部佳宏				

- 授業の概要** ～卒論演習(2)～ 卒業論文作成のための具体的方法を習得するための演習。
- 授業の一般目標** 学生各自のテーマにより、卒業論文作成を目指す。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：日本語学に関する基本的な知識の確認。 **思考・判断の観点**：問題への取り組み方法。 **関心・意欲の観点**：自発的な研究意欲。 **技能・表現の観点**：資料の取り扱い方、参考文献の検索方法。
- 授業の計画（全体）** 日本語学に関する基本知識の確認や、資料の取り扱い方、参考文献の検索方法などの指導を行う。口頭による中間発表を実施するとともに、12,000字程度の中間レポートの提出を求める。
- 成績評価方法（総合）** 卒業論文に対する取り組みを評価する。
- 教科書・参考書** 教科書：テキストは使用しない。

開設科目	日本文学概論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	森野正弘				

●**授業の概要** 日本文学の孕む問題とその研究方法について、古典文学を対象に講述する。／**検索キーワード** 日本文学、古典文学、平安文学

●**授業の一般目標** 日本文学研究の基本的な概念や技法について習得し、研究・考察する力を養成する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：日本文学を研究するための知識を得ることができる。**思考・判断の観点**：日本文学作品を研究するうえで多面的な物の見方・考え方ができるようになる。**関心・意欲の観点**：日本文学作品に関連する事項について調査する意欲を高める。**態度の観点**：日本文学作品に提起されている問題を主体的に考え、自ら探究することができるようになる。

●**授業の計画（全体）** 授業は基本的には講義形式により、以下に掲げた通りに進行する。また、学習した内容に関する小テストを適宜実施する。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

第 1 回 項目 ことばが拓く空間としての文学

第 2 回 項目 日本文学の発生（1）

第 3 回 項目 日本文学の発生（2）

第 4 回 項目 ジャンルの問題（1）

第 5 回 項目 ジャンルの問題（2）

第 6 回 項目 伝承と信仰（1）

第 7 回 項目 伝承と信仰（2）

第 8 回 項目 話型（1）

第 9 回 項目 話型（2）

第 10 回 項目 話型（3）

第 11 回 項目 引用と準拠（1）

第 12 回 項目 引用と準拠（2）

第 13 回 項目 本文と成立（1）

第 14 回 項目 本文と成立（2）

第 15 回

●**成績評価方法（総合）** 期末試験と小テストによる。

●**教科書・参考書** 教科書：プリントを配布する。／参考書：授業時に紹介する。

●**メッセージ** 80%以上出席すること。

●**連絡先・オフィスアワー** 木曜日 7・8 時限

開設科目	日本文学概論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	森野正弘				

●**授業の概要** 日本文学の孕む問題とその研究方法について、古典文学を対象に講述する。／**検索キーワード** 日本文学、古典文学、平安文学

●**授業の一般目標** 日本文学研究の基本的な概念や技法について習得し、研究・考察する力を養成する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：日本文学を研究するための知識を得ることができる。**思考・判断の観点**：日本文学作品を研究するうえで多面的な物の見方・考え方ができるようになる。**関心・意欲の観点**：日本文学作品に関連する事項について調査する意欲を高める。**態度の観点**：日本文学作品に提起されている問題を主体的に考え、自ら探究することができるようになる。

●**授業の計画（全体）** 授業は基本的には講義形式により、以下に掲げた通りに進行する。また、学習した内容に関する小テストを適宜実施する。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 日本文学研究の 諸問題
- 第 2 回 項目 書誌学
- 第 3 回 項目 本文批評
- 第 4 回 項目 注釈と受容
- 第 5 回 項目 研究史（1）
- 第 6 回 項目 研究史（2）
- 第 7 回 項目 作者の誕生
- 第 8 回 項目 作家論と作品論
- 第 9 回 項目 作者の死
- 第 10 回 項目 語りと言説（1）
- 第 11 回 項目 語りと言説（2）
- 第 12 回 項目 テクスト論（1）
- 第 13 回 項目 テクスト論（2）
- 第 14 回 項目 文化のエクリチュール
- 第 15 回 項目 まとめ

●**成績評価方法（総合）** 期末試験と小テストによる。

●**教科書・参考書** 教科書：プリントを配布する。／参考書：授業時に紹介する。

●**メッセージ** 80%以上出席すること。

●**連絡先・オフィスアワー** 木曜日 7・8 時限

開設科目	日本文学史 V	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平野芳信				

●**授業の概要** 本年度は日本近代文学史を講述する。時間的な制約もあって、主として散文（小説）について多くの時間を割くことになるかと思うが、できるだけ、韻文（詩、短歌、漢詩、俳句）についても言及したいと思っている。以下、触れる予定の項目を挙げておく。ただし、その時々事情（たとえば、新資料の発見等々）によって、順序が変わったり取扱いの比重が増したりする可能性があることを、事前にお断りしておく。

●**授業の一般目標** 未曾有の変革期であった明治以降の近代という時代において、小説を中心とする文学というものが、我々日本人にとって、いかに重要な自己表現の手段であったかを、出来るだけ多くの作品を通して検証したい。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 黎明期の近代文学（1）
- 第 3 回 項目 黎明期の近代文学（2）
- 第 4 回 項目 「小説神髓」と『当世書生気質』のはざま—坪内逍 遥
- 第 5 回 項目 硯友社の文学
- 第 6 回 項目 紅露の時代（1）
- 第 7 回 項目 紅露の時代（2）
- 第 8 回 項目 『浮雲』の登場— 言文一致—（1）
- 第 9 回 項目 『浮雲』の登場— 言文一致—（2）
- 第 10 回 項目 鷗外の青春
- 第 11 回 項目 奇蹟の 1 年、樋口 一葉
- 第 12 回 項目 泉鏡花の世界
- 第 13 回 項目 徳富ブラザース— 蘇峰と蘆花
- 第 14 回 項目 自然主義の時代（1）— 『破戒』と『蒲団』—
- 第 15 回 項目 自然主義の時代（2）— 『破戒』と『蒲団』—

●**成績評価方法（総合）** 定期試験（中間・期末試験）＝70％ 授業態度や授業への参加度＝10％ 出席＝20％

●**教科書・参考書** 教科書：別冊国文学 近代文学史必携（学燈社）テキストは文栄堂で販売します。／参考書：追って指示します。

●**連絡先・オフィスアワー** 個人研究室 9 3 3－5 2 6 2 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー：火曜日 5. 6 時限

開設科目	日本文学史 VI	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	平野芳信				

●**授業の概要** 前期に引き続き日本近代文学史を講述する。あくまでも予定であるが、以下、言及する項目を 列挙しておく。

●**授業の一般目標** 未曾有の変革期であった明治以降の近代という時代において、小説を中心とする文学というものが、我々日本人にとって、いかに重要な自己表現の手段であったかを、出来るだけ多くの作品を通して検証したい。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回 項目 英文学者から作家 へー夏目漱石の登場へ

第 2 回 項目 鴎外の復活

第 3 回 項目 漱石の時代（1）

第 4 回 項目 漱石の時代（2）

第 5 回 項目 明治の終焉をめぐる

第 6 回 項目 大逆事件と大正文学

第 7 回 項目 芥川龍之介の世界

第 8 回 項目 白樺派の作家（1）

第 9 回 項目 白樺派の作家（2）

第 10 回 項目 谷崎潤一郎の世界

第 11 回 項目 プロレタリア文学 と芥川龍之介の死

第 12 回 項目 近代文学を継ぐ者

第 13 回 項目 新感覚派と昭和文学

第 14 回 項目 文学者と戦争

第 15 回 項目 戦後文学から現代文学へ

●**成績評価方法（総合）** 定期試験（中間・期末試験）＝70％ 授業態度や授業への参加度＝10％ 出席＝20％

●**教科書・参考書** 教科書：別冊国文学 近代文学史必携（学燈社）テキストは文栄堂で販売します。／参考書：追って指示します。

●**連絡先・オフィスアワー** 個人研究室 933-5262 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー：火曜日 5. 6時限

開設科目	日本文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平野芳信				

●**授業の概要** 今年度は現代文学について考えてみたいと思う。現代文学というのが、いったいつからはじまり、21世紀の今、どのような様相を呈しているかということ講義する予定である。このシラバスは、大学側の要請で2004年2月上旬を締切として、ウェブ上に入力することを義務づけられている。そしてこの講義を開始するのはそれから約8カ月後である。あらかじめお断りしておくが、現代文学を講ずる以上、いわば必然的に当初の予定はあくまでも予定ではない。この8カ月の間に発表された作品を素材にする必要性が生じた場合、事前の契約内容とは異なることを話題にするからである。

●**授業の一般目標** この講義の最大の目論見は、日本文学、文化の現在を切り取ることにある。ある意味で、アクロバティックな内容にしたいと思っている。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 現代文学の起源としての三島由紀夫 (1)
- 第2回 項目 現代文学の起源としての三島由紀夫 (2)
- 第3回 項目 現代文学の起源としての三島由紀夫 (3)
- 第4回 項目 三島文学の後継者 (1)
- 第5回 項目 三島文学の後継者 (2)
- 第6回 項目 三島文学の後継者 (3)
- 第7回 項目 80年代文学 (1)
- 第8回 項目 80年代文学 (2)
- 第9回 項目 80年代文学 (3)
- 第10回 項目 90年代文学 (1)
- 第11回 項目 90年代文学 (2)
- 第12回 項目 90年代文学 (3)
- 第13回 項目 現代文学の最前線 (1)
- 第14回 項目 現代文学の最前線 (2)
- 第15回 項目 現代文学の最前線 (3)

●**成績評価方法（総合）** 定期試験（中間・期末試験）＝70％ 授業態度や授業への参加度＝10％ 出席＝20％

●**教科書・参考書** 教科書：毎回プリントを配布する。／参考書：適宜、紹介する。

●**連絡先・オフィスアワー** 個人研究室 933-5262 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー：火曜日5、6時限

開設科目	日本文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	森野正弘				

- 授業の概要** 平安時代における物語文学の代表的作品である『源氏物語』を読み解きつつ、そこに孕まれている問題について取りあげ、研究史のうえで営まれてきた読みについて検討を加える。／**検索キーワード** 文学、源氏物語
- 授業の一般目標** 古典文学について研究・考察する力を身につける。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：古典文学に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。**思考・判断の観点**：作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。**関心・意欲の観点**：自発的に古典文学を読み進め、関連する事項について調査する意欲を高める。**態度の観点**：古典文学に提起されている問題を主体的に考え、自ら探求することができるようになる。
- 授業の計画（全体）** 物語第2部の始まりとなる「若菜上・下」巻の中から主要な場面を取り上げ、それについてどのような研究がなされてきたかを紹介していく。なお、毎回授業の冒頭で予習・復習を兼ねた小テストを実施する。
- 成績評価方法（総合）** 期末試験と小テストによる。
- 教科書・参考書** 教科書：玉上琢弥訳注『源氏物語 第六巻』（角川ソフィア文庫）／参考書：授業時に紹介する。
- メッセージ** 80 パーセント以上の出席を条件とします。
- 連絡先・オフィスアワー** オフィスアワー：木曜日 7・8 時限



開設科目	日本文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尾崎千佳				

- 授業の概要** 【連歌俳諧史の諸問題】近世初期を主軸として、連歌から俳諧への変遷をたどり、その意義・その背景について考察する。室町期に最盛した連歌は、近世期に至り、形式はそのままに表現の方向性を転換させ、俳諧の成立・流行へと展開する。連歌と俳諧の両道に大成した西山宗因の問題を中心に、過渡期に模索された、伝統と革新のダイナミズムを探りたい。／**検索キーワード** 連歌、俳諧、西山宗因
- 授業の一般目標** 1. 連歌・俳諧という日本固有の韻文の特性を理解し、それぞれの文芸を的確に読解する力を養成する。 2. 研究上の問題設定のあり方の例に触れ、自らの卒業論文への備えとする。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1. 連歌・俳諧の各特性の理解に基づいた読解力を習得する。  
**思考・判断の観点**： 1. 研究上の問題設定のあり方を習得する。
- 授業の計画（全体）** 以下の4つのテーマに即して進める。 1. 連歌とは何か／俳諧とは何か 2. 連歌壇と俳壇と 3. 西山宗因とその時代 4. 宗因顕彰とその時代
- 成績評価方法（総合）** 主に期末テストによって評価する。4回の無断欠席でその受験資格を失う。
- 教科書・参考書** 教科書： 使用しない。／ 参考書： 授業時に適宜指示する。
- 連絡先・オフィスアワー** E-mail:ozaki@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文 508 オフィスアワー：火曜 14:30 — 16:00

開設科目	日本文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	小野美典				

- 授業の概要** 歌人であり且つ似絵の名手としても知られた藤原信実の手になる『今物語』は、全 53 話 という小品ながらも、貴族社会の風流譚・恋愛譚・滑稽譚等々、さまざまな説話を含み、文学史上でも特異な位置を占めた作品となっている。本講義では、この『今物語』の特質を紹介した上で、研究の現状と課題について講義を進めることにする。なお、授業形態は、テキストと資料プリント（講師の側で用意）を参照しながら、板書と口頭での説明を中心とした講義形式とする。／**検索キーワード** 今物語、藤原信実、中世、説話
- 授業の一般目標** 『今物語』を題材として、中世説話文学の特質を知ること为目标とする。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1.『今物語』の概要が説明できる。2.「説話文学」の特質を説明することができる。**思考・判断の観点**：授業で取り上げた章段の中世文学としての特色を説明することができる。**関心・意欲の観点**：他の説話文学への関心を広げることができる。
- 授業の計画（全体）** まず『今物語』の概要を説明する。「作者・成立・構成」の三点を中心に述べる。「作者」では、藤原信実の経歴を概説するとともに、作品の中に似絵の作者としての特質がどのように見られるかを考察したい。「成立」では、従来の研究の成果を中心に説明する。作品の作者を推定するのに、どのような方法があるかを実例に即して説明する。「構成」では、全章段の説話内容と配列構成の特色について解説する。次いで、具体的章段を取り上げて、中世の他の文学作品との関連を考察する。今回は、『平家物語』と関係する章段を中心に、他作品との影響関係を中心に考えていきたい。
- 成績評価方法（総合）** 前期の終了時におこなう「定期試験」で 80 %、「出席点」で 20 %。定期試験は、論述形式のペーパーテストである。
- 教科書・参考書** 教科書：『今物語全訳注』（三木紀人、講談社学術文庫、1998 年）／参考書：『（中世の文学）今物語・隆房集・東斎随筆』（久保田淳ほか、三弥井書店、1979 年）
- メッセージ** 江戸時代の版本や写本の実物にも触れてもらう。生の資料の迫力を感じ取って欲しい。

開設科目	日本文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	中原 豊				

●**授業の概要** 詩人中原中也の詩の特質を日本の近代詩の歴史の中で捉える。／**検索キーワード** 中原中也  
近代詩 詩

●**授業の一般目標** まずは詩の本質と表現の特徴を理解し、中原中也の作品の読解を通じて、中也の詩と詩想、およびその成立に関わった先行文学あるいは同時代の文学についての理解を深める。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 詩の表現の特色、および日本の近代詩の歴史の概略を理解する。  
**思考・判断の観点**： 言葉によって形成されるイメージについて自覚的になり、さらにそれを拡充していく。  
**関心・意欲の観点**： 進んで中原中也および他の詩人の詩を読もうとする。  
**技能・表現の観点**： 自身の抱くイメージを自分なりの言葉で表現できる。

●**授業の計画（全体）** 詩の本質について語った詩人の言葉を紹介し、日本の近代詩の歴史を概観した後に、中原中也の詩の特質の説明と読解を行う。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 詩とは何か
- 第 2 回 項目 日本の近代詩 I 内容 近代詩前史
- 第 3 回 項目 日本の近代詩 II 内容 新体詩
- 第 4 回 項目 日本の近代詩 III 内容 浪漫詩
- 第 5 回 項目 日本の近代詩 IV 内容 口語詩 1
- 第 6 回 項目 日本の近代詩 V 内容 口語詩 2
- 第 7 回 項目 日本の近代詩 VI 内容 モダニズム詩
- 第 8 回 項目 中原中也 I 内容 詩的履歴書・初期短歌
- 第 9 回 項目 中原中也 II 内容 ダダイズムと象徴主義
- 第 10 回 項目 中原中也 III 内容 『山羊の歌』の世界 1
- 第 11 回 項目 中原中也 IV 内容 『山羊の歌』の世界 2
- 第 12 回 項目 中原中也 V 内容 『在りし日の歌』の世界 1
- 第 13 回 項目 中原中也 VI 内容 『在りし日の歌』の世界 2
- 第 14 回 項目 おわりに 内容 中原中也と日本の近代詩
- 第 15 回 項目 予備

●**教科書・参考書** 教科書： 佐々木幹郎編『山羊の歌 中原中也詩集』『在りし日の歌 中原中也詩集』 角川文庫クラシックス／ 参考書： 嶋岡晨『詩とは何か』新潮選書

●**メッセージ** 講義で取り上げる詩を読んでおいてください。

●**連絡先・オフィスアワー** 中原中也記念館

開設科目	日本文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平野芳信				

●**授業の概要** 谷崎潤一郎『蓼喰ふ虫』を読む

●**授業の一般目標** 本年度の講読は、いわゆる「私小説」を読みます。「私小説」とは日本のある種の小説に對してつけられた呼称ですが、多くの誤解に満ち満ちています。その誤解解くべくじっくり読んでいきたいと思ひます。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 国語国文学研究室 および図書館における文献指導
- 第 3 回 項目 1. 作家論谷崎潤 一郎 2. 『蓼喰ふ虫』 成立の背景
- 第 4 回 項目 その一・二の精読
- 第 5 回 項目 その三・四の精読
- 第 6 回 項目 その五・六の精読
- 第 7 回 項目 その七・八の精読
- 第 8 回 項目 その九・十の精読
- 第 9 回 項目 その十一・十二の 精読
- 第 10 回 項目 その十三・十四の 精読
- 第 11 回 項目 先行研究論文精読 (1) (2)
- 第 12 回 項目 先行研究論文精読 (3) (4)
- 第 13 回 項目 先行研究論文精読 (5) (6)
- 第 14 回 項目 先行研究論文精読 (7) (8)
- 第 15 回 項目 先行研究論文精読 (9) (10)

●**成績評価方法（総合）** 宿題／授業外レポート = 40 % 授業態度や授業への参加度 = 10 % 受講者の発表（プレゼン）や授業内での製作作業（作品） = 40 % 出席 = 10 %

●**教科書・参考書** 教科書： 谷崎潤一郎『蓼喰ふ虫』（岩波文庫） テキストは文栄堂で販売します。／ 参考書： 追って指示します。

●**メッセージ** 講読日誌を作成していただきますので、ノートを 1 冊準備しておいてください。

●**連絡先・オフィスアワー** 個人研究室 9 3 3 - 5 2 6 2 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー： 火曜日 5. 6 時限

開設科目	日本文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平野芳信				

●**授業の概要** 大江健三郎『取り替え子 (チェンジリング)』を読む

●**授業の一般目標** 前期に引き続き、いわゆる「私小説」を読みます。「私小説」とは日本のある種の小説に對してつけられた呼称ですが、多くの誤解に満ち満ちています。その誤解を解くべくじっくり読んでいきたいと思ひます。

●**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 1. 作家論大江健三郎 2. 『取り替え子』成立の背景 —伊丹十三の死—
- 第 3 回 項目 序章 田亀のルールの精読
- 第 4 回 項目 第一章 Quarantine の百日 (一) の精読
- 第 5 回 項目 第二章 「人間、この壊れやすいもの」の精読
- 第 6 回 項目 第三章 テロルと痛風の精読
- 第 7 回 項目 第四章 Quarantine の百日 (二) の精読
- 第 8 回 項目 第五章 試みのスッポンの精読
- 第 9 回 項目 第六章 覗き見する人の精読
- 第 10 回 項目 終章 モーリス・センダックの絵本の精読
- 第 11 回 項目 先行研究論文精読
- 第 12 回 項目 先行研究論文精読
- 第 13 回 項目 先行研究論文精読
- 第 14 回 項目 先行研究論文精読
- 第 15 回 項目 先行研究論文精読

●**成績評価方法 (総合)** 宿題 / 授業外レポート = 40 % 授業態度や授業への参加度 = 10 % 受講者の発表 (プレゼン) や授業内での製作作業 (作品) = 40 % 出席 = 10 %

●**教科書・参考書** 教科書: 大江健三郎『取り替え子 (チェンジリング)』(講談社) テキストは文栄堂で販売する予定です。 / 参考書: 追って指示します。

●**メッセージ** 講読日誌を作成していただきますので、ノートを 1 冊準備しておいてください。

●**連絡先・オフィスアワー** 個人研究室 9 3 3 - 5 2 6 2 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー: 火曜日 5. 6 時限

開設科目	日本文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	森野正弘				

- 授業の概要** 『蜻蛉日記』の講読。／**検索キーワード** 文学、日記
- 授業の一般目標** 古典文学について研究・考察する力を身につける。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：古典文学に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。**思考・判断の観点**：作品に書かれた内容を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。**関心・意欲の観点**：自発的に古典文学を読み進め、関連する事項について調査する意欲を高める。**態度の観点**：古典文学に提起されている問題を主体的に考え、自ら探求することができるようになる。**技能・表現の観点**：考察した結果を文章や口頭で適切に表現できるようになる。
- 授業の計画（全体）** 『蜻蛉日記』の上巻から主要な場面を抜き出し、受講者に担当範囲として割り当てる。受講者は担当範囲についての注釈・現代語訳・鑑賞・問題点などを載せた資料を作成し、発表することになる。
- 成績評価方法（総合）** レジュメ・発表内容・質疑応答・レポートによる。
- 教科書・参考書** 教科書：柿本奨校注『蜻蛉日記』（角川文庫）／参考書：授業時に紹介する。
- 連絡先・オフィスアワー** オフィスアワー：木曜日 7・8 時限

開設科目	日本文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	森野正弘				

- 授業の概要** 『大鏡』の講読。／検索キーワード 文学、歴史物語
- 授業の一般目標** 古典文学について研究・考察する力を身につける。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：古典文学に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。**思考・判断の観点**：作品に書かれた内容を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。**関心・意欲の観点**：自発的に古典文学を読み進め、関連する事項について調査する意欲を高める。**態度の観点**：古典文学に提起されている問題を主体的に考え、自ら探求することができるようになる。**技能・表現の観点**：考察した結果を文章や口頭で適切に表現できるようになる。
- 授業の計画（全体）** 『大鏡』の中から主要な場面を抜き出し、受講者に担当範囲として割り当てる。受講者は担当範囲についての注釈・現代語訳・鑑賞・問題点などを載せた資料を作成し、発表することになる。
- 成績評価方法（総合）** レジュメ・発表内容・質疑応答・レポートによる。
- 教科書・参考書** 教科書：新編日本古典文学全集『大鏡』（小学館）／参考書：授業時に紹介する。
- 連絡先・オフィスアワー** オフィスアワー：木曜日 7・8 時限

開設科目	日本文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	尾崎千佳				

●**授業の概要** 【西鶴『好色五人女』八百屋お七を読む】『好色五人女』は、貞享三(1686)年に刊行された、西鶴浮世草子の五作目である。実際に起こった五組の男女の事件に取材したモデル小説ではあるが、西鶴は、古典作品を利用した縦横な文体を駆使し、創作をふんだんに盛り込んで、切なくもおもしろい恋物語に仕立てている。本演習では、巻四「恋草からげし八百屋物語」前半部により、八百屋お七の恋のゆくえを精読する。／**検索キーワード** 西鶴、浮世草子、『好色五人女』、八百屋お七

●**授業の一般目標** 1. 西鶴浮世草子作品を通して、近世文学読解の基本的あり方を習得する。 2. 西鶴浮世草子 作品を通して、中古中世文学の咀嚼の上に成る近世文学の醍醐味を感得する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1. 近世文学読解のための文献調査法の基礎を習得する。 **思考・判断の観点**： 1. 作品の主題を的確に把握できる。 **関心・意欲の観点**： 1. 調査結果に基づいた自らの解釈について適切に発表することができる。 **態度の観点**： 1. 他の参加者の解釈について積極的に意見を述べることができる。

●**授業の計画(全体)** 初回から第2回にかけて、底本の概要と発表資料作成上の注意点を講じる。第3回以降は、参加者全員が数行ずつ担当し、語注・解釈結果を発表のうえ、全員で討議する形式で行う。

●**授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 **項目** イントロダクション・概説(1) **内容** 『好色五人女』概説(1)・発表分担決定 **授業外指示** 教科書を購入しシラバスを読んでおくこと
- 第2回 **項目** 概説(2) **内容** 『好色五人女』概説(2)・発表資料作成の手引き **授業外指示** 配付プリントを読んでおくこと
- 第3回 **項目** 発表(1) **内容** 巻四―「大節季はおもひの闇」輪読(1) **授業外指示** 担当者は発表資料を準備し、担当者以外はテキストを熟読しておくこと
- 第4回 **項目** 発表(2) **内容** 巻四―「大節季はおもひの闇」輪読(2) **授業外指示** 担当者は発表資料を準備し、担当者以外はテキストを熟読しておくこと
- 第5回 **項目** 発表(3) **内容** 巻四―「大節季はおもひの闇」輪読(3) **授業外指示** 担当者は発表資料を準備し、担当者以外はテキストを熟読しておくこと
- 第6回 **項目** 発表(4) **内容** 巻四―「大節季はおもひの闇」輪読(4) **授業外指示** 担当者は発表資料を準備し、担当者以外はテキストを熟読しておくこと
- 第7回 **項目** 発表(5) **内容** 巻四―「大節季はおもひの闇」輪読(5) **授業外指示** 担当者は発表資料を準備し、担当者以外はテキストを熟読しておくこと
- 第8回 **項目** 発表(6) **内容** 巻四―「虫出しの神鳴もふんどし かきたる君様」輪読(1) **授業外指示** 担当者は発表資料を準備し、担当者以外はテキストを熟読しておくこと
- 第9回 **項目** 発表(7) **内容** 巻四―「虫出しの神鳴もふんどし かきたる君様」輪読(2) **授業外指示** 担当者は発表資料を準備し、担当者以外はテキストを熟読しておくこと
- 第10回 **項目** 発表(8) **内容** 巻四―「虫出しの神鳴もふんどし かきたる君様」輪読(3) **授業外指示** 担当者は発表資料を準備し、担当者以外はテキストを熟読しておくこと
- 第11回 **項目** 発表(9) **内容** 巻四―「虫出しの神鳴もふんどし かきたる君様」輪読(4) **授業外指示** 担当者は発表資料を準備し、担当者以外はテキストを熟読しておくこと
- 第12回 **項目** 発表(10) **内容** 巻四―「虫出しの神鳴もふんどし かきたる君様」輪読(5) **授業外指示** 担当者は発表資料を準備し、担当者以外はテキストを熟読しておくこと
- 第13回 **項目** 発表(12) **内容** 巻四―「虫出しの神鳴もふんどし かきたる君様」輪読(6) **授業外指示** 担当者は発表資料を準備し、担当者以外はテキストを熟読しておくこと
- 第14回 **項目** 発表(13) **内容** 巻四―「虫出しの神鳴もふんどし かきたる君様」輪読(7) **授業外指示** 担当者は発表資料を準備し、担当者以外はテキストを熟読しておくこと



第15回 項目 予備日

- 成績評価方法 (総合)** 担当の発表資料及び発表態度を最重視し、期末レポートとして発表資料の修正版提出を課す。試験は行わない。授業時の質疑も評価に加える。
- 教科書・参考書** 教科書：演習 好色五人女, 堀章男編, 和泉書院, 1985年；対訳西鶴全集 3 好色五人女・好色一代女, 麻生磯次・富士昭雄訳注, 明治書院, 1974年；『演習 好色五人女』は文栄堂山大前店で販売しているので必ず購入すること。対訳 西鶴全集については当該箇所をプリント配付する。／参考書：授業第2週時に配付プリント「発表資料作成の手引き」により指示する。
- メッセージ** 特に2年生諸君へ。講読への参加は大学生としての勉強の最初の一步です。敬遠したり遠慮している場合ではありません。まずは初回の授業に参加してみる事。「好色」という言葉の持つけしからぬ響きから自由になって、西鶴の文章手腕を存分に愉しんで欲しいと思います。
- 連絡先・オフィスアワー** E-mail:ozaki@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文 508 オフィスアワー：火曜 14:30—16:00

開設科目	日本文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尾崎千佳				

●**授業の概要** 【西鶴『好色五人女』八百屋お七を読む】『好色五人女』は、貞享三(1686)年に刊行された、西鶴浮世草子の五作目である。実際に起こった五組の男女の事件に取材したモデル小説ではあるが、西鶴は、古典作品を利用した縦横な文体を駆使し、創作をふんだんに盛り込んで、切なくもおもしろい恋物語に仕立てている。本演習では、巻四「恋草からげし八百屋物語」後半部により、八百屋お七の恋のゆくえを精読する。／**検索キーワード** 西鶴、浮世草子、『好色五人女』、八百屋お七

●**授業の一般目標** 1. 西鶴浮世草子作品を通して、近世文学読解の基本的あり方を習得する。 2. 西鶴浮世草子 作品を通して、中古中世文学の咀嚼の上に成る近世文学の醍醐味を感得する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1. 近世文学読解のための文献調査法の基礎を習得する。 **思考・判断の観点**： 1. 作品の主題を的確に把握できる。 **関心・意欲の観点**： 1. 調査結果に基づいた自らの解釈について適切に発表することができる。 **態度の観点**： 1. 他の参加者の解釈について積極的に意見を述べることができる。

●**授業の計画(全体)** 初回から第2回にかけて、底本の概要と発表資料作成上の注意点を講じる。第3回以降は、参加者全員が数行ずつ担当し、語注・解釈結果を発表のうえ、全員で討議する形式で行う。

●**授業計画(授業単位)**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第1回 **項目** イントロダクション・概説(1) **内容** 『好色五人女』概説(1)・発表分担決定 **授業外指示** 教科書を購入しシラバスを読んでおくこと
- 第2回 **項目** 概説(2) **内容** 『好色五人女』概説(2)・発表資料作成の手引き **授業外指示** 配付プリントを読んでおくこと
- 第3回 **項目** 発表(1) **内容** 巻四一三「雪の夜の情宿」輪読(1) **授業外指示** 担当者は発表資料を準備し、担当者以外はテキストを熟読しておくこと
- 第4回 **項目** 発表(2) **内容** 巻四一三「雪の夜の情宿」輪読(2) **授業外指示** 担当者は発表資料を準備し、担当者以外はテキストを熟読しておくこと
- 第5回 **項目** 発表(3) **内容** 巻四一三「雪の夜の情宿」輪読(3) **授業外指示** 担当者は発表資料を準備し、担当者以外はテキストを熟読しておくこと
- 第6回 **項目** 発表(4) **内容** 巻四一三「雪の夜の情宿」輪読(4) **授業外指示** 担当者は発表資料を準備し、担当者以外はテキストを熟読しておくこと
- 第7回 **項目** 発表(5) **内容** 巻四一三「雪の夜の情宿」輪読(5) **授業外指示** 担当者は発表資料を準備し、担当者以外はテキストを熟読しておくこと
- 第8回 **項目** 発表(6) **内容** 巻四一四「世に見をさめの桜」輪読(1) **授業外指示** 担当者は発表資料を準備し、担当者以外はテキストを熟読しておくこと
- 第9回 **項目** 発表(7) **内容** 巻四一四「世に見をさめの桜」輪読(2) **授業外指示** 担当者は発表資料を準備し、担当者以外はテキストを熟読しておくこと
- 第10回 **項目** 発表(8) **内容** 巻四一四「世に見をさめの桜」輪読(3) **授業外指示** 担当者は発表資料を準備し、担当者以外はテキストを熟読しておくこと
- 第11回 **項目** 発表(9) **内容** 巻四一四「世に見をさめの桜」輪読(4) **授業外指示** 担当者は発表資料を準備し、担当者以外はテキストを熟読しておくこと
- 第12回 **項目** 発表(10) **内容** 巻四一五「様子あつての俄坊主」輪読(1) **授業外指示** 担当者は発表資料を準備し、担当者以外はテキストを熟読しておくこと
- 第13回 **項目** 発表(12) **内容** 巻四一五「様子あつての俄坊主」輪読(2) **授業外指示** 担当者は発表資料を準備し、担当者以外はテキストを熟読しておくこと
- 第14回 **項目** 発表(13) **内容** 巻四一五「様子あつての俄坊主」輪読(3) **授業外指示** 担当者は発表資料を準備し、担当者以外はテキストを熟読しておくこと

第15回 項目 発表(14) 内容 卷四―五「様子あつての俄坊主」輪読(4) 授業外指示 担当者は発表資料を準備し、担当者 以外はテキストを熟読しておくこと

- 成績評価方法(総合) 担当の発表資料及び発表態度を最重視し、期末レポートとして発表資料の修正版提出を課す。試験は行わない。授業時の質疑も評価に加える。
- 教科書・参考書 教科書：演習 好色五人女, 堀章男編, 和泉書院, 1985年; 対訳西鶴全集3 好色五人女・好色一代女, 麻生磯次・富士昭雄訳注, 明治書院, 1974年; 『演習 好色五人女』は文栄堂山大前店で販売しているので必ず購入すること。対訳 西鶴全集については当該箇所をプリント配付する。／参考書：授業第2週時に配付プリント「発表資料作成の手引き」により指示する。
- メッセージ 前期で履修しなかった方も充分参加できます。「好色」という言葉の持つけしからぬ響きから自由になって、西鶴の文章手腕を存分に愉しんで欲しいと思います。
- 連絡先・オフィスアワー E-mail:ozaki@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文508 オフィスアワー：火曜14:30―16:00

開設科目	日本文学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平野芳信				

●**授業の概要** 明治以降の近代小説の代表的作品について、一種の共同研究・共同作業を行います。分担を決め、各自に作品それぞれの個性に応じて、テクスチュアル・クリティシズム、作家論、背景論、作品論、テキスト論等々を発表していただきます。

●**授業の一般目標** 端的に言えば、このゼミナールにおけるいろいろな作業を通じて、将来の卒業論文作成の具体的方法を体得していただくことを目標としています。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 作家中原中也研究（中也記念館見学）
- 第 3 回 項目 1、中原中也の生涯 2、『山羊の歌』『在りし日の歌』の成立と背景
- 第 4 回 項目 1、『山羊の歌』論 2、『在りし日の歌』論
- 第 5 回 項目 1、作家論幸田露伴 2、『五重塔』の成立と背景
- 第 6 回 項目 1、『五重塔』論 2、『五重塔』論
- 第 7 回 項目 1、作家論尾崎紅葉 2、『金色夜叉』の成立と背景
- 第 8 回 項目 1、作家論樋口一葉 2、『たけくらべ』の成立と背景
- 第 9 回 項目 1、『たけくらべ』論 2、『たけくらべ』論
- 第 10 回 項目 1、作家論島崎藤村 2、『破戒』の成立と背景
- 第 11 回 項目 1、『破戒』論 2、『破戒』論
- 第 12 回 項目 1、作家論 ? 2、『?』の成立と背景
- 第 13 回 項目 1、『?』論 2、『?』論
- 第 14 回 項目 1、作家論 ? 2、『?』の成立と背景
- 第 15 回 項目 1、『?』論 2、『?』論

●**成績評価方法（総合）** 宿題／授業外レポート = 50 % 授業態度や授業への参加度 = 10 % 受講者の発表（プレゼン）や授業内での製作作業（作品）= 30 % 出席 = 10 %

●**教科書・参考書** 教科書： 中原中也、文庫『山羊の歌』、角川書店 中原中也、文庫『在りし日の歌』、角川書店 幸田露伴、文庫『五重塔』、岩波書店 尾崎紅葉、文庫『金色夜叉』、新潮社 樋口一葉、文庫『にごりえ・たけくらべ』、新潮社 島崎藤村、文庫『破戒』、岩波書店「?」の回については、授業開始後受講生と相談の上、作品を決定いたします。なおテキストは全て文栄堂で販売しますので、各自購入しておくこと。／参考書：適宜、指示します。

●**連絡先・オフィスアワー** 個人研究室 9 3 3 - 5 2 6 2 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー：火曜日 5. 6 時限

開設科目	日本文学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平野芳信				

●**授業の概要** 明治以降の近代小説の代表的作品について、一種の共同研究・共同作業を行います。分担を決め、各自に作品それぞれの個性に応じて、テクスチュアル・クリティシズム、作家論、背景論、作品論、テキスト論等々を発表していただきます。

●**授業の一般目標** 端的にいえば、このゼミナールにおけるいろいろな作業を通じて、将来の卒業論文作成の具体的方法を体得していただくことを目標としています。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 1、作家論嘉村井 磯多 2、『業苦』の成立と背景
- 第 3 回 項目 1、『業苦』論涯 2、『業苦』論
- 第 4 回 項目 1、作家論折口信 夫論 2、『死者の書』の成立と背景
- 第 5 回 項目 1、『死者の書』論 2、『死者の書』論
- 第 6 回 項目 1、作家論宮沢賢 治 2、『銀河鉄道の夜』の成立と背景
- 第 7 回 項目 1、『銀河鉄道の夜』論 2、『銀河鉄道の夜』論
- 第 8 回 項目 1、作家論俵万智 2、『サラダ記念日』の成立と背景
- 第 9 回 項目 1、『サラダ記念日』論 2、『サラダ記念日』論
- 第 10 回 項目 1、作家論山田詠 美 2、『ベッドタイムアイズ』の成立と背景
- 第 11 回 項目 1、『ベッドタイムアイズ』論 2、『ベッドタイムアイズ』論
- 第 12 回 項目 1、作家論？ 2、『？』の成立と背景
- 第 13 回 項目 1、『？』論 2、『？』論
- 第 14 回 項目 1、作家論？ 2、『？』の成立と背景
- 第 15 回 項目 1、『？』論 2、『？』論

●**成績評価方法（総合）** 宿題／授業外レポート = 50 % 授業態度や授業への参加度 = 10 % 受講者の発表（プレゼン）や授業内での製作作業（作品） = 30 % 出席 = 10 %

●**教科書・参考書** 参考書：適宜指示します。

●**メッセージ** ?印のものについては、受講生と相談の上、取り上げる作品を決定します。

●**連絡先・オフィスアワー** 個人研究室 9 3 3 - 5 2 6 2 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー：火曜日 5. 6 時限

開設科目	日本文学演習（4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	平野芳信				

●**授業の概要** 卒業論文作成の直接的な指導、助言を行うための演習を実施します。

●**授業の一般目標** この演習を通して、ゼミ構成員各自が、卒業論文作成のための具体的な方法を体得していただきたい。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 大江加奈子 未定
- 第 3 回 項目 南里由美 遠藤周作 『私が・棄てた・女』
- 第 4 回 項目 朴 英順 中島敦作品 or 吉本ばなな作品
- 第 5 回 項目 福嶋理江 中山可穂作品 or 川端康成作品
- 第 6 回 項目 米田春香 未定
- 第 7 回 項目 中間まとめ
- 第 8 回 項目 題目提出のための 個別指導
- 第 9 回 項目 題目提出のための 個別指導
- 第 10 回 項目 題目提出のための 個別指導
- 第 11 回 項目 大江加奈子
- 第 12 回 項目 南里由美 遠藤周作 『私が・棄てた・女』
- 第 13 回 項目 朴 英順
- 第 14 回 項目 福嶋理江
- 第 15 回 項目 米田春香

●**成績評価方法（総合）** 授業態度や授業への参加度 = 30 % 受講者の発表（プレゼン）や授業内での製作作業（作品） = 30 % 演習 = 30 % 出席 = 10 %

●**教科書・参考書** 教科書：統一した教科書などは使用しません。／参考書：個別指導します。

●**メッセージ** 卒論のテーマは題目提出（6月末）までは変更可能です。ですからテーマは当然、仮のものです。発表の順番はあくまでも予定です。就職活動等々によって、変更があることを承知しておいてください。なお、4年生用の時間ですので、2、3年生は受講しないように。

●**連絡先・オフィスアワー** 個人研究室 933-5262 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー：火曜日5、6時限

開設科目	日本文学演習（4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	平野芳信				

●**授業の概要** 卒業論文作成の直接的な指導、助言を行うための演習を実施します。

●**授業の一般目標** この演習を通して、ゼミ構成員各自が、卒業論文作成のための具体的な方法を体得していただきたい。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 卒業論文中間発表 大江加奈子
- 第 3 回 項目 卒業論文中間発表 南里由美 遠藤周作 『私が・棄てた・女』
- 第 4 回 項目 卒業論文中間発表 朴 英順
- 第 5 回 項目 卒業論文中間発表 福嶋理江
- 第 6 回 項目 卒業論文中間発表 米田春香
- 第 7 回 項目 未定
- 第 8 回 項目 未定
- 第 9 回 項目 未定
- 第 10 回 項目 未定
- 第 11 回 項目 卒業論文1ヶ月前 チェック
- 第 12 回 項目 未定
- 第 13 回 項目 卒業論文一週間前 チェック
- 第 14 回
- 第 15 回 項目 総括

●**成績評価方法（総合）** 授業態度や授業への参加度 = 30 % 受講者の発表（プレゼン）や授業内での製作作業（作品） = 30 % 演習 = 30 % 出席 = 10 %

●**教科書・参考書** 教科書：統一した教科書などは使用しません。／参考書：個別に指導します。

●**メッセージ** 発表の順番はあくまでも予定です。就職活動等々によって、変更があることを承知しておいてください。なお、4年生用の時間ですので、2、3年生は受講しないように。

●**連絡先・オフィスアワー** 個人研究室 9 3 3 - 5 2 6 2 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー：火曜日 5. 6 時限

開設科目	日本文学演習（4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	森野正弘				

- 授業の概要** 平安文学を卒業論文の対象としている4年生のための演習。／**検索キーワード** 平安文学
- 授業の一般目標** 平安文学研究を進めていくうえで必要な知識・方法を習得する。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：平安文学を研究するための知識を得ることができる。**思考・判断の観点**：平安文学の研究を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。**関心・意欲の観点**：自発的に平安文学の研究を進め、関連する事項について調査する意欲を高める。**態度の観点**：平安文学に提起されている問題を主体的に考え、自ら探求することができるようになる。**技能・表現の観点**：考察した結果を文章や口頭で適切に表現できるようになる。
- 授業の計画（全体）** 毎回2名ずつ論文の進行状況を発表していく。各自2回の発表機会が与えられている。
- 成績評価方法（総合）** 授業内評価。
- 連絡先・オフィスアワー** 木曜日7・8時限



開設科目	日本文学演習（4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	森野正弘				

- 授業の概要** 平安文学を卒業論文の対象としている4年生のための演習。／**検索キーワード** 平安文学
- 授業の一般目標** 平安文学研究を進めていくうえで必要な知識・方法を習得する。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：平安文学を研究するための知識を得ることができる。**思考・判断の観点**：平安文学の研究を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。**関心・意欲の観点**：自発的に平安文学の研究を進め、関連する事項について調査する意欲を高める。**態度の観点**：平安文学に提起されている問題を主体的に考え、自ら探求することができるようになる。**技能・表現の観点**：考察した結果を文章や口頭で適切に表現できるようになる。
- 授業の計画（全体）** 毎回2名ずつ論文の進行状況を発表していく。各自2回の発表機会が与えられている。
- 成績評価方法（総合）** 授業内評価。
- 連絡先・オフィスアワー** 木曜日7・8時限

開設科目	日本文学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	森野正弘				

- 授業の概要** 輪読形式による『源氏物語』の研究。／**検索キーワード** 文学、源氏物語
- 授業の一般目標** 古典文学の研究を進めていくうえで必要な基礎知識の習得、及び分析力・論理的思考力を身につける。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：古典文学に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。**思考・判断の観点**：作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。**関心・意欲の観点**：自発的に古典文学を読み進め、関連する事項について調査する意欲を高める。**態度の観点**：古典文学に提起されている問題を主体的に考え、自ら探求することができるようになる。**技能・表現の観点**：考察した結果を文章や口頭で適切に表現できるようになる。
- 授業の計画（全体）** 「帚木」「空蝉」「夕顔」「若紫」「紅葉賀」「花宴」巻をそれぞれ前半と後半に二分割し、受講者に担当範囲として割り当てる。割り当てられた受講者は(1)梗概、(2)主要な場面の本文と訳、(3)注釈、(4)研究史上の問題点を掲載したレジюмеを作成し、発表をする。
- 成績評価方法（総合）** レジюме・発表内容・質疑応答・レポートによる。
- 教科書・参考書** 教科書：玉上琢弥訳注『源氏物語』第1巻～第2巻（角川文庫ソフィア）／参考書：授業時に紹介する。
- 連絡先・オフィスアワー** 木曜日 7・8 時限

開設科目	日本文学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	森野正弘				

- 授業の概要** 輪読形式による『源氏物語』の研究。／**検索キーワード** 文学、源氏物語
- 授業の一般目標** 古典文学の研究を進めていくうえで必要な基礎知識の習得、及び分析力・論理的思考力を身につける。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：古典文学に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。**思考・判断の観点**：作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。**関心・意欲の観点**：自発的に古典文学を読み進め、関連する事項について調査する意欲を高める。**態度の観点**：古典文学に提起されている問題を主体的に考え、自ら探求することができるようになる。**技能・表現の観点**：考察した結果を文章や口頭で適切に表現できるようになる。
- 授業の計画（全体）** 「葵」「賢木」「須磨」「明石」「滯標」「松風」巻をそれぞれ前半と後半に二分し、受講者に担当範囲として割り当てる。割り当てられた受講者は(1)梗概、(2)主要な場面の本文と訳、(3)注釈、(4)研究史上の問題点を掲載したレジюмеを作成し、発表をする。
- 成績評価方法（総合）** レジюме・発表内容・質疑応答・レポートによる。
- 教科書・参考書** 教科書：玉上琢弥訳注『源氏物語』第2巻～第3巻（角川文庫ソフィア）／参考書：授業時に紹介する。
- 連絡先・オフィスアワー** 木曜日 7・8時限

開設科目	日本文学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官					

●**授業の概要** 【『猿蓑』歌仙註釈】芭蕉七部集の第五、元禄四(1691)年刊行の俳諧撰集『猿蓑』所収の連句を註釈する。本書は、奥の細道行脚後に芭蕉が獲得した新風を世に問うべくして編まれ、発表後数年にして「俳諧の古今集」(『宇陀法師』)と評された。高弟たちを導く芭蕉の意欲を感じながら、蕉風俳諧の円熟を示す、巻五所収の歌仙「灰汁桶」の巻を精読したい。／**検索キーワード** 芭蕉、芭蕉七部集、『猿蓑』、連句、歌仙、蕉風俳諧

●**授業の一般目標** 1. 近世文学の読解に必要な、文献調査法の習得から、古典註釈の基礎を学ぶ。本巻には近世後期成立の『猿蓑箋注』をはじめとして多くの註釈が存在するが、それらを参看しつつ、且つ、従来の定見にとらわれない新たな読解を模索したい。 2. 詠作と鑑賞が同時に繰り返される「座」の文芸=俳諧連句の作法と精神を知り、元禄文学の粹たる蕉風俳諧の到達点を感得する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1. 近世文学読解のために必要な文献調査の方法を習得する。 2. 古典文学註釈の基礎を習得する。 **思考・判断の観点**： 1. 俳諧連句の作法と精神を理解する。 2. 中古中世文学との比較を通して近世文学の到達点を理解する。 **関心・意欲の観点**： 1. 調査結果に基づいた自らの解釈について適切に発表することができる。 **態度の観点**： 1. 他の参加者の解釈について積極的に意見を述べるができる。

●**授業の計画(全体)** 初回から第3回にかけて、俳諧連句のルール・註釈のあり方の基礎を講じる。第4回以降は、参加者全員が3句ずつ担当し、順次註釈結果を発表のうえ、全員で討議し、解釈を深める。

●**授業計画(授業単位)**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- |      |    |           |    |                      |       |                                    |
|------|----|-----------|----|----------------------|-------|------------------------------------|
| 第1回  | 項目 | イントロダクション | 内容 | 『猿蓑』概説・発表分担決定        | 授業外指示 | 教科書を購入しシラバスを読んでおくこと                |
| 第2回  | 項目 | 概説(1)     | 内容 | 連句のルール(1)            | 授業外指示 | 配付プリントを読んでおくこと                     |
| 第3回  | 項目 | 概説(2)     | 内容 | 連句のルール(2)・発表資料作成の手引き | 授業外指示 | 配付プリントを読んでおくこと                     |
| 第4回  | 項目 | 発表(1)     | 内容 | 「灰汁桶」の巻 初折表1—3句註釈    | 授業外指示 | 担当者は発表資料を準備し、担当者以外はテキスト脚注を熟読しておくこと |
| 第5回  | 項目 | 発表(2)     | 内容 | 「灰汁桶」の巻 初折表4—6句註釈    | 授業外指示 | 担当者は発表資料を準備し、担当者以外はテキスト脚注を熟読しておくこと |
| 第6回  | 項目 | 発表(3)     | 内容 | 「灰汁桶」の巻 初折裏1—3句註釈    | 授業外指示 | 担当者は発表資料を準備し、担当者以外はテキスト脚注を熟読しておくこと |
| 第7回  | 項目 | 発表(4)     | 内容 | 「灰汁桶」の巻 初折裏4—6句註釈    | 授業外指示 | 担当者は発表資料を準備し、担当者以外はテキスト脚注を熟読しておくこと |
| 第8回  | 項目 | 発表(5)     | 内容 | 「灰汁桶」の巻 初折裏7—9句註釈    | 授業外指示 | 担当者は発表資料を準備し、担当者以外はテキスト脚注を熟読しておくこと |
| 第9回  | 項目 | 発表(6)     | 内容 | 「灰汁桶」の巻 初折裏10—12句註釈  | 授業外指示 | 担当者は発表資料を準備し、担当者以外はテキスト脚注を熟読しておくこと |
| 第10回 | 項目 | 発表(7)     | 内容 | 「灰汁桶」の巻 名残折表1—3句註釈   | 授業外指示 | 担当者は発表資料を準備し、担当者以外はテキスト脚注を熟読しておくこと |
| 第11回 | 項目 | 発表(8)     | 内容 | 「灰汁桶」の巻 名残折表4—6句註釈   | 授業外指示 | 担当者は発表資料を準備し、担当者以外はテキスト脚注を熟読しておくこと |
| 第12回 | 項目 | 発表(9)     | 内容 | 「灰汁桶」の巻 名残折表7—9句註釈   | 授業外指示 | 担当者は発表資料を準備し、担当者以外はテキスト脚注を熟読しておくこと |
| 第13回 | 項目 | 発表(10)    | 内容 | 「灰汁桶」の巻 名残折表10—12句註釈 | 授業外指示 | 担当者は発表資料を準備し、担当者以外はテキスト脚注を熟読しておくこと |

第14回 **項目** 発表(11) **内容** 「灰汁桶の」の巻名残折裏1—3句 註釈 **授業外指示** 担当者は発表資料を準備し、担当者 以外はテキスト脚注を熟読しておく こと

第15回 **項目** 発表(12) **内容** 「灰汁桶の」の巻名残折裏4—6句 註釈 **授業外指示** 担当者は発表資料を準備し、担当者 以外はテキスト脚注を熟読しておく こと

●**成績評価方法(総合)** 担当の発表資料及び発表態度を最重視し、期末レポートとして発表資料の修正版提出を課す。試験は行わない。授業時の質疑も評価に加える。

●**教科書・参考書** 教科書：影印本 元禄版 猿蓑, 雲英末雄・佐藤勝明編, 新典社, 1993年; 文栄堂山大前店で販売しているので必ず購入すること。/ 参考書：芭蕉七部集, 上野洋三・白石悌三校注, 岩波書店, 1990年; 新版連句への招待, 乾裕幸・白石悌三, 和泉書院, 1989年; 当該箇所をプリント配付するが、希望者は文栄堂山大前店で購入すること。

●**メッセージ** 特に2年生諸君へ。演習への参加が大学生としての勉強の最初の一步です。敬遠したり遠慮している場合ではありません。まずは初回の授業に参加してみることを。新鮮な解釈と闊達な議論を大いに期待しています。

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail:ozaki@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文508 オフィスアワー：火曜14:30—16:00

開設科目	日本文学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尾崎千佳				

●**授業の概要** 【『猿蓑』歌仙註釈】芭蕉七部集の第五、元禄四 (1691) 年刊行の俳諧撰集『猿蓑』所収の連句を註釈する。本書は、奥の細道行脚後に芭蕉が獲得した新風を世に問うべくして編まれ、発表後 数年にして「俳諧の古今集」(『宇陀法師』)と評された。高弟たちを導く芭蕉の意欲を感じながら、蕉風俳諧の円熟を示す、「梅若菜」の巻を精読したい。／**検索キーワード** 芭蕉、芭蕉七部集、『猿蓑』、連句、歌仙、蕉風俳諧

●**授業の一般目標** 1. 近世文学の読解に必要な、文献調査法の習得から、古典註釈の基礎を学ぶ。本巻には近世後 期成立の『猿蓑箋注』をはじめとして多くの註釈が存在するが、それらを参看しつつ、且つ、従来の定見にとらわれない新たな読解を模索したい。 2. 詠作と鑑賞が同時に繰り返される「座」の文芸＝俳諧連句の作法と精神を知り、元禄文学の粹たる蕉風俳諧の到達点を得得する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1. 近世文学読解のために必要な文献調査の方法を習得する。  
2. 古典文学註釈の基礎を習得する。 **思考・判断の観点**： 1. 俳諧連句の作法と精神を理解する。  
2. 中古中世文学との比較を通して近世文学の到達点を理解する。 **関心・意欲の観点**： 1. 調査結果に基づいた自らの解釈について適切に発表することができる。 **態度の観点**： 1. 他の参加者の解釈について積極的に意見を述べるができる。

●**授業の計画 (全体)** 初回から第 3 回にかけて、俳諧連句のルール・註釈のあり方の基礎を講じる。第 4 回以降は、参加者全員が 3 句ずつ担当し、順次註釈結果を発表のうえ、全員で討議し、解釈を深める。

●**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** イントロダクション **内容** 『猿蓑』概説・発表分担決定 **授業外指示** 教科書を購入しシラバスを読んでおくこと
- 第 2 回 **項目** 概説 (1) **内容** 連句のルール (1) **授業外指示** 配付プリントを読んでおくこと
- 第 3 回 **項目** 概説 (2) **内容** 連句のルール (2) **授業外指示** 配付プリントを読んでおくこと
- 第 4 回 **項目** 発表 (1) **内容** 「梅若菜」の巻初 折表 1—3 句註釈 **授業外指示** 担当者は発表資料を準備し、担当者以外はテキスト脚注を熟読しておくこと
- 第 5 回 **項目** 発表 (2) **内容** 「梅若菜」の巻初 折表 4—6 句註釈 **授業外指示** 担当者は発表資料を準備し、担当者以外はテキスト脚注を熟読しておくこと
- 第 6 回 **項目** 発表 (3) **内容** 「梅若菜」の巻初 折裏 1—3 句註釈 **授業外指示** 担当者は発表資料を準備し、担当者以外はテキスト脚注を熟読しておくこと
- 第 7 回 **項目** 発表 (4) **内容** 「梅若菜」の巻初 折裏 4—6 句註釈 **授業外指示** 担当者は発表資料を準備し、担当者以外はテキスト脚注を熟読しておくこと
- 第 8 回 **項目** 発表 (5) **内容** 「梅若菜」の巻初 折裏 7—9 句註釈 **授業外指示** 担当者は発表資料を準備し、担当者以外はテキスト脚注を熟読しておくこと
- 第 9 回 **項目** 発表 (6) **内容** 「梅若菜」の巻初 折裏 10—12 句註釈 **授業外指示** 担当者は発表資料を準備し、担当者以外はテキスト脚注を熟読しておくこと
- 第 10 回 **項目** 発表 (7) **内容** 「梅若菜」の巻名 残折表 1—3 句註釈 **授業外指示** 担当者は発表資料を準備し、担当者以外はテキスト脚注を熟読しておくこと
- 第 11 回 **項目** 発表 (8) **内容** 「梅若菜」の巻名 残折表 4—6 句註釈 **授業外指示** 担当者は発表資料を準備し、担当者以外はテキスト脚注を熟読しておくこと
- 第 12 回 **項目** 発表 (9) **内容** 「梅若菜」の巻名 残折表 7—9 句註釈 **授業外指示** 担当者は発表資料を準備し、担当者以外はテキスト脚注を熟読しておくこと
- 第 13 回 **項目** 発表 (10) **内容** 「梅若菜」の巻名 残折表 10—12 句註釈 **授業外指示** 担当者は発表資料を準備し、担当者以外はテキスト脚注を熟読しておくこと

第14回 **項目** 発表(11) **内容** 「梅若菜」の巻名 残折裏1—3句註 釈 **授業外指示** 担当者は発表資料を準備し、担当者 以外はテキスト脚 注を熟読しておく こと

第15回 **項目** 発表(12) **内容** 「梅若菜」の巻名 残折裏4—6句註 釈 **授業外指示** 担当者は発表資料を準備し、担当者 以外はテキスト脚 注を熟読しておく こと

●**成績評価方法(総合)** 担当の発表資料及び発表態度を最重視し、期末レポートとして発表資料の修正版提出を課す。試験は行わない。授業時の質疑も評価に加える。

●**教科書・参考書** 教科書：影印本 元禄版 猿蓑, 雲英末雄・佐藤勝明編, 新典社, 1993年; 文栄堂山大前店で販売しているので必ず購入すること。/ 参考書：芭蕉七部集, 上野洋三・白石悌三校注, 岩波書店, 1990年; 新版連句への招待, 乾裕幸・白石悌三, 和泉書院, 1989年; 当該箇所をプリント配付するが、希望者は文栄堂山大前店で購入すること。

●**メッセージ** 前期で履修しなかった方も充分参加できます。新鮮な解釈と闊達な議論を大いに期待しています。

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail:ozaki@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文508 オフィスアワー：火曜14:30—16:00

開設科目	日本文学演習 (4年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	尾崎千佳				
<p>●<b>授業の概要</b> 卒業論文執筆に向け、作品作家の選定・先行研究の検索と収集・研究史の把握・論文テーマの設定について、個別に指導する。</p> <p>●<b>授業の一般目標</b> 卒業論文執筆のための具体的方法を習得する。</p> <p>●<b>授業の到達目標／知識・理解の観点</b>： 1. とりあげる作家や作品を選定することができる。 2. 先行研究を収集し整理することができる。 <b>思考・判断の観点</b>： 1. 研究史を把握し問題を提起することができる。 2. 論文テーマを自ら設定することができる。 <b>関心・意欲の観点</b>： 1. 選定した作家や作品について適切に説明することができる。 2. 研究史とその問題点について適切に説明することができる。 3. 設定した論文テーマについて適切に説明することができる。 <b>態度の観点</b>： 1. 論文作成に向けたスケジュールを自ら設定し管理することができる。</p> <p>●<b>授業の計画 (全体)</b> 全体を4ステップに分け、提出レポートに基づいた個別面談で行う。</p> <p>●<b>授業計画 (授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等</b></p> <p>第1回 <b>項目</b> イントロダクション <b>内容</b> 1. 卒業論文に向けた心構え 2. 卒業論文提出までのスケジュール確認 3. 各ステップの概要 <b>授業外指示</b> シラバスを読んでおくこと</p> <p>第2回 <b>項目</b> ステップ(1)-1 <b>内容</b> レポート(1)「作品作家」に基づく個別面談 <b>授業外指示</b> レポート(1)「作品作家」を準備すること</p> <p>第3回 <b>項目</b> ステップ(1)-2 <b>内容</b> レポート(1)「作品作家」に基づく個別面談 <b>授業外指示</b> レポート(1)「作品作家」を準備すること</p> <p>第4回 <b>項目</b> ステップ(1)-3 <b>内容</b> レポート(1)「作品作家」に基づく個別面談 <b>授業外指示</b> レポート(1)「作品作家」を準備すること</p> <p>第5回 <b>項目</b> ステップ(2)-1 <b>内容</b> レポート(2)「研究テーマ」に基づく個別面談 <b>授業外指示</b> レポート(2)「研究テーマ」を準備すること</p> <p>第6回 <b>項目</b> ステップ(2)-2 <b>内容</b> レポート(2)「研究テーマ」に基づく個別面談 <b>授業外指示</b> レポート(2)「研究テーマ」を準備すること</p> <p>第7回 <b>項目</b> ステップ(2)-3 <b>内容</b> レポート(2)「研究テーマ」に基づく個別面談 <b>授業外指示</b> レポート(2)「研究テーマ」を準備すること</p> <p>第8回 <b>項目</b> ステップ(3)-1 <b>内容</b> レポート(3)「論文題目」に基づく個別面談 <b>授業外指示</b> レポート(3)「論文題目」を準備すること</p> <p>第9回 <b>項目</b> ステップ(3)-2 <b>内容</b> レポート(3)「論文題目」に基づく個別面談 <b>授業外指示</b> レポート(3)「論文題目」を準備すること</p> <p>第10回 <b>項目</b> ステップ(3)-3 <b>内容</b> レポート(3)「論文題目」に基づく個別面談 <b>授業外指示</b> レポート(3)「論文題目」を準備すること</p> <p>第11回 <b>項目</b> ステップ(4)-1 <b>内容</b> 夏季休業中の作業 確認に関する個別面談</p> <p>第12回 <b>項目</b> ステップ(4)-2 <b>内容</b> 夏季休業中の作業 確認に関する個別面談</p> <p>第13回 <b>項目</b> ステップ(4)-3 <b>内容</b> 夏季休業中の作業 確認に関する個別面談</p> <p>第14回 <b>項目</b> 予備日</p> <p>●<b>成績評価方法 (総合)</b> 主にレポート(1)～(3)の内容により評価する。試験は行わない。</p> <p>●<b>教科書・参考書</b> 教科書： 使用しない。／参考書： 授業(個別面談)時に個別に指示する。</p> <p>●<b>メッセージ</b> 授業計画はあくまでひとつの目安に過ぎません。意欲的に次のステップに進みましょう。授業時間外でも質問や相談は随時受け付けています。</p> <p>●<b>連絡先・オフィスアワー</b> E-mail:ozaki@yamaguchi-u.ac.jp 研究室： 人文 508 オフィスアワー： 火曜 14:30—16:00</p>					



開設科目	日本文学演習 (4年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	尾崎千佳				

●**授業の概要** 卒業論文完成に向け、論文テーマの確立・論文の構成について、個別に指導する。

●**授業の一般目標** 卒業論文の完成を目指す。

●**授業の到達目標**／ **思考・判断の観点**： 1. 論文テーマについて多角的に考察を進めることができる。  
2. 論文の構成を自ら設定することができる。 **関心・意欲の観点**： 1. 論文テーマについて適切に説明することができる。 2. 論文の構成について適切に説明することができる。 **態度の観点**： 1. 論文テーマについて異見を受容することができる。 2. 論文の構成について異見を受容することができる。

●**授業の計画 (全体)** 全体を4ステップに分け、ステップ(5)では個別の経過報告、ステップ(6)では各自20分程度の中間発表、ステップ(7)では論文構成についての個別面談、ステップ(8)では論文草稿に基づいた個別面談を行う。

●**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第1回 **項目** ステップ(5)-1 **内容** 中間発表の準備に 向けた個別面談 **授業外指示** 夏季休業中の作業 経過についてまとめておくこと
- 第2回 **項目** ステップ(5)-2 **内容** 中間発表の準備に 向けた個別面談 **授業外指示** 夏季休業中の作業 経過についてまとめておくこと
- 第3回 **項目** ステップ(5)-3 **内容** 中間発表の準備に 向けた個別面談 **授業外指示** 夏季休業中の作業 経過についてまとめておくこと
- 第4回 **項目** ステップ(6) **内容** 中間発表会 **授業外指示** 発表レジュメを準備すること
- 第5回 **項目** ステップ(7)-1 **内容** 論文構成に基づく 個別面談 **授業外指示** 論文の構成についてまとめておくこと
- 第6回 **項目** ステップ(7)-2 **内容** 論文構成に基づく 個別面談 **授業外指示** 論文の構成についてまとめておくこと
- 第7回 **項目** ステップ(7)-3 **内容** 論文構成に基づく 個別面談 **授業外指示** 論文の構成についてまとめておくこと
- 第8回 **項目** ステップ(8)-1 **内容** 論文草稿に基づく 個別面談 **授業外指示** 論文の草稿を準備 すること
- 第9回 **項目** ステップ(8)-2 **内容** 論文草稿に基づく 個別面談 **授業外指示** 論文の草稿を準備 すること
- 第10回 **項目** ステップ(8)-3 **内容** 論文草稿に基づく 個別面談 **授業外指示** 論文の草稿を準備 すること
- 第11回 **項目** ステップ(8)-4 **内容** 論文草稿に基づく 個別面談 **授業外指示** 論文の草稿を準備 すること
- 第12回 **項目** ステップ(8)-5 **内容** 論文草稿に基づく 個別面談 **授業外指示** 論文の草稿を準備 すること

●**成績評価方法 (総合)** 主に中間発表と論文草稿により評価する。試験は行わない。

●**教科書・参考書** 教科書： 使用しない。 / 参考書： 授業 (個別面談) 時に個別に指示する。

●**メッセージ** 授業計画はあくまでひとつの目安に過ぎません。意欲的に次のステップに進みましょう。授業時間外でも質問や相談は随時受け付けています。

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail:ozaki@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文 508 オフィスアワー：火曜 14:30 — 16:00

開設科目	中国語概説 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	富平美波				

●**授業の概要** 中国語学に関する基礎知識を講義する。本講義では、現代中国の共通語と方言、および中国語の音声・音韻について概説する。／**検索キーワード** 中国語、普通話、方言、音声、音韻

●**授業の一般目標** (1) 現代中国語の共通語とその形成の歴史について理解する。(2) 現代中国語の方言分布とその基本的特徴について理解する。(3) 中国語の音韻について基本知識を会得する。(4) 中国語学の諸問題について主体的に学習・考察する態度を養成する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1. 中国が多民族・多言語国家であることを理解する。2. 現代中国語の共通語とその形成の歴史について説明できる。3. 現代中国語の方言分布とその基本的特徴について説明できる。4. 中国語の音韻的特徴について簡単な説明ができる。**関心・意欲の観点**：中国語の諸特徴について問題意識を持ち、関心を持ったテーマについて主体的に学習・考察することができる。

●**授業の計画(全体)** 次の順序で講義を進める。中国及び海外華人社会の諸言語 中国の地勢と方言区分 現代中国の共通語と言語政策 共通語形成の歴史 現代中国語の音声特徴 中国語の音韻史に関する基礎知識 現代中国語方言の諸特徴

●**成績評価方法(総合)** おしまいに、授業内容に関連を持つテーマを選んでレポートしてもらおう。また、授業中に随時、感想や質問を自由に書いてもらう機会を作る。これらにより授業への理解度と主体的学習への意欲を評価する。なお、出席が3分の2に満たない者には単位を与えない。

●**教科書・参考書** 教科書：教科書は特に指定せず、授業中に資料を配付する。／参考書：中国の諸言語, S. R. ラムゼイ, 大修館書店, 1990年；現代漢語方言, せん伯慧, 光生館, 1983年；音韻のはなし, 李思敬, 光生館, 1987年；中国語学習ハンドブック 改訂版, 相原茂, 大修館書店, 1996年；参考書4は中国語学に関する基本文献リストを掲載しており便利です。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室 人文学部5階 Tel.933-5251 オフィスアワー：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国語概説 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	富平美波				

●**授業の概要** 中国語学の基礎知識について講義する。本講義では、中国語を表記する文字として長い生命力を有する漢字について、その特徴や歴史を概説する。合わせて、中国における文字改革の歴史も紹介する。／**検索キーワード** 中国語 漢字 文字改革

●**授業の一般目標** (1) 言語を表記する文字としての漢字の持つ諸特徴を理解する。(2) 漢字の字体の変遷の歴史について初歩的な知識を持つ。(3) 中国の文字改革の歴史と諸課題についての認識を深める。

●**授業の到達目標／知識・理解の観点**： 1. 「表語文字」と言われる漢字の基本的特質について説明できる。 2. 「六書」について説明できる。 3. 漢字の字体の変遷史について簡単な説明ができる。 4. 中国の文字改革の歴史が簡潔に説明できる。 5. 中国における漢字簡略化の状況が説明できる。 **関心・意欲の観点**： 漢字の持つ諸特徴や、東アジア諸国における漢字使用について関心を持ち、特定のテーマについて主体的な学習・考察が行える。

●**授業の計画(全体)** 教科書は特に指定せず、次の順序で、資料プリントを配布しながら講義を進める。漢字はどのような文字か(その表意性と表音性) 漢字の字形の構造(「六書」について) 漢字の歴史 中国の文字改革(その3大テーマ) 文字改革各論の1ー表音システムの開発 文字改革各論の2ー簡体字の制定 いわゆる「漢字文化圏」について

●**成績評価方法(総合)** おしまいにレポートを課す。また授業中に随時感想や質問を書いてもらう機会を作る。それらにより、授業内容への理解度と漢字をめぐる諸問題への主体的関心・意欲を測る。なお、出席が3分の2に満たない者には単位を与えない。

●**教科書・参考書** 教科書：教科書は特に指定せず、授業中に随時資料プリントを配布する。／参考書：文字論, 河野六郎, 三省堂, 1994年; 漢字学—「説文解字」の世界, 阿辻哲次, 東海大学出版会, 1985年; 図説漢字の歴史, 阿辻哲次, 大修館書店, 1989年; 新・漢字のうつりかわり, 大原信一, 東方書店, 1989年; 近代中国のことばと文字, 大原信一, 東方書店, 1994年; 近現代中国における言語政策, 藤井(宮西)久美子, 三元社, 2003年

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室：人文学部5階 Tel.933-5251 オフィスアワー：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	更科慎一				

●**授業の概要** 中国の諸言語について概説する。前半では国際音声字母 (IPA) の基礎知識を講じ、後半では『中国少数民族語言簡志叢書』を用いて中国の少数民族語の音韻、語彙、文法の輪郭を示す。但し、少数民族語を習得させる意図はない。／**検索キーワード** 国際音声字母 中国少数民族語言簡志叢書 少数民族語

●**授業の一般目標** (1) 中国の言語の多様性について概観することにより、自身の漢語研究の視野を広げる。  
(2) 中国で刊行された言語調査報告書を利用する能力を養う。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1. 常用される国際音声字母を見ておおむね理解することができる。  
2. 中国で用いられている基礎的な言語学術語を理解することができる。**思考・判断の観点**：1. 中国の言語の多様性に関する知識を背景に、周辺の少数民族語と比べた場合の漢語の特徴を分析することができる。**技能・表現の観点**：1. 中国で刊行された言語調査報告書を利用することができる。

●**授業の計画 (全体)** 授業は、前半で国際音声字母について実践的に解説し、後半では中国の主要な少数民族語数種の音韻、語彙、文法等の特徴について、『中国少数民族語言簡志叢書』を参照しつつ、漢語と比較しながら論じてゆく。期末に、授業で得た知識・観点・疑念を生かしたレポートを提出させる。

●**成績評価方法 (総合)** 学期末に提出させるレポートによるほか、授業への参加度も一定程度考慮する。

●**教科書・参考書** 教科書：教科書は使いません。教官がプリントを用意します。／参考書：授業中に適宜指示します。

●**連絡先・オフィスアワー** 更科慎一 研究室:人文 516、電話:933-5250 e-mail:sarasina@yamaguchi-u.ac.jp  
来室は在室時に随時可。

開設科目	中国語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	更科慎一				

- 授業の概要** 前期に引き続き、中国の諸言語について概説する。後期では、漢語と少数民族語との言語接触、中国人による外国語(少数民族語)学習史、対音対訳資料、漢字以外の文字で表記された漢語などを主題に解説する。／**検索キーワード** 中国の諸言語、少数民族語、漢語、言語接触、対音対訳資料
- 授業の一般目標** (1) 中国の言語の多様性について概観することにより、自身の漢語研究の視野を広げる。  
(2) 中国で刊行された言語研究書を利用する能力を養う。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1. 歴史上、漢語がさまざまな言語と接触してきたことについて説明できる。**思考・判断の観点**：1. 中国の言語の多様性に関する知識を背景に、周辺の少数民族語と比べた場合の漢語の特徴を分析することができる。**技能・表現の観点**：1. 中国で刊行された言語研究書を利用することができる。
- 授業の計画(全体)** 授業では、上記「授業の概要」主題に沿って講義をし、期末に、授業で得た知識・観点・疑問を生かしたレポートを提出させる。
- 成績評価方法(総合)** 学期末に提出させるレポートによるほか、授業への参加度も一定程度考慮する。
- 教科書・参考書** 教科書：教科書は使いません。教官がプリントを用意します。／参考書：授業中に適宜指示します。
- 連絡先・オフィスアワー** 更科慎一 研究室:人文516、電話:933-5250 e-mail:sarasina@yamaguchi-u.ac.jp  
来室は在室時に随時可。

開設科目	中国語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	松江崇				

- 授業の概要** 上古漢語と称される春秋戦国時代の漢語は、後世の書面語の規範となり歴史的に極めて大きな役割を果たした。本授業では、上古漢語の文法特徴・方言状況について、現代漢語と対照しつつ整理し、さらに上古漢語が、南北朝期中古漢語へと変化していく過程に注目し、その変化メカニズムを具体的に検討する。
- 授業の一般目標** (1) 上古漢語の文法面での特徴を、現代漢語との比較を通じて理解する。(2) 上古漢語の方言について、どのような方言区が推定されるのか理解する。(3) 上中古間に生じた文法変化がどのような要因によるものか理解する。
- 授業の計画（全体）** (1) 上古漢語の文法特徴、(2) 上古漢語における代名詞の「格屈折」をめぐって、(3) 揚雄『方言』による漢代方言区画論、(4) 代名詞目的語倒置現象とその消失メカニズム、(5) 無標の受動文について、(6) 中古初期の言語資料読解。
- 成績評価方法（総合）** (1) 授業の中で原文読解等の課題を担当する。(2) 中国語学についてのレポートを2000字程度で作成し、提出する。
- 備考** 集中授業

開設科目	中国語学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	更科慎一				

●**授業の概要** ふつう、「中国語」と呼ばれる言語は、現代北京の音韻体系を規範とする中国の標準語「普通話」である。現代北京語は、このように普通話の骨組を為しているが、あたかも日本語の標準語に対する東京弁の如く、人民の中で生き、変化し続けている方言の一つなのであって、普通話そのものとは区別される。本授業では、現代北京語の音韻、語彙、文法などに関して、現代中国語で書かれた文献を読み、学生の皆さんが中国語学研 究への確かな道を敷設するのに役立つ知的訓練を提供する。／**検索キーワード** 北京語 普通話

●**授業の一般目標** (1) 現代北京語の特徴や、現代北京語と普通話との関係等について理解を深める。(2) 現代中国語の論文文体に慣れ、読解と翻訳の実力を増強する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1. 現代北京語の特徴について言語学的に述べることができる。2. 現代北京語と普通話の関係を説明することができる。3. 中国語学の基本的用語を理解することができる。

**技能・表現の観点**：1. 現代中国語文を正しい発音で音読することができる。2. 現代中国語文を正しく日本語に訳すことができる。

●**授業の計画（全体）** 授業は、出席した受講者がテキストの音読と日本語訳を行い、教官が口頭でそれに対する補足を行う形で進行する。

●**教科書・参考書** 教科書：教官が授業中に配布するプリントを教科書(テキスト)とする。

●**メッセージ** なるべく多くの漢字の発音を覚え、また語彙を増やすよう心がけてください。漢字だけを見て「知っている単語だ」と思わないように！

●**連絡先・オフィスアワー** 更科慎一研究室：人文 516；電話 933-5250 e-mail:sarasina@yamaguchi-u.ac.jp  
空き時間に随時来室可。

開設科目	中国語学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	更科慎一				

- 授業の概要** 前期に引き続き、現代北京語の音韻、語彙、文法などに関して、現代中国語で書かれた 文献を読み、学生の皆さんが中国語学研究への確かな道を敷設するのに役立つ知的訓練 を提供する。
- 授業の一般目標** (1) 現代北京語の特徴や、現代北京語と普通話との関係等について理解を深める。(2) 現代中国語の論文文体に慣れ、読解と翻訳の実力を増強する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点**： 1. 現代北京語の特徴について言語学的に述べることができる。 2. 現代北京語と普通話の関係を説明することができる。 3. 中国語学の基本的用語を理解することができる。  
**技能・表現の観点**： 1. 現代中国語文を正しい発音で音読することができる。 2. 現代中国語文を正しく日本語に訳すことができる。
- 授業の計画（全体）** 授業は、出席した受講者がテキストの音読と日本語訳を行い、教官が口頭でそれに対する補足を行う形で進行する。
- 教科書・参考書** 教科書： 教官が授業中に配布するプリントを教科書(テキスト) とする。
- メッセージ** なるべく多くの漢字の発音を覚え、また語彙を増やすよう心がけてください。漢字だけを見て「知っている単語だ」と思わないように！
- 連絡先・オフィスアワー** 更科慎一研究室：人文 516；電話 933-5250 e-mail:sarasina@yamaguchi-u.ac.jp 空き時間に随時来室可。



開設科目	中国語学演習 (2・3年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	富平美波				

●**授業の概要** 教科書「中国語文法テキスト」に沿って現代中国語文法を概観する。本講義ではその前半部分を学習する。／**検索キーワード** 中国語 文法

●**授業の一般目標** (1) 現代中国語文法に関する基本的知識をマスターする。(2) 現代中国語の基本的センテンスの文法構造が分析できる。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：現代中国語文法の諸特徴が説明できる。**思考・判断の観点**：現代中国語の基本的な文型についてその文法構造を正しくとらえられる。**関心・意欲の観点**：現代中国語文法について問題意識を持ち、主体的に学習・考察が進められる。

●**授業の計画 (全体)** 教科書「中国語文法演習テキスト」を講読し、付録の練習問題を解く。受講者には順番に、各課の内容説明と練習問題への解答を課す。

●**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

第1回	項目	オリエンテーション 第1課 単語・連語・文	内容	授業内容の説明 第1課の講読	授業外指示	第1課の予習
第2回	項目	第1課 単語・連語・文	内容	第1課の講読 (続き) と練習問題	授業外指示	同上
第3回	項目	第2課 動詞	内容	第2課の講読	授業外指示	第2課の予習
第4回	項目	第2課 動詞	内容	第2課の講読 (続き) と練習問題	授業外指示	同上
第5回	項目	第3課 形容詞	内容	第3課の講読	授業外指示	第3課の予習
第6回	項目	第3課 形容詞	内容	第3課の講読 (続き) と練習問題	授業外指示	同上
第7回	項目	第4課 名詞・数詞・量詞	内容	第4課の講読	授業外指示	第4課の予習
第8回	項目	第4課 名詞・数詞・量詞	内容	第4課の講読 (続き) と練習問題	授業外指示	同上
第9回	項目	第5課 代詞	内容	第5課の講読	授業外指示	第5課の予習
第10回	項目	第5課 代詞	内容	第5課の講読 (続き) と練習問題	授業外指示	同上
第11回	項目	第6課 副詞・介詞	内容	第6課の講読	授業外指示	第6課の予習
第12回	項目	第6課 副詞・介詞	内容	第6課の講読 (続き) と練習問題	授業外指示	同上
第13回	項目	第7課 接続詞	内容	第7課の講読	授業外指示	第7課の予習
第14回	項目	第7課 接続詞	内容	第7課の講読 (続き) と練習問題	授業外指示	同上
第15回	項目	レポート提出				

●**成績評価方法 (総合)** 毎回の授業における課題の達成度と学期末のレポートにより、授業内容に対する理解度と主体的学習態度を評価する。なお、出席が3分の2に満たない者には単位を与えない。

●**教科書・参考書** 教科書：中国語文法演習テキスト, 宮田一郎・李臨定, 光生館, 2002年；大学館1階の山口大学ブックセンターで販売してもらいますので、授業開始までに必ず購入して、授業に持参してください。／参考書：中国語文法概論, 李臨定, 光生館, 1993年；文法講義, 朱徳き, 白帝社, 1995年；中国語語法分析問題, 呂叔湘, 光生館, 1983年；中国語学習ハンドブック 改訂版, 相原茂, 大修館書店, 1996年；参考書1はテキストと同じ著者による文法書。参考書4には中国語文法に関する基本図書のリストが掲載されており便利。最近は何にもいろいろな文法学習参考書が出版されています。書店の目録などを注意して見る姿勢を身につけましょう。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室：人文学部5階 Tel.933-5251 オフィスアワー：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国語学演習 (2・3年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	富平美波				

●**授業の概要** 前期の授業「中国語学演習 (2・3年生)」に引き続き、教科書「中国語文法テキスト」の後半部分を講読することにより、現代中国語文法を概観する。／**検索キーワード** 中国語 文法

●**授業の一般目標** (1) 現代中国語文法の諸特徴についての理解を深める。(2) 中国語文法に関して問題意識を持ち、主体的な学習・考察ができる。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：現代中国語文法の諸特徴について説明できる。**思考・判断の観点**：現代中国語の基本的センテンスについて、その文法構造が正しく分析できる。**関心・意欲の観点**：中国語文法に関して問題意識を持ち、主体的な学習・考察が進められる。

●**授業の計画 (全体)** 教科書の、前期の授業「中国語学演習 (2・3年生)」に引き続き部分を講読し、付録の練習問題を解く。受講者には順番に、各課の内容説明と練習問題への解答を課す。

●**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- |        |    |                      |          |                       |          |           |          |
|--------|----|----------------------|----------|-----------------------|----------|-----------|----------|
| 第 1 回  | 項目 | オリエンテーション            | 第 8 課 助詞 | 内容                    | 第 8 課の講読 | 授業外指示     | 第 8 課の予習 |
| 第 2 回  | 項目 | 第 8 課 助詞             | 内容       | 第 8 課の講読 (続き) と練習 問題  | 授業外指示    | 同上        |          |
| 第 3 回  | 項目 | 第 9 課 方位 詞・場所 詞・時 間詞 | 内容       | 第 9 課の講読              | 授業外指示    | 第 9 課の予習  |          |
| 第 4 回  | 項目 | 第 9 課 方位 詞・場所 詞・時 間詞 | 内容       | 第 9 課の講読 (続き) と練習 問題  | 授業外指示    | 同上        |          |
| 第 5 回  | 項目 | 第 10 課 文の 成分         | 内容       | 第 10 課の講読             | 授業外指示    | 第 10 課の予習 |          |
| 第 6 回  | 項目 | 第 10 課 文の 成分         | 内容       | 第 10 課の講読 (続き) と練習 問題 | 授業外指示    | 同上        |          |
| 第 7 回  | 項目 | 第 11 課 賓語            | 内容       | 第 11 課の講読             | 授業外指示    | 第 11 課の予習 |          |
| 第 8 回  | 項目 | 第 11 課 賓語            | 内容       | 第 11 課の講読 (続き) と練習 問題 | 授業外指示    | 同上        |          |
| 第 9 回  | 項目 | 第 12 課 補語            | 内容       | 第 12 課の講読             | 授業外指示    | 第 12 課の予習 |          |
| 第 10 回 | 項目 | 第 12 課 補語            | 内容       | 第 12 課の講読 (続き) と練習 問題 | 授業外指示    | 同上        |          |
| 第 11 回 | 項目 | 第 13 課 特殊 文型         | 内容       | 第 13 課の講読             | 授業外指示    | 第 13 課の予習 |          |
| 第 12 回 | 項目 | 第 13 課 特殊 文型         | 内容       | 第 13 課の講読 (続き) と練習 問題 | 授業外指示    | 同上        |          |
| 第 13 回 | 項目 | 第 14 課 疑問・反語・命令・感嘆   | 内容       | 第 14 課の講読             | 授業外指示    | 第 14 課の予習 |          |
| 第 14 回 | 項目 | 第 14 課 疑問・反語・命令・感嘆   | 内容       | 第 14 課の講読 (続き) と練習 問題 | 授業外指示    | 同上        |          |
| 第 15 回 | 項目 | レポート提出               |          |                       |          |           |          |

●**成績評価方法 (総合)** 学期末のレポートと、授業中における課題の達成度とにより、授業内容の理解度と主体的学習への意欲を評価する。なお、出席が3分の2に満たない者には単位を与えない。

●**教科書・参考書** 教科書：中国語文法演習テキスト、宮田一郎・李臨定、光生館、2002年；教科書は、大学会館1階の山口大学ブックセンターで販売してもらいますので、事前に必ず購入し、授業に持参してください。／参考書：中国語文法概論、李臨定、光生館、1993年；文法講義、朱徳き、白帝社、1995年；中国語語法分析問題、呂叔湘、光生館、1983年；中国語学習ハンドブック 改訂版、相原茂、大修館書店、1996年；参考書1はテキストと同じ著者による文法書。4は中国語文法に関する基本 図書のリストが掲載されており便利。そのほか、最近役に立つ文法学習参考書がたくさん出版されているので、書店の目録などを注意して見る習慣をつけてください。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室：人文学部5階 Tel.933-5251 オフィスアワー：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国語学演習 (4 年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	富平美波				

●**授業の概要** 受講者は、各自、中国語学に関する研究テーマを1つ選び、調査研究を行い、互いに研究の進行状況と成果を発表し合い、討論を交わす。／**検索キーワード** 中国語学 研究発表

●**授業の一般目標** 中国語学に関して、独自に課題を発見し、調査を行い、考察を加え、報告を行う力を養う。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：自分の選んだ研究領域に関する基礎知識をマスターし、それについて説明することができる。**思考・判断の観点**：自分の選んだ研究テーマに関連する先行研究の論点を把握し、内容の中で理解できなかった点を指摘し、疑問の解決法を考えることができる。**関心・意欲の観点**：中国語に関して、問題意識を持ち、主体的な調査・考察を行う姿勢が身に付いている。**態度の観点**：1. 常に少しずつでも、自分の選んだ研究テーマに関して調査・考察を進める。2. 他人の報告を熱心に聞き、問題を提起できる。**技能・表現の観点**：自分の選んだ研究テーマについて、わかりやすい研究報告ができる。

●**授業の計画 (全体)** 第1回目の授業で、おのおのの研究テーマを持ち寄り、研究発表の順番を決める。第2回までにテーマを確定し、順次研究発表・討論を行う。学期末に総まとめのレポートを課す。

●**成績評価方法 (総合)** 授業中に行う研究発表と学期末のレポートにより評価する。また、授業への参加度として、他の受講者の研究発表に対して行った発言、毎回の研究進捗報告を評価に加える。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室：人文学部5階 Tel.933-5251 オフィスアワー：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国語学演習（4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	富平美波				

●**授業の概要** 受講者は、各自、前学期に選んだ研究テーマについて、引き続き調査・研究を行い、互いに研究の進行状況と成果を発表し合い、討論を交わす。／**検索キーワード** 中国語学 研究発表

●**授業の一般目標** 中国語学に関して、独自に課題を発見し、学習・調査を行い、考察を加え、報告を行う力を養う。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：自分の選んだ研究領域に関する基礎知識をマスターし、それについて説明することができる。**思考・判断の観点**：自分の選んだ研究テーマに関連する先行研究の論点を把握し、内容の中で理解できなかった点を指摘し、疑問の解決法を考えることができる。**関心・意欲の観点**：中国語に関して、問題意識を持ち、主体的な調査・研究を行う姿勢が身に付いている。**態度の観点**：1. 常時少しずつでも、自分の選んだ研究テーマに関して調査・研究を進める。2. 他人の報告を熱心に聞き、問題を提起できる。**技能・表現の観点**：自分の選んだ研究テーマについて、わかりやすい研究報告ができる。

●**授業の計画（全体）** 第1回目は、各自の研究についてこれまでの進捗を確認し、第2回より、順次、研究発表と討論を進める。

●**成績評価方法（総合）** 授業中に行う研究発表と、他の受講者の発表に対する発言、及び毎回の研究進捗報告により評価する。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室：人文学部5階 Tel.933-5251 オフィスアワー：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国語学演習 (4 年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	更科慎一				

- 授業の概要** 卒業論文演習である。卒業論文を執筆する受講者を指導する。
- 授業の一般目標** 卒論執筆に向けて、テーマを選び、先行研究文献の検索・収集・消化を行う。その過程で、問題を見つけ、他の受講者や教官を対象に報告を行うと同時に、他の受講者の報告 に対し適切な意見と助言を提示する。
- 授業の到達目標** / **知識・理解の観点** : 1. 決定したテーマに関連した先行研究を踏まえて、テーマの研究状況について説明することができる。 2. 学術論文執筆の基本的ルールを身につける。 **思考・判断の観点** : 1. テーマにおける問題のありかを指摘することができる。 2. 論理的な思考様式によって問題を処理することができる。 **関心・意欲の観点** : 1. 科学の趣旨を理解し、学問に敬意を払う。 **態度の観点** : 1. テーマに関する研究史の中に自分の研究を位置づけることができる。 **技能・表現の観点** : 1. 必要な文献を検索し、適切に引用することができる。
- 授業の計画 (全体)** (1) 中国語学の領域において研究テーマを決定する。(2) テーマの研究資料を決定する。(3) 研究の進捗状況について発表資料 (レジュメ) を作成し、発表と討論を行う。(4) 期末に、テーマと関連したレポートを提出する。
- 成績評価方法 (総合)** (1) 研究の進捗状況を報告するためのレジュメと口頭発表 (2) 討論への参加態度 (3) 学期末レポート による。
- メッセージ** たとえテーマそのものが今すぐ社会に役立つことはなくとも、一年間に及ぶ 卒論執筆の過程は、今後の自身と他人の生活に計り知れない益を齎すはずで す。そのためにも、いい卒論を書いてください。
- 連絡先・オフィスアワー** 更科慎一 研究室: 人文 516、電話: 933-5250 e-mail: sarasina@yamaguchi-u.ac.jp 来室は在室時に随時可。但し、込み入った相談の場合は、事前に連絡してもらとうとありがたいです。

開設科目	中国語学演習 (4 年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	更科慎一				

- 授業の概要** 卒業論文演習である。卒業論文を執筆する受講者を指導する。
- 授業の一般目標** 前期に決定したテーマに沿って、引き続き先行研究文献の検索・収集・消化を行うとともに、研究資料を分析し、検討する。その過程で得られた成果につき、他の受講者や教官を対象に報告を行うと同時に、他の受講者の報告に対し適切な意見と助言を提示する。
- 授業の到達目標** / **知識・理解の観点**： 1. 決定したテーマに関連した先行研究を踏まえて、テーマの研究状況について説明することができる。 2. 学術論文執筆の基本的ルールを身につける。 **思考・判断の観点**： 1. テーマにおける問題のありかを指摘することができる。 2. 論理的な思考様式によって問題を処理することができる。 **関心・意欲の観点**： 1. 科学の趣旨を理解し、学問に敬意を払う。 **態度の観点**： 1. テーマに関する研究史の中に自分の研究を位置づけることができる。 **技能・表現の観点**： 1. 必要な文献を検索し、適切に引用することができる。
- 授業の計画 (全体)** 研究の進捗状況について発表資料 (レジュメ) を作成し、発表と討論を行う。
- 成績評価方法 (総合)** (1) 研究の進捗状況を報告するためのレジュメと口頭発表 (2) 討論への参加態度による。
- メッセージ** たとえテーマそのものが今すぐ社会に役立つことはなくとも、一年間に及ぶ卒論執筆の過程は、今後の自身と他人の生活に計り知れない益を齎すはずです。そのためにも、いい卒論を書いてください。
- 連絡先・オフィスアワー** 更科慎一 研究室: 人文 516、電話: 933-5250 e-mail: sarasina@yamaguchi-u.ac.jp 来室は在室時に随時可。但し、込み入った相談の場合は、事前に連絡してもらいたいです。

開設科目	中国文学史 I	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	根ヶ山徹				

- 授業の概要** 中国古代から清朝まで（民国以前）の文学について概観する。中国文学は、「漢文」・「唐詩」・「宋詞」・「元曲」ということばに代表されるように、長い歴史を有するのみならず、ジャンルも多種多様にわたる。この授業では、古代から清朝に至るまでの重要な作品を紹介し、さまざまな観点から分析する。
- 授業の一般目標** 中国の主な時代の作家と文学作品に関して、基本的知識を得、個々の作品の読解を通じて、中国文化に対する理解を深めること。
- 授業の計画（全体）** 文献資料を読み進めながら、中国文学の特質、『詩経』と『楚辞』、六朝文学、隋・唐代の文学等について言及する予定。
- 成績評価方法（総合）** 期末試験の成績により評価する。
- 教科書・参考書** 教科書：中国文学概論、岩城秀夫、朋友書店

開設科目	中国文学史 II	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	根ヶ山徹				

- 授業の概要** 「中国文学史 I」に引き続き、中国古代から清朝まで（民国以前）の文学について概観する。
- 授業の一般目標** 中国の主な時代の作家と文学作品に関して、基本的知識を得、個々の作品の読解を通じて、中国文化に対する理解を深めること。
- 授業の計画（全体）** 文献資料を読み進めながら、宋詞、近世の演劇・小説、元・明・清の文学等について言及する予定。
- 成績評価方法（総合）** 期末試験の成績により評価する。
- 教科書・参考書** 教科書：中国文学概論, 岩城秀夫, 朋友書店



開設科目	中国文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	阿部泰記				

●**授業の概要** 包拯伝説の歴史的展開について講じる。包拯は北宋時代の官吏で、毅然とした態度で奸臣に立ち向かいその野望を挫いたため、民衆に慕われてその業績が文学に取材されて伝説的な人物となり、現代中国でも「包公」と言えば知らない人はいないし、崇拜の対象ともなっている。本講義ではこうした文学を媒体とした包拯の伝説を具体的に紹介していく。／**検索キーワード** 包拯、包公、民間伝説、物語、民間信仰、包公廟

●**授業の一般目標** 1. 中国の政治と文学の関係について理解を深める。 2. 伝説が文学を媒体として拡散することを理解する。 3. 伝説が事実として認識される事象について理解する。 4. 中国の物語のジャンルについて知る。 5. 伝説と信仰との関係について考える。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1. 包拯という人物の業績について知る。 2. 包拯の伝説に取材した文学を知る。 3. 包拯を祀った廟の分布を知る。 **思考・判断の観点**： 1. 民衆がなぜ包拯を慕うのかを考える。 2. 民衆にとって文学とは何かを考える。 **関心・意欲の観点**： 1. 包拯について図書館で文献を調べてみる。 2. インターネットで包拯に取材した文学や包公廟について検索してみる。 **態度の観点**： 1. 授業を真剣に聞く態度をやしなう。 2. 授業の内容をノートする態度をやしなう。 **技能・表現の観点**： 1. 手際よくノートする訓練をする。 2. 中国のインターネットを検索する能力を身につける。

●**授業の計画（全体）** 1. 包拯の伝説に取材した文学を紹介し、その内容を分析する。 2. 包拯を祀った経典や祠廟を紹介し、その意義を考察する。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** 包拯の伝記 **内容** 宋史を読む。
- 第 2 回 **項目** 南宋時代の包拯 伝説 **内容** 新編醉翁談録を読む。
- 第 3 回 **項目** 元時代の包拯伝 説 **内容** 元曲選を読む。
- 第 4 回 **項目** 明時代の包拯伝 説 (1) **内容** 説唱詞話を読む。
- 第 5 回 **項目** 明時代の包拯伝 説 (2) **内容** 百家公案を読む。
- 第 6 回 **項目** 明時代の包拯伝 説 (3) **内容** 龍図公案を読む。
- 第 7 回 **項目** 清時代の包拯伝 説 (1) **内容** 石派書を読む。
- 第 8 回 **項目** 清時代の包拯伝 説 (2) **内容** 龍図耳録を読む。
- 第 9 回 **項目** 現代の包拯伝説 (1) **内容** 地方劇のテキストを読む。
- 第 10 回 **項目** 現代の包拯伝説 (2) **内容** 地方劇のテキストを読む。
- 第 11 回 **項目** 包拯の経典 **内容** 包公明聖經を読む。
- 第 12 回 **項目** 包拯の祠廟 **内容** 広東・陳州の包公廟を紹介する。
- 第 13 回 **項目** 包拯の祠廟 **内容** 浙江の包公廟を紹介する。
- 第 14 回 **項目** 包拯の祠廟 **内容** 湖南・江西の包公廟を紹介する。
- 第 15 回 **項目** まとめ **内容** 包拯伝説の伝播についてまとめる。

●**成績評価方法（総合）** 1. 出席・レポート提出ができない者は評価の対象外である。 2. どれだけ授業を理解できたかを評価の基準とし、試験によってそれを検査する。

●**教科書・参考書** 参考書： 阿部泰記『包公伝説の形成と展開』（汲古書院） 荘司格一『中国の公案小説』（研文出版）

開設科目	中国文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官					

●授業の概要 未定。

●授業の一般目標 未定。

●成績評価方法(総合) 1. 出席・レポート提出ができない者は評価の対象外である。 2. どれだけ授業を理解できたかを評価の基準とし、試験によってそれを検査する。

開設科目	中国文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	合山究				

●**授業の概要** 明清時代の主情文学—明清の文化を特徴づける「女性」と「情」の文学について、以下のよう  
なテーマで講義を行う。(1) 情と明清文化—「情文化についての概説」「情死について」「花案・花榜  
考」「袁枚好色論」(2) 節婦烈女論—「節婦烈女論—明清時代の女性の生き方」「節婦烈女の異相—  
貞節と淫蕩とのせめぎ合い」「節婦烈女の死生観—『西青散記』の女子絶命詩を中心に」  
(3) 薄命の佳人論—「明清の文人とオカルト趣味」「『西青散記』の世界」「『紅樓夢』に見る女性崇拜  
思想とその源流」「仙女崇拜小説としての『紅樓夢』」(4) 巾幗鬚眉論—「明清時代における巾幗鬚  
眉—女丈夫、女豪傑論」「女詩人の芸術に対する評価をめぐって」(5) 女弟子論—「清代詩人と女弟  
子」「袁枚と女弟子」「陳文述の文学と逸事と女弟子」(6) 戯曲小説における女性—「『選宮女』と明  
清の戯曲小説」「明清の戯曲小説における男装と女装」「美人画と戯曲小説」(7) 小品文学論—「明  
清時代のアフォリズム文学」「明清時代の滑稽文学」(8) 花の文学—「明清時代における花の文化と  
習俗」「明清時代における花の文学の諸相」「『紅樓夢』と花」など。

●**授業の一般目標** 明清時代の社会文化について十分な理解が得られるように、上記のテーマについて精一  
杯講義を行うつもりである。

●**授業の計画(全体)** 授業は大体、(1)～(8)の順に行うが、受講者の希望に応じて、これら以外のこ  
とについて講じることもある。

●**成績評価方法(総合)** 出席点並びにレポート

●**教科書・参考書** 参考書：必要に応じてプリントを配布する。

●**備考** 集中授業

開設科目	中国文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	根ヶ山徹				

- 授業の概要** 明代屈指の劇作家である湯顯祖の『牡丹亭還魂記』を、俞為民校注本によって読む。
- 授業の一般目標** 古代漢語で書かれた原文を読解し、分析する能力を養うことを目標とする。
- 授業の計画（全体）** 俞為民の注釈に基づきながら原文を解釈する。毎回1人が担当し、発表・討議する。今年度は第11齣「慈戒」から。
- 教科書・参考書** 教科書：『牡丹亭』，湯顯祖撰・俞為民導読，黄山書社，2001年

開設科目	中国文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	根ヶ山徹				

- 授業の概要** 前期に引き続き、湯頭祖の『牡丹亭還魂記』を、愈為民校注本によって読む。
- 授業の一般目標** 古代漢語で書かれた原文を読解し、分析する能力を養うことを目標とする。
- 授業の計画（全体）** 愈為民の注釈に基づきながら原文を解釈する。毎回1人が担当し、発表・討議する。
- 教科書・参考書** 教科書：『牡丹亭』，湯頭祖撰・愈為民導読，黄山書社，2001年

開設科目	中国文学演習（2・3年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	阿部泰記				

- 授業の概要** 中国の物語文学を読解する。中国の物語は語り物や演劇で上演された。本演習では、古代から現代にいたる間の代表的な物語文学を取り上げて、その研究方法を学習する。／**検索キーワード** 物語、語り物、演劇
- 授業の一般目標** 1. 物語の媒体となる文学の形式を理解する。 2. 物語の主題を考察する。 3. 物語の現代的意義を考察する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 1. 物語文学の代表的な作品を知る。 2. 物語文学の文体を知る。  
**思考・判断の観点**： 1. 物語文学の主題を考える。 2. 物語文学の歴史を考える。 **関心・意欲の観点**： 1. 物語文学のおもしろさを感じる。 2. 物語文学をすすんで読むようになる。 **態度の観点**： 1. 物語文学の読解につとめる。 2. 辞書を丹念に調べる。 **技能・表現の観点**： 1. 流暢な日本語に翻訳できる。 2. 中国語と日本語の表現に注意する。
- 授業の計画（全体）** 漢代から現代にいたるまでの代表的な物語作品を原書を持ちいて読解する。
- 成績評価方法（総合）** 予習による評価。ノート提出。
- 教科書・参考書** 教科書：未定。あるいはプリント配布。／参考書：中国の小説、物語、演劇関係の書籍。

開設科目	中国文学演習 (2・3年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	阿部泰記				

- 授業の概要** 中国の物語文学を読解する。中国の物語は語り物や演劇で上演された。本演習では、古代から現代にいたる間の代表的な物語文学を取り上げて、その研究方法を学習する。／**検索キーワード** 物語、語り物、演劇
- 授業の一般目標** 1. 物語の媒体となる文学の形式を理解する。 2. 物語の主題を考察する。 3. 物語の現代的意義を考察する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 1. 物語文学の代表的な作品を知る。 2. 物語文学の文体を知る。  
**思考・判断の観点**： 1. 物語文学の主題を考える。 2. 物語文学の歴史を考える。 **関心・意欲の観点**： 1. 物語文学のおもしろさを感じる。 2. 物語文学をすすんで読むようになる。 **態度の観点**： 1. 物語文学の読解につとめる。 2. 辞書を丹念に調べる。 **技能・表現の観点**： 1. 流暢な日本語に翻訳できる。 2. 中国語と日本語の表現に注意する。
- 授業の計画 (全体)** 漢代から現代にいたるまでの代表的な物語作品を原書を持ちいて読解する。
- 成績評価方法 (総合)** 予習による評価。ノート提出。
- 教科書・参考書** 教科書：未定。あるいはプリント配布。／参考書：中国の小説、物語、演劇関係の書籍。

開設科目	中国文学演習 (4 年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	阿部泰記				

●**授業の概要** 卒論作成の指導を行う。卒論作成に必要な基本的な知識や研究方法を教授し、作成した文章に対する手直しを行う。／**検索キーワード** 卒論作成

●**授業の一般目標** 1. 適正な論文課題を選択する。 2. 研究資料の検索方法を身につける。 3. 論理的な文章が書けるようになる。

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 研究資料の存在を知る。 **思考・判断の観点**： 研究方法を考える。  
**関心・意欲の観点**： 関係の書籍を自分で探し出す。 **態度の観点**： 指導をよく聞き取る。 **技能・表現の観点**： 論理的な思考ができるようになる。

●**授業の計画 (全体)** 1. 適正な卒論のテーマの選択を幫助する。 2. 決定したテーマにふさわしい資料の検索方法を教示する。 3. 論理的な論文構成について指導する。

●**成績評価方法 (総合)** 授業での発表を評価する。



開設科目	中国文学演習 (4 年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	阿部泰記				

- 授業の概要** 卒論作成の指導を行う。卒論作成に必要な基本的な知識や研究方法を教授し、作成した文章に対する手直しを行う。／**検索キーワード** 卒論作成
- 授業の一般目標** 1. 適正な論文課題を選択する。 2. 研究資料の検索方法を身につける。 3. 論理的な文章が書けるようになる。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 研究資料の存在を知る。 **思考・判断の観点**： 研究方法を考える。  
**関心・意欲の観点**： 関係の書籍を自分で探し出す。 **態度の観点**： 指導をよく聞き取る。 **技能・表現の観点**： 論理的な思考ができるようになる。
- 授業の計画 (全体)** 1. 適正な卒論のテーマの選択を幫助する。 2. 決定したテーマにふさわしい資料の検索方法を教示する。 3. 論理的な論文構成について指導する。
- 成績評価方法 (総合)** 授業での発表を評価する。

開設科目	中国文学演習 (4 年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	根ヶ山徹				

●**授業の概要** 本授業は卒業論文指導。

●**授業の一般目標** 一年間を通じて着実に研究を進め、「論文」の名に値するレベルに到達することを目標とする。

●**授業の計画（全体）** 各自の研究テーマに応じて、調査すべき資料を示し、その読解、考察に関する指導を行う。毎回、進捗状況の報告を課す。

●**成績評価方法（総合）** 報告内容により判断する。

開設科目	中国文学演習 (4 年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	根ヶ山徹				

●**授業の概要** 本授業は卒業論文指導。

●**授業の一般目標** 一年間を通じて着実に研究をすすめる、「論文」の名に値するレベルに到達することを目標とする。

●**授業の計画 (全体)** 前期に引き続き、各自の研究テーマに応じて、調査すべき資料を示し、その読解、考察に関する指導を行う。毎回、研究の進捗状況の報告を課す。

●**成績評価方法 (総合)** 報告内容により判断する。

開設科目	中国語演習（会話）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	崔 丹				

●**授業の概要** 基礎の中国語会話を反復して練習することは、会話能力を高めるコツである。この反復練習を通じて、話し手に自信をつけさせ、中国語を話す意欲を持たせる。内容的には、学生が正確な発音をマスターすることから始め、段階を追って、より複雑な会話の表現力を身につけていくように指導して行きたい。毎回講義の最初に前回講義の内容もしくは簡潔な文章や物語についてヒヤリングの練習を行う／**検索キーワード** 中国語、会話、ヒヤリング

●**授業の一般目標** (1) 基本的な会話が流暢にできる。(2) 日常会話、簡単な文章を聞き取れる。

●**授業の計画（全体）** (1) 最も基本的で、しかも日常生活においてよく使われる会話をプリントにし、最初の三～四回で学習する。(2) 2003年に使用した「中国語会話新編」に引き続き第11課～第14課の内容を学習する。内容的には連続性がないので、2003年に勉強したことがなくても構わない。(3) 一～二回で中国の映画やアニメのビデオを鑑賞する。

●**成績評価方法（総合）** 平素の出席状況と中間、期末試験の成績より評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：西楨光正編「中国語会話新編」三修社、1995／参考書：授業中に指示する。

●**連絡先・オフィスアワー** 山口大学医学部病理学第一講座 メールアドレス：cuidan@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	中国語演習（会話）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	崔 丹				

●**授業の概要** 基礎の中国語会話を反復して練習することは、会話能力を高めるコツである。この反復練習を通じて、話し手に自信をつけさせ、中国語を話す意欲を持たせる。内容的には、学生が正確な発音をマスターすることから始め、段階を追って、より複雑な会話の表現力を身につけていくように指導して行きたい。毎回講義の最初に前回講義の内容もしくは簡潔な文章や物語についてヒヤリングの練習を行う。／**検索キーワード** 中国語、会話、ヒヤリング

●**授業の一般目標** (1) 基本的な会話が流暢にできる。(2) 日常会話、簡単な文章を聞き取れる。

●**授業の計画（全体）** (1) 最も基本的で、しかも日常生活においてよく使われる会話をプリントにし、最初の三～四回で学習する。(2) 2003年に使用した「中国語会話新編」に引き続き第15課～第18課の内容を学習する。内容的には連続性がないので、前期に勉強したことがなくても構わない。(3) 一～二回で中国の映画やアニメのビデオを鑑賞する。

●**成績評価方法（総合）** 平素の出席状況と中間、期末試験の成績より評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：西槇光正「中国語会話新編」三修社 1995 / 参考書：授業中に指示する。

●**連絡先・オフィスアワー** 山口大学医学部病理学第一講座 メールアドレス：cuidan@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	中国語演習（作文）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田 梅				

●**授業の概要** 1 常用単文の組み立てる。 2 常用複文の組み立てる。 3 常用虚詞の組み立てる。／**検索キーワード** 中国語、短文、作文

●**授業の一般目標** 本授業は基本的な文法を習得し、辞書の助けで易しい文章の大体の内容が理解できるレベルの学者を対象とする。中国のセンテンスをどう組み立てるのか勉強して、和文中訳、中文和訳・誤文訂正など数多くの練習をして、短文、作文及び表現能力を高めることを目指す。（毎回授業では学生諸君に練習問題、作文を板書してもらい、それをチェックする。問題点を分析し、不適切なところを直す。）

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：慣用語、文型を身につけて、訳文、短文の方法、形式を運用できる。**思考・判断の観点**：自分の感情、考えなど正しく表現できる短文、作文を作る。**関心・意欲の観点**：中国、中国語、中国事情に理解、関心を持つ。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

第 1 回 **項目** オリエンテーション **内容** 本授業の説明と受講生の中国語レベルをチェックする。

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回 **項目** 前期期末試験

●**成績評価方法（総合）** 1）授業外の宿題を数回行う。（2）関心ある問題について中国語作文を作成し提出する。（3）試験を実施する。以上を下記の観点、割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

●**教科書・参考書** 教科書：テキストは受講生の中国語レベルのチェックによって決める。

●**メッセージ** 必ず予習、復習してください。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究 1 号館 (311) tian@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日・水曜日  
16:00 — 18:00

開設科目	中国語演習（作文）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	田 梅				

●**授業の概要** 1 常用単文の組み立てる。 2 常用複文の組み立てる。 3 常用虚詞の組み立てる。／**検索キーワード** 中国語、短文、作文

●**授業の一般目標** 前期に引き続き、自分の感情や考えを正しく表現できるように一層の実力アップを目指す。（毎回授業では学生諸君に練習問題、作文を板書してもらい、それをチェックする。問題点を分析し、不適切なところを直す。）

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 慣用語、文型を身につけて、訳文、短文の方法、形式を運用できる。 **思考・判断の観点**： 自分の感情、考えなど正しく表現できる短文、作文を作る。 **関心・意欲の観点**： 中国、中国語、中国事情に理解、関心を持つ。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

第 1 回 項目 前期に続く

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回 項目 後期期末試験

●**成績評価方法（総合）** 1）授業外の宿題を数回行う。（2）関心ある問題について中国語作文を作成し提出する。（3）試験を実施する。以上を下記の観点、割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

●**教科書・参考書** 教科書：テキストは前期と同じ

●**メッセージ** 必ず予習、復習してください。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究 1 号館（311） tian@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日・水曜日  
16:00 — 18:00

開設科目	中国語演習（時事中国語）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	陳鳳展				

●**授業の概要** 中国の新聞・雑誌から政治、経済、文化、科学、社会、スポーツの各分野の記事を集めたテキストを使って、いわゆる新聞体の文型、構文、前置詞の使い方や次々と出現する新語等について解説する。

●**授業の一般目標** 中国語の新聞・雑誌・論文が正確に読解できるようになること。

●**授業の計画（全体）** テキストの目次に従って、下記項目を抜粋して授業する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の目標と進め方、勉強の仕方、シラバスの説明、成績評価等。
- 第 2 回 項目 LEVEL II 内容 基礎問題 A
- 第 3 回 項目 LEVEL II 内容 基礎問題 B
- 第 4 回 項目 LEVEL II 内容 発展問題
- 第 5 回 項目 LEVEL IV 内容 基礎問題 A
- 第 6 回 項目 LEVEL IV 内容 基礎問題 B
- 第 7 回 項目 LEVEL VI 内容 発展問題
- 第 8 回 項目 LEVEL VI 内容 基礎問題 A
- 第 9 回 項目 LEVEL VI 内容 基礎問題 B
- 第 10 回 項目 LEVEL VI 内容 発展問題
- 第 11 回 項目 LEVEL VIII 内容 基礎問題 A
- 第 12 回 項目 LEVEL VIII 内容 基礎問題 B
- 第 13 回 項目 LEVEL VIII 内容 発展問題
- 第 14 回 項目 期末試験 内容 テキスト外より実力問題を出題する
- 第 15 回

●**成績評価方法（総合）** (1) 期末試験で 60 点以上取ること。（試験は 1 回のみ。評価割合 100 %） (2) 全講義回数の四分の三以上出席すること。（欠格条件とします。）

●**教科書・参考書** 教科書：《現代中国語拡大鏡》（绿色通道）、三瀆正道編著、朝日出版社

●**メッセージ** 上記テキストは文栄堂山大前店で購入して下さい。



開設科目	中国事情	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	陳鳳展				

●**授業の概要** 1. 漢民族の伝統的な風俗・習慣や物の考え方について、日本のそれと比較しながら話していく。 2. 近年の改革・開放政策による人や社会の変化についてビデオで紹介する。

●**授業の一般目標** 授業計画（授業単位）欄の授業項目に挙げた事項を日本のそれと比較して理解できる。

●**授業の計画（全体）** 書きの授業計画（授業単位）のとおり。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回 **項目** オリエンテーション **内容** 授業の目標と進め方。シラバスの説明。成績評価方法等。

第 2 回 **項目** 中国の国土と人 **内容** 広大な面積と人口、地勢、豊富な地下資源等について。

第 3 回 **項目** 中国の国土と人 **内容** 行政区域、多民族国家、中国人の発明等について。

第 4 回 **項目** 中国人の姓名 **内容** 姓名の来源、中国人の姓名の特長（名のつけ方）。

第 5 回 **項目** 中国人の食事 **内容** 土地によって主食・副食が異なる。味もちがう。

第 6 回 **項目** 中国人の食事 **内容** 食事の方式・習慣。料理法。日中の箸のちがひ。

第 7 回 **項目** 中国茶 **内容** 中国茶の種類と名茶。土地によって茶をのむ習慣が異なる。

第 8 回 **項目** 中国の酒 **内容** 醸造酒と蒸留酒のそれぞれの名酒。老酒について。

第 9 回 **項目** 伝統的な主要節句 I **内容** 春節、元宵節の意義と行事について。

第 10 回 **項目** 伝統的な主要節句 II **内容** 端午節、中秋節の意義と行事について。

第 11 回 **項目** 京劇—中国の芝居 **内容** 京劇の特長。京劇の役柄。

第 12 回 **項目** 改革・開放後の人や社会 **内容** ビデオで鑑賞

第 13 回 **項目** 改革・開放後の人や社会 **内容** ビデオで鑑賞

第 14 回 **項目** 期末試験

第 15 回

●**成績評価方法（総合）** (1) 期末試験の成績による。（評価割合 100 %） (2) 全講義回数 of 四分の三以上出席しないと試験を受ける資格がない。

●**教科書・参考書** 教科書：教科書を使用しない。毎回講義する項目の関係資料をプリントして配付します。

開設科目	現代英米語概説 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	太田聡				

●**授業の概要** 英語の音声や語形成に関する原則や制約を、日本語のそれらとも対照させながら、説明する。  
／検索キーワード 発音、アクセント、リズム、語形成

●**授業の一般目標** 日英語の発音や語形成に関する法則を比較し、言語の個別性と普遍性を考える。

●**授業の到達目標／知識・理解の観点**： 1. 日本語と英語のアクセントの法則の共通性に気づく。 2. 新しい語を生み出す法則を知る。 **思考・判断の観点**： 知らない語のアクセントを予測したり、可能な語と不可能な語の区別ができるようになる。 **関心・意欲の観点**： 広く人間言語のアクセントの法則に興味を持つ。 **態度の観点**： 「語とそのアクセント（発音）は暗記するもの」という考え方を捨て去る。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** 英語音声学の基礎（1） **内容** 英語の母音の正しい発音の仕方を指導する。 **授業外指示** 自宅で鏡を見ながら、配布したプリントの図と同じように調音できるようにする。
- 第 2 回 **項目** 英語音声学の基礎（2） **内容** 英語の子音の正しい発音の仕方を指導する。 **授業外指示** 第 1 週目と同様
- 第 3 回 **項目** 英語音声学の基礎（3） **内容** 英語のつづり字と発音の関係について解説する。 **授業外指示** 配布資料の課題を解く。
- 第 4 回 **項目** 日英語の分節音韻論 **内容** 母音や子音の体系を説明する。 **授業外指示** 教科書の第 1 章を読んでおく。
- 第 5 回 **項目** 日英語の分節音韻論 **内容** 母音や子音の変化の法則を説明する。 **授業外指示** 教科書の第 1 章を読んでおく。
- 第 6 回 **項目** 日英語の分節音韻論 **内容** 母音や子音の変化に関わる制約について論じる **授業外指示** 教科書第 1 章を読んでおく。
- 第 7 回 **項目** 日英語の語形成 **内容** 可能な語と不可能な語を生み出すメカニズムを説明する。 **授業外指示** 教科書第 1 章を読んでおく。
- 第 8 回 **項目** 日英語の音節構造 **内容** 日英語の音節構造について説明する。 **授業外指示** 教科書第 2 章を読んでおく。
- 第 9 回 **項目** 日英語の音節構造 **内容** 日英語の音節構造の真の違いについて説明する。 **授業外指示** 教科書第 2 章を読んでおく。
- 第 10 回 **項目** 日英語の韻律 **内容** リズムの問題を取り上げる。 **授業外指示** 教科書第 3 章を読んでおく。
- 第 11 回 **項目** 日英語の韻律 **内容** 韻律が生み出す言語文化について論じる。 **授業外指示** 教科書第 3 章を読んでおく。
- 第 12 回 **項目** 日英語のアクセント **内容** 日英語のアクセントの相違について説明する。 **授業外指示** 教科書第 4 章を読んでおく。
- 第 13 回 **項目** 日英語のアクセント **内容** 日英語のアクセントの共通性について論じる。 **授業外指示** 教科書第 4 章を読んでおく。
- 第 14 回 **項目** 文強勢について **内容** 英語の文のアクセントについて解説する **授業外指示** 配布プリントを読んでおく。
- 第 15 回 **項目** 試験

●**成績評価方法（総合）** 期末筆記試験で評価する。なお、出席も重視し、欠席 1 回につき期末試験の点数から 5 点ずつ減点する。

●**教科書・参考書** 教科書：窪菌晴夫・太田聡著『音韻構造とアクセント』研究社、1998 年

●**連絡先・オフィスアワー** ohta@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部 6 階 オフィスアワー 火曜日 16:10～17:40

開設科目	現代英米語概説 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	太田聡				

●**授業の概要** 我々の脳の中には「文法」がある。この「脳内文法」のおかげで我々はことばを生み出し、それを理解することができる。この「脳内文法」のメカニズムを解説する。／**検索キーワード** 脳、言語獲得、生成文法

●**授業の一般目標** 言語獲得の謎を解き明かす。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： ことばを生み出すメカニズムを理解する。 **思考・判断の観点**： 明示的な形で文法構造を表すことができるようになる。 **関心・意欲の観点**： 脳の不思議に関心を持つ。 **技能・表現の観点**： 英語の文法システムをより深く理解して、英作文の際の誤文の数を減らす。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** オリエンテーション **内容** 生成文法の目標 を解説する。
- 第 2 回 **項目** 文法性の判断 **内容** なぜある文が可能か否かを脳が判断できるのか を考える。 **授業外指示** 教科書第 1 章を 読んでおく。
- 第 3 回 **項目** 科学的な言語研究 **内容** 理論言語学とは なにかを解説する。 **授業外指示** 教科書第 2 章を 読んでおく。
- 第 4 回 **項目** 自然言語の統語 構造 **内容** 文を生み出す規則を解説する。 **授業外指示** 教科書第 3 章を 読んでおく。
- 第 5 回 **項目** 自然言語の統語 構造 **内容** 文を生み出す規則を解説する。 **授業外指示** 教科書第 3 章を 読んでおく。
- 第 6 回 **項目** 句構造規則 **内容** ことばの設計図 について説明する。 **授業外指示** 教科書第 4 章を 読んでおく。
- 第 7 回 **項目** X バー理論 **内容** 句構造を生み出す普遍性について解説する。 **授業外指示** 教科書第 5 章を 読んでおく。
- 第 8 回 **項目** X バー理論の妥当性 **内容** X バー理論がどのくらいの説明 力を持つかを検証する。 **授業外指示** 教科書第 6 章を 読んでおく。
- 第 9 回 **項目** ことばの獲得 **内容** 言語習得の不思議を説く。 **授業外指示** 教科書第 7 章を 読んでおく。
- 第 10 回 **項目** ことばの獲得 **内容** 言語習得の不思議を説く。 **授業外指示** 教科書第 7 章を 読んでおく。
- 第 11 回 **項目** 言語獲得の謎を 解く **内容** 言語習得のメカニズムを解説する。 **授業外指示** 教科書第 8 章を 読んでおく。
- 第 12 回 **項目** 外国語学習について **内容** 母語と外国語の 違いについて考察する。 **授業外指示** 教科書第 9 章を 読んでおく。
- 第 13 回 **項目** 人口知能 **内容** 言語研究と人工 知能の関係を論 じる。 **授業外指示** 教科書第 10 章を 読んでおく。
- 第 14 回 **項目** まとめ
- 第 15 回 **項目** 試験

●**成績評価方法（総合）** 期末筆記試験で評価する。なお、出席も重視し、欠席 1 回につき、定期試験から 5 点ずつ減点する。

●**教科書・参考書** 教科書： 畠山雄二著『情報科学のための自然言語入門—ことばで探る脳のしくみ』丸 善, 2003 年

●**連絡先・オフィスアワー** ohta@yamaguchi-u.ac.jp 研究室:人文学部 6 階 オフィスアワー 火曜日 16:10 ~ 17:40

開設科目	英語史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	岩部浩三				

●**授業の概要** 英語を学び始めたときから誰もが感じる英語に関する素朴な疑問を歴史的に解き明かす。例えば、「規則変化のほかに不規則変化があるのはなぜか」「keep,deep のように e が二つならイーと読むのに、kept, depth のように 1 つならエであるのはなぜか」など、最初に疑問点を列挙して、半年後にはそれが説明できるようにする。英語を話す民族の動向をビデオ教材を通じて理解する。／**検索キーワード** 英語史

●**授業の一般目標** 現代英語に関する疑問を共有し、それらを歴史的に説明できるようになる。英語の成立から、現代英語までの概略を把握する。英語を話す民族の動向に関心を持つ。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：英語とその言語を話す民族の歴史の概略を把握する。現代英語に対して感じる疑問点を歴史的に説明できる。**関心・意欲の観点**：英語に対する素朴な疑問点を再確認し、それを歴史的に解明する意欲を持つ。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 英語に関する素朴な疑問について
- 第 2 回 項目 英語の外史
- 第 3 回 項目 借入語
- 第 4 回 項目 発音の変化
- 第 5 回 項目 屈折の単純化
- 第 6 回 項目 屈折の単純化
- 第 7 回 項目 屈折の単純化
- 第 8 回 項目 屈折の単純化
- 第 9 回 項目 統語法の発達
- 第 10 回 項目 統語法の発達
- 第 11 回 項目 統語法の発達
- 第 12 回 項目 統語法の発達
- 第 13 回 項目 統語法の発達
- 第 14 回 項目 質疑応答
- 第 15 回 項目 期末試験

●**成績評価方法（総合）** 期末試験によって評価する。欠席は、原則として 2 回を超えると欠格とする。遅刻は欠席 0.5 とみなす。

●**教科書・参考書** 教科書：安藤貞雄著『英語史入門』（開拓社）文栄堂（大学前）で販売予定。

開設科目	英語生成文法	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	島越郎				

●**授業の概要** 生成文法と呼ばれる文法理論の基本的考え方を概説する。高校までに習った学習英 文法は、受動文では目的語が主語位置に移動し、WH 疑問文では WH 疑問詞が文頭に移動することを教えてくれる。しかしながら、それは何故かという疑問に対して学習英文法は 何も答えてくれない。このような問いに答えることにより、ことばの仕組みを明らかに しようと試みる文法理論が生成文法である。授業では、生成文法の枠組みにおいて、学 習英文法では教えてくれない英語の特徴を考察する。／**検索キーワード** 英語、生成文法、ことばの仕組み、文法理論

●**授業の一般目標** 生成文法における言語分析を通して、英語についての理解を深め、また、科学的思考法を身につける。

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 英語の主要な構文の特徴を説明できる。 **思考・判断の観点**： 表面的な言語現象の根底に隠されている言葉の仕組みを指摘できる。 **技能・表現の観点**： 考察したことを論理的に文書で表現できる。

●**授業の計画（全体）** 先ず、生成文法の枠組みを概説し、その後、その枠組みを使って英語を分析していく。取り上げるトピックは、主語・助動詞倒置、否定文、時制、モダリティ、アスペクト、受動文等々である。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** オリエンテーション **内容** 1) 授業の目標 と進め方、2) 成績評価法について説明する
- 第 2 回 **項目** 文法の枠組み (1) **内容** 文には抽象的構造が存在することについて説明する。
- 第 3 回 **項目** 文法の枠組み (2) **内容** 英語の主語・助動詞倒置現象について説明する。
- 第 4 回 **項目** 文法の枠組み (3) **内容** 否定文について説明する。
- 第 5 回 **項目** 時と時制 (1) **内容** 時の意味解釈について説明する。
- 第 6 回 **項目** 時と時制 (2) **内容** 未来表現について説明する。
- 第 7 回 **項目** 中間テスト
- 第 8 回 **項目** テスト返却・解説
- 第 9 回 **項目** ムードとモダリティ **内容** 法助動詞と命令法について説明する。
- 第 10 回 **項目** アスペクト **内容** 動詞の意味分類について説明する。
- 第 11 回 **項目** 動詞のクラスと 交替現象 **内容** 自動詞の分類について説明する。
- 第 12 回 **項目** 名詞句移動 **内容** 受動文と繰り上げ文について説明する。
- 第 13 回 **項目** 疑問詞移動 **内容** 島の効果、下接の条件、連続循環的移動について説明する。
- 第 14 回 **項目** 期末テスト
- 第 15 回 **項目** テスト返却・解説

●**成績評価方法（総合）** 定期試験（中間試験と期末試験）の結果に基づいて評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：『英語の主要構文』 中村 捷・金子義明 研究社 プリントも随時配布する。

●**連絡先・オフィスアワー** eshima@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	岩部浩三				

●**授業の概要** テンスとアスペクトの語法に関する基本的な問題点を解説する。毎回、テキストを20ページ程度予習し、質問用紙に質問を書いてもらう。その質問に答える形で講義を進める。質問は内容に直接関わるものだけでなく、修辭上の疑問点なども含む。／**検索キーワード** 時制、相、テンス、アスペクト

●**授業の一般目標** テンスとアスペクトの基本的な知識を身につける。日本語で書かれた専門文献を自力で読みこなし、疑問点があればそれを整理して質問できるようになる。問題意識を持って毎回の授業に臨むことで、課題解決能力への第一歩を踏み出す。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： テンス・アスペクトの基本的な知識を身につけ、例を用いて説明できる。**関心・意欲の観点**： 常に、問題意識を持って授業に臨む。**技能・表現の観点**： 日本語で書かれた文献を読みこなし、疑問点を質問できる。相手にわかりやすい文章で簡潔に説明できる。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 **項目** イントロダクション 現在時制 **内容** 授業方法の指示 質問用紙への記入 **授業外指示** 教科書を購入し、現在時制の部分を予習しておくこと。
- 第2回 **項目** 現在時制と過去時制 **内容** 現在時制の解説 質問用紙記入 **授業外指示** 過去時制の予習をしておくこと。
- 第3回 **項目** 過去時制と未来時の表現(1) **内容** 過去時制の解説。質問用紙記入。 **授業外指示** p.55まで予習
- 第4回 **項目** 未来時の表現(1)(2) **内容** 未来時の表現(1)の解説。質問用紙記入。 **授業外指示** p.74まで予習
- 第5回 **項目** 未来時の表現(2)(3) **内容** 未来時の表現(2)の解説。質問用紙記入。 **授業外指示** p.94まで予習
- 第6回 **項目** 未来時の表現(3)(4) 進行形(1) **内容** 未来時の表現(3)の解説。質問用紙記入。 **授業外指示** p.113まで予習
- 第7回 **項目** 未来時の表現(4) 進行形(1)(2) **内容** 未来時の表現(4) 進行形(1)の解説。質問用紙記入。 **授業外指示** 131まで予習
- 第8回 **項目** 中間試験
- 第9回 **項目** 進行形(2)(3) **内容** 進行形(2)の解説。質問用紙記入。 **授業外指示** p.154まで予習
- 第10回 **項目** 進行形(3) 完了形(1) **内容** 進行形(3)の解説。質問用紙記入。 **授業外指示** p.179まで予習
- 第11回 **項目** 完了形(1)(2) **内容** 完了形(1)の解説。質問用紙記入。 **授業外指示** p.202まで予習
- 第12回 **項目** 完了形(2)(3) **内容** 完了形(2)の解説。質問用紙記入。 **授業外指示** p.220まで予習
- 第13回 **項目** 完了形(3)(4) **内容** 完了形(3)の解説。質問用紙記入。 **授業外指示** p.220まで予習
- 第14回 **項目** 完了形(4) **内容** 完了形(4)の解説。質疑応答
- 第15回 **項目** 期末試験

●**教科書・参考書** 教科書： 柏野健次 著『テンスとアスペクトの語法』（開拓社） 文栄堂（大学前）で販売予定。

開設科目	英語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	島越郎				

●**授業の概要** 生成文法の枠組みにおいて、英語の省略文における照応表現の指示の問題について考察する。省略文とは、省略された要素と同一の要素が文脈上の他の場所に存在し、その要素に基づいて省略された要素が復元できる文である。省略された箇所に代名詞などの照応表現が含まれている場合、代名詞の指示に関して解釈が多義的になる。(1) John scratches his arm, and Bill does, too. 省略文(1)では動詞と目的語(scratch his arm)が省略されており、代名詞 his が John を指す場合と Bill を指す場合の二通りの解釈が可能である。すなわち、(1)の文は、「ジョンがジョンの腕をかき、ビルもジョンの腕をかいた」という解釈と「ジョンがジョンの腕をかき、ビルもビルの腕をかいた」という解釈を持ち、前者は「厳密な同一性(strict identity)」の読み、後者は「ゆるやかな同一性(sloppy identity)」の読みと呼ばれている。この授業では、省略文におけるこのような解釈の多義性を許す統語的・意味的条件について考えていく。／**検索キーワード** 省略文、照応表現、生成文法、解釈の多義性

●**授業の一般目標** 英語の省略構文の統語的・意味的特徴についての理解を深め、また、生成文法の思考法を身につける。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：英語の省略文の特徴について説明できる。**思考・判断の観点**：表面的な省略文の現象の根底に隠されている言葉の仕組みを指摘できる。**技能・表現の観点**：考察したことを論理的に文書で表現できる。

●**授業の計画(全体)** 省略文における照応表現の指示の問題を次の3つの具体的な言語現象から順次考察していく。1) 動詞句省略文における代名詞の指示現象、2) 動詞句省略文における再帰代名詞の指示現象、3) 重複語句剥奪文における再帰代名詞の指示現象

●**授業計画(授業単位)**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第1回 **項目** オリエンテーション **内容** 1) 授業の目標と進め方、2) 成績評価の方法について説明する。
- 第2回 **項目** 動詞句省略文における代名詞の指示現象(1) **内容** 二種類の照応関係と strict/ sloppy な読みとの関連について説明する。
- 第3回 **項目** 動詞句省略文における代名詞の指示現象(2) **内容** sloppy な読みを認可する統語的・意味的条件について説明する。
- 第4回 **項目** 動詞句省略文における代名詞の指示現象(3) **内容** E-type pronoun とロバ文について説明する。
- 第5回 **項目** 動詞句省略文における代名詞の指示現象(4) **内容** 動詞句削除文におけるロバ文について説明する。
- 第6回 **項目** 動詞句省略文における再帰代名詞の指示現象(1) **内容** 動詞句削除文における再帰代名詞の解釈の問題について説明する。
- 第7回 **項目** 動詞句省略文における再帰代名詞の指示現象(2) **内容** 照応形移動仮説について説明する。
- 第8回 **項目** 動詞句省略文における再帰代名詞の指示現象(3) **内容** 等位節と従属節における再帰代名詞の解釈の違いについて説明する。
- 第9回 **項目** 動詞句省略文における再帰代名詞の指示現象(4) **内容** 浅い照応形と深い照応形について説明する。
- 第10回 **項目** 重複語句剥奪文における再帰代名詞の指示現象(1) **内容** 重複語句剥奪文における再帰代名詞の解釈の問題について説明する。
- 第11回 **項目** 重複語句剥奪文における再帰代名詞の指示現象(2) **内容** 中国語における長距離照応形の特徴について説明する。
- 第12回 **項目** 重複語句剥奪文における再帰代名詞の指示現象(3) **内容** 中国語の長距離照応形と英語の再帰代名詞との関連について説明する。

- 第13回 **項目** 重複語句剥奪文 における再帰代 名詞の指示現象 (4) **内容** 重複語句剥奪文 と動詞句削除文 における再帰代 名詞の解釈のち がいについて説 明する。
- 第14回 **項目** 期末テスト
- 第15回 **項目** テスト返却・解 説

●**成績評価方法 (総合)** 定期試験の結果に基づいて評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：『照応と削除』 今西典子・浅野一郎 大修館書店 プリントも随時配布する。  
／ 参考書：『英語の主要構文』中村 捷・金子義明 研究社

●**メッセージ** 「英語生成文法」を履修していることが望ましい。

●**連絡先・オフィスアワー** eshima@yamaguchi-u.ac.jp



開設科目	英語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	太田聡				

●**授業の概要** 生成音韻論、生成形態論、生成統語論と呼ばれる分野の主要なトピックスを概説する。／**検索キーワード** 韻律理論、語彙音韻論、GB 理論、最適性理論

●**授業の一般目標** 特に 1970 年代以降の生成文法理論の発展を理解する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：生成文法のテクニカルな分析方法を理解する。**思考・判断の観点**：生成文法の基本理念や目標を理解する。**関心・意欲の観点**：日常何気なく使っていることばの中に隠されたさまざまな法則に目を向ける。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

第 1 回 **項目** オリエンテーション **内容** 生成文法の思考法について解説する。**授業外指示** 配布資料を読む。

第 2 回 **項目** 生成音韻論 **内容** 生成音韻論の発展について概説する。**授業外指示** 〃

第 3 回 **項目** 韻律理論の展開 **内容** 韻律理論によるアクセントの分析を紹介する。**授業外指示** 〃

第 4 回 **項目** 〃 **内容** 〃 **授業外指示** 〃

第 5 回 **項目** 日英語のアクセントの比較 **内容** 日英語のアクセントの共通性を論じる。**授業外指示** 〃

第 6 回 **項目** 生成形態論 **内容** 生成文法での語形成の捉え方を解説する。**授業外指示** 〃

第 7 回 **項目** 語彙音韻論・形態論 **内容** 語形成と音韻論の関係を論じる。**授業外指示** 〃

第 8 回 **項目** 〃 **内容** 〃 **授業外指示** 〃

第 9 回 **項目** 生成統語論の発展 **内容** 生成統語論の発展を跡付ける。**授業外指示** 〃

第 10 回 **項目** GB 理論とはなにか？ **内容** 統率・束縛理論の原理・原則を解説する。**授業外指示** 〃

第 11 回 **項目** 〃 **内容** 〃 **授業外指示** 〃

第 12 回 **項目** ミニマリストプログラムについて **内容** 1990 年代半ば以降の統語論の発展を紹介する。**授業外指示** 〃

第 13 回 **項目** 〃 **内容** 〃 **授業外指示** 〃

第 14 回 **項目** 最適性理論について **内容** 最適性理論とはどのような理論かを解説する。**授業外指示** 〃

第 15 回 **項目** 〃 **内容** 〃 **授業外指示** 〃

●**成績評価方法（総合）** 各テーマが終わるごとに課題を出すので、それを解いて次の授業時に提出のこと。この課題レポートの合計点で評価する。欠席は 1 回につき 5 点減点とする。

●**教科書・参考書** 教科書：適宜プリントを配布する。

●**連絡先・オフィスアワー** ohta@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：火曜日 16:10～17:40

開設科目	英語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	島越郎				

●**授業の概要** 前期に引き続き、生成文法の枠組みにおいて英語の省略文を考察する。後期は、特に、次の二つの省略文に焦点を当てる。(1) John loves Mary, and Peter does, too. (2) Bill ate more peaches than Harry did grapes. 省略文(1)では、動詞と目的語 (love Mary) が省略されており、このような文は動詞句省略文 (VP ellipsis) と呼ばれている。一方、(2)では、動詞 (eat) のみが省略されており、このような省略文は擬似空所化 (pseudo-gapping) と呼ばれている。この授業では、この二つの省略文の類似点と相違点について考えていく。動詞句省略文と擬似空所化文の二つの省略文の類似点・相違点について考えていく。／**検索キーワード** 省略文、動詞句省略文、擬似空所化、生成文法

●**授業の一般目標** 英語の省略文についての理解を深め、また、生成文法の思考法を身につける。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：英語の省略文についての特徴を説明できる。**思考・判断の観点**：表面的な省略文の現象の底に隠されている言葉の仕組みを指摘できる。**技能・表現の観点**：考察したことを論理的に文章で表現できる。

●**授業の計画 (全体)** 動詞句削除文と擬似空所化が示す三つの相違点と一つの類似点について順次考察していく。

●**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** オリエンテーション **内容** 1) 授業の目標と進め方、2) 成績評価の方法について説明する。
- 第 2 回 **項目** 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 1：読みの局所性効果 (1) **内容** 動詞句削除文における解釈の多義性について説明する。
- 第 3 回 **項目** 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 1：読みの局所性効果 (2) **内容** 擬似空所化における解釈の局所性効果について説明する。
- 第 4 回 **項目** 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 1：読みの局所性効果 (3) **内容** 動詞句削除文における解釈の局所性効果について説明する。
- 第 5 回 **項目** 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 2：strict/sloppy の読み (1) **内容** 動詞句削除文における strict/ sloppy の読みについて説明する。
- 第 6 回 **項目** 動詞句削除文と擬似空所化のその 2：strict/ sloppy の読み (2) **内容** sloppy の読みを認可する意味的条件について説明する。
- 第 7 回 **項目** 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 2：strict/sloppy の読み (3) **内容** 擬似空所化における sloppy の読みの可能性について説明する。
- 第 8 回 **項目** 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 3：逆行削除 (1) **内容** 擬似空所化における逆行削除について説明する。
- 第 9 回 **項目** 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 3：逆行削除 (2) **内容** 文解析の原理と逆行削除について説明する。
- 第 10 回 **項目** 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 3：逆行削除 (3) **内容** 動詞句削除文における逆行削除の可能性について説明する。
- 第 11 回 **項目** 動詞句削除文と擬似空所化の類似点：義務的削除 (1) **内容** 動詞句削除文と擬似空所化における削除問題について説明する。
- 第 12 回 **項目** 動詞句削除文と擬似空所化の類似点：義務的削除 (2) **内容** 島の効果と削除について説明する。
- 第 13 回 **項目** 動詞句削除文と擬似空所化の類似点：義務的削除 (3) **内容** 擬似空所化における削除の義務性について説明する。
- 第 14 回 **項目** 期末テスト
- 第 15 回 **項目** テスト返却・解説

- 成績評価方法 (総合) 定期試験の結果に基づいて評価する。
- 教科書・参考書 教科書：『照応と削除』 今西典子・浅野一郎 大修館書店 プリントも随時配布する。  
／ 参考書：『英語の主要構文』 中村 捷・金子義明 研究社
- メッセージ 「英語生成文法」を履修していることが望ましい。
- 連絡先・オフィスアワー eshima@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	寺田寛				

- 授業の概要** この講義では、英語の興味深い構文について学び、その中で生成文法理論の考え方に接する。
- 授業の一般目標** 英語のいくつかの構文について先行研究で明らかにされたことがらを紹介し、問題点とその解決策について考察する。
- 授業の計画（全体）** 文法理論の枠組み、WH 移動構文、数量詞遊離構文、再構築現象などを取り上げる。
- 成績評価方法（総合）** 授業への取り組みとレポートから評価を決定する。
- 教科書・参考書** 教科書：授業中にプリントを配布する。／参考書：荒木一雄・安井稔『現代英文法辞典』三省堂
- 連絡先・オフィスアワー** terakan@cc.osaka-kyoiku.ac.jp
- 備考** 集中授業

開設科目	英語学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	岩部浩三				

- 授業の概要** 英語学の専門論文を読み、内容を解説する。本年度は、Carloson and Pelletier (eds.) The Generic Book の Introduction を用いる。
- 授業の一般目標** 英語の論文に慣れ、自分で読めるようになる。あわせて、意味論・語用論の研究内容に触れ、関心を持つ。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 英語で書かれた論文の内容を把握して、例を用いて日本語で説明できる。総称文に関するさまざまなアプローチの違いを見分ける。 **関心・意欲の観点**： 論文の一部分だけでなく、全体を見る目を持ち、常に予習を進めながら授業に臨む。 **技能・表現の観点**： 英語の論文に慣れ、自分で読めるようになる。
- 授業の計画（全体）** 1回に5ページ程度の進捗で進むが、演習形式であるので、多少の進み遅れがある。できるだけ早く全体を読んでおく必要がある。試験は広範囲にわたるので、常時予習を怠らず、疑問点の解決に努める必要がある。

開設科目	英語学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	岩部浩三				

- 授業の概要** 英語学の専門論文を読み、内容を解説する。本年度は、Carloson and Pelletier (eds.) The Generic Book の Introduction を用いる。後期は、前期の続きを予定している。使用する文献については、変更もあり得る。
- 授業の一般目標** 英語の論文に慣れ、自分で読めるようになる。あわせて、意味論・語用論の研究内容に触れ、関心を持つ。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：英語で書かれた論文の内容を把握して、例を用いて日本語で説明できる。総称文に関するさまざまなアプローチの違いを見分ける。 **関心・意欲の観点**：論文の一部だけでなく、全体を見る目を持ち、常に予習を進めながら授業に臨む。 **技能・表現の観点**：英語の論文に慣れ、自分で読めるようになる。
- 授業の計画（全体）** 1回に5ページ程度の進度で進むが、演習形式であるので、多少の進み遅れがある。できるだけ早く全体を読んでおく必要がある。試験は広範囲にわたるので、常時予習を怠らず、疑問点の解決に努める必要がある。

開設科目	英語学学習（文法と意味）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	島越郎				

●**授業の概要** 生成文法の枠組みにおいて英語の省略文を考察する。省略文では、省略された要素が復元できるように同一の要素が文脈に存在しなければいけない。この場合、どのようなメカニズムで復元されるのかを明らかにすることが重要な問題となる。この問題を、動詞句省略文 (VP-ellipsis) と呼ばれる省略文を手掛かりに考えていく。／**検索キーワード** 省略文、動詞句省略文、生成文法

●**授業の一般目標** 英語の省略文についての理解を深め、また、生成文法の思考法を身につける。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：英語の動詞句省略文についての特徴を説明できる。**思考・判断の観点**：表層的な言語現象の根底に隠されている言葉の仕組みを指摘できる。**技能・表現の観点**：考察したことを論理的に文書に表現できる。

●**授業の計画（全体）** 授業では、1) 動詞句削除文について英語で書かれた専門論文 (Andrew Kehler 2002, Coherence and VP-ellipsis) を段落単位で精読し、2) 論文で提示されている分析を解説し、3) その分析に対する問題点を適宜指摘していく。受講者は、担当箇所を正確に日本語訳し、また、専門用語を事前に調べておくことが最低限要求される。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 1) 授業の目標と進め方、2) 成績評価の方法について説明する。
- 第 2 回 項目 論文講読
- 第 3 回 項目 論文講読
- 第 4 回 項目 論文講読
- 第 5 回 項目 論文講読
- 第 6 回 項目 論文講読
- 第 7 回 項目 論文講読
- 第 8 回 項目 論文講読
- 第 9 回 項目 論文講読
- 第 10 回 項目 論文講読
- 第 11 回 項目 論文講読
- 第 12 回 項目 論文講読
- 第 13 回 項目 論文講読
- 第 14 回 項目 期末テスト
- 第 15 回 項目 テスト返却・解説

●**成績評価方法（総合）** 定期試験の結果に基づいて評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：『ヴォイスとアスペクト』 鷲尾龍一・三原健一 研究社 プリントも随時配布する。／参考書：『英語の主要構文』 中村 捷・金子義明 研究社

●**メッセージ** 「英語生成文法」を履修していることが望ましい。

●**連絡先・オフィスアワー** eshima@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語学演習（文法と意味）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	島越郎				

●**授業の概要** 前期に引き続き、生成文法の枠組みで、英語の省略文における復元のメカニズムの問題を考察する。後期は、この問題を空所化 (gapping) と呼ばれる省略文を手掛かりに考えていく。／**検索キーワード** 省略文、空所化、生成文法

●**授業の一般目標** 英語の省略文についての理解を深め、また、生成文法の思考法を身につける。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：英語の空所化についての特徴を説明できる。**思考・判断の観点**：表層的な言語現象の根底に隠されている言葉の仕組みを指摘できる。**技能・表現の観点**：考察したことを論理的に文書で表現できる。

●**授業の計画（全体）** 授業では、1) 動詞句削除文について英語で書かれた専門論文 (Andrew Kehler 2002, Coherence and Gapping) を段落単位で精読し、2) 論文で提示されている分析を解説し、3) その分析に対する問題点を適宜指摘していく。受講者は、担当箇所を正確に日本語訳し、また、専門用語を事前に調べておくことが最低限要求される。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

第 1 回 **項目** オリエンテーション **内容** 1) 授業の目標と進め方、2) 成績評価の方法について説明する。

第 2 回 **項目** 論文講読

第 3 回 **項目** 論文講読

第 4 回 **項目** 論文講読

第 5 回 **項目** 論文講読

第 6 回 **項目** 論文講読

第 7 回 **項目** 論文講読

第 8 回 **項目** 論文講読

第 9 回 **項目** 論文講読

第 10 回 **項目** 論文講読

第 11 回 **項目** 論文講読

第 12 回 **項目** 論文講読

第 13 回 **項目** 論文講読

第 14 回 **項目** 期末テスト

第 15 回 **項目** テスト返却・解説

●**成績評価方法（総合）** 定期試験の結果に基づいて評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：『ヴォイスとアスペクト』 鷲尾龍一・三原健一 研究社 プリントも随時配布する。／参考書：『英語の主要構文』 中村 捷・金子義明 研究社

●**メッセージ** 「英語生成文法」を履修していることが望ましい。

●**連絡先・オフィスアワー** eshima@yamaguchi-u.ac.jp



開設科目	英語学演習（形態と音声）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	太田聡				

●**授業の概要** 最新の音韻理論の基本概念を解説していく。／**検索キーワード** 音韻論、音声学、アクセント

●**授業の一般目標** 1960 年代以降の音韻論の展開を理解し、高度な音韻理論を理解するための基礎固めをする。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：生成音韻論の特徴を知る。**思考・判断の観点**：知らない語句のアクセントを予測できるようになる。**関心・意欲の観点**：暗記するものと思われがちな語のアクセントにも法則が隠されていることに 関心を持ち、自らもその法則を解明しようとする。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** 音韻論の展開 **内容** 音韻論の発展を 簡単に振り返る。**授業外指示** 教科書第 1 章を読む。
- 第 2 回 **項目** SPE とそれ以前 の音韻論 **内容** 生成文法以前の 音韻論と生成文 応の音韻論の違いを解説する。**授業外指示** 教科書第 2 章を読む。
- 第 3 回 **項目** 自然生成音韻 **内容** 1970 年代前半に 花開いた線状音 韻論の特徴を解説する。**授業外指示** 教科書第 3 章を読む。
- 第 4 回 **項目** 韻律音韻論 **内容** 1970 年代後半以 降の非線状的な 音韻論の特徴解説する。**授業外指示** 教科書第 4 章を読む。
- 第 5 回 **項目** // **内容** // **授業外指示** //
- 第 6 回 **項目** 自律分節音韻論 **内容** // **授業外指示** 教科書第 5 章を読む。
- 第 7 回 **項目** 音節音韻論 **内容** // **授業外指示** 教科書第 6 章を読む。
- 第 8 回 **項目** 語彙音韻論 **内容** 1980 年代前半の 代表的な音韻理 論を解説する。**授業外指示** 教科書第 7 章を読む。
- 第 9 回 **項目** // **内容** // **授業外指示** //
- 第 10 回 **項目** 音韻論とインタ ーフェイス **内容** 音韻論と他の部 門がどのように 関わるのかを論 じる。**授業外指示** 教科書第 8 章を読む。
- 第 11 回 **項目** // **内容** // **授業外指示** //
- 第 12 回 **項目** 音韻習得 **内容** 音韻的な面から 言語習得の特性 を考える。**授業外指示** 教科書第 9 章を読む。
- 第 13 回 **項目** 最適性理論 **内容** 1990 年以降主流 になった音韻論 の紹介を行う。**授業外指示** 教科書第 10 章を読む。
- 第 14 回 **項目** まとめ
- 第 15 回 **項目** 試験

●**成績評価方法（総合）** 毎回小レポートを課し、この出来具合で半分の評価をする。そして、期末定期試験で残り半分の評価をする。出席も重視し、欠席 1 回につき 5 点ずつ減点する。

●**教科書・参考書** 教科書：西原哲男・那須川訓也編『最新の音韻理論ハンドブック』英宝社 2004 年

●**連絡先・オフィスアワー** ohta@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：火曜日 16:10～17:40

開設科目	英語学演習（形態と音声）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	太田聡				

- 授業の概要** 英語の語強勢 (word stress) の諸規則について書かれた文献を読む。／**検索キーワード** 強勢規則、音節
- 授業の一般目標** 英語の語強勢に関する規則性を学び、知らない語句の強勢型も予測・説明ができるようになる。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：語強勢に関する法則を掴む。**思考・判断の観点**：未知の語の強勢型も予測できるようになる。**態度の観点**：「語のアクセントは暗記するもの」といった考え方が間違っていることに気づく。
- 授業の計画（全体）** まず、英語の語強勢とはどのようなものなのかを概観する。次に、強勢を担う単位である音節の構造、および、分節の方法を考察する。その上で、語の強勢を付与する規則類を定式化し、さらに、強勢の度合いの計算方法を学ぶ。そして、強勢が衝突する場合に発動される無強勢化規則にも触れる。最後に、こうした規則の順序付けを考える。
- 成績評価方法（総合）** 授業中の発表、宿題、定期試験の出来具合で総合的に判断する。出席も重視する。
- 教科書・参考書** 教科書：プリントを配布する。
- 連絡先・オフィスアワー** ohta@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：火曜日 16:10～17:40

開設科目	アメリカ文学史 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	伊豆大和				

- 授業の概要** 17世紀初頭から19世紀中頃までのアメリカ文学の流れを概説する。／**検索キーワード** アメリカ文学
- 授業の一般目標** (1) アメリカ文学についての基本的な知識を得る。(2) アメリカ文学の主要な作家・作品に対する興味・関心を持つ。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1. アメリカ文学の主要な作家・作品、文学の基本的な用語を理解する。**思考・判断の観点**：1. アメリカ文学の特質を考える。**関心・意欲の観点**：1. アメリカ文学作品を積極的に読む。
- 授業の計画（全体）** 使用テキストの記述順序に従って講義を進めるが、テキストに記述されていることすべてに言及するわけではない。時には省略したり、テキストに記述されていないことにも言及する。また、重要な作家・作品については資料を配付し、やや詳しく説明する。詳細は1回目の授業で説明する予定。
- 成績評価方法（総合）** 期末試験により評価する。
- 教科書・参考書** 教科書：Peter B. High, An Outline of American Literature (Longman) を使用する。紀伊国屋書店（大学会館ブックセンター）で販売。／参考書：講義の中で紹介する。

開設科目	アメリカ文学史 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	伊豆大和				

- 授業の概要** アメリカ文学史 I の続き。19 世紀中頃から 20 世紀前半までのアメリカ文学の流れを、歴史的・文化的背景を視野に入れて概説する。／**検索キーワード** アメリカ文学
- 授業の一般目標** (1) アメリカ文学についての基本的な知識を得る。(2) アメリカ文学の主要な作家・作品に対する興味を持つ。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1. アメリカ文学の主要な作家・作品、文学の基本的な用語を理解する。**思考・判断の観点**： 1. アメリカ文学の特質を考える。**関心・意欲の観点**： 1. アメリカ文学作品を積極的に読む。
- 授業の計画（全体）** 使用テキストの記述に従って講義を進めるが、テキストに記述されていることすべてに言及するわけではない。時には省略したり、テキストに記述されていないことにも言及する。重要な作家・作品については資料を配付し、やや詳しく説明する。
- 成績評価方法（総合）** 期末試験により評価する。
- 教科書・参考書** 教科書： Peter B. High, An Outline of American Literature (Longman) を使用する。／参考書： 講義の中で紹介する。

開設科目	英米文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	吉田徹夫				

- 授業の概要** 集中講義。開講は9月下旬となる予定なので、受講者は注意すること（特に9月卒業予定者）。  
(1) 英国小説の発展において、英国に帰化したポーランド出身の作家ジョウゼフ・コンラッドの果たした役割を、その技法・内容の点から説明する。(2) コンラッドと同時代に活躍した英国人作家のフォスター・ロレンス・ウルフなどの特徴を、彼と対比しながら講義していく。／**検索キーワード** 語り、語り手、ポストコロニアル、シンボリズム、モダニズム
- 授業の一般目標** (1) コンラッドと同時代の英国小説における伝統的な特徴を理解すると共に、世紀末に見られる異質なものの影響を理解する。(2) コンラッドの代表作『闇の奥』の技法と内容を、実際に英文を読み解きながら考察していく。(3) その他、英語のいろいろの文体（「意識の流れなど」）に、フォスター、ロレンス、ウルフの作品を通して触れながら、英文を読む力を知る。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：英国小説の伝統的な特徴とその変容を説明できる。**思考・判断の観点**：20世紀英国小説の技法と内容について意見を述べるができる。**関心・意欲の観点**：実際に翻訳や原文を通して作品世界に触れる。**態度の観点**：小説について描いていたイメージを拡大できる。**技能・表現の観点**：接した作品の特色について自分の考えを整理して述べるができる。
- 授業の計画（全体）** 授業では、英国小説の流れを解説していくが、『闇の奥』や『ダロウェイ夫人』など、テキストやコピーの英文を読み解きながら、小説の技法・内容を考えていく。従って、学生自身が見出した興味ある論点や英文の難解な部分を各自に発表してもらいながら、講義を進めていく。予習をしっかり行っているかの小テストを数回行う予定である。
- 成績評価方法（総合）** (1) 小テストでは、英文の読みを行っていることを確かめたい（最低3回）。作品の英文を具体的に分析するので、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。(2) 期末試験では、テキスト、ノート、参考書など持込み、授業内容の大きなテーマや諸項目について記述式によって設問に答えてもらう。(3) レポートでは、5000字程度で、講義において取りあげた作品を翻訳なり英文なりで読んで、自分の分析的読みをまとめる。
- 教科書・参考書** 教科書：Heart of Darkness（闇の奥），Joseph Conrad, 研究社, 1953年；教科書は「研究社小英文叢書」シリーズの12。Forster, Woolf などについてはコピーを配布する。
- 備考** 集中授業

開設科目	英米文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	池園宏				

- 授業の概要** 前後期を通してイギリス 19 世紀に活躍した小説家についての講義を行う。前期で扱うのは Jane Austen、Charles Dickens、Charlotte Bronte の予定で、各作家の代表的な作品 を取り上げて詳しく考察する。同時に、使用テキストに記載された様々な英国の小説家 についても随時解説していく。／**検索キーワード** 英国小説、ヴィクトリア朝
- 授業の一般目標** 各小説家の思想や作品像を、19 世紀イギリスの社会事情を念頭に置きつつ理解する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 作家や作品の具体的内容を説明できる。 **思考・判断の観点**： 諸作品に盛り込まれたテーマを分析できる。 **関心・意欲の観点**： 小説を読み解く行為に関心を持つ。**態度の観点**： 常に問題意識を持って議論に参加できる。
- 授業の計画（全体）** 19 世紀イギリスの文学思潮について導入をした後、各作家について 4 回ずつ程度で講義 する。
- 成績評価方法（総合）** (1) 試験は学期末に 1 回実施する。(2) 使用テキストに記載されている様々な作品についてのレポート（ノート用紙 1 枚程 度）を定期的に作成し、提出する。(3) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。
- 教科書・参考書** 教科書： 教科書：イギリス小説入門 著者：川口喬一 出版社：研究社／ 参考書： 授業の中で紹介する。
- メッセージ** テキストや配付資料の内容を予め把握してから授業に臨むこと。

開設科目	英米文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	池園宏				

- 授業の概要** 前期に引き続きイギリス 19 世紀に活躍した小説家についての講義を行う。後期で扱うのは Emily Bronte、George Eliot、Thomas Hardy の予定で、各作家の代表的な作品を取り上げて詳しく考察する。同時に、使用テキストに記載された様々な英国の小説家についても随時解説していく。／**検索キーワード** 英国小説、ヴィクトリア朝
- 授業の一般目標** 各小説家の思想や作品像を、19 世紀イギリスの社会事情を念頭に置きつつ理解する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：作家や作品の具体的内容を説明できる。 **思考・判断の観点**：諸作品に盛り込まれたテーマを分析できる。 **関心・意欲の観点**：小説を読み解く行為に関心を持つ。 **態度の観点**：常に問題意識を持って議論に参加できる。
- 授業の計画（全体）** 各作家について 4 回ずつ程度で講義し、残りの時間でまとめを行う。
- 成績評価方法（総合）** (1) 試験は学期末に 1 回実施する。(2) 使用テキストに記載されている様々な作品についてのレポート（ノート用紙 1 枚程度）を定期的に作成し、提出する。(3) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。
- 教科書・参考書** 教科書：教科書：イギリス小説入門 著者：川口喬一 出版社：研究社／参考書：授業の中で紹介する。
- メッセージ** テキストや配付資料の内容を予め把握してから授業に臨むこと。

開設科目	英米文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田中晋				

- 授業の概要** シェイクスピアの『ジュリアス・シーザー』を精読する。これはプルタークの『英雄伝』に素材を求めた作品にして、ローマ史でも最も劇的な事件を扱い、作品の構成、表現とも簡潔にして力強い。ビデオ教材も併用する。／**検索キーワード** シェイクスピア、ジュリアス・シーザー
- 授業の一般目標** 現代英語のもとをなすエリザベス朝英語の語法や、当時の舞台構造等につき基礎的知識を習得し、この作品を通してシェイクスピアの人間心理の洞察について学ぶ。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：シェイクスピアの英語の語法を理解し、語源に遡って言葉の意味を知る。**思考・判断の観点**：歴史的事実がいかに文学作品に昇華されているかを考える。**関心・意欲の観点**：シェイクスピアの作品を積極的に読む。
- 授業の計画（全体）** 前期は第1幕、2幕、3幕を読む。
- 成績評価方法（総合）** 期末試験の結果に平常点（出席、受講態度等）を加味する。
- 教科書・参考書** 教科書：研究社詳注シェイクスピア双書『ジュリアス・シーザー』を使用する。紀伊国屋（大学会館内）で販売。／参考書：辞書やその他の文献は授業中に言及する。



開設科目	英米文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	田中晋				

- 授業の概要** シェイクスピアの『ジュリアス・シーザー』を精読する。これはプルータークの『英雄伝』に素材を求めた作品にして、ローマ史でも最も劇的な事件を扱い、作品の構成、表現とも簡潔にして力強い。ビデオ教材も併用する。／**検索キーワード** シェイクスピア、ジュリアス・シーザー
- 授業の一般目標** 現代英語のもとをなすエリザベス朝英語の語法や、当時の舞台構造等につき基礎的知識を習得し、この作品を通してシェイクスピアの人間心理の洞察について学ぶ。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：シェイクスピアの英語の語法を理解し、語源に遡って言葉の意味を知る。**思考・判断の観点**：歴史的事実がいかに文学作品に昇華されているかを考える。**関心・意欲の観点**：シェイクスピアの作品を積極的に読む。
- 授業の計画（全体）** 後期は第4幕、5幕を読む。読了後は歴史の展開に従い、同じくプルータークの『英雄伝』を典拠とする『アントニーとクレオパトラ』を講義形式で読む。この資料はプリント配布する。
- 成績評価方法（総合）** 期末試験の結果に平常点（出席、授業態度等）を加味する。
- 教科書・参考書** 教科書：研究社詳注シェイクスピア双書『ジュリアス・シーザー』を使用する。紀伊国屋（大学会館内）で販売。／参考書：辞書やその他の文献は授業中に言及する。

開設科目	英米文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	池園宏				

- 授業の概要** 19世紀イギリスの小説家 Thomas Hardy の短編小説を読む。Hardy の特徴がよく表れた小品を鑑賞することにより、同作家の長編小説への橋渡しをする。また、作品の読解のみならず、英文法や発音など総合的な英語力の養成も行う。／**検索キーワード** Thomas Hardy、英国小説、ヴィクトリア朝
- 授業の一般目標** (1) テキストを丹念に解釈することにより、Hardy の作家像及び 19 世紀ヴィクトリア朝文学における位置づけを理解する。(2) 英文法力や英文解釈力を身につける。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：作家や作品の具体的内容を説明できる。 **思考・判断の観点**：作品に盛り込まれた諸テーマを分析できる。 **関心・意欲の観点**：小説を読み解く行為に関心を持つ。**態度の観点**：常に問題意識を持って議論に参加できる。
- 授業の計画（全体）** テキストには三編の物語が収録されているが、授業では”The Doctor’s Legend”と”The Melancholy Hussar of the German Legion”の二つを扱う。前者は精読、後者はパラグラフリーディングによる内容解釈を行う。残りの作品”Old Mrs Chundle”についてはレポートを提出してもらう。
- 成績評価方法（総合）** (1) 試験は学期末に 1 回実施する。(2)”Old Mrs Chundle”について 2000-3000 字程度のレポートを作成し、提出する。(3) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。
- 教科書・参考書** 教科書：教科書：\_Selected Short Stories by Thomas Hardy\_ 著者：Thomas Hardy 出版社：開文社／参考書：授業の中で紹介する。
- メッセージ** 毎回出欠確認をするので、遅刻や欠席をしないこと。

開設科目	英米文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	池園宏				

- 授業の概要** 19世紀イギリスの小説家 Charles Dickens の「A Christmas Carol」、及びこの作品に関する論文を読む。作品の解釈や分析のみならず、英文法や発音など総合的な英語力の養成 も行う。／**検索キーワード** Charles Dickens、英国小説、ヴィクトリア朝
- 授業の一般目標** (1) テキストを丹念に解釈することにより、Dickens の作家像及び19世紀ヴィクトリア朝文学における位置づけを理解する。(2) 英文法力や英文解釈力を身につける。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：作家や作品の具体的内容を説明できる。 **思考・判断の観点**：作品に盛り込まれた諸テーマを分析できる。 **関心・意欲の観点**：小説を読み解く行為に関心を持つ。**態度の観点**：常に問題意識を持って議論に参加できる。
- 授業の計画（全体）** 12月末までにテキストを読了し、ビデオ映像を一回鑑賞した後、残りの時間で論文を読む。受講者の発表と質疑応答、及びディスカッションを中心に授業を行う。
- 成績評価方法（総合）** (1) 試験は学期末に1回実施する。(2) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。
- 教科書・参考書** 教科書：教科書：「A Christmas Carol」 著者：Charles Dickens 出版社：Penguin ／ 参考書：授業の中で紹介する。
- メッセージ** 毎回出欠確認をするので、遅刻や欠席をしないこと。

開設科目	英米文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	宮原一成				

- 授業の概要** 英語文学作品を精読し、鑑賞する。作品の持つテーマについて各自考察する。20 世紀初頭を代表する英国・コモンウェルス作家たち (Forster, Mansfield, Joyce, Lawrence, Maugham) の、それぞれの特徴が端的に現れている短編小説を読みこなす。／**検索キーワード** 短編 Forster Joyce Mansfield Lawrence Maugham
- 授業の一般目標** 英語小説を読むための技法をいくつか習得する。作品世界やテーマについて、自分なりの所見を持つ。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 丹念に調べて、英文の意味を正確に理解する。 **思考・判断の観点**： 作品に込められたテーマについて、自分なりの所見を言語化する。 **関心・意欲の観点**： 自分の所見を積極的に発表し、議論に寄与する。
- 授業の計画（全体）** 15 週間で、5 つの短編小説を読み上げる。発表当番は、担当箇所の要約と討論ポイントをできるだけ完璧に準備しておく。当番の発表を受けて、質疑応答に移る。
- 成績評価方法（総合）** 当番時の発表の出来具合＋筆記試験＋授業内発言の内容と回数。5 回以上欠席した者は、自動的に「不可」の評定とする。
- 教科書・参考書** 教科書： 『現代イギリス短編集』, 田中英史、他編, 成美堂／ 参考書： 英和辞典は、電子辞書ではなく、紙媒体の辞書を使用すること（電子辞書では、どうしても調査方法が雑になる傾向があるので）
- 連絡先・オフィスアワー** 初回の授業時に、受講生には知らせます。

開設科目	英米文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	宮原一成				

- 授業の概要** 英語文学作品（中編小説 ”Cousin Phillis”）を精読し、鑑賞する。作品の持つテーマについて各自考察する。／**検索キーワード** Cousin Phillis, Gaskell, 精読
- 授業の一般目標** 英語小説を読むための技法をいくつか習得する。作品世界やテーマについて、自分なりの所見を持つ。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 丹念に調べて、英文の意味を正確に理解する。**思考・判断の観点**： 作品に込められたテーマについて、自分なりの所見を言語化する。**関心・意欲の観点**： 自分の所見を積極的に発表し、議論に寄与する。
- 授業の計画（全体）** 15 週間で、全 100 ページの中編小説を読み上げる。発表当番は、担当箇所の要約と討論ポイントをできるだけ完璧に準備しておく。当番の発表を受けて、質疑応答に移る。
- 成績評価方法（総合）** 当番時の発表の出来具合＋筆記試験＋授業内発言の内容と回数。5 回以上欠席した者は、自動的に「不可」の評定とする。
- 教科書・参考書** 教科書： Cranford / Cousin Phillis, Elizabeth Gaskell, Penguin Classics；教科書は、\_Cranford\_との合冊 (ISBN 0140431047) ですが、授業で読むのは ”Cousin Phillis のみ。／参考書： 英和辞典は、電子辞書ではなく、紙媒体の辞書を使用すること（電子辞書では、どうしても調査方法が雑になる傾向があるので）
- 連絡先・オフィスアワー** 初回の授業時に、受講生には知らせます。

開設科目	英米文学演習（小説）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	伊豆大和				

- 授業の概要** アメリカ作家 Truman Capote の小説 Breakfast at Tiffany's (1958) を読む。／**検索キーワード** アメリカ文学
- 授業の一般目標** (1) 文学（小説）の英語を理解する。(2) 小説の読み方を知る。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1. 原語（英語）で小説を読むことができる。**思考・判断の観点**： 1. 文学作品（小説）を精読し、その意義を考える。**関心・意欲の観点**： 1. アメリカ文学作品を積極的に読む。
- 授業の計画（全体）** Truman Capote, Breakfast at Tiffany's (1958) を演習形式で読み進む。受講者は予習をして出席すること。詳細は第 1 回目の授業で説明する。
- 成績評価方法（総合）** 期末試験の結果に平常点（出席状況・受講態度等）を加味して評価する。
- 教科書・参考書** 教科書： Truman Capote, Breakfast at Tiffany's （金星堂）を使用する。紀伊国屋書店（大学会館ブックセンター）で販売。／参考書： 授業の中で紹介する。

開設科目	英米文学演習（小説）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	伊豆大和				

- 授業の概要** 前期に引き続いて Truman Capote, *Breakfast at Tiffany's* (1958) を読む。／**検索キーワード** アメリカ文学
- 授業の一般目標** (1) 文学（小説）の英語を理解する。(2) 小説の読み方を知る。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1. 原語（英語）で小説を読むことができる。**思考・判断の観点**： 1. 文学作品（小説）を精読し、その意義を考える。**関心・意欲の観点**： 1. アメリカ文学作品を積極的に読む。
- 授業の計画（全体）** Truman Capote, *Breakfast at Tiffany's* (1958) を演習形式で読み進む。受講者は予習をして出席すること。
- 成績評価方法（総合）** 期末試験の結果に平常点（出席状況・受講態度等）を加味して評価する。
- 教科書・参考書** 教科書： Truman Capote, *Breakfast at Tiffany's* （金星堂）を使用する。／参考書：授業の中で紹介する。

開設科目	英米文学演習（詩）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	Henry Atmore				

- 授業の概要** Introduction to British and American poetry.
- 授業の一般目標** To introduce students to the principles of practical criticism through readings in 19th-century and modernist poetry.
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： Basics of poetic form, modern British and American poetry in historical context. **技能・表現の観点**： Students' reading and good writing, speaking skills will be incomparably enriched through the study of the jewels of the Anglo-American poetic tradition.
- 授業の計画（全体）** Early classes will cover the basics of rhyme, metre, form and figurative language. Later classes on more difficult poems, will encourage students to apply these tools to analysis. There will be discussion of various interpretative strategies for the appreciation of English poetry – formalist, Freudian, new historicist and the like.
- 成績評価方法（総合）** Participation + Performance + Presentation + Homework preparation + Attendance + Exam.
- 教科書・参考書** 教科書： To be provided in class.／ 参考書： Dictionaries.
- メッセージ** Students MUST bring dictionaries to class.
- 連絡先・オフィスアワー** Tel: 933-5271 Office Hours: Thursday, 1.30-4.30 pm.



開設科目	英米文学演習（詩）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	Henry Atmore				

- 授業の概要 Introduction to British and American poetry.
- 授業の一般目標 To introduce students to the principles of practical criticism through readings in 19th-century and modernist poetry.
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： Basics of poetic form, modern British and American poetry in historical context. 技能・表現の観点： Students' reading and good writing, speaking skills will be incomparably enriched through the study of the jewels of the Anglo-American poetic tradition.
- 授業の計画（全体） Early classes will cover the basics of rhyme, metre, form and figurative language. Later classes on more difficult poems, will encourage students to apply these tools to analysis. There will be discussion of various interpretative strategies for the appreciation of English poetry – formalist, Freudian, new historicist and the like.
- 成績評価方法（総合） Partitipation + Performance + Presentation + Homework preparation + Attendance + Exam.
- 教科書・参考書 教科書： To be provided in class. / 参考書： Dictionaries.
- メッセージ Students MUST bring dictionaries to class.
- 連絡先・オフィスアワー Tel: 933-5271 Office Hours: Thursday, 1.30-4.30 pm.

開設科目	英米文学演習（劇）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	宮原一成				

- 授業の概要** ・英語による戯曲作品（\_Twelve Angry Men\_）を精読、音読、鑑賞する。 ・劇のテーマについて各自考察する。／**検索キーワード** Twelve Young Men、劇
- 授業の一般目標** ・登場人物の心理の相互作用について考察する。 ・雑な読み方を廃し、英文を丹念に読んで理解する。 ・台詞を通して、口語英語を習得する一助とする。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： ・丹念に調べて、英文・口語表現を正確に解釈する。 **思考・判断の観点**： ・劇のテーマのについて、自分なりの所見を叙述する。 **関心・意欲の観点**： ・演習の討論に積極的に関与する。 **技能・表現の観点**： ・リズム・情感に配慮した英文音読ができる。
- 授業の計画（全体）** テキストにして 50 ページの短い作品である。輪番で徹底的に精読する。1 回の授業で 4～5 ページ進むのが、一応の目安。発表当番は、担当箇所の和訳と討論ポイントを、できるかぎり完璧に準備してくる。当番の発表を受けて、討議に移る。各回とも、授業の後半は音読実践を行う。
- 成績評価方法（総合）** 当番時の和訳やポイント発表の出来具合＋討論での発言内容＋音読の出来具合＋学期末レポート。欠席 5 回以上は「不可」の評定とする。
- 教科書・参考書** 教科書： 1 2 人の怒れる男たち, Reginald Rose, 開文社出版, 1995 年; ISBN 4875713487。原題 \_Twelve Angry Men\_。／参考書：英和辞典は、電子辞書ではなく、紙媒体の辞書を使用すること（電子辞書では、どうしても調査方法が雑になる傾向があるので）
- 連絡先・オフィスアワー** 第一回授業の時に、受講生には知らせます。

開設科目	英米文学演習（劇）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	宮原一成				

- 授業の概要** ・英語による戯曲作品（『The Glass Menagerie』）を精読、音読、鑑賞する。 ・劇のテーマについて各自考察する。／**検索キーワード** The Glass Menagerie、劇
- 授業の一般目標** ・登場人物の心理の相互作用について考察する。 ・雑な読み方を廃し、英文を丹念に読んで理解する。 ・台詞を通して、口語英語を習得する一助とする。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： ・丹念に調べて、英文・口語表現を正確に解釈する。 **思考・判断の観点**： ・劇のテーマのについて、自分なりの所見を叙述する。 **関心・意欲の観点**： ・演習の討論に積極的に関与する。 **技能・表現の観点**： ・リズム・情感に配慮した英文音読ができる。
- 授業の計画（全体）** テキストにして 50 ページの短い作品である。輪番で徹底的に精読する。1 回の授業で 4～5 ページ進むのが、一応の目安。発表当番は、担当箇所の和訳と討論ポイントを、できるかぎり完璧に準備してくる。当番の発表を受けて、討議に移る。各回とも、授業の後半は音読実践を行う。
- 成績評価方法（総合）** 当番時の和訳やポイント発表の出来具合＋討論での発言内容＋音読の出来具合＋学期末レポート。欠席 5 回以上は「不可」の評定とする。
- 教科書・参考書** 教科書：『ガラスの動物園（上演版）』, Tennessee Williams, 鶴見書店, 1993 年；ISBN 4755303001。原題『The Glass Menagerie』／参考書：英和辞典は、電子辞書ではなく、紙媒体の辞書を使用すること（電子辞書では、どうしても調査方法が雑になる傾向があるので）
- 連絡先・オフィスアワー** 第一回授業の時に、受講生には知らせます。

開設科目	英語演習（会話）（英米語 2 年）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	Henry Atmore				

- 授業の概要** Intermediate-Upper Intermediate Conversation skills for 2nd Grade English majors.
- 授業の一般目標** To improve students' listening and speaking skills through discussions of topics of contemporary social, political and cultural significance.
- 授業の到達目標**／ **思考・判断の観点**： To speed up students' reactions i the course of English conversation. **関心・意欲の観点**： To make students more willing and comfortable to engage in English conversation of a non-trivial nature.
- 授業の計画（全体）** We will move from simple to complex material, starting with "everyday English" and role-play exercises, and proceeding to subjects of greater difficulty and complexity.
- 成績評価方法（総合）** Participation + Performance + Attendance + Self Evaluation. Marked disinterest and incompetence will lead to "Failure."
- 教科書・参考書** 教科書： To be provided in class. ／ 参考書： DICTIONARIES – a must!
- メッセージ** Cell phones = instant death.
- 連絡先・オフィスアワー** Tel: 933-5271 Office Hours: Thursday, 1.30-4.30 pm.

開設科目	英語演習（会話）（英米語 2 年）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	Henry Atmore				

- 授業の概要 Intermediate-Upper Intermediate Conversation skills for 2nd Grade English majors.
- 授業の一般目標 To improve students' listening and speaking skills through discussions of topics of contemporary social, political and cultural significance.
- 授業の到達目標／ 思考・判断の観点： To speed up students' reactions i the course of English conversation. 関心・意欲の観点： To make students more willing and comfortable to engage in English conversation of a non-trivial nature.
- 授業の計画（全体） We will move from simple to complex material, starting with "everyday English" and role-play exercises, and proceeding to subjects of greater difficulty and complexity.
- 成績評価方法（総合） Participation + Performance + Attendance + Self Evaluation. Marked disinterest and incompetence will lead to "Failure."
- 教科書・参考書 教科書： To be provided in class. / 参考書： DICTIONARIES – a must!
- メッセージ Cell phones = instant death.
- 連絡先・オフィスアワー Tel: 933-5271 Office Hours: Thursday, 1.30-4.30 pm.

開設科目	英語演習（会話）（英米語3年）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	Henry Atmore				

- 授業の概要 Upper Intermediate - Advanced Conversation and Reading skills for 3rd Grade English majors.
- 授業の一般目標 To improve students' speaking, reading and pronunciation skills through readings and discussions of "\*\*\*\*". To introduce students to certain aspects of British culture and history, via "\*\*\*\*", and to encourage them in a broader comparative outlook on life.
- 授業の到達目標／ 関心・意欲の観点： To encourage students to think of English in terms other than utilitarian. 技能・表現の観点： Pronunciation, pronunciation, and sympathy.
- 授業の計画（全体） Class will be divided (like Gaol) into three parts: readings from the play, discussions of the play, and discussions of topics raised by the play.
- 成績評価方法（総合） Participation + Performance + Attendance + Term Paper + Homework Preparation.
- 教科書・参考書 教科書： "\*\*\*\*"
- 連絡先・オフィスアワー Tel: 933-5271 Office Hours: Thursday, 1.30-4.30 pm.

開設科目	英語演習（会話）（英米語3年）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	Henry Atmore				

- 授業の概要 Upper Intermediate - Advanced Conversation and Reading skills for 3rd Grade English majors.
- 授業の一般目標 To improve students' speaking, reading and pronunciation skills through readings and discussions of "\*\*\*\*". To introduce students to certain aspects of British culture and history, via "\*\*\*\*", and to encourage them in a broader comparative outlook on life.
- 授業の到達目標／ 関心・意欲の観点： To encourage students to think of English in terms other than utilitarian. 技能・表現の観点： Pronunciation, pronunciation, and sympathy.
- 授業の計画（全体） Class will be divided (like Gaol) into three parts: readings from the play, discussions of the play, and discussions of topics raised by the play.
- 成績評価方法（総合） Participation + Performance + Attendance + Term Paper + Homework Preparation.
- 教科書・参考書 教科書： "\*\*\*\*"
- 連絡先・オフィスアワー Tel: 933-5271 Office Hours: Thursday, 1.30-4.30 pm.

開設科目	英語演習（会話）（他コース）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	Henry Atmore				

- 授業の概要** Intermediate-Upper Intermediate Conversation skills for Faculty of Humanities students.
- 授業の一般目標** To improve students' listening and speaking skills through discussions of topics of contemporary social, political and cultural significance.
- 授業の到達目標**／ **思考・判断の観点**： To speed up students' reactions i the course of English conversation. **関心・意欲の観点**： To make students more willing and comfortable to engage in English conversation of a non-trivial nature.
- 授業の計画（全体）** We will move from simple to complex material, starting with "everyday English" and role-play exercises, and proceeding to subjects of greater difficulty and complexity.
- 成績評価方法（総合）** Participation + Performance + Attendance + Self Evaluation. Marked disinterest and incompetence will lead to "Failure."
- 教科書・参考書** 教科書： To be provided in class. / 参考書： DICTIONARIES – a must!
- メッセージ** Cell phones = instant death.
- 連絡先・オフィスアワー** Tel: 933-5271 Office Hours: Thursday, 1.30-4.30 pm.



開設科目	英語演習（会話）（他コース）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	Henry Atmore				

- 授業の概要** Intermediate-Upper Intermediate Conversation skills for Faculty of Humanities students.
- 授業の一般目標** To improve students' listening and speaking skills through discussions of topics of contemporary social, political and cultural significance.
- 授業の到達目標**／ **思考・判断の観点**： To speed up students' reactions i the course of English conversation. **関心・意欲の観点**： To make students more willing and comfortable to engage in English conversation of a non-trivial nature.
- 授業の計画（全体）** We will move from simple to complex material, starting with "everyday English" and role-play exercises, and proceeding to subjects of greater difficulty and complexity.
- 成績評価方法（総合）** Participation + Performance + Attendance + Self Evaluation. Marked disinterest and incompetence will lead to "Failure."
- 教科書・参考書** 教科書： To be provided in class.／ 参考書： DICTIONARIES – a must!
- メッセージ** Cell phones = instant death.
- 連絡先・オフィスアワー** Tel: 933-5271 Office Hours: Thursday, 1.30-4.30 pm.

開設科目	英語演習（作文）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	Henry Atmore				

- 授業の概要** Intermediate composition skills for Faculty of Humanities students.
- 授業の一般目標** To improve composition, presentation and outlining skills; to distinguish between formal and informal usages; to encourage students to think about emphasis, figurative language, etc.
- 授業の到達目標**／ **思考・判断の観点** : To improve planning and analysis in English composition.  
**技能・表現の観点** : Improvements in vocabulary, basic grammar, not-so-basic grammar, sentence-and paragraph construction.
- 授業の計画（全体）** 1) Sentence construction: conjunctions, relative + adverb clauses, main verbs. 2) Paragraph construction: length, structure, types. 3) Essay construction: outlining and argumentation. 4) Figurative language + fun with words.
- 成績評価方法（総合）** In-class Exercises + Homework Exercises + Attendance + Exam.
- 教科書・参考書** 教科書 : To be provided in class. / 参考書 : Dictionaries.
- メッセージ** Students \*must\* bring dictionaries to class.
- 連絡先・オフィスアワー** Tel: 933-5271 Office Hours: Thursday, 1.30-4.30 pm.

開設科目	英語演習（作文）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	Henry Atmore				

- 授業の概要** Intermediate composition skills for Faculty of Humanities students.
- 授業の一般目標** To improve composition, presentation and outlining skills; to distinguish between formal and informal usages; to encourage students to think about emphasis, figurative language, etc.
- 授業の到達目標**／ **思考・判断の観点** : To improve planning and analysis in English composition.  
**技能・表現の観点** : Improvements in vocabulary, basic grammar, not-so-basic grammar, sentence-and paragraph construction.
- 授業の計画（全体）** 1) Sentence construction: conjunctions, relative + adverb clauses, main verbs. 2) Paragraph construction: length, structure, types. 3) Essay construction: outlining and argumentation. 4) Figurative language + fun with words.
- 成績評価方法（総合）** In-class Exercises + Homework Exercises + Attendance + Exam.
- 教科書・参考書** 教科書 : To be provided in class. / 参考書 : Dictionaries.
- メッセージ** Students \*must\* bring dictionaries to class.
- 連絡先・オフィスアワー** Tel: 933-5271 Office Hours: Thursday, 1.30-4.30 pm.

開設科目	英語演習（時事英語）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	Henry Atmore				

- 授業の概要 An Introduction to Modern Britain.
- 授業の一般目標 To puncture students' expectations and ideas of modern British society, by showing what a truculent and uneasy place it has become.
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： Of the state of modern Britain and the plight of the modern British people. 関心・意欲の観点： To divest students of any illusions they might have regarding the English national character.
- 授業の計画（全体） We will move thematically through topics such as education, sport, music, etc., guided in part by what you, the students, indicate what you are interested in learning about.
- 成績評価方法（総合） Attendance + Exam.
- 教科書・参考書 教科書： Provided in class. ／ 参考書： Dictionaries.
- 連絡先・オフィスアワー Tel: 933-5271 Office Hours: Thursday, 1.30-4.30 pm.

開設科目	英米事情	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	Henry Atmore				

- 授業の概要** Introduction to basic themes in British cultural history.
- 授業の一般目標** To examine the question of British national identity through the study of representative myths, stories, poems, buildings, songs, landscapes and lives.
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点** : Of current and modern landmarks in British history; of the plight of a once proud people reduced to cultural destitution. **技能・表現の観点** : Thinking comparatively and historically; losing ethnocentrism, whether morbid or otherwise.
- 授業の計画 (全体)** We will start with the myths of antiquity, proceed through Merrie England, expose ourselves to the cold light of 18th century reason, inhale the mephitic fumes of Industrial Albion, and end up beached on the unforgiving shore of modernity.
- 成績評価方法 (総合)** Attendance + Exam.
- 教科書・参考書** 教科書 : Provided in class. / 参考書 : Dictionaries.
- 連絡先・オフィスアワー** Tel: 933-5271 Office Hours: Thursday, 1.30-4.30 pm.

開設科目	現代ドイツ語概説 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	下寄正利				

●**授業の概要** 現代ドイツ語の諸相について概説する。

●**授業の一般目標** ドイツ語はどのような特徴を持った言語なのか、現代ドイツ語学とはどのような学問なのか理解してもらおう。

●**授業の到達目標／知識・理解の観点**：現代ドイツ語学に関する基本的な知識を習得している。

●**授業の計画（全体）** ドイツ語の系統、ヴァレンツ理論、ドイツ語の品詞分類、ドイツ語の時制記述について概説する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 ドイツ語の系統
- 第 2 回 項目 ドイツ語の系統
- 第 3 回 項目 ドイツ語の系統
- 第 4 回 項目 ヴァレンツ理論
- 第 5 回 項目 ヴァレンツ理論
- 第 6 回 項目 ヴァレンツ理論
- 第 7 回 項目 ヴァレンツ理論
- 第 8 回 項目 ドイツ語の品詞分類
- 第 9 回 項目 ドイツ語の品詞分類
- 第 10 回 項目 ドイツ語の品詞分類
- 第 11 回 項目 ドイツ語の時制記述
- 第 12 回 項目 ドイツ語の時制記述
- 第 13 回 項目 ドイツ語の時制記述
- 第 14 回 項目 ドイツ語の時制記述
- 第 15 回 項目 期末試験

●**成績評価方法（総合）** 期末試験とレポートの成績により評価する。

開設科目	現代ドイツ語概説 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	下寄正利				

●**授業の概要** 現代ドイツ語の諸相について概説する。

●**授業の一般目標** ドイツ語はどのような特徴を持った言語なのか、現代ドイツ語学とはどのような学問なのか理解してもらおう。

●**授業の到達目標／知識・理解の観点**：現代ドイツ語学に関する基本的な知識を習得している。

●**授業の計画（全体）** ドイツ語の意味論、語用論、テキスト言語学、造語論、慣用句論について概説する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 意味論
- 第 2 回 項目 意味論
- 第 3 回 項目 意味論
- 第 4 回 項目 意味論
- 第 5 回 項目 語用論
- 第 6 回 項目 語用論
- 第 7 回 項目 語用論
- 第 8 回 項目 テキスト言語学
- 第 9 回 項目 テキスト言語学
- 第 10 回 項目 テキスト言語学
- 第 11 回 項目 造語論
- 第 12 回 項目 造語論
- 第 13 回 項目 慣用句論
- 第 14 回 項目 慣用句論
- 第 15 回 項目 期末試験

●**成績評価方法（総合）** 期末テストとレポートの成績により評価する。

開設科目	ドイツ語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	本田義昭				

- 授業の概要** Ossi,Wessi, Doppelpass, Teuro など最近 20 年間にドイツのマスコミで話題となったキーワードを取り上げ、社会変化との関係を説明して行きます。／**検索キーワード** キーワード 社会変化 言語変化 新語
- 授業の一般目標** ドイツ語の語構成の仕組みを知るとともに、現代ドイツの社会に関する理解を深める。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1. ドイツ語の単語の造語法に関する知識を身につける。 2. 現代ドイツの社会に対する理解を深める。 **思考・判断の観点**： 1. ドイツの社会で起きている現象を、日本と比較しながら、考察する。 **関心・意欲の観点**： 1. 言語と社会との関連性に目を向ける。
- 授業の計画（全体）** 取り上げるキーワードについて、まず、その語の構成を解説し、どのような意味合いで使用されるのか、その社会的背景も含めて説明して行きます。
- 成績評価方法（総合）** 質問や意見発表など、授業への積極的な参加を重視します。出席が所定の回数に満たない場合は失格となります。
- 教科書・参考書** 教科書：授業中に資料を配付します。／参考書：必要に応じて、授業の中で紹介します。
- メッセージ** 授業への積極的な参加を期待しています。
- 連絡先・オフィスアワー** honda@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部 4 階 オフィスアワー：火曜日 10:20-11:50



開設科目	ドイツ語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	本田義昭				

●**授業の概要** 日本人とドイツ人との間の異文化間コミュニケーションに関する諸問題を論じます。／**検索キーワード** 異文化間コミュニケーション 相互理解 誤解

●**授業の一般目標** 日独異文化間コミュニケーションに関する知識を見につけ、異文化理解を深める。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1. 文化とコミュニケーションに関する知識を習得する。 **思考・判断の観点**： 1. 日独異文化間コミュニケーションにおいて、どのような問題が生じるか, 考察する。 2. 問題が生じた場合の対処法を検討する。 **関心・意欲の観点**： 1. 文化と価値観の多様性に対する関心を深める。

●**授業の計画（全体）** 異文化間コミュニケーションの基礎概念について解説した後、日独異文化間コミュニケーションで生じる諸問題とその背景を説明し、どうすれば異文化間コミュニケーション能力を養うことができるかを考察する。

●**成績評価方法（総合）** 質問や意見発表など、授業への積極的な参加を重視します。出席が所定の回数に満たない場合は失格となります。

●**教科書・参考書** 教科書：授業中に資料を配付します。／参考書：必要に応じて、授業の中で紹介します。

●**メッセージ** 授業への積極的な参加を期待しています。

●**連絡先・オフィスアワー** honda@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部 4 階 オフィスアワー：火曜日 10:20-11:50

開設科目	ドイツ語学演習 (3・4年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	本田義昭				

- 授業の概要** ドイツ語学の専門文献を批判的に読んで行きます。／**検索キーワード** ドイツ語学 専門文献
- 授業の一般目標** ドイツ語学の専門文献を批判的に読みこなす力をつける。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：ドイツ語学の専門的知識を習得する。 **思考・判断の観点**：論の展開の仕方を学ぶ。 **関心・意欲の観点**：広く言語現象への関心を深める。
- 授業の計画 (全体)** 毎回担当者を決めて、担当箇所の概要を説明させた後に、質議応答の時間を設け、理解をより一層深める。
- 成績評価方法 (総合)** 授業への積極的参加を重視します。
- 教科書・参考書** 教科書：プリントを使用します。／参考書：授業の中で紹介します。
- メッセージ** 授業への積極的な参加を期待しています。
- 連絡先・オフィスアワー** honda@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部4階 オフィスアワー：火曜日 10:20-11:50

開設科目	ドイツ語学演習 (3・4年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	下寄正利				

- 授業の概要** ドイツ語で書かれたドイツ語学の文献を読む。
- 授業の一般目標** ドイツ語学に関する知識を深めるとともに、ドイツ語で書かれた専門文献を一人で読みこなせるだけのドイツ語読解力をつける。
- 授業の到達目標** / **知識・理解の観点**：ドイツ語学に関する知識が深まっている。 **関心・意欲の観点**：ドイツ語研究への関心がより高まっている。 **態度の観点**：わからないことは徹底的に調べる習慣が身についている。
- 授業の計画 (全体)** 1回の授業で、最低でも2ページ進む予定でいる。
- 成績評価方法 (総合)** 平常点とレポートによる。
- 教科書・参考書** 教科書：Alltagssprache, Jost Trier, 第三書房

開設科目	ドイツ文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	木下直也				

●**授業の概要** (1)「不条理な」「不可解な」「謎にみちた」といった形容詞を付されることの多いカフカの文学ですが、言語化されないものに対し、例えば、精神分析、言語学、脱構築を始めとしたポストモダニズムといった現代の文学理論や哲学などの様々の成果を適用することで、なぜそのような「理解不可能」なものが生じるかを明確にすることができます。 (2) そのような視点に立って、死、女性、権力、動物などのカフカの文学の主要テーマを扱います。 (3) また近現代のドイツ文学を俯瞰できるように、リルケ、ホフマンスタール、ムージル、ハントケなどの作品や、キルケゴール、ニーチェ、ハイデガーなどの哲学にもできるだけ言及し、比較するつもりです。 (4) さらに、時間が許せば映像化されたカフカ作品を鑑賞し、言語作品の映像化の可能性についても考えてみたいと思います。／**検索キーワード** カフカ、ポストモダニズム

●**授業の一般目標** (1) カフカの文学を軸に、現代ドイツ文学に対する理解を深める。 (2) 文学を理解するための方法論に習熟する。 (3) 文学の社会における存在意義、また文学の歴史的意味を考察する。

●**授業の計画(全体)** 上記「授業の概要」に記したことを、講義形式で展開する。場合によっては、予め予習してもらった短い原文テキストを演習形式で発表してもらう。

●**成績評価方法(総合)** (1) 講義形式で行うが、部分的に原書テキストの輪読形式での演習もあるので、出席および担当時の態度・成果も評価対象とする。 (2) 授業終了後のレポート(枚数未定)が評価の比重としては一番大きい。

●**教科書・参考書** 教科書：コピー配布／参考書：講義時に指示。部分的にコピー配布。

●**備考** 集中授業

開設科目	ドイツ文学特殊講義	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	坂本貴志				

●**授業の概要** 講義題目『悲劇の時代』／「悲劇」とは、日常的な意味での「悲惨な結末を持つ」芝居のことではない。古代ギリシア演劇 (tragoidia) は、神、国家、家族と人間とを巡る様々な問題をテーマとした。そこでは「悲しみ」は必ずしも主題なのではない。一方で18世紀末の多くのヨーロッパの文学者は、古代ギリシア演劇を模した古典主義的な演劇を目指した。日本語で「悲劇 (Tragoedie, Trauerspiel, tragedia)」と呼ばれるそうした彼らの作品も、「悲惨な結末を持つ」芝居として観客に「悲しみ」を催させるのを主眼にしていたわけではない。封建主義的な社会から近代的な市民社会への転換期にこそ多くの「悲劇」が生まれた事実を考えるならば、当然ながら、「悲劇」は自らの生まれる社会、あるいは時代と深い関わりを持っていたのであり、また、そうした時代社会への、いわば革命的な働きかけを担わんとしていたことが認識できる。本講義では、悲劇の生まれるそれぞれの時代に焦点を合わせて、主に時代とその社会の具体的な様相を解明しつつ、「悲劇」と時代意識との関係を考察していきたい。対象となる時代と場所は、前5世紀のアテネ (ギリシア演劇) と、18世紀末のドイツ (シラー、クライスト、ビューヒナー) とイタリア (アルフィエーリ) である。／**検索キーワード** (近代) 悲劇、ギリシア、ドイツ、イタリア、シラー、アルフィエーリ、市民社会

●**授業の一般目標** 文学が人間と社会との鏡であると同時に、それらの変転を促す触媒であることを認識する。

●**授業の計画 (全体)** 古代ギリシアから神聖ローマ帝国末期のドイツ・イタリアへ下りつつ、各時代と「悲劇」作品を順次取り上げて講義してゆく。

●**成績評価方法 (総合)** 期末レポートによる。

●**教科書・参考書** 教科書：なし／参考書：『ギリシア悲劇』ちくま文庫他／『歴史』1・2 トウキュディデス 西洋古典叢書 中央公論新社／フリードリッヒ・シラーの諸作品 岩波文庫他／『フランス革命についての省察』上・下 エドモンド・バーク 岩波文庫／『1789年—フランス革命序論』G・ルフェーブル 岩波文庫／

開設科目	ドイツ文学演習（3・4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	岡光一浩				

●**授業の概要** 1995年にドイツで発表されたベルンハルト・シュリンクの長編小説”der Vorleser”(『朗読者』)は、ナチスの犯した戦争の傷跡を真っ正面から大仰に捉えるのではなく、生活の面から、しかも教養をもたない女性の側から描いて、世界各国において、そして日本においても2000年に翻訳されて大ベストセラーとなった。この作品には、現代のドイツ人の心の奥にいつまでも重く残る「戦争、ナチス、ユダヤ問題」が日常生活を背景に見事に描かれ、文学のもつ可能性が十分に発揮されている。作品のドイツ語や研究書、翻訳などを読み、小説の展開上のモチーフである少年の成長、愛、文盲などの問題を絡めながら、「ナチスの問題をどう捉えるか」という現代のドイツ人にとっても重い永遠の問題を、私たちの問題として検証していく。／**検索キーワード** ドイツ語理解と文学の力

●**授業の一般目標** ドイツ語読解能力を養い、「現代ドイツ人にとってのナチス」という問題を学ぶとともに、文学のもつ力を味わうことを目標とする。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：ドイツ語を読むことができる。この小説の構成や展開、テーマなどを説明できる。**思考・判断の観点**：現代ドイツ人のもつナチスの意味を自分の問題として考える。**関心・意欲の観点**：ドイツ語、ドイツ、文学に興味をもつ **態度の観点**：ドイツ文化の魅力に捉えられる。**技能・表現の観点**：ドイツ語を読み、表現できる。

●**授業の計画（全体）** 作品のドイツ語文、研究書の梗概やテーマの概説、併せて翻訳も参考にして、各章のものもつ小説としての展開を把握し、現代ドイツ人にとってのナチスの戦争の意味を考える。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第1回 **項目** ガイダンス **内容** 演習の方針や方法などの説明 **授業外指示** 読解の予習とテーマの把握 **授業記録** ドイツ語原文の指示と概要の配布
- 第2回 **項目** Erster Teil:Die Geschichte einer Liebe **内容** Kapitel 1-4 **授業外指示** 以下、同上
- 第3回 **内容** kapitel 5-8
- 第4回 **内容** Kapitel 9-12
- 第5回 **内容** Kapitel 13-17
- 第6回 **項目** Zweiter Teil:Die Taeter und ihre Richter- Hannas Prozess **内容** Kapitel 1-4
- 第7回 **内容** Kapitel 5-8
- 第8回 **内容** Kapitel 9-12
- 第9回 **内容** Kapitel 13-17
- 第10回 **項目** Dritter Teil: Rueckzug in die Wissenschaft- Alphabetisierung **内容** Kapitel 1-4
- 第11回 **内容** Kapitel 5-8
- 第12回 **内容** Kapitel 9-12
- 第13回 **項目** 全体テーマ発表・把握 **内容** 少年の成長
- 第14回 **内容** 愛、文盲
- 第15回 **内容** 小説の語り方

●**成績評価方法（総合）** 授業中の発表やレポートにおいて評価する。出席がまず大切。

●**教科書・参考書** 教科書：Bernhard Schlink: Der Vorleser, Diogenes Verlag. Hans-Peter Reisner: Lektuerenhilfen, Bernhard Schlink: Der Vorleser, Ernst Klett Verlag. ベルンハルト・シュリンク『朗読者』、新潮社。

●**メッセージ** 一生懸命でないと、面白さも見えてこない。とにかく出席しよう。

●**連絡先・オフィスアワー** 人文学部岡光研究室

開設科目	ドイツ文学演習 (3・4年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	坂本貴志				

- 授業の概要** 近代イタリアの劇作家ヴィットリオ・アルフィエーリ (1749-1803) の悲劇『ミルラ』を、パウ  
ル・ハイゼ (1830-1914) の独訳で読む。／**検索キーワード** 近代悲劇、アルフィエーリ、シラー、リソル  
ジメント、イタリア
- 授業の一般目標** ゲーテと同じ年に生まれたアルフィエーリは、彼より2年遅く死んだシラーと同じよう  
に、悲劇を志した。19世紀末のドイツとイタリアにおける近代悲劇の興隆は、個人の才能に基づく個  
別的な現象ではなく、国民国家の成立へと向けた近代社会の革命的変化を背景に持つ、少なくとも歴史  
的な現象である。その理解と新たな問題提起のために、神聖ローマ帝国の盟主オーストリアの支配下に  
あったイタリアの、最も偉大な悲劇作家を読む。
- 授業の計画 (全体)** アルフィエーリの作品『ミルラ』の独訳を、和訳して理解する。必要があれば、イタ  
リア語のテキストを引用して紹介する。
- 成績評価方法 (総合)** 各回のプレゼンテーション (和訳) と期末レポートによる。
- 教科書・参考書** 教科書：テキストはコピーしたものを配布する。／参考書：『アルフィエーリ自伝』  
人文書院 Agamennone Mirra; Vittorio Alfieri, Milano(Biblioteca Universale Rizzoli), 1981. (アルフィ  
エーリの作品の日本語訳は、現在までのところ、残念ながらない。)
- メッセージ** 通時的な縦の国民文学ではなく、共時的な横のEU文学へ。

開設科目	ドイツ文学演習 (3・4年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	HINTEREDEREMDEFRAZ				

●**授業の概要** ドイツ文学はドイツやヨーロッパの文化に織り込まれています。相対的な理解には文学の材料になる文化分子の知識や全体的な視野が欠かせません。この演習ではドイツ関係の情報やニュース、又は、文学・芸術作品などをドイツ文化の文脈において相応しく位置づけられるが重要です。そのために、ドイツ文化を、様々な側面において勉強していきます。目的はドイツ語圏文化の総合的な知識や理解です。／**検索キーワード** ドイツ文化、ドイツ文学、文化理解、ドイツ語圏

●**授業の一般目標** ドイツ語圏の歴史を始め、社会や政治制度や地理や気候、日常文化や文学などの各分野の概略を把握できるように文献、新聞記事、インターネットなど様々なメディアを通じて勉強します。ドイツ語の資料も含めて、ドイツ語で授業を進みます。ドイツ文化の関連した研究などを読書し、定期的に授業で紹介してもらいます。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：ヨーロッパの背景にドイツ語圏の文化を理解する。**思考・判断の観点**：解読した資料を文化的背景に所属させること。**技能・表現の観点**：ドイツ語の資料を分野ごとにあわせて収集や分析すること。**その他の観点**：論点をまとめ、分かりやすく発表すること。

●**授業の計画(全体)** 題1部:19世紀から現代までのドイツの歴史 (1) 第二ドイツ帝国の設立前後。(2) 第1・第2世界大戦の背景 (3) 戦後ドイツからドイツ統一まで 第2部:ドイツの地理・社会・行政・政治 (1) ドイツの地理(地方・川・山脈・都市・州) (2) 連邦制、教育制度、環境問題と環境保護、地域文化 (3) 国家、政党、選挙、社会団体(若者、女性、外国人) 第3部:ドイツの日常生活 (1) 仕事と休み (2) 娯楽(映画、音楽、遊び、スポーツ) (3) 食生活 第4部:ドイツ文化表現としての芸術や文学(様式や概念) (1) 絵画 (2) 文学 (3) 音楽

●**成績評価方法(総合)** 評価の対象になるところ 1. 授業での発表(纏まり方、メディアの相応しい使い方、資料の提供)(40%) 2. 授業内外のドイツ語のレポート(ドイツ語の文書を書く努力、上達への努力)(40%) 3. 授業への参加、貢献(関心をもって、積極的な態度)(20%)

●**教科書・参考書** 教科書: 資料は適宜に紹介、又は配分します。／参考書: 授業で紹介します。

●**メッセージ** 重要: 2コマ続けてやります。1コマだけの履修は不可能です。異文化理解に欠かせないことは、自分の文化を伝えることです。このコースではエアランゲン大学日本学科の学生と連絡取りながら、文化に対しての意見交換や異文化交流も行います。ノートパソコンを授業で使います。

●**連絡先・オフィスアワー** 2004年9月以降: 内線 5287、emde@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは後に知らせます。



開設科目	ドイツ文学演習 (3・4年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	HINTEREDEREMDEFRAZ				

●**授業の概要** ドイツ文学はドイツやヨーロッパの文化に織り込まれています。相対的な理解には文学の材料になる文化分子の知識や全体的な視野が欠かせません。この演習ではドイツ関係の情報やニュース、又は、文学・芸術作品などをドイツ文化の文脈において相応しく位置づけられるが重要です。そのために、ドイツ文化を、様々な側面において勉強していきます。目的はドイツ語圏文化の総合的な知識や理解です。／**検索キーワード** ドイツ文化、ドイツ文学、文化理解、ドイツ語圏

●**授業の一般目標** ドイツ語圏の歴史を始め、社会や政治制度や地理や気候、日常文化や文学などの各分野の概略を把握できるように文献、新聞記事、インターネットなど様々なメディアを通じて勉強します。ドイツ語の資料も含めて、ドイツ語で授業を進みます。ドイツ文化の関連した研究などを読書し、定期的に授業で紹介してもらいます。

開設科目	ドイツ文学講読（小説）	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	岡光一浩				

●**授業の概要** 二年生にとっては、初級ドイツ語からの橋渡しの意味合いをもつ。ドイツ語の読解力を向上させるために、文法の復習をしながら日本語に訳していく。テキストは 19 世紀写実主義のオーストリアの作家シュティフターの代表的な小説『水晶』(Bergkristall)。丁寧に読んでいき、ドイツ語を読めるようにする。長い作品であるのでドイツ語で読んでいくのは半分弱であるが、併せて、この作品が名作と言われる所以を味わっていきたい。(Auszuege aus der Novelle von Adalbert Stifter) / **検索キーワード** ドイツ語が分かる。

●**授業の一般目標** ともかくドイツ語の読解力をつける。文学の楽しみを学ぶ。

●**授業の到達目標** / **知識・理解の観点**：ドイツ語を読むことができる。 **思考・判断の観点**：文学を味わう。 **関心・意欲の観点**：ドイツ語、ドイツ、文学に興味をもつ。 **態度の観点**：ドイツ文学の魅力に捉えられる。 **技能・表現の観点**：ドイツ語を読み、表現できる。

●**授業の計画（全体）** 兄弟愛、自然への愛をテーマとするやさしい文学作品であるシュティフターの『水晶』を味わいながら、ゆっくりと分担訳をしていく。平易なドイツ語であるので、二年生は読解力を向上させる機会にしてほしい。また、三年生以上は、内容を把握しながら、文学作品を楽しむように読んでいこう。

●**授業計画（授業単位）** / **内容・項目等** / **授業外学習の指示等**

第 1 回 **項目** ガイダンス **内容** 講読の方針や方法の説明 **授業外指示** 読解の予習

第 2 回 **項目** "Bergkristall" 読解 **内容** 訳読 **授業外指示** 以下、同様

第 3 回 **項目** 以下、同様 **内容** 以下、同様

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回 **項目** テスト

●**成績評価方法（総合）** 期末試験や授業時間内の発表、出席などにおいて評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：コピー（Auszuege aus der Novelle von Adalbert Stifter）

●**メッセージ** 一生懸命でない、面白さもみえてこない。ともかく出席しよう。

●**連絡先・オフィスアワー** 人文学部岡光研究室

開設科目	ドイツ文学講読 (小説)	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	岡光一浩				

●**授業の概要** 二年生にとっては、初級ドイツ語からの橋渡しの意味合いをもつ。ドイツ語の読解力を向上させるために、文法の復習をしながら日本語に訳していく。テキストはドイツの戦後の文学に新しい風を吹き込んだ「グループ47」を出発点としたオーストリアの現代作家ペーター・ハントケ (Peter Handke) の小説『左利きの女』(Die linkshaendige Frau,1977)を読む。1970年代の政治の季節においても怒れる風雲児として名を馳せた、現在も活躍中のこの作家のこの小説は、映画『ベルリン、天使の詩』の監督ベンダースによって映画化されたが、彼の作品の中でも比較的分かりやすい作品である。映像のように流れる言葉が現代の孤独の諸相を洗い出している。／**検索キーワード** ドイツ語が分かる。現代ドイツを理解する。

●**授業の一般目標** ドイツ語読解力をつける。ドイツの戦後文学を味わう。現代人の愛と孤独を考える。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：ドイツ語を読むことができる。**思考・判断の観点**：現代文学を味わう。ドイツの戦後を考える。**関心・意欲の観点**：ドイツ語、ドイツ、現代文学に興味をもつ。**態度の観点**：ドイツの魅力に捉えられる。**技能・表現の観点**：ドイツ語を読み、表現できる。

●**授業の計画 (全体)** 語学的にも比較的平易な小説『左利きの女』をドイツ語で読む。現代における愛や孤独の問題にも触れ、日本語訳を試みていく。

●**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** ガイダンス **内容** 授業の方針の説明。 **授業外指示** 訳読の予習 **授業記録** 原文抜粋配布  
第 2 回 **項目** Die linkshaendige Frau 読解 **内容** 訳読 **授業外指示** 以下、同様  
第 3 回 **項目** 以下、同様 **内容** 以下、同様  
第 4 回  
第 5 回  
第 6 回  
第 7 回  
第 8 回  
第 9 回  
第 10 回  
第 11 回  
第 12 回  
第 13 回  
第 14 回  
第 15 回 **項目** テスト

●**成績評価方法 (総合)** 期末試験や授業内の発表、出席などにおいて評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：コピー (Peter Handke: Die linkshaendige Frau, Suhrkamp Verlag, 1977)

●**メッセージ** 一生懸命でない、面白さも見えてこない。とにかく出席しよう。

●**連絡先・オフィスアワー** 人文学部岡光研究室

開設科目	ドイツ文学講読（詩・戯曲）	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	坂本貴志				

●**授業の概要** リルケ『オルフェウスに捧げるソネット』を読む。／**検索キーワード** リルケ、詩（ソネット）、オルフェウス（神話）

●**授業の一般目標** 芸術作品をドイツ語で堪能する。ソネットの美しさを知り、詩のもつ音の響きに魅惑される。

●**成績評価方法（総合）** 授業でのプレゼンテーション（朗読、和訳、詩の世界に対する理解）と期末レポート。

●**教科書・参考書** 教科書： Rainer Maria Rilke; Duineser Elegien. Die Sonette an Orpheus, Insel, 1974.（コピーでも良い）

●**メッセージ** 「あらゆる別離に先立て。その別れが／いま歩み来る冬に似て、きみの後ろにいるかのごとく。／幾多の冬のうち、ひとつの冬はひどく限りがない。／それでもその冬を越しながら、きみの心はかろうじて生き抜くのだから。／永遠に、オイリュディケの中で死んでいるがいい。歌いつつくだり／あの純粋なる交わりの中へと誉め讃えつつ、くだり帰れ。／ここ、消えゆくものたちの間、傾きの国にあって／鳴り響くグラスとなれ。そして響きつつ砕けよ。／存在せよ。そして同時に、非在の条件を／きみの内なる振幅の果てしない理由を一知るのだ。／この振幅を、たった一度で、完全に成し遂げられるように。／使い古され、麻痺し、押し黙った自然の／満ち足りたこの蓄えに、この数え切れぬ総体に／歓喜しつつ参加せよ。そして彼我を分け隔てるものを根絶せよ。」 — 『オルフェウスに捧げるソネット』第二部第 XIII 歌より

開設科目	ドイツ文学講読 (エッセイ・批評) (2年生)	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	坂本貴志				

- 授業の概要** 政治、歴史、都市、映画、科学、人間、と現代ドイツの多様なテーマについて学ぶ。他に、インターネットを通して基本的なドイツ語の情報ソースに触れるための初歩を学ぶ。／**検索キーワード**  
ドイツ語、現代ドイツ、インターネット、映画
- 授業の一般目標** ドイツ語を基本に忠実に、読み、聴けるようになる。フランスと並ぶEUの牽引車、ドイツの現在を多角的に知る。ドイツ語を通じた国際的な教養を身につけるための第一歩を踏み出す。
- 授業の計画 (全体)** 教科書に沿って、ドイツ語のテキストを和訳する。そのテキストの朗読CDを自宅で聴く。また、パソコンを使って、ドイツ語のホームページを読んだり、聴いたり、その映像を見たり (!) する。
- 教科書・参考書** 教科書：Prismen; 東京大学出版会／参考書：独和大辞典；小学館 (購入が望ましい)  
必携 ドイツ文法総まとめ；白水社
- メッセージ** 独文進学二年生の必須授業です。第一回目はオリエンテーションをします。第二回目にドイツ語の実力テストを行いますので、一年時に学んだ文法項目をおさらいしておくこと。

開設科目	ドイツ語演習（会話）（2年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	DobraFelicitas				

●**授業の概要** 本授業は、まず第一に基礎的なコミュニケーション能力を身につけさせる、言い換えれば、一年目に学んだことを復習し、確かなものにするを目的とする。文型は、より意識的に応用されなければならない。これらの文型は、学生によってパートナー練習やグループ練習の中で練習され、学生の生活やさまざまなコミュニケーションの状況に関連する文例によって補強される。教科書の文章は、ドイツ事情を伝える内容である。各課の終わりに、日本語による文法の説明がある。

●**授業の一般目標** 学生は提示された文型に従って、簡単な会話を行える程度の知識を習得することができる。話すことと発音練習がこの授業の重点である。文法は授業の目的ではないが、目標に到達するために通らねばならぬ道である。したがって、各課の文法も教授され、習得されたかどうか吟味される。文法は、コミュニケーションに有意義な練習を通じて伝えられる。学生は教科書の中に描写されたいくつかのシチュエーションによって、文化間の相違を確認することができる。授業の重点は、教科書の題名に示唆されている「問題発見」にある。学生は、これまでに学んできたことを思い出ししながら、世界についての自己の知識を活用して、比較的最近に学んだ新しい言語で言い表すことができる。

●**授業の到達目標／知識・理解の観点**：教科書には聴解と発音の訓練用のCDが付属している。音声練習が学生の理解を助け、聴解力を鍛えるであろう。自分自身が話すときにはなまりがあるにしても、大きな声ではっきりと話すように努めるべきである。 **思考・判断の観点**：学生は語彙を増やし、会話文の構造を習得し、自分の生活の中から取り出した情報を会話文型の中に組み入れることができるようになる。一学期終わったところで、教科書の会話文をお手本にして自分自身の文章を作って、コミュニケーションを行うことができるようになる。パートナー練習は、授業の一つの構成要素である。宿題は学習効果を高め、一步一步段階的にコミュニケーション・テストの会話構成部分を習得させる。多くの自主性が要求される。 **関心・意欲の観点**：学生と教師は、感情を通わせ合って話すように努める。緊張は、楽しい練習プリントや歌および自由会話練習（プリント無し）によって緩和されるであろう。授業は学生と教師双方によって楽しいものに形成されていくべきである。 **技能・表現の観点**：学生は、コミュニケーションにとって重要な表現を表情豊かに話すことを学ぶ。 **その他の観点**：本授業を履修する以上、規則正しい出席と教科書の購入は必須である。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** Lektion 1 **内容** 1 ページ テーマ：自己紹介 文法：人称変化 練習：自己紹介
- 第 2 回 **項目** Lektion 1 **内容** 4-6 ページ 練習：自己紹介 文法：
- 第 3 回 **項目** Lektion 1 の小会話テスト（20 分） Lektion 2 の始め **内容** テーマ：あなたはドイツのご出身ではないですか？何をするのが好きですか？（7 ページ） 文法：母音の変化する動詞（9 ページ）
- 第 4 回 **項目** Lektion 2 **内容** タイトル・ダイアローグ（10 ページ）モデル会話文：あなたはドイツの出身ではないですか？私はスパゲッティにします。（10 ページ） 練習：何を食べる/飲む/取る/するのが好きですか？（11-12 ページ）
- 第 5 回 **項目** Lektion 2 の小会話テスト（20 分） Lektion 3 の始め **内容** テーマ：オフィスはどこですか？（13 ページ）公共の建物に関する語彙 文法：定冠詞、序数
- 第 6 回 **項目** Lektion 3 **内容** モデル会話文：オフィスはどこですか？ここを右に曲がります。私は文化センターを探しています。（16 ページ） 練習：道を探る（17 ページ）（山大のキャンパスでも）
- 第 7 回 **項目** Lektion 3 まとめ **内容** 道を探る（18 ページ）
- 第 8 回 **項目** Lektion 3 のテスト（45 分） Lektion 4 の始め **内容** テーマ：それはコンピューターですか？ 文法：動詞の格支配、前置詞、不定冠詞、否定冠詞（20-21 ページ）、人称代名詞の 1 格と 4 格

- 第 9 回 **項目** Lektion 4 **内容** モデル会話文：それはコンピューターですか？（22 ページ）練習：練習しましょう！（23 ページ）
- 第 10 回 **項目** Lektion 4 **内容** 練習とまとめ
- 第 11 回 **項目** Lektion 4 小筆記テスト（15 分）小会話テスト（15 分）Lektion 5 の始め **内容** テーマ：そのラップトップは新しいですか？（25 ページ）色（25 ページ）文法：所有冠詞
- 第 12 回 **項目** Lektion 5 **内容** テーマ：色（27 ページ）物体を判断する。文法：副詞（27 ページ）finden, meinen モデル会話文：私のラップトップは不便です。（28 ページ）私はそれがとてもエレガントだと思います。（28 ページ）練習：（29 ページ）そしてクラスで練習する！
- 第 13 回 **項目** Lektion 5 **内容** 練習する（25-30 ページ）
- 第 14 回 **項目** Lektion 5 の小テスト（15 分）と会話テスト（15 分）Lektion 6 の始め **内容** テーマ：家族（31-32 ページ）文法：複数形（31-32 ページ）**授業外指示** 宿題：会話テストのダイアログを書いてください！直すために送ってきてください！[dobra@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:dobra@yamaguchi-u.ac.jp) に送ってください！
- 第 15 回 **項目** Lektion 6 **内容** テーマ家族と職業、人の性格（32-33 ページ）、複数形（31-32 ページ）家族：身長、体重、外見、性格 会話テストの準備/質問/会話テストのグループを決める **授業外指示** ペーパーテストと会話テストの準備

●**成績評価方法（総合）** 期末試験：筆記テスト（L.6）と会話テスト（Lektion 1-5）（どちらも定期試験期間中に実施）

●**教科書・参考書** 教科書：『問題発見のドイツ語（Modelle 1）』CD付き アンドレアス・リースラント 他著、三修社、2004 年、ISBN 4-384-12231-4 C10842600 円

●**連絡先・オフィスアワー** 授業のあといつでもいいです／[dobra@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:dobra@yamaguchi-u.ac.jp) 宇部医学部の研究室の電話番号：（月／金（0836）22-2187

開設科目	ドイツ語演習（会話）（2年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	DobraFelicitas				

●**授業の概要** 本授業は、まず第一に基礎的なコミュニケーション能力を身につけさせる、言い換えれば、一年目に学んだことを復習し、確かなものにするを目的とする。文型は、より意識的に応用されなければならない。これらの文型は、学生によってパートナー練習やグループ練習の中で練習され、学生の生活やさまざまなコミュニケーションの状況に関連する文例によって補強される。教科書の文章は、ドイツ事情を伝える内容である。各課の終わりに、日本語による文法の説明がある。

●**授業の一般目標** 学生は提示された文型に従って、簡単な会話を行える程度の知識を習得することができる。話すことと発音練習がこの授業の重点である。文法は授業の目的ではないが、目標に到達するために通らねばならぬ道である。したがって、各課の文法も教授され、習得されたかどうか吟味される。文法は、コミュニケーションに有意義な練習を通じて伝えられる。学生は教科書の中に描写されたいくつかのシチュエーションによって、文化間の相違を確認することができる。授業の重点は、教科書の題名に示唆されている「問題発見」にある。学生は、これまでに学んできたことを思い出しながら、世界についての自己の知識を活用して、比較的最近に学んだ新しい言語で言い表すことができる。

●**授業の到達目標** / **知識・理解の観点**：教科書には聴解と発音の訓練用のCDが付属している。音声練習が学生の理解を助け、聴解力を鍛えるであろう。自分自身が話すときにはなまりがあるにしても、大きな声ではっきりと話すように努めるべきである。 **思考・判断の観点**：学生は語彙を増やし、会話文の構造を習得し、自分の生活の中から取り出した情報を会話文型の中に組み入れることができるようになる。一学期終わったところで、教科書の会話文をお手本にして自分自身の文章を作って、コミュニケーションを行うことができるようになる。パートナー練習は、授業の一つの構成要素である。宿題は学習効果を高め、一步一步段階的にコミュニケーション・テストの会話構成部分を習得させる。多くの自主性が要求される。 **関心・意欲の観点**：学生と教師は、感情を通わせ会って話すように努める。緊張は、楽しい練習プリントや歌および自由会話練習（プリント無し）によって緩和されるであろう。授業は学生と教師双方によって楽しいものに形成されていくべきである。 **技能・表現の観点**：学生は、コミュニケーションにとって重要な表現を表情豊かに話すことを学ぶ。 **その他の観点**：本授業を履修する以上、規則正しい出席と教科書の購入は必須である。

●**授業計画（授業単位）** / **内容・項目等** / **授業外学習の指示等**

- 第1回 **項目** Lektion 6 **内容** 発音の練習 テーマ：家族の写真（33ページ）文法：母音の変化する動詞の現在人称変化（33ページ） **授業外指示** 宿題：私の好きな歌手/私の好きな食べ物/私の好きな…（36ページ）
- 第2回 **項目** Lektion 6 **内容** テーマ：私の好きな歌手/私の好きな食べ物/私の好きな…（36ページ） **練習**：好きな絵、CD、物、色などについてレポートする **授業外指示** 38ページの本文を下調べしながら読む。
- 第3回 **項目** Lektion 6 **内容** 本文：38ページ **練習**：本文への問い（38ページ）テキストを学生自身についての作文のために使う **授業外指示** 「私の環境、私の家族、私の気関心」というテーマで作文を書き、次回授業で提出する。
- 第4回 **項目** Lektion 7 **内容** 文法：助動詞“moechten”（40ページ）、母音がeからiに変化する動詞“nehmen” **スケッチ練習**（41ページ） **モデル会話文**（41ページ） **練習**：42ページ **授業外指示** 宿題：スケッチ（寸劇）のための会話を書く
- 第5回 **項目** Lektion 7 **内容** テーマ：ここに～がありますか？（43ページ）文法：不定冠詞（20ページ） **練習**：スケッチのための自分の会話（43ページ）
- 第6回 **項目** Lektion 7 **内容** テーマ：学生生活についてのアンケート/蚤の市で文法：定冠詞の復習（15ページ） **授業外指示** 定冠詞（復習してください！）20ページ
- 第7回 **項目** Lektion 7の小テスト（20分）Lektion 8の始め **内容** テーマ：このバスは駅に行きます。（45ページ）文法：前置詞、人称代名詞



- 第 8 回 **項目** Lektion 8 **内容** テーマ：列車は ～時に出発します。文法：分離動詞（45-47 ページ）練習：分離動詞の会話練習（ワークシート）（45-47 ページ）
- 第 9 回 **項目** Lektion 8 **内容** 48 ページ モデル会話文：「このバスは駅に行きます。」 「土曜日に何をする予定ですか？」 練習：例文を応用してみよう。 **授業外指示** 宿題：スケッチの準備
- 第 10 回 **項目** Lektion 8 **内容** 小会話テスト Lektion 8 の続き どこに行きますか？ どこに行きたいですか？ 交通手段を利用するために道順を言い表す **授業外指示** 宿題：スケッチの準備
- 第 11 回 **項目** 小会話テスト Lektion 9 **内容** 小会話テスト Lektion 9 の続き 文法：復習、所有冠詞（51-52 ページ） **授業外指示** 会話作成：Mit Milch und mit Zucker?
- 第 12 回 **項目** Lektion 9 **内容** リスニング（52 ページ） 文法：前置詞（3 格支配の前置詞と 4 格支配の前置詞）（52-53 ページ） スケッチ：鎌倉 ツアー 練習：会話文の練習（52 ページ） **授業外指示** 会話文作成：授業の後で何をしますか？ 駅から家までどれくらい歩きますか？（51 ページ）
- 第 13 回 **項目** Lektion 9 **内容** スケッチ練習：ゴローは何を勧めますか？ スケッチ練習：あなたは何を勧めますか？（ふるさと） 文法：所有冠詞の 3 格、schenken ～ was（4 格）（54 ページ） スケッチ：鎌倉 ツアー（54 ページ） **授業外指示** 宿題：誰に何を贈るか？ そして練習問題（56 ページ）
- 第 14 回 **項目** テスト（45 分） Lektion 9 Lektion 10 の始め **内容** テーマ：オフィスは清潔になる。文法：3 格支配の前置詞と 4 格支配の前置詞（57-59 ページ） 練習：オフィスには何がありますか？どこに置きましょうか？どこに掛けましょうか？（57-58 ページ） **授業外指示** 会話作成：どこに何を置きましょうか？どこに何がありますか？私の部屋（62 ページ）
- 第 15 回 **項目** Lektion 11 **内容** 表現：何が誰のものですか？誰が何を気に入っていますか？（58 ページ） 文法：疑問詞 wer の 3 格 wem（58 ページ） スケッチ：オフィスは清潔になります。（60 ページ） **授業外指示** 会話テストのダイアログを書いてください！直すために送ってきてください！ [dobra@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:dobra@yamaguchi-u.ac.jp) に送ってください！ペーパーテストと会話テストの準備

●**成績評価方法（総合）** 定期試験：筆記試験（45 分）、会話試験（Lektion 6-10）（定期試験期間中に実施）

●**教科書・参考書** 教科書：『問題発見のドイツ語（Modelle 1）』CD 付き アンドレアス・リースラント 他著、三修社、2004 年、ISBN 4-384-12231-4 C10842600 円

●**連絡先・オフィスアワー** 授業のあといつでもいいです / [dobra@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:dobra@yamaguchi-u.ac.jp) 宇部医学部の研究室の電話番号：（月／金（0836）22-2187

開設科目	ドイツ語演習（会話）（3・4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	フェリシタス・ドー				
<p>●<b>授業の概要</b> コミュニケーション手段としてのドイツ語を勉強します。2年次に学習したドイツ語文法をふまえて会話の練習を主にします。文法も学習しますが、これはほとんど2年次の復習です。</p> <p>●<b>授業の一般目標</b> ドイツ語会話の基礎的能力をふまえ、より高いレベルでの会話技術を身につけることを目標とします。</p> <p>●<b>授業の到達目標／ 技能・表現の観点</b> ディスカッションを通して与えられた問題を解決する・子供時代の夢、思い出を話す・自分の将来の夢、希望を話す・気持ち、興味を表現する・ドイツの過去、現代社会における家庭の役割を学び、日本のそれと比較する等、自分の考えをドイツ語で表現できるようになる。</p> <p>●<b>授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等</b></p> <p>第1回 項目 テキスト第1課 内容 テキスト：故郷、場所、家、家を探す／＜文法＞名詞のコンビネーション（Wortbildung）、接続法、受動態（p7-9） 授業外指示 Arbeitsbuch(AB)Ubung1-6[p7-9]</p> <p>第2回 項目 テキスト第1課 内容 テキスト：あなたはどこに住みたいですか／練習 workpaper /＜文法＞語法の助動詞（p9-11） 授業外指示 Arbeitsbuch(AB)Ubung7-9[p10-11]</p> <p>第3回 項目 テキスト第1課 内容 テキスト：家を探す／聞き取り自分でダイアログを作り暗記する（p12） 授業外指示 Arbeitsbuch(AB)Ubung11-14[p12-14]</p> <p>第4回 項目 テキスト第1課 内容 テキスト：家を探す／聞き取り／練習 workpaper（p13） 授業外指示 Arbeitsbuch(AB)Ubung15-16[p14-15]</p> <p>第5回 項目 ディスカッション 内容 ディスカッションのテーマ：二つの絵（テキスト p16）を見てあなた考えを述べてください。 授業外指示 Arbeitsbuch(AB)Ubung19-20[p17]</p> <p>第6回 項目 ディスカッション問題集 内容 ディスカッションのテーマ：故郷はあなたにとってどういう意味をもちますか。 授業外指示 Arbeitsbuch(AB)Ubung21-24[p18-19]</p> <p>第7回 項目 発表 内容 自分の故郷を紹介する（写真、物、ビデオ等を持参して）</p> <p>第8回 項目 ペーパーテスト 内容 ペーパーテスト：故郷、諺／＜文法＞接続法</p> <p>第9回 項目 テキスト第2課 内容 テキスト：休暇と旅行、乗り物／＜文法＞未来形、“mit”、前置詞“von”、“von...aus”、“ab”（p21） 授業外指示 Arbeitsbuch(AB)Ubung1-2[p22-23]</p> <p>第10回 項目 問題集 内容 問題集：Arbeitsbuch(AB)Ubung2[p24]（テキスト p22-23） 授業外指示 Arbeitsbuch(AB)「Ubung2-9[p24-27]</p> <p>第11回 項目 前回の課題の会話の聞き取り 内容 前回の課題の会話の聞き取り（テキスト p23）</p> <p>第12回 項目 テキスト第2課 内容 テキスト：交通／聞き取り（p24） 授業外指示 Arbeitsbuch(AB)Ubung11-14[p28-29]</p> <p>第13回 項目 テキスト第2課 内容 テキスト：もうすぐ夏休みですがあなたは何をしますか、乗り物は何を使いますか（p28） 授業外指示 友人に手紙を書く。</p> <p>第14回 項目 ダイアログを書く 内容 他の学生と一緒にダイアログを書く。 授業外指示 ダイアログを完成させる。</p> <p>第15回 項目 前回のダイアログのチェックと録音テストの準備 内容 前回のダイアログをチェックし、録音する。ペーパーテストと会話テストの準備をする。</p> <p>●<b>成績評価方法（総合）</b> 成績は定期試験（ペーパーテスト・会話テスト）[30%]、宿題 [10%]、授業中の態度 [20%]、演習 [30%]、出席 [10%] で評価します。</p> <p>●<b>教科書・参考書</b> 教科書：Themen neu Kursbuch 3, Lehrwerk für, Deutsch als, Fremdsprache, Hueber Verlag, 1998年；別売でCDもありますがこちらは購入しなくても構いません。／参考書：Themen neu Arbeitsbuch 3, Lehrwerk für, Deutsch als, Fremdsprache, Hueber Verlag, 1998年</p>					

●連絡先・オフィスアワー E-mail: [dobra@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:dobra@yamaguchi-u.ac.jp) TEL:0836-22-2187 (小串キャンパス) オフィスアワー：火曜日、木曜日の授業時間外

開設科目	ドイツ語演習（会話）（3・4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	フェリシタス・ドー				

●**授業の概要** コミュニケーション手段としてのドイツ語を勉強します。2年次に学習したドイツ語文法をふまえて会話の練習を主にします。文法も学習しますが、これはほとんど2年次の復習です。

●**授業の一般目標** ドイツ語会話の基礎的能力をふまえ、より高いレベルでの会話技術を身につけることを目標とします。

●**授業の到達目標**／ **技能・表現の観点**： ディスカッションを通して与えられた問題を解決する・子供時代の夢、思い出を話す・自分の将来の夢、希望を話す・気持ち、興味を表現する・ドイツの過去、現代社会における家庭の役割を学び、日本のそれと比較する等、自分の考えをドイツ語で表現できるようになる

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第1回 **項目** テキスト第2課 **内容** テキスト：夏休みに何をしましたか、ヨーロッパ（p26-17） **授業外指示** Arbeitsbuch (AB) Übung 19-21 [p32-33]
- 第2回 **項目** テキスト第3課／前回の課題のチェック **内容** テキスト：ヨーロッパ（p26-27）前回の課題のチェック：Arbeitsbuch(AB)Übung19-21[p32-33]
- 第3回 **項目** テキスト第3課／問題集 **内容** テキスト：職業／練習 workpaper /＜文法＞受動態、名詞問題集：Arbeitsbuch(AB)Übung19-21[p32-33]
- 第4回 **項目** テキスト第3課／問題集 **内容** テキスト：インタビュー／聞き取り／練習 workpaper 問題集：Arbeitsbuch(AB)Übung1-2[p37]
- 第5回 **項目** ディスカッション／問題集 **内容** ディスカッションのテーマ：あなたは自分でビジネスをしたいですか（テキスト p35）問題集：Arbeitsbuch(AB)Übung19-20[p45-46] **授業外指示** 授業のテーマで作文を書いてくる。
- 第6回 **項目** テキスト第3課 **内容** テキスト：将来に必要な職業（p40） **授業外指示** Arbeitsbuch (AB) Übung 22-25 [p48-49]
- 第7回 **項目** ペーパーテスト／会話テスト **内容** ペーパーテスト：作文（テーマ：面白い職業）会話テスト：ディスカッション（テーマ：面白い職業）
- 第8回 **項目** テキスト第4課 **内容** テキスト：勉強する、学ぶ／＜文法＞不定詞文、語法の助動詞の現在完了形、再帰代名詞（p44） **授業外指示** Arbeitsbuch (AB) Übung 1-2 [p53-54] ダイアログを作る（テーマ：子供の頃に学んだこと）
- 第9回 **項目** テキスト第3課 **内容** テキスト：聞き取り **授業外指示** 作文（テーマ：あなたが小さい頃にしたいこと） Arbeitsbuch(AB)Übung1-2[p53-54]
- 第10回 **項目** テキスト第3課 **内容** テキスト：あなたの勉強のタイプは（p46） **授業外指示** Arbeitsbuch (AB) Übung 9 [p58]
- 第11回 **項目** テキスト第3課 **内容** テキスト：あなたの勉強のタイプは（p59） **授業外指示** Arbeitsbuch (AB) Übung 13-14 [p59]
- 第12回 **項目** 前回の課題のチェック／テキスト第4課 **内容** 前回の課題のチェック：Arbeitsbuch(AB)Übung13-14[p59] テキスト：仕事を見つける、新聞、インターネット（p51-52） **授業外指示** Arbeitsbuch (AB) Übung 15-16 [p60]
- 第13回 **項目** 前回の課題のチェック／テキスト第4課 **内容** 前回の課題のチェック：Arbeitsbuch(AB)Übung15-16[p60] テキスト：聞き取り／ダイアログ（p52） **授業外指示** Arbeitsbuch (AB) Übung 17-18 [p60-61]
- 第14回 **項目** 前回の課題のチェック／テキスト第4課 **内容** 前回の課題のチェック：Arbeitsbuch(AB)Übung17-18[p60-61] テキスト：あなた方のドイツ語のレベルは？（p52） **授業外指示** Arbeitsbuch (AB) Übung 18-21 [p62-63] 他の学生と一緒にダイアログを書いてくる（テーマ：仕事を見つける）

第15回 項目 前回の課題のチェック／ダイアログの録音／ペーパーテストの準備 内容 前回の課題のチェック：Arbeitsbuch(AB)Ubung18-21[p62-63] ダイアログを録音するペーパーテストの準備

- 成績評価方法(総合) 成績は定期試験(30%)、宿題(10%)、授業態度(20%)、演習(30%)、出席(10%)で評価します。
- 教科書・参考書 教科書：Themen neu Kursbuch 3, Lehrwerk für, Deutsch als, Fremdsprache, Hueber Verlag, 1998年；別売のCDがありますが、それは購入しなくてもかまいません。／参考書：Themen neu Arbeitsbuch 3, Lehrwerk für, Deutsch als, Fremdsprache, Hueber Verlag, 1998年
- 連絡先・オフィスアワー E-mail: [dobra@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:dobra@yamaguchi-u.ac.jp) TEL:0836-22-2187 (小串キャンパス) オフィスアワー：火曜日と木曜日の授業外の時間

開設科目	ドイツ語演習（作文）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	下寄正利				

●**授業の概要** ドイツ語作文の教科書を用いて、ドイツ語作文の訓練を行う。そのほか、数回、何らかのテーマを与え、それについて自由に作文を書いてもらう予定でいる。

●**授業の一般目標** ドイツ語作文力の向上。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：ドイツ語の初級文法をしっかり身に付けている。**技能・表現の観点**：きちんとしたドイツ語を書くことができるのはもちろんのこと、より高度なドイツ語表現ができる。

●**授業の計画（全体）** 1回の授業で2課程度進む予定でいる。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

第 1 回 項目 1・2 課

第 2 回 項目 3・4 課

第 3 回 項目 5・6 課

第 4 回 項目 7・8 課

第 5 回 項目 9・10 課

第 6 回 項目 11・12 課

第 7 回 項目 12・13 課

第 8 回 項目 14・15 課

第 9 回 項目 16・17 課

第 10 回 項目 18・19 課

第 11 回 項目 20・21 課

第 12 回 項目 22・23 課

第 13 回 項目 24・25 課

第 14 回 項目 26・27 課

第 15 回 項目 期末試験

●**成績評価方法（総合）** 授業中に行う練習問題の解答、レポート、期末試験による。

●**教科書・参考書** 参考書：続中級独作文、岩崎英二郎、大学書林

開設科目	ドイツ語演習（作文）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	本田義昭				

●**授業の概要** ドイツ語の初級文法で学んだ事項を組み合わせ、ドイツ語の文章を作成する練習を積み重ねて行きます。／**検索キーワード** ドイツ語 文法 独作文

●**授業の一般目標** ドイツ語の文章を作成する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：ドイツ語の文の構造および各文法事項に関する知識を深める。  
**思考・判断の観点**：日本語とは異なる発想に触れて、世界を複眼的にみれるようになる。**関心・意欲の観点**：自分が思っていることをドイツ語という形で発信する積極性を養う。**技能・表現の観点**：ドイツ語の文を作成する能力を養う。

●**授業の計画（全体）** 教科書に沿って練習問題を解きながら、質議に答え、必要に応じて追加説明して行きます。

●**成績評価方法（総合）** 平素の学習、特に授業への積極的参加を重視します。出席が所定の回数に満たない場合は失格となります。

●**教科書・参考書** 教科書：ドイツ語の作文と文法, 横山靖, 郁文堂, 2002 年／参考書：必要に応じて、授業の中で紹介します。

●**メッセージ** ドイツ語の基本文を暗記していると、購読や会話にも非常に役立ちます。授業への積極的な参加を期待しています。

●**連絡先・オフィスアワー** honda@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部 4 階 オフィスアワー：火曜日 10:20-11:50

開設科目	ドイツ語演習（時事ドイツ語・ドイツ事情）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	岡光一浩				

●**授業の概要** せっかくドイツ語を学んだのだから、ドイツ語の力を伸ばしながら、ドイツってどんな国か、どんな風土か、どんな国民か、どんな生活をしているのか、などを知りたい人のための授業。ドイツを好きになることを請け合います。／**検索キーワード** ドイツ語が分かり、ドイツが、ヨーロッパが、世界が、そして人生が分かる。

●**授業の一般目標** ドイツ語が読みこなせ、今日のドイツを知る。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：ドイツ語が読める。ドイツの知識を得ることができる。**思考・判断の観点**：ドイツを知り、日本を、そして自分を知る。**関心・意欲の観点**：ドイツ語、ドイツ、ドイツ人に興味をもつ。**態度の観点**：ドイツの魅力に捉えられる。**技能・表現の観点**：ドイツ語を読み、表現できる。

●**授業の計画（全体）** 地理、歴史、政治、経済、社会、文化、衣食住などにわたって今日のドイツを平易なドイツ語で読む。初級文法を学んでいけば十分に読みこなせるような、簡単なテキストであるので、できるだけ多く読みたい。ドイツ語の読解力を向上させるとともに、ドイツに対するイメージが広がるはずである。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** ガイダンス **内容** 授業の方針等の説明。 **授業外指示** 訳読の予習
- 第 2 回 **項目** ヨーロッパの中のドイツ **授業外指示** 以下、同様
- 第 3 回 **項目** 以下、同様 **内容** Deutschland nach der Wiedervereinigung
- 第 4 回 **内容** Deutsche Staedte und Fluesse
- 第 5 回 **内容** Der Rhein
- 第 6 回 **内容** Bier und Wein
- 第 7 回 **内容** Brot
- 第 8 回 **内容** Johann Sebastian Bach
- 第 9 回 **内容** Auslaender in Deutschland
- 第 10 回 **内容** Das deutsche Schulsystem
- 第 11 回 **内容** Die deutsche Zeitung
- 第 12 回 **内容** Erfinder und Wissenschaftler
- 第 13 回 **内容** Die deutsche Autoindustrie
- 第 14 回 **内容** Der Schutz der Umwelt
- 第 15 回 **内容** Freizeit, Sport

●**成績評価方法（総合）** 期末試験や授業時間内の発表、出席などにおいて評価する。

●**教科書・参考書** 教科書： こんにちは! ドイツです, A.Raab/石井, 朝日出版社, 2003 年

●**メッセージ** 一生懸命でない、面白さも見えてこない。予習のうえ出席。

●**連絡先・オフィスアワー** 人文学部岡光研究室



開設科目	ドイツ語演習（時事ドイツ語・ドイツ事情）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	HINTEREDEREMDEFRAZ				

●**授業の概要** 1年生で覚えたドイツ語では文法は大ざっぱに理解しているでしょうが、ドイツ語を実用的に使うとか、読書をするには、実力を身に付けることがこれからです。このコースでは、文法を復習しながら、ドイツ語の語彙を効果的に増やすために、色々な分野にわたって、会話の様々な場面を読んだり、自分で造ったり、そして演じたりします。テープやビデオを使って、練習をさらに効果的にします。家で常にテープや単語帳を利用、自分の可能性を積極的にチャレンジすることが望まれています。／**検索キーワード** ドイツ語の語彙、ドイツ語の実力と応用

●**授業の一般目標** ドイツ語圏の文化に関係している簡単な資料を解説して、ドイツ語で自分の意見を表現できることです。これは口頭でディスカッションしたり、または発表したりして、そしてドイツ語で簡単なレポートを書くことです。

●**授業の計画（全体）** 次のテーマに渡って勉強します。進み方は皆さんの関心・発表などによって決まってきます：ドイツの旅（地理、都市、名所）観光地、ホテルの予約 ドイツの街や観光地を紹介する発表 ドイツの住まい（家やアパート、部屋の間取り、家具）インターネットで住居の雑誌を調べる。私の夢の家を紹介する。ドイツのファッション（洋服の呼び方、色やサイズなど）インターネットでドイツのファッションを調べる 私の好きなファッションを紹介する 時間の過ごし方（講義と暇、約束の仕方）私の一日、一週間のスケジュール、夏休みの話、ドイツ旅の計画 趣味と遊び（スポーツ、音楽、映画など）ドイツの料理（レストランで食べる料理、メニューの読み方、注文）家庭料理、レシピの読み方、買い物

●**成績評価方法（総合）** 評価の対象：小テスト（40%）授業内外のドイツ語のレポート（ドイツ語の文書を書く努力、上達への努力）（40%）授業への参加、貢献（関心をもって、積極的な態度、宿題の提出）（20%）

●**教科書・参考書** 教科書：資料は適宜に紹介、又は配分します。／参考書：授業で紹介します

●**メッセージ** 宿題などは電子メールでやり取りします。ノートパソコンをいかして欲しい。

●**連絡先・オフィスアワー** 2004年9月以降 電話：内線 5287 メール：emde@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは後に知らせます。

開設科目	フランス語史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	武本雅嗣				

●**授業の概要** 半年間で、インド・ヨーロッパ祖語からラテン語を経て現代フランス語が成立するまでの流れを概観します。

●**授業の一般目標** 古フランス語、中期フランス語、近代フランス語、現代フランス語の特徴を理解する。とくに、近代フランス語が正確に読めるようになる。

●**授業の到達目標** / **知識・理解の観点**：現代フランス語が成立するまでの流れを把握する。 **思考・判断の観点**：古フランス語、中期フランス語、近代フランス語、現代フランス語の特徴を指摘できる。 **関心・意欲の観点**：文献の講読に参加する。 **技能・表現の観点**：文献の読解ができる。

●**授業の計画（全体）** 半年間で、インド・ヨーロッパ祖語からラテン語を経て現代フランス語が成立するまでの流れを概観します。古フランス語、中期フランス語、近代フランス語、現代フランス語の特徴を把握していきませんが、とくに近代フランス語に関しては、文献を読みます。

●**授業計画（授業単位）** / **内容・項目等** / **授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 インド・ヨーロッパ祖語
- 第 2 回 項目 ラテン語
- 第 3 回 項目 ラテン語
- 第 4 回 項目 ラテン語からフランス語へ
- 第 5 回 項目 古フランス語
- 第 6 回 項目 古フランス語
- 第 7 回 項目 古フランス語
- 第 8 回 項目 中期フランス語
- 第 9 回 項目 中期フランス語
- 第 10 回 項目 中期フランス語
- 第 11 回 項目 近代フランス語
- 第 12 回 項目 近代フランス語
- 第 13 回 項目 近代フランス語
- 第 14 回 項目 現代フランス語
- 第 15 回 項目 現代フランス語

●**成績評価方法（総合）** 授業への参加：20-40 % レポート：60-80 %

●**教科書・参考書** 教科書：プリントを配布します。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室 人文 612, オフィスアワー 木曜日 2:30-4:00

開設科目	フランス語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	武本雅嗣				

- 授業の概要** フランス語のジェロンディフ構文を機能的・認知的観点から分析します。先行研究を紹介し、現在分詞構文との違いについて考察します。
- 授業の一般目標** フランス語のジェロンディフ構文の形式と意味の連関を把握する。
- 授業の到達目標** / **知識・理解の観点**：ジェロンディフ構文と現在分詞構文の間の形式的・意味的相違を説明できる。 **思考・判断の観点**：ジェロンディフ構文をめぐる現象を説明できる。
- 授業の計画（全体）** ジェロンディフ構文と現在分詞構文の間の形式的・意味的相違を捉え、ジェロンディフ構文をめぐる現象を解明する。
- 成績評価方法（総合）** レポート：60-80 % 授業態度や授業への参加度：20-40 %
- 教科書・参考書** 教科書：コピーを配布します。
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室 人文 612, オフィスアワー 木曜日 2:30-4:00

開設科目	フランス語学演習 (3.4 年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	武本雅嗣				

●**授業の概要** 今年度は、構文に焦点を当てて、フランス語で書かれた論文を読んでいきます。卒業論文を書くための指導も合わせて行っていきます。

●**授業の一般目標** フランス語で書かれた論文を読むことによって、フランス語学の知識を深めるだけでなく、論文の書き方や議論の展開の仕方も学んでいきます

●**授業の到達目標** / **知識・理解の観点**：論文を正確に読める。 **思考・判断の観点**：ジェロンディフ構文と現在分詞構文を類別できる。 **態度の観点**：講読に参加できる。

●**授業の計画（全体）** ジェロンディフに関する論文を読みます。前期のテキストは次のとおりです。Lipsky, A. (2003) “Pour une description semantique et morpho-syntaxique du participe francais et allemand”, *Languages*, 149, pp. 71-85.

●**成績評価方法（総合）** レポート：60-80 % 授業態度や授業への参加度：20-40 %

●**教科書・参考書** 教科書：テキストのコピーをを配布します。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室 人文 612, オフィスアワー 木曜日 2:30-4:00

開設科目	フランス語学演習 (3.4 年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	武本雅嗣				

- 授業の概要** 今年度は、構文に焦点を当てて、フランス語で書かれた論文を読んでいきます。卒業論文を書くための指導も合わせて行っていきます。
- 授業の一般目標** フランス語で書かれた論文を読むことによって、フランス語学の知識を深めるだけでなく、論文の書き方や議論の展開の仕方も学んでいきます
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：論文を正確に読める。 **思考・判断の観点**：ジェロンディフ構文と現在分詞構文を類別できる。 **態度の観点**：講読に参加できる。
- 授業の計画（全体）** 後期のテキストは次のとおりです。 Jacques MOESCHLER & Antoine AUCHLIN (1997): Introduction & agrave; la linguistique contemporaine, Armand Colin.
- 成績評価方法（総合）** レポート：60-80 % 授業態度や授業への参加度：20-40 %
- 教科書・参考書** 教科書：テキストのコピーをを配布します。
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室 人文 612, オフィスアワー 木曜日 2:30-4:00

開設科目	フランス文学史 I	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平山豊				

●**授業の概要** フランスという国の成り立ち、フランス語の形成から説き起こし、ケルト、ラテン、ゲルマン等の諸文化、諸文明やキリスト教精神、封建制度等の背景としての制度や時代精神と文学ジャンルの変遷とのかかわりを概観する。また文学史上に名を残すそれぞれの時代の名作にも触れ、解説をする。

●**授業の一般目標** (1) 時代とともに移り変わる様々な精神文化について理解を深める。(2) 文学のジャンルや表現形式について学ぶ。

●**授業の計画 (全体)** フランス文学の揺籃期間から 17, 8 世紀まで、それぞれの時代の文学の特色と名だたる作品と作家について概説する。

●**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** オリエンテーション **内容** シラバス説明成績評価の説明授業の進め方 **授業外指示** シラバスを読んでおくこと
- 第 2 回 **項目** フランス文学の曙 **内容** フランス語の形成とその背景について
- 第 3 回 **項目** 中世前期 **内容** 聖人伝、武勲詩 Chanson de Roland 等について **授業外指示** 今後取り上げることになる翻訳作品の繙読の勧め
- 第 4 回 **項目** 中世前期 **内容** トルバドゥールの詩について
- 第 5 回 **項目** 宮廷風文学 **内容** クレチアン・ド・トロワの騎士道物語について
- 第 6 回 **項目** 宮廷風文学 **内容** トリスタン物語について
- 第 7 回 **項目** 中世後期の町人文学 **内容** ファブリオ、Le Roman de Renart について
- 第 8 回 **項目** 中世後期の抒情詩 **内容** フランソワ・ヴィヨンについて
- 第 9 回 **項目** ルネッサンス前期 **内容** マルグリット・ド・ナヴァールとユマニストについて
- 第 10 回 **項目** ルネッサンスの抒情詩 **内容** プレイヤッド派について
- 第 11 回 **項目** ルネッサンス後期 **内容** モンテーニュの Essais について
- 第 12 回 **項目** 17 世紀古典主義演劇 **内容** コルネイユ、ラシーヌの悲劇
- 第 13 回 **項目** 17 世紀古典主義演劇中間試験 **内容** モリエールの喜劇小テスト
- 第 14 回 **項目** 17・8 世紀の小説、書簡文学 **内容** ラ・ファイエット夫人、セヴィニエ夫人、アベ・プレヴォーの作品について
- 第 15 回 **項目** 啓蒙主義の文学 **内容** ヴォルテール、ディドロ、ルソーの文学

●**成績評価方法 (総合)** 中間試験と授業内レポート 40% 期末試験の代わりにレポート 60% を総合して評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：ほぼ毎回プリント配布 / 参考書：その都度指示

開設科目	フランス文学史 II	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	フランス文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	末松 壽				

- 授業の概要** 講義題目：「モラリストの文学」 フランス文学の歴史において特徴的な現象の一つであるモラリストたちの営みを、文学の観点から全体的に把握することをめざす。
- 授業の一般目標** 文学史学はいかなる時期にいかなる意味で「モラリスト」の概念を確立したのか、モラリストとはいかなる作家か、彼らの文学とはどのようなものかを知ることがめざす。
- 授業の計画（全体）** 上記目標を達成するために、以下の問題を検討・解説する。 1) 「モラリスト」なる用語の歴史、 2) モラリストの出現の時期、 3) 社会背景 4) 形式・手法・ジャンル（若干の代表的な文章を読む）、 5) モラリスト概念の拡大の是非、など。
- 成績評価方法（総合）** レポートおよび筆記試験を実施する。また平素の成績も評価の対象とする。
- 教科書・参考書** 教科書： 空白／ 参考書： 任意のフランス文学史の書物



開設科目	フランス文学演習 (3・4年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官					

開設科目	フランス文学演習 (3・4年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平山豊				

- 授業の概要** スタンダールの従兄弟ロマン・コロンの回想を通して作家スタンダールの素顔や生き方、搜索の舞台裏等を読み取る。更に、代表作のさわりの部分も併せて読む。
- 授業の一般目標** 19世紀の代表的な作家のひとりであるスタンダールの作品に親しみ理解を深めると同時に、彼の生きた時代の動きや精神の在り様を感得する。
- 授業の計画 (全体)** テキストを各自分担しながら訳読する形で授業を進める。作品の紹介や梗概は出来れば割り当て制にして、レポート発表してもらいたい。折をみて、『赤と黒』、『パルムの僧院』など映画化されたものをどれかひとつビデオ鑑賞する予定。
- 成績評価方法 (総合)** 定期試験 70% 平素の授業参加度、発表内容 30% の割合で総合評価
- 教科書・参考書** 教科書： Mon cousin Stendhal, Romain COLMB, Slatkine Reprints, 1997年；プリント配布／参考書：授業中に指示

開設科目	フランス文学講読(小説)	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	平山豊				

●**授業の概要** 2年生を含む講義のため、まず易しくリライトしたテキスト版で Alain-Fournier の『グラン・モーヌ』LE GRAND MEAULNES を受講生と一緒に読んでいく。夢と冒険に誘われた少年・少女が終には愛の挫折を体験することになる物語が、ソーレニユの森を背景に展開され、そこはかたない悲哀と詩情が漂う。そのいわばフランスの永遠の魂の漂泊をゆっくり味読してみよう。

●**授業の一般目標** 書き言葉の時制である単純過去の文章に慣れる。

●**授業の計画(全体)** 作者アラン・フルニエの紹介、作品の背景となる地方のビデオ等での紹介を訳読作業の間に織り交ぜる。原作との比較やテープによる原作の朗読も聴く。

●**成績評価方法(総合)** 定期試験80% 平素の訳読の出来映え 20% の割合で総合評価

●**教科書・参考書** 教科書: LE GRAND MEAULNES, Alain Fournier 西 節夫編, 朝日出版社; Le grand Meaulnes, Alain-Fournier, Fayard, 1972年/ 参考書: Isabelle Riviere, Images d'Alain-Fournier, Fayard,, ; Pierre Suire, Alain-Fournier au miroir du Grand Meaulnes, Seghers,, ,

開設科目	フランス文学講読（小説）	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平山豊				

- 授業の概要** 2年生を含む講義のため、まず易しくリライトしたテキスト版で Alain-Fournier の『グラン・モーヌ』LE GRAND MEAULNES を受講生と一緒に読んでいく。夢と冒険に誘われた少年・少女が終には愛の挫折を体験することになる物語が、ソーニユの森を背景に展開され、そこはかたない悲哀と詩情が漂う。そのいわばフランスの永遠の魂の漂泊をゆっくり味読してみよう。
- 授業の一般目標** 単純過去で著された文語文に慣れる。語彙を豊にしてフランス語の文語文を読むスピードを上げる。
- 授業の計画（全体）** 作者アラン・フルニエの紹介、作品の背景となる地方のビデオ等での紹介を訳読作業の間に織り交ぜる。原作との比較やテープによる原作の朗読も聴く。読解力が増すにつれて、章によっては原作を優先して読む。
- 成績評価方法（総合）** 定期試験 80% 平素の朗読、訳読の出来映え 20% の割合で総合評価。
- 教科書・参考書** 教科書：LE GRAND MEAULNES, Alain Fournier 西 節夫編, 朝日出版社, , ; Le grand Meaulnes, Alain-Fournier, Fayard, 1972年, , / 参考書：Pierre Suire, Alain-Fournier au miroir du Grand Meaulnes, Seghers, , , ; Isabelle Riviere, Images d'Alain-Fournier, Fayard, , ,

開設科目	フランス文学講読 (小説) (2年生)	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	武本雅嗣				

- 授業の概要** フランス語専攻でフランス語未履修の2年生のための授業です。半年間でフランス語の基礎を学びます。
- 授業の一般目標** フランス語の基本的文法体系をの習得を目指します。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点**： フランス語の基本文法の習得。
- 授業の計画 (全体)** 半年で文法のテキストを終わります。
- 成績評価方法 (総合)** テスト：60-80 % 授業態度や授業への参加度：20-40 %
- 教科書・参考書** 教科書：初級フランス語文法, 天羽均, 朝日出版, 2002年 / 参考書：『クラウン仏和辞典』, 天羽 均, 三省堂 (紀伊国屋にて販売) 『プチ・ロワイヤル仏和辞典』, 田村 毅, 旺文社 (紀伊国屋にて販売) 『ディコ仏和辞典』, 中條屋 進, 白水社 (紀伊国屋にて販売)
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室 人文 612, オフィスアワー 木曜日 2:30-4:00

開設科目	フランス文学講読（詩・戯曲）	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官					

開設科目	フランス文学講読（詩・戯曲）	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	フランス語演習（会話）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	ジャン＝クロード・ボシイール				

- 授業の概要** このコースは初級フランス語を総合的にレベルアップさせ、フランス語での基礎的なコミュニケーションに積極的に参加できるような理解力と表現力とを習得することを目標にしている。
- 授業の一般目標** この講座は、フランス語を学ぶ学生のために簡単な挨拶や日常会話を取り入れながら、初級～中級フランス語を習得して伝達力を伸ばす。
- 授業の計画（全体）** 「基本文型」、「発音」、「重要文法」、「きまり文句」、「会話表現」等をまんべんなく取り入れ、毎回授業には「フランス雑学コーナー」を設けてシャンソン、映画等のさまざまな情報を提供する。
- 成績評価方法（総合）** 一回の会話定期考査と平均点（授業態度、出席状況など）を総合的に評価します。
- 教科書・参考書** 教科書：自作のプリント／参考書：空白



開設科目	フランス語演習（会話）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	ボシイール				

- 授業の概要** このコースは初級フランス語を総合的にレベルアップさせ、フランス語での基礎的なコミュニケーションに積極的に参加できるような理解力と表現力を習得することを目標にしている。
- 授業の一般目標** この講座は、フランス語を学ぶ学生のために簡単な挨拶や日常会話を取り入れながら、初級～中級フランス語を習得して伝達力を伸ばす。
- 授業の計画（全体）** 「基本文型」、「発音」、「重要文法」、「きまり文句」、「会話表現」等をまんべんなく取り入れ、毎回授業には「フランス雑学コーナー」を設けてシャンソン、映画等のさまざまな情報を提供する。
- 成績評価方法（総合）** 一回の会話定期考査と平均点（授業態度、出席状況など）を総合的に評価します。
- 教科書・参考書** 教科書：自作プリント／参考書：空白

開設科目	フランス語演習（作文）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	武本雅嗣				

●**授業の概要** フランス語の基礎を習得した人を対象とします。表現モデルと語彙の知識を増やし、できる限り多くの練習問題をすることによって、表現の幅を広げていきます。毎回小テスト行います。

●**授業の一般目標** 書くために必要な文法知識を習得し、日本語とフランス語の表現の違いを把握して、正確に書けるようになることを目指します。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：書くために必要な文法知識の習得。 **思考・判断の観点**：日本語とフランス語の表現の違いを把握する。 **技能・表現の観点**：正確なフランス語が書ける。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 自動詞
- 第 2 回 項目 自動詞
- 第 3 回 項目 他動詞
- 第 4 回 項目 他動詞
- 第 5 回 項目 間接他動詞
- 第 6 回 項目 間接他動詞
- 第 7 回 項目 繫合動詞
- 第 8 回 項目 繫合動詞
- 第 9 回 項目 不定法
- 第 10 回 項目 不定法
- 第 11 回 項目 非人称動詞, 代名動詞
- 第 12 回 項目 非人称動詞, 代名動詞
- 第 13 回 項目 否定・疑問
- 第 14 回 項目 否定・疑問
- 第 15 回 項目 期末試験

●**成績評価方法（総合）** 前期末試験: 60-80 % 授業態度や授業への参加度: 20-40 %

●**教科書・参考書** 教科書：『中級仏作文』, 小林路易, 白水社；学生会館の紀伊国屋にて販売。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室 人文 612, オフィスアワー 木曜日 2:30-4:00

開設科目	フランス語演習（作文）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	武本雅嗣				

●**授業の概要** フランス語の基礎を習得した人を対象とします。表現モデルと語彙の知識を増やし、できる限り多くの練習問題をすることによって、表現の幅を広げていきます。毎回小テスト行います。

●**授業の一般目標** 書くために必要な文法知識を習得し、日本語とフランス語の表現の違いを把握して、正確に書けるようになることを目指します。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：書くために必要な文法知識の習得。 **思考・判断の観点**：日本語とフランス語の表現の違いを把握する。 **技能・表現の観点**：正確なフランス語が書ける。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 命令, 感嘆
- 第 2 回 項目 命令, 感嘆
- 第 3 回 項目 比較, 受身, 使役
- 第 4 回 項目 比較, 受身, 使役
- 第 5 回 項目 時制, 相
- 第 6 回 項目 時制, 相
- 第 7 回 項目 補足節
- 第 8 回 項目 補足節
- 第 9 回 項目 話法
- 第 10 回 項目 話法
- 第 11 回 項目 関係詞節
- 第 12 回 項目 関係詞節
- 第 13 回 項目 状況節
- 第 14 回 項目 状況節
- 第 15 回 項目 期末試験

●**成績評価方法（総合）** 前期末試験: 60-80 % 授業態度や授業への参加度: 20-40 %

●**教科書・参考書** 教科書: 『中級仏作文』, 小林路易, 白水社; 学生会館の紀伊国屋にて販売。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室 人文 612, オフィスアワー 木曜日 2:30-4:00

開設科目	フランス語演習 (時事フランス語・フランス事情)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	ジャン＝クロード・ボシイール				

- 授業の概要** フランスをいろいろな視点から見て知識を深めることに重点を置く。「ファッション・グルメの国」という表面的なイメージだけにとらわれず、フランス文化・芸術の真髄から現代社会が抱える悩み、問題点まで踏み込み、これからの課題等にも迫る。
- 授業の一般目標** フランスの新しい姿を理解する。プリント、ビデオ、カセットを使用して講義の理解を更に深める。フランス語の専門用語の習得。ただ講義の聞き手になるのではなく、お互いに自分の意見を言う積極性を身につける。
- 授業の計画 (全体)** 講義で取り上げるテーマは「歴史、文学、教育、日常生活、料理、映画、シャンソン、漫画、芸術、メディア、スポーツ等」であるが、さらに、フランスと日本はお互いの国にどのような印象をもっているのかという日仏比較論も設けた。
- 成績評価方法 (総合)** 一回の定期考査と平均点 (授業態度、出席状況など) を総合的に評価する。
- 教科書・参考書** 教科書：自作プリント及び及びフランスの新聞やインターネット記事、書籍、過去にフランスで大ヒットした映画「L'aile ou la cuisse」

開設科目	フランス語演習 (時事フランス語・フランス事情)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	ボシイール				

- 授業の概要** フランスをいろいろな視点から見て知識を深めることに重点を置く。「ファッション・グルメの国」という表面的なイメージだけにとらわれず、フランス文化・芸術の真髄から現代社会が抱える悩み、問題点まで踏み込み、これからの課題等にも迫る。
- 授業の一般目標** フランスの新しい姿を理解する。プリント、ビデオ、カセットを使用して講義の理解を更に深める。フランス語の専門用語の習得。ただ講義の聞き手になるのではなく、お互いに自分の意見を言う積極性を身につける。
- 授業の計画 (全体)** 講義で取り上げるテーマは「歴史、文学、教育、日常生活、料理、映画、シャンソン、漫画、芸術、メディア、スポーツ等」であるが、さらに、フランスと日本はお互いの国にどのような印象をもっているのかという日仏比較論も設けた。
- 成績評価方法 (総合)** 一回の定期考査と平均点 (授業態度、出席状況など) を総合的に評価する。
- 教科書・参考書** 教科書：自作プリント及び及びフランスの新聞やインターネット記事、書籍、過去にフランスで大ヒットした映画「L'aile ou la cuisse」／参考書：空白

開設科目	言語学概論 I	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	乾 秀行				

- 授業の概要** 「言語学」のいくつかの主要なテーマについてできるだけいろんな観点から概説する。世間には「言語学」について間違ったイメージがある。「言語学」とは何かについてわかりやすく説明する。一年後にはそのような間違ったイメージがなくなり、一人でも多くの受講生が「言語学」に興味を持つようになれば成功である。
- 授業の一般目標** 「言語学」に関して、特定の理論や考え方に毒されることなく、いろんな研究分野や研究スタイルがあることを理解する。
- 授業の計画（全体）** 主要テーマ：言語学とは何か、言語学史、音声学・音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、社会言語学、歴史言語学、言語類型論。
- 教科書・参考書** 教科書：西江 雅之 (2003) 『「ことば」の課外授業―“ハダシの学者”の言語学 1 週間』 洋泉社 (¥ 720) / 参考書：授業中に適宜提示。
- メッセージ** ノートパソコンを活用する。
- 連絡先・オフィスアワー** f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語学概論 II	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	乾 秀行				

- 授業の概要** 「言語学」のいくつかの主要なテーマについてできるだけいろんな観点から概説する。世間には「言語学」について間違ったイメージがある。「言語学」とは何かについてわかりやすく説明する。一年後にはそのような間違ったイメージがなくなり、一人でも多くの受講生が「言語学」に興味を持つようになれば成功である。
- 授業の一般目標** 「言語学」に関して、特定の理論や考え方に毒されることなく、いろんな研究分野や研究スタイルがあることを理解する。
- 授業の計画（全体）** 主要テーマ：言語学とは何か、言語学史、音声学・音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、社会言語学、歴史言語学、言語類型論。
- 教科書・参考書** 教科書：西江 雅之 (2003) 『「ことば」の課外授業—“ハダシの学者”の言語学 1 週間』 洋泉社 (¥ 720) / 参考書：授業中に適宜提示。
- メッセージ** ノートパソコンを活用する。
- 連絡先・オフィスアワー** f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	乾 秀行				

●**授業の概要** 記述言語学や言語人類学の著作を読むことを通して、言語と文化の関係（言語相対論）や言語の多様性について考える。1. 言語研究における「サピア・ウォーフの仮説」の今日的な意味について考察する。2. 言語の多様性をどのように言語研究の中に組み込んでいくのか、研究のスタンスについて考える。／**検索キーワード** 記述言語学、言語相対論

●**授業の一般目標** 1. できるだけ多くの言語の記述研究を読むことで、言語の多様性を理解する。2. テキストを熟読することで、言語学的な考え方を理解する。3. フィールド言語学や記述研究のおもしろさを体感する。

●**授業の計画（全体）** 2、3名のグループ毎に発表形式で読んでいく。担当範囲があまり短いと全体が理解できないことになるので、グループはそれぞれ内容的にできるだけまとまりのある範囲を担当することになる。

●**教科書・参考書** 教科書：テキストをコピーで配布する。

●**メッセージ** 発表はパワーポイントを使って行うので、ノートパソコンが必要である。

●**連絡先・オフィスアワー** f1566@yamaguchi-u.ac.jp



開設科目	言語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	乾 秀行				

●**授業の概要** 記述言語学や言語人類学の著作を読むことを通して、言語と文化の関係（言語相対論）や言語の多様性について考える。1. 言語研究における「サピア・ウォーフの仮説」の今日的な意味について考察する。2. 言語の多様性をどのように言語研究の中に組み込んでいくのか、研究のスタンスについて考える。／**検索キーワード** 記述言語学、言語相対論

●**授業の一般目標** 1. できるだけ多くの言語の記述研究を読むことで、言語の多様性を理解する。2. テキストを熟読することで、言語学的な考え方を理解する。3. フィールド言語学や記述研究のおもしろさを体感する。

●**授業の計画（全体）** 2、3名のグループ毎に発表形式で読んでいく。担当範囲があまり短いと全体が理解できないことになるので、グループはそれぞれ内容的にできるだけまとまりのある範囲を担当することになる。

●**教科書・参考書** 教科書：テキストをコピーで配布する。

●**メッセージ** 発表はパワーポイントを使って行うので、ノートパソコンが必要である。

●**連絡先・オフィスアワー** f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平野 尊識				

●**授業の概要** 日本語の助詞「は」について考察する。「は」の機能には主題と対照があるとされている。この講義では、主題の「は」が本来のものであり、それが対照の機能を持つのは、文脈的情報が関与していることを提案する。つまり、「同一カテゴリー」と「文脈 対比」の二つの制約が機能するときに、対照の意味が発現するのである。同時に、総記の「が」も文脈的情報が機能しているときに現れる機能である。類似の考えは先行研究にも見られるので、先行研究を読みながら講義を進める。／**検索キーワード** は、主題、対照、文脈、が、総記、

●**授業の一般目標** (1) データを集め、そこに現れている文法現象の中に規則性を見付け、仮説を導く。(2) 仮説が正しいかどうかの判断、(3) 仮説の修正、(4) 結論を導く能力。(5) 科学的に考察する能力。

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 参考文献を読んで、理解する。 **思考・判断の観点**： 科学的に考察できる。 **関心・意欲の観点**： 日本語の「は」の考察からスタートし、その他の言語の文法現象にも興味を 広げ、考察する能力を養う。

●**授業の計画 (全体)** 問題の所在を明らかにし、データを見ながら新しい提案をする。その提案が妥当かどうかを、その他のデータを参考にして判断する。講義は次の順序で進めていく。1. 序 論、2. 「主題」と「対照」の中和、3. 「主題」と「対照」、4. 結論的考察。

●**成績評価方法 (総合)** 学期末試験を中心にする。授業外レポート (2 回の予定) と授業への参加状況を勘案する。

●**メッセージ** 予習して出席すること。講義に出て話を聞き、そこで理解できれば講義の目的は達成できたことになる。

●**連絡先・オフィスアワー** e-mail address: takanori@yamaguchi-u.ac.jp Office hour: Tue. 13:00-14:30  
Office: Jinbun 617

開設科目	言語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平野尊識				

●**授業の概要** 言語には、意味を表すために統語構造媒介とし、音声化するという仕組みがある。特に複雑な意味を伝えたいときには、聞き手に理解しやすいような特別の統語的方法を備えている。この方法は同時に、発話者がその意味を文法に組み込みやすくするものでもある。このような方法をこの講義では、「知覚に関係した統語的仕組み」(Perception- related syntactic strategies)と呼ぶことにする。講義では、以下のテーマを取り上げる。1. 紹介、2. 日本語の「が」／「を」交替、3. 日本語の「が」／「の」交替、4. 日本語の二重「に」格の制約、5. 日本語の連帯修飾節における残留代名詞、6. ペルシア語の関係節構造、7. 節の名詞化と補語、8. 英語におけるこのような統語的仕組み、9. タガログ語の関係節構造：関係節と被修飾語の順序。講義のテキストとして、拙論 (Perception and syntactic strategies, Ms) を使う。／**検索キーワード** 文の理解、知覚、統語的手法、コミュニケーション、

●**授業の一般目標** 1. 特定の現象が、知覚と関係する統語的仕組み (PRSS) して捉えることができること。2. 特定の統語現象の理解。3. PRSS の意味するもの。4. 類似の現象を、学習者が知っている言語の中から探すことができるかどうか。5. 講義内容の全体的理解。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：テキストの内容を十分理解できているか。**思考・判断の観点**：自分で、類似の例を見付けられるか。**関心・意欲の観点**：講義内容について、建設的な質問と討議ができるか。**態度の観点**：予習して講義に出席しているか。

●**授業の計画（全体）** 授業概要で述べた項目について、それぞれ1－2週をかけて進める。

●**連絡先・オフィスアワー** e-mail address: takanori@yamaguchi-u.ac.jp Office hour: Tue. 13:00-14:30  
Office: Jinbun level 6, 617

開設科目	言語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	土田 滋				

●**授業の概要** 台湾の主として山地に住む原住民諸族は、平地に住む漢民族とはまったく異なり、オーストロネシア系の言語を話している。オーストロネシア語族は太平洋のポリネシア、メラネシア、インドネシアなどの広大な地域で行われている語族であるが、台湾原住民諸語は、ほかのオーストロネシア系の言語で失われてしまった古い特徴をよく保存しており、オーストロネシア比較言語学上、非常に重要な位置を占めている。この講義では、比較言語学の方法論の基礎を学び、その応用として、台湾原住民諸語に基づいてオーストロネシア祖語を再構する。それと同時に、台湾原住民諸語のさまざまな特徴について学ぶことにする。／**検索キーワード** 比較言語学、オーストロネシア語族、台湾原住民諸語、接中辞、類別接頭辞、民俗分類、言葉の男女差

●**授業の一般目標** (1) 比較言語学の基礎を習得する、(2) オーストロネシア諸語の概略を学習する、(3) 台湾原住民諸語の概略を学習する、(4) その中でもとくに興味深いトピック、たとえば「動詞の構造」「接中辞」「類別接頭辞」「民俗分類：男の魚と女の魚」「言葉の男女差」などについての知識を深め、英語や日本語との類似点・相違点についての理解をも深める。

●**授業の計画(全体)** 上の「授業の一般目標」にそって1日ずつ(ただし最後の(4)については3日間)を使って授業を進める。進捗状況により、若干変更あり。

●**成績評価方法(総合)** 何よりもまず、講義に参加し、内容を理解することが重要である。理解度を評価するために授業外レポートを課す。言語学のこの分野への関心の広がりも評価の対象になる。

●**教科書・参考書** 参考書：比較言語学入門, 高津春繁, 岩波書店, 1992年; Language, L. Bloomfield, George Allen & Unwin Ltd., 1933年

●**備考** 集中授業

開設科目	言語学演習（音声と音韻）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	乾 秀行				

●**授業の概要** 言語研究をする上で基礎になる演習である。2年生向けである。一般音声学の基礎知識を身につけるとともに、母音・子音の聞き取りおよび発音訓練をする。／**検索キーワード** 一般音声学、国際音声字母。

●**授業の一般目標** 1. ヒトの言語音の調音のしくみを理解する。 2. ヒトの言語音をすべて記述できる国際音声字母 (IPA) を覚える。 3. 母音・子音の聞き取りおよび発音ができるようになる。 4. 音声を聞いて国際音声字母 (IPA) で記述できる。 5. 一般音声学的視点から、英語や日本語などの個別言語の音声を分析できる能力を身につける。。

●**授業の計画（全体）** 調音音声学的観点から言語音を概観したあと、ソフトウェアを使って実際に音声の聞き取りの訓練を行う。一つ一つの音が聞き取れるようになったら、見知らぬ音声を聞いて国際音声字母 (IPA) で表記する練習をする。

●**教科書・参考書** 教科書：斎藤 純男 (1997) 『日本語音声学入門』三省堂。(2000) / 参考書：ピーター ラディフォギッド (1999) 『音声学概説』竹林、牧野訳。大修館書店。 / ジェフリー・K. プラム、ウィリアム・A. ラデュサー (2003) 『世界音声記号 辞典』土田、中川、福井訳。三省堂。 / 国際音声学会 (編)(2003) 『国際音声記号ガイドブック—国際音声学会案内』竹林、神山訳。大修館書店。

●**メッセージ** 授業にはノートパソコンが必要である。

●**連絡先・オフィスアワー** f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語学演習（意味と統語）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	乾 秀行				

●**授業の概要** 平易な文章で書かれたテキストを使って、日本語の文法の身近なテーマを取り扱う。授業は完全な学生主導の討論形式を採るので、積極的な授業参加が求められる。

●**授業の一般目標** 母語である日本語を題材にして、学生自身が積極的に討論を通じて、ふだん見過ごしている言語現象について考察を深める。

●**授業の到達目標**／知識・理解の観点：a 思考・判断の観点：a 関心・意欲の観点：a 技能・表現の観点：a

●**授業計画（授業単位）**／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 授業内容の説明。演習担当者 決定。

第 2 回 項目 テンス 内容 91-94

第 3 回 項目 空間（方向・移動）や意志性に関する表現 内容 95-97

第 4 回 項目 解釈の多義性と構造 内容 100-101

第 5 回 項目 否定と文の構造 1 内容 102-103

第 6 回 項目 否定と文の構造 2 内容 103-105

第 7 回 項目 否定と文の構造 3 内容 105-106

第 8 回 項目 主語について 1 内容 107-110

第 9 回 項目 主語について 2 内容 110-112

第 10 回 項目 主語について 3 内容 113-116

第 11 回 項目 副助詞について 1 内容 117-119

第 12 回 項目 副助詞について 2 内容 119-121

第 13 回 項目 断定と不確実（広義の推量）を表す形式 1 内容 124-127

第 14 回 項目 断定と不確実（広義の推量）を表す形式 2 内容 127-129

第 15 回 項目 断定と不確実（広義の推量）を表す形式 2 内容 129-131

●**教科書・参考書** 教科書：ここからはじまる日本語文法, 森山卓郎, ひつじ書房, 2000 年

●**連絡先・オフィスアワー** f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語学演習（意味と統語）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	乾 秀行				

●**授業の概要** 平易な文章で書かれたテキストを使って、日本語の文法の身近なテーマを取り扱う。授業は完全な学生主導の討論形式を採るので、積極的な授業参加が求められる。

●**授業の一般目標** 母語である日本語を題材にして、学生自身が積極的に討論を通じて、ふだん見過ごしている言語現象について考察を深める。

●**授業の到達目標**／知識・理解の観点：a 思考・判断の観点：a 関心・意欲の観点：a 技能・表現の観点：a

●**授業計画（授業単位）**／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 事態選択の形式 内容 132-133

第 2 回 項目 疑問文 1 内容 134-135

第 3 回 項目 疑問文 2 内容 136-138

第 4 回 項目 意志の表現 内容 139-141

第 5 回 項目 命令形式と表現 内容 142-144

第 6 回 項目 名詞収束型の表現 内容 145-148

第 7 回 項目 終助詞などの文末の付加要素 1 内容 149-151

第 8 回 項目 終助詞などの文末の付加要素 2 内容 152-153

第 9 回 項目 複文構造の従属 の度合い 1 内容 156-159

第 10 回 項目 複文構造の従属 の度合い 2 内容 159-161

第 11 回 項目 引用 内容 162-163

第 12 回 項目 名詞修飾節（連体修飾節） 1 内容 164-166

第 13 回 項目 名詞修飾節（連体修飾節） 2 内容 166-169

第 14 回 項目 時間節 内容 170-172

第 15 回 項目 条件文 内容 173-175

●**教科書・参考書** 教科書：ここからはじまる日本語文法, 森山卓郎, ひつじ書房, 2000 年

●**連絡先・オフィスアワー** f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語学演習（意味と統語）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平野 尊識				

●**授業の概要** オハイオ州立大学言語学科から出版されているテキスト、Language files を読みながら、言語の構造にアプローチする。これは、言語と言語学をより深く理解することにつながる。前期は、単語の構造、新しく語を作り出す仕組みについて学習する。／**検索キーワード** 語形成、接辞、母音交替、屈折と派生

●**授業の一般目標** 1. 英文で書かれた言語学関係の文献を読みこなすこと。2. 説明を理解すること。3. 練習問題を自分で解く。4. 言語学の他の分野にも関心を持つ。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：言語学における形態論、語形成の分野の理解。**思考・判断の観点**：文に構造があるように、語にも構造があることを、テキストの説明と練習問題に取り組むことで、理解する。そのためには自分で考えることが何よりも大切である。**関心・意欲の観点**：形態論の学習によって、言語と言語学に関心を持つこと。**態度の観点**：授業に参加するということは、同時に予習をしていくということの意味する。テキストが英語で書かれているので、前期が終わるころには、英語で書いた言語学のテキスト、論文も辞書があれば読めるようになる。

●**授業の計画（全体）** 前期は、形態論についての知識、考え方について学習する。具体的な内容を次に示す。  
1. Words and word formation, 2. Exercises in identifying morphemes, 3. The hierarchical structure of derived words, 4. Morphological processes, 5. How to solve morphological exercises, 6. Morphology exercises

●**教科書・参考書** 教科書：Language files: Materials for an introduction to language and linguistics, Dept. of Linguistics. Ohio State University, Ohio State Univ. Press., 2001 年

●**連絡先・オフィスアワー** Mail address: takanori@yamaguchi-u.ac.jp Office hour: Tue. 13:00-14:30 Office: Jinbun level 6



開設科目	言語学演習（意味と統語）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平野 尊識				

●**授業の概要** オハイオ州立大学言語学科から出版されているテキスト、Language files を読みながら、言語の構造にアプローチする。これは、言語と言語学をより深く理解することにつながる。後期は、文の構造、新しく文を作り出す仕組みについて学習する。／**検索キーワード** 語、句、文、線形構造、階層関係、カテゴリー

●**授業の一般目標** 1. 英文で書かれた言語学関係の文献を読みこなすこと。2. 説明を理解すること。3. 練習問題を自分で解く。4. 言語学の他の分野にも関心を持つ。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：言語学における統語論、文の形成と理解。**思考・判断の観点**：文には意味を正しく伝えるための構造があることを、テキストの説明と練習問題によって理解する。内容を理解した上で、文の構造の分析へと進むことが大切。まず自分で考えること。**関心・意欲の観点**：統語論の学習によって、言語と言語学に関心を持つこと。**態度の観点**：授業に参加するということは、同時に予習をしていくということの意味する。テキストが英語で書かれているので、前期が終わるころには、英語で書いた言語学のテキスト、論文も辞書があれば読めるようになる。

●**授業の計画（全体）** 後期は、統語論、文の構造について学習する。具体的な内容を次に示す。1. Linear order, hierarchical structure, and ambiguity, 2. Lexical categories, 3. Phrasal categories, 4. subcategories, 5. Phrase structure rules, 6. Transformations, 7. Word order typology

●**教科書・参考書** 教科書：Language files: Materials for an introduction to language and linguistics, Dept. of Linguistics. Ohio State University, Ohio State Univ. Press., 2001 年

●**連絡先・オフィスアワー** Mail address: takanori@yamaguchi-u.ac.jp Office hour: Tue. 13:00-14:30 Office: Jinbun level 6

開設科目	個別言語演習（アメリカ・ヨーロッパ地域）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	PHILLIPSJOHNDAVID				

●**授業の概要** 「ウェールズ語」 Yn y cwrs hwn canolbwyntir ar iaith lafar y Gymraeg ac edrych yn fras ar rai pynciau cysylltiedig: ei hanes a'i pherthynas ac ieithoedd eraill, ei llenyddiaeth, y gynghanedd, a hwyrach ychydig o ddawnsio a cherddoriaeth. ウェールズ語は西南英国のウェールズ地方の言葉である。ケルト系の言語でありブルトン語やアイルランド語に似ている。授業では、日常ウェールズ語を中心にするが、国と言語の歴史及び比較言語学や定型詩も少し勉強したり、さらに現代および中世紀の文章を読んだりする。

●**授業の一般目標** ウェールズ語の基礎勉強（初心者向け）を行う。

●**授業の計画（全体）** 「ウェールズ語」 Yn y cwrs hwn canolbwyntir ar iaith lafar y Gymraeg ac edrych yn fras ar rai pynciau cysylltiedig: ei hanes a'i pherthynas ac ieithoedd eraill, ei llenyddiaeth, y gynghanedd, a hwyrach ychydig o ddawnsio a cherddoriaeth. ウェールズ語は西南英国のウェールズ地方の言葉である。ケルト系の言語でありブルトン語やアイルランド語に似ている。授業では、日常ウェールズ語を中心にするが、国と言語の歴史及び比較言語学や定型詩も少し勉強したり、さらに現代および中世紀の文章を読んだりする。

●**成績評価方法（総合）** テストを判断資料とし、総合的に判断する。

●**教科書・参考書** 教科書：文法に関するテキスト 水谷 宏（著）「毎日ウェールズ語を話そう」 大学書林 1995 字引に関するテキスト「Collins-Spurrell Welsh Dictionary」 Harper Collins 1996 又は D. Geraint Lewis（著）「Geiriadur Gomer i'r ifanc」 Gomer 1994 上記テキストは大学会館内、紀伊国屋書店で購入できます。／参考書：参考文献等は講義中に適宜紹介する。

開設科目	個別言語演習（アメリカ・ヨーロッパ地域）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	PHILLIPSJOHNDAVID				

●**授業の概要** 「ウェールズ語」 Yn y cwrs hwn canolbwyntir ar iaith lafar y Gymraeg ac edrych fars ar rai pynciau cysylltiedig: ei hanes a'i pherthynas ac ieithoedd eraill, ei llenyddiaeth, y gynghanedd, a hwyrach ychydig o ddawnsio a cherddoriaeth. ウェールズ語は西南英国のウェールズ地方の言葉である。ケルト系の言語でありブルトン語やアイルランド語に似ている。授業では、日常ウェールズ語を中心に、国と言語の歴史及び比較言語学や定型詩も少し勉強したり、さらに現代および中世紀の文章を読んだりする。

●**授業の一般目標** ウェールズ語（中級程度）を勉強する。

●**授業の計画（全体）** 「ウェールズ語」 Yn y cwrs hwn canolbwyntir ar iaith lafar y Gymraeg ac edrych fars ar rai pynciau cysylltiedig: ei hanes a'i pherthynas ac ieithoedd eraill, ei llenyddiaeth, y gynghanedd, a hwyrach ychydig o ddawnsio a cherddoriaeth. ウェールズ語は西南英国のウェールズ地方の言葉である。ケルト系の言語でありブルトン語やアイルランド語に似ている。授業では、日常ウェールズ語を中心に、国と言語の歴史及び比較言語学や定型詩も少し勉強したり、さらに現代および中世紀の文章を読んだりする。

●**成績評価方法（総合）** テスト及びレポートで判定します。

●**教科書・参考書** 教科書：文法に関するテキスト 水谷 宏（著）「毎日ウェールズ語を話そう」 大学書林 1995 字引に関するテキスト「Collins-Spurrell Welsh Dictionary」 Harper Collins 1996 又は D. Geraint Lewis（著）「Geiriadur Gomer i'r ifanc」 Gomer 1994 上記テキストは大学会館内、紀伊国屋書店で購入できます。／参考書：参考文献等は講義中に適宜紹介します。

開設科目	個別言語演習（その他の地域）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	乾 秀行				

- 授業の概要** こちらで用意したいくつかの言語をグループ毎に学習する。共通教育や教養科目にない言語を文法書や辞書やウェブ教材を使って、コツコツと勉強することになる。必要な文法書や辞書はこちらで一応用意するが、受講生自身が必要と感じた時点で個々に購入すればよい。
- 授業の一般目標** 一年かけてとにかく一つの具体的な言語を勉強する。そのことがどんな言語学の概説書や理論書を読むよりもいい勉強になる。単語、文法を覚え、最終的に辞書片手にまとめた文章が読めるようになればいい。
- 授業の計画（全体）** 毎週目標を設定し、グループでお互いに勉強する。ホームページを作りながら、楽しく学習する。
- メッセージ** ノートパソコンが必要である。
- 連絡先・オフィスアワー** f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	個別言語演習（その他の地域）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	乾 秀行				

- 授業の概要** こちらで用意したいくつかの言語をグループ毎に学習する。共通教育や教養科目にない言語を文法書や辞書やウェブ教材を使って、コツコツと勉強することになる。必要な文法書や辞書はこちらで一応用意するが、受講生自身が必要と感じた時点で個々に購入すればよい。
- 授業の一般目標** 一年かけてとにかく一つの具体的な言語を勉強する。そのことがどんな言語学の概説書や理論書を読むよりもいい勉強になる。単語、文法を覚え、最終的に辞書片手にまとまった文章が読めるようになればいい。
- 授業の計画（全体）** 毎週目標を設定し、グループでお互いに勉強する。ホームページを作りながら、楽しく学習する。
- メッセージ** ノートパソコンが必要である。
- 連絡先・オフィスアワー** f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語情報処理学概論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	つる岡昭夫				

- 授業の概要** 言語情報処理の理論と歴史について、概要を知る。あわせて用語の知識を理解し、身に付ける。／**検索キーワード** コンピュータ 2進法 コード 言語 (日本語) 機械処理
- 授業の一般目標** 言語情報処理の知識を身に付け、実際に自分で行えるようにする。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： コンピュータについて理解する。また情報処理用語も理解する。  
**関心・意欲の観点**： 言語 (日本語) 情報処理への関心。
- 成績評価方法 (総合)** 定期期末試験による。第2回目以降毎回出席を取り、8回以上の者のみ受験させる。
- 教科書・参考書** 教科書： なし 必要資料は随時プリントで配布
- 連絡先・オフィスアワー** 電話 内線5267 オフィスアワー木曜12.50～14.20

開設科目	言語情報処理学概論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	つる岡昭夫				

●**授業の概要** 言語情報処理の原理と、大量言語処理によって明らかになった日本語の特徴について学ぶ。  
 ／**検索キーワード** コンピュータ 日本語 用語用字調査 α 単位 β 単位

●**授業の一般目標** 日本語の処理について、調査の歴史と調査単位について学ぶ。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：大量言語処理の方法と歴史について理解する。調査に当って日本語の調査単位をどうするかについて考える。**関心・意欲の観点**：実際の調査を行う。

●**成績評価方法 (総合)** 定期期末試験による。第 2 回目以降出席をとり (1 3 回)、8 回以上のもののみ受験をさせる。

●**教科書・参考書** 教科書：特になし。必要に応じて、プリントを配付する。

●**連絡先・オフィスアワー** 電話 (内線) 5 2 2 6 オフィスアワー 木曜 1 2 . 5 0 ~ 1 4 . 2 0

開設科目	言語情報処理学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	つる岡昭夫				

- 授業の概要** 言語情報処理の歴史と、これまでに明らかになったことを知り、次いで現状での問題点、これからの課題について学ぶ。／**検索キーワード** 情報処理 日本語 大量言語調査 語彙
- 授業の一般目標** 言語情報処理の現状と今後について学ぶ。またこれまでの大量言語調査の結果明らかになった日本語の特徴を今後の自動処理に生かすことを研究する。
- 授業の計画（全体）** 言語情報処理の理論と歴史 言語情報処理の結果明らかになった日本語の特徴。前期は語彙（自立語）について。
- 成績評価方法（総合）** 定期期末試験による。第2回目以降毎回出席を取り、8回以上の者のみ受験をさせる。試験はノート、プリント等の持参を認める。
- 教科書・参考書** 教科書：なし。必要に応じてプリントを配付する。
- 連絡先・オフィスアワー** 電話（内線）5226 研究室人文404 オフィスアワー 木曜12.50～14.20



開設科目	言語情報処理学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	つる岡昭夫				

- 授業の概要** 言語情報処理の理論と歴史。これまでに明らかになったことを知り、ついで現状での問題点、今後の課題について学ぶ。／**検索キーワード** 言語（日本語） 大量言語調査 助詞・助動詞
- 授業の一般目標** 言語情報処理の現状と今後について学ぶ。またこれまでの大量調査の結果明らかになった日本語の特徴を今後の自動処理に生かすことを研究する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 言語情報処理の理論と歴史。
- 授業の計画（全体）** 言語情報処理に理論と歴史。言語情報処理の結果明らかになった日本語の特徴。後期は助詞・助動詞について。
- 成績評価方法（総合）** 定期期末試験による。第2回目以降毎時出席を取り、8回以上出席の者のみ受験をさせる。試験はノート、プリント等の持込み可。
- 教科書・参考書** 教科書： なし。必要に応じてプリントを配付する
- 連絡先・オフィスアワー** 電話（内線）5 2 2 6 研究室人文4 0 4 オフィスアワー 木曜12・50～14・20

開設科目	言語情報処理学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	PHILLIPSJOHNDAVID				

●**授業の概要** Morphology: We shall use the formalism of Paradigmatic Morphology to describe the internal structure of words - inflexions, derivations, compounding, etc. Examples will be from English and other languages. Syntax: The words of a Language are put together in fixed patterns to make sentences. We shall look at some common English and Japanese patterns, and at how they are described and analysed in two popular theories of grammar: categorial grammar and phrase-structure grammar.

●**授業の一般目標** コンピューター言語学、形式言語学、形態論・統合論の基礎及び応用を勉強する。

●**授業の計画（全体）** Morphology: We shall use the formalism of Paradigmatic Morphology to describe the internal structure of words - inflexions, derivations, compounding, etc. Examples will be from English and other languages. Syntax: The words of a Language are put together in fixed patterns to make sentences. We shall look at some common English and Japanese patterns, and at how they are described and analysed in two popular theories of grammar: categorial grammar and phrase-structure grammar.

●**成績評価方法（総合）** レポート。

●**教科書・参考書** 教科書：吉村賢治（著）「自然言語処理の基礎」サイエンス社 2000年 M. M. Wood（著）「Categorial Grammars」Routledge 1993 / 参考書：必要に応じてプリントを配布する。

●**メッセージ** Assessment will be by one practical assignment each term: a morphological analysis for the first term and a syntactic analysis for the second term. 授業では英語をよく使う。

開設科目	言語情報処理学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	茂呂雄二,				

- 授業の概要** 未定 非常勤講師なので、4 月以降に掲示等で発表する。
- 授業の一般目標** 未定 集中講義なので、授業一日目にて詳しく説明する。
- 授業の計画（全体）** 集中講義なので、原則初日に詳しく説明する。なお、初日の 1 時限目は必ず参加することが望ましい。
- 成績評価方法（総合）** 出席及びレポート等を総合的に判断する。
- 教科書・参考書** 教科書： 掲示にて、発表する。／ 参考書： 授業中に適宜紹介する。
- 備考** 集中授業

開設科目	言語情報処理学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	PHILLIPSJOHNDAVID				

●**授業の概要** Morphology: We shall use the formalism of Paradigmatic Morphology to describe the internal structure of words - inflexions, derivations, compounding, etc. Examples will be from English and other languages. Syntax: The words of a Language are put together in fixed patterns to make sentences. We shall look at some common English and Japanese patterns, and at how they are described and analysed in two popular theories of grammar: categorial grammar and phrase-structure grammar.

●**授業の一般目標** コンピューター言語学、形式言語学、形態論・統合論の基礎及び応用を勉強する。

●**授業の計画 (全体)** Morphology: We shall use the formalism of Paradigmatic Morphology to describe the internal structure of words - inflexions, derivations, compounding, etc. Examples will be from English and other languages. Syntax: The words of a Language are put together in fixed patterns to make sentences. We shall look at some common English and Japanese patterns, and at how they are described and analysed in two popular theories of grammar: categorial grammar and phrase-structure grammar.

●**成績評価方法 (総合)** レポート。

●**教科書・参考書** 教科書: 吉村賢治 (著) 「自然言語処理の基礎」 サイエンス社 2000年 M. M. Wood (著) 「Categorial Grammars」 Routledge 1993

●**メッセージ** Assessment will be by one practical assignment each term: a morphological analysis for the first term and a syntactic analysis for the second term. 授業では英語をよく使う。

開設科目	言語情報処理学演習(2・3年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	つる岡昭夫				

- 授業の概要** 日本語の言語をコンピュータに入力して、さまざまな研究を行う。入力ソフトはEXCELLを使う。また、調査単位は $\beta$ 単位とする。調査単位は $\beta$ 単位とする。／**検索キーワード** 語彙 総索引  $\beta$ 単位
- 授業の一般目標** EXCELLで日本語を入力する。語彙をカウントする。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：日本語の語彙。
- 授業の計画(全体)** まず、 $\beta$ 単位の実験をする。ついでEXCELLを使って日本語を入力する。それを元にして語彙索引および語意表を作成する。日本語のテキストデータは毎時間貸与する(毎回回収)。
- 成績評価方法(総合)** レポートおよび出席点。
- 教科書・参考書** 教科書：なし。必要プリント、テキストデータは配布する。
- メッセージ** 初回にフロッピーデスク持参のこと。
- 連絡先・オフィスアワー** 電話(内線)5226 研究室人文404 オフィスアワー木曜12.50～14.50

開設科目	言語情報処理学演習 (2・3年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	つる岡昭夫				

- 授業の概要** 日本語の言語データをコンピュータに入力し、さまざまな研究を行う。入力ソフトはEXCELを使う。また、調査単位には $\beta$ 単位を用いる。／**検索キーワード** 語彙 総索引  $\beta$ 単位
- 授業の一般目標** EXCELで日本語のテキストデータを入力する。調査単位は $\beta$ 単位とする。日本語の語彙調査および語彙索引を作成する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： $\beta$ 単位の理解。
- 授業の計画 (全体)** まず調査単位の $\beta$ 単位について学び、実験をする。その後EXCELを使って日本語を入力する。語彙索引を作る。また、そのデータによって語彙調査を行う。日本語のデータテキストは毎時間貸与する (毎回回収する)。
- 成績評価方法 (総合)** レポートによる。
- 教科書・参考書** 教科書：なし。必要プリント、テキストデータは配布する。
- メッセージ** 初回にフロッピーディスク持参のこと。
- 連絡先・オフィスアワー** 電話 (内線) 5226 研究室人文404 オフィスアワー木曜12.50～14.20

開設科目	言語情報処理学演習（4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	つる岡昭夫				

- 授業の概要** 言語情報処理用語の研究をする。／**検索キーワード** 言語情報処理用語
- 授業の一般目標** 言語情報処理の用語を研究し、記述する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：言語情報処理用語について **技能・表現の観点**：コンピュータの利用技術。
- 授業の計画（全体）** 言語情報処理用語の収集、検討、記述を行う。
- 成績評価方法（総合）** レポート提出。
- 教科書・参考書** 教科書：なし。
- 連絡先・オフィスアワー** 電話（内線）5226 研究室人文404 オフィスアワー木曜12.50～14.20

開設科目	言語情報処理学演習（4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	つる岡昭夫				

- 授業の概要** 言語情報処理用語の研究をする。／**検索キーワード** 言語情報処理用語
- 授業の一般目標** 言語情報処理用語を研究し、記述する。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：言語情報処理用語について。**技能・表現の観点**：コンピュータの利用技術。
- 授業の計画（全体）** 言語情報処理用語の収集、検討、記述。
- 成績評価方法（総合）** レポート提出。
- 教科書・参考書** 教科書：なし
- 連絡先・オフィスアワー** 電話（内線）5226 研究室人文404 オフィスアワー 木曜12.50～14.20



開設科目	言語情報処理学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	PHILLIPSJOHNDAVID				

●**授業の概要** Prolog is a largely declarative programming language based on formal logic. Programming consists of entering data as logical permisses;running the program consists of asking Prolog whether a statement can be proven given the premisses .Because of its basis in logic, Prolog is particularly suitable for work in natural language. First term-basic Prolog, an introduction for beginners. Second term-natural language programming in Prolog, a continuation of the first term's work.

●**授業の一般目標** プロログ、プログラミング、自然言語処理の基礎から応用までを学ぶ。

●**授業の計画 (全体)** Prolog is a largely declarative programming language based on formal logic. Programming consists of entering data as logical permisses;running the program consists of asking Prolog whether a statement can be proven given the premisses .Because of its basis in logic, Prolog is particularly suitable for work in natural language. First term-basic Prolog, an introduction for beginners. Second term-natural language programming in Prolog, a continuation of the first term's work.

●**成績評価方法 (総合)** 一週間おきに実施するプログラミングの宿題で判定する。

●**教科書・参考書** 教科書：岡田朋子（著） 「Introduction to Prolog - Prolog 入門」（授業で配布します。）／参考書：松田紀之（著） 「PROLOG を楽しむ」 オーム社 平成5年 中島英之・上田和紀（著） 「楽しいプログラミング II」 岩波新書 1992 古川康一（著） 「Prolog 入門」 オーム社 1986 黒川利明（著） 「Prolog のソフトウェア作法」 岩波新書 1989

●**メッセージ** Assessment will be by four programming assignments to be handed in during each term. 授業は殆ど英語で行います。

開設科目	言語情報処理学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	PHILLIPSJOHNDAVID				

●**授業の概要** Prolog is a largely declarative programming language based on formal logic. Programming consists of entering data as logical permisses;running the program consists of asking Prolog whether a statement can be proven given the premisses .Because of its basis in logic, Prolog is particularly suitable for work in natural language. First term-basic Prolog, an introduction for beginners. Second term-natural language programming in Prolog, a continuation of the first term's work.

●**授業の一般目標** プロログ、プログラミング、自然言語処理の基礎から応用までを学ぶ。

●**授業の計画 (全体)** Prolog is a largely declarative programming language based on formal logic. Programming consists of entering data as logical permisses;running the program consists of asking Prolog whether a statement can be proven given the premisses .Because of its basis in logic, Prolog is particularly suitable for work in natural language. First term-basic Prolog, an introduction for beginners. Second term-natural language programming in Prolog, a continuation of the first term's work.

●**成績評価方法 (総合)** 一週間おきに実施するプログラミングの宿題で判定する。

●**教科書・参考書** 教科書：岡田朋子（著） 「Introduction to Prolog - Prolog 入門」（授業で配布します。）／参考書：松田紀之（著） 「PROLOG を楽しむ」 オーム社 平成5年 中島英之・上田和紀（著） 「楽しいプログラミング II」 岩波新書 1992 古川康一（著） 「Prolog 入門」 オーム社 1986 黒川利明（著） 「Prolog のソフトウェア作法」 岩波新書 1989

●**メッセージ** Assessment will be by four programming assignments to be handed in during each term. 授業は殆ど英語で行います。

開設科目	卒業研究	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	前期
担当教官	岩部浩三, 太田聡, 島越郎				

●**授業の概要** 英語学の専門文献を読み、その内容をオーラルレポートする。Semesterあたり2回のプレゼンテーションを2名1組で順次実施する。1回の発表につき、平均8時間の事前指導（授業時間外）が必要になるので、3週間前までに論文を読み疑問点を整理しておくこと。時間外指導を受ける時は、毎回アポイントメントを取って指導を受けること。

●**授業の一般目標** 英語で書かれた専門論文を読みこなす能力を養い、さらにそれをわかりやすくプレゼンテーションをする技術を磨く。与えられた仕事に責任を持ち、パートナーと協調して完全にやり遂げる

●**授業の到達目標** / **知識・理解の観点**：英語の専門論文が読める。内容をわかりやすく説明できる。質問に対して、適切に回答することができる。 **思考・判断の観点**：論文を読んだり、他人の発表を聞いて、疑問点を簡潔に質問できる。不明な点を洗い出して、調べられる。 **関心・意欲の観点**：高度な内容をわかるまであきらめずに理解する意欲を持つ。内容を発展させたり、問題点を解決しようと試みる。 **態度の観点**：1つの仕事をパートナーと協調して責任を持ってやり遂げる。必要なプロセスと時間を見積もり、計画的に作業を進めることができる。 **技能・表現の観点**：前提となる知識の不足した相手に対して親切な資料を作ることができる。わかりやすく聞き取りやすい言葉で説明できる。

●**授業の計画（全体）** 前期は下記のスケジュール通りに実施する。ただし、変更になることがある。教育実習期間は、オーラルレポート授は中断し、時間外の個別指導にのみ対応する。

●**授業計画（授業単位）** / **内容・項目等** / **授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 Higginbotham and Schein (1989) Reinhart(1991) 授業外指示 個別指導者 岩部 島
- 第2回 項目 Giegerich (1987) 授業外指示 太田
- 第3回 項目 Vainikka(1987) Lappin(1996) 授業外指示 岩部 島
- 第4回 項目 Giegerich (1992) Merchant(2001) 授業外指示 太田 島
- 第5回 項目 Wilkinson (1990) 授業外指示 岩部
- 第6回 項目 Katamba(1989) Lasnik(2003) 授業外指示 太田 島
- 第7回 項目 Mazuka and Lust(1988) 授業外指示 岩部
- 第8回 項目 Katamba(1989) Merchant(2001) 授業外指示 太田 島
- 第9回 項目 Tenny(1988) 授業外指示 岩部
- 第10回 項目 Hogg and McCully(1987) Lasnik(2003) 授業外指示 太田 島
- 第11回
- 第12回
- 第13回
- 第14回
- 第15回

●**メッセージ** ハンドアウトの作り方、英文レポートの書き方については、下記の URL を参照のこと。  
<http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/iwabe/oral.htm>

開設科目	卒業研究	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	岩部浩三, 太田聡, 島越郎				

- 授業の概要** 英語学の専門文献を読み、その内容をオーラルレポートする。Semesterあたり2回のプレゼンテーションを2名1組で順次実施する。1回の発表につき、平均8時間の事前指導（授業時間外）が必要になるので、3週間前までに論文を読み疑問点を整理しておくこと。時間外指導を受ける時は、毎回アポイントメントを取って指導を受けること。後期は、英文レポートの提出が求められる。
- 授業の一般目標** 英語で書かれた専門論文を読みこなす能力を養い、さらにそれをわかりやすくプレゼンテーションをする技術を磨く。与えられた仕事に責任を持ち、パートナーと協調して完全にやり遂げること。
- 授業の到達目標**
  - ／ **知識・理解の観点**： 英語の専門論文が読める。内容をわかりやすく説明できる。質問に対して、適切に回答することができる。
  - 思考・判断の観点**： 論文を読んだり、他人の発表を聞いて、疑問点を簡潔に質問できる。不明な点を洗い出して、調べられる。
  - 関心・意欲の観点**： 高度な内容をわかるまであきらめずに理解する意欲を持つ。内容を発展させたり、問題点を解決しようと試みる。
  - 態度の観点**： 1つの仕事をパートナーと協調して責任を持ってやり遂げる。必要なプロセスと時間を見積もり、計画的に作業を進めることができる。
  - 技能・表現の観点**： 前提となる知識の不足した相手に対して親切な資料を作ることができる。わかりやすく聞き取りやすい言葉で説明できる。正しい英語でレポートを書くことができる。
- 授業の計画（全体）** 後期も前期と同様のスケジュールでオーラルレポートを行うが、内容は未定である。前期末までには計画を発表し、資料を配付する。
- メッセージ** ハンドアウトの作り方、英文レポートの書き方については、下記のURLを参照のこと。  
<http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/iwabe/oral.htm>

# 学部共通

開設科目	法学概論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	道廣 泰倫				

●**授業の概要** まず、法とは何であるかという法の基礎理論を学び、次いで法体系の各法である憲法、行政法、刑法、訴訟法、民法、商法、労働法、社会保障法および国際法を概論的に学ぶ。

●**授業の一般目標** 学生諸君が、一般社会人として必要な法的知識と法的なものの考え方を身につけて、法的に対応できる社会人・職業人となることを目標とする。

●**授業の計画（全体）** 授業中にて、説明する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 法と他の社会規範 との比較
- 第 2 回 項目 法による社会秩序 の維持と正義の実 現
- 第 3 回 項目 権利と義務から成 る法律関係
- 第 4 回 項目 公法、私法および 社会法による法の 分類
- 第 5 回 項目 憲法
- 第 6 回 項目 行政法
- 第 7 回 項目 刑法
- 第 8 回 項目 訴訟法
- 第 9 回 項目 民法
- 第 10 回 項目 商法
- 第 11 回 項目 労働法
- 第 12 回 項目 社会保障法
- 第 13 回 項目 国際法
- 第 14 回 項目 「ある」「言う」 の現在直説法 疑問代名詞及び不 定代名詞
- 第 15 回 項目 前期末試験

●**成績評価方法（総合）** 試験の成績に出席を加味する。（全授業の 3 分の 2 以上の出席を要する。）

●**教科書・参考書** 教科書：教科書名、現代法学（第 2 版）。著者名、道廣泰倫。出版社、法律文化社。

開設科目	現代法（国際法を含む。）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	道廣 泰倫				

●**授業の概要** 法は古代法から中世法、近代法および現代法へと発展してきているので、まず古代法、中世法 および近代法の特徴について学び、次いで、とくに近代法との関係で、現代法の特徴を各法の基本原則をとおして学ぶ。

●**授業の一般目標** 近代法の体系は私法と公法から成っていたが、現代法の体系は、さらに社会法が付加されている。なぜそうなったのかを理解することを目標とする。

●**授業の計画（全体）** 授業中にて説明する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 古代法の特徴
- 第 2 回 項目 中世法の特徴
- 第 3 回 項目 近代法の特徴
- 第 4 回 項目 日本国憲法の基本 原理
- 第 5 回 項目 行政法の基本原理
- 第 6 回 項目 刑法の基本原理
- 第 7 回 項目 財産法の基本原理
- 第 8 回 項目 家族法の基本原理
- 第 9 回 項目 商行為法の基本原 理
- 第 10 回 項目 会社法の基本原理
- 第 11 回 項目 社会保障法の基本 原理
- 第 12 回 項目 訴訟法の基本原理
- 第 13 回 項目 国際法の基本原理
- 第 14 回 項目 「ある」「言う」 の現在直説法 疑問代名詞及び不 定代名詞
- 第 15 回 項目 前期末試験

●**成績評価方法（総合）** 試験の成績に出席を加味する。（全授業の 3 分の 2 以上の出席を要する。）

●**教科書・参考書** 教科書：教科書名、現代法学（第 2 版）。著者名、道廣泰倫。出版社、法律文化社。

開設科目	政治史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	額額厚				

●**授業の概要** 主に1931年の満州事変から1945年の日本敗戦までの15年間にわたり続けられたアジア太平洋戦争史を中心にして講義を勧める。

●**授業の一般目標** 政治史だけでなく、社会史・文化史などにも触れながら、この時代を対象とする歴史認識をどのように形成していくかを考える。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 講義の概要説明
- 第 2 回 項目 満州事変への道（1）
- 第 3 回 項目 満州事変への道（2）
- 第 4 回 項目 日中戦争の背景（1）
- 第 5 回 項目 日中戦争の背景（2）
- 第 6 回 項目 軍部政権と政党政治（1）
- 第 7 回 項目 軍部政権と政党政治（2）
- 第 8 回 項目 国家総動員体制の確立
- 第 9 回 項目 大政翼賛会の成立
- 第 10 回 項目 日米英戦争の原因（1）
- 第 11 回 項目 日米英戦争の原因（2）
- 第 12 回 項目 戦局の展開と帰結
- 第 13 回 項目 日本の敗戦過程（1）
- 第 14 回 項目 日本の敗戦過程（2）
- 第 15 回 項目 全体の総括

●**成績評価方法（総合）** 適時レポートの提出を求める。最終試験は論述試験を課す。

●**教科書・参考書** 教科書：侵略戦争、額額厚、筑摩書房、1999年；日本陸軍の総力戦政策、額額厚、大学教育出版、1999年；近代日本の政軍関係、額額厚、大学教育社、1987年

●**連絡先・オフィスアワー** koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Office Hour Thu.1:00-2:30 TEL/933-5278



開設科目	人文地理学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	川村 博忠				

●**授業の概要** 16世紀中頃日本人がはじめて西洋人と接触して以来、長い鎖国の時代を経て、19世紀後半に門戸を開くまで約300年間における日本人の海外知識の進展過程を世界地理書の著述および世界地図の刊行などを主軸にして考える。／**検索キーワード** 鎖国 坤輿万国全図 新井白石 山村弋助 高橋景保

●**授業の一般目標** 鎖国という情報の閉ざされた環境のもと、ときには封建社会の迫害を受けながらも世界知識の摂取に尽力して近世における世界地理学（興地学）の発展に寄与した近世日本人の知識潮流の系列を理解したい。

●**授業の計画（全体）** 授業中において説明する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 近世以前日本人の世界観
- 第 2 回 項目 三国世界観からの脱却
- 第 3 回 項目 朱印船時代の海外知識
- 第 4 回 項目 長崎で萌芽した新地理学
- 第 5 回 項目 新井白石の世界地理研究
- 第 6 回 項目 漢訳西洋知識の受容
- 第 7 回 項目 経世論の北方への関心の高まり
- 第 8 回 項目 蘭学の興隆と新しい世界観の勃興
- 第 9 回 項目 地動説の登場
- 第 10 回 項目 世界地誌と地図の飛躍的進展
- 第 11 回 項目 蘭学の公学化と幕府の思想統制
- 第 12 回 項目 洋学への転換と方図の出現
- 第 13 回 項目 幕末遣外使節の西洋体験
- 第 14 回 項目 東洋系世界図の変容と通俗版世界図の流布
- 第 15 回 項目 明治啓蒙期における地理学

●**成績評価方法（総合）** 期末試験と出席状況によって評価する。出席は特に重視する。

●**教科書・参考書** 教科書：教科書名、世界古地図コレクション 三好唯義、著。河出書房。／参考書：参考書に関しては、授業中紹介する。

●**メッセージ** 受講中は私語を慎んで欲しい。受講にはできるだけ「世界地図」を持参されたい。

開設科目	自然地理学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	貞方 昇				

●**授業の概要** 日本列島の土地環境が、いかに人間の営みと密接に結びついて作られてきたかを理解することを目指す。すなわち、日本人が縄文時代以来、古代、中世などの歴史時代を経て今日に至るまで、自然の諸条件をどのように利用して、私たちが今日見るような日本的土地 景観を作り上げてきたかを学ぶ。

／**検索キーワード** 日本列島、自然環境、土地環境、景観

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回 項目 はじめに：自然 と土地環境

第 2 回 項目 I. 日本列島の 土地環境基盤と 人間生活への意 義 1. 島孤としての特徴（日本列島の自然条件 1）

第 3 回 項目 2. 地球環境 変動のもとでの 日本列島（日本列島の自然条件 2）

第 4 回 項目 II. 新石器時代の日本列島と人間生活 1. 縄文期遺 跡立地と土地環境

第 5 回 項目 2. 全国各地 の水田遺構と土地環境

第 6 回 項目 III. 古代の土地 環境利用とその 変貌 1. 古墳群の 立地と土地環境 の変化

第 7 回 項目 2. 条里制土 地割と土地環境 変化 3. ため池と 環境利用

第 8 回 項目 IV. 中世の土地 環境利用とその 変貌 1. 辺境の開 墾と土地環境変 化

第 9 回 項目 2. 戦国大名 の土地開発と環 境変化

第 10 回 項目 V. 近世の土地 環境利用とその 変貌 1. 大規模河 川改修と土地環 境変化

第 11 回 項目 2. 新田開発 の推移と土地環 境変化

第 12 回 項目 3. 鉱物採取 と土地環境変化

第 13 回 項目 VI. 近・現代の 土地環境利用と その変貌 1. 大規模農 地・宅地造成と 土地環境変化 2. 大規模土 石（砂利・陶 土）採取と土地 環境変化

第 14 回 項目 3. 掘り込み 式港湾と土地環 境変化 4. 大規模地 形改変の量的評 価と土地環境変 貌の 意義

第 15 回 項目 まとめ：日本列 島の土地環境とは

●**成績評価方法（総合）** 授業時の課題、地図作業、期末試験をあわせて評価する。

●**連絡先・オフィスアワー** sadakata@yamaguchi-u.ac.jp、月曜日 12:00 ～ 13:00

開設科目	地誌	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤井 宏志				

●**授業の概要** 国際化の進んだ現在、日本は世界中の国々と国際関係をもち、日常的に交流するようになった。偏見なしに豊かな交流を行うには、これらの国々の自然、政治、経済、文化、社会など総合地誌として正確な理解が必要である。ここでは、正確な情報の得にくい途上国の地誌を中心に学ぶ。／**検索キーワード** 総合地誌、地誌情報、国際交流、途上国

●**授業の一般目標** 途上国の地誌を学び、正確な情報を理解し、わが国や私達の果たすべき役割を考察する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：各国の地誌情報を分析し、理解する。**思考・判断の観点**：各国の現状と将来について論理的に説明できる。**関心・意欲の観点**：途上国について関心を広げ、問題意識を高めることができる。**態度の観点**：日常の情報の中で途上国を主体的に考えることができる。

●**授業の計画（全体）** 外国地誌の学び方の難しさをパラオ共和国を例にとり学ぶ。その後、アジアの国々、ラテンアメリカの国々、アフリカの国々について学ぶ。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** 地誌入門（1） **内容** 外国を理解することの難しさ **授業外指示** 各授業で指示 **授業記録** 配布プリント
- 第 2 回 **項目** 地誌入門（2） **内容** パラオ共和国を例とする地誌の学び方（1） **授業外指示** 各授業で指示 **授業記録** 配布プリント
- 第 3 回 **項目** 地誌入門（3） **内容** パラオ共和国を例とする地誌の学び方（2） **授業外指示** 各授業で指示 **授業記録** 配布プリント
- 第 4 回 **項目** アジア **内容** アジアの地誌の特質 **授業外指示** 各授業で指示 **授業記録** 配布プリント
- 第 5 回 **項目** フィリピン **内容** フィリピンの地誌 **授業外指示** 各授業で指示 **授業記録** 配布プリント
- 第 6 回 **項目** タイ（1） **内容** タイの地誌（1） **授業外指示** 各授業で指示 **授業記録** 配布プリント
- 第 7 回 **項目** タイ（2） **内容** タイの地誌（2） **授業外指示** 各授業で指示 **授業記録** 配布プリント
- 第 8 回 **項目** ラテンアメリカ **内容** ラテンアメリカの特質 **授業外指示** 各授業で指示 **授業記録** 配布プリント
- 第 9 回 **項目** 日本人移民 **内容** ラテンアメリカの日本人移民（1） **授業外指示** 各授業で指示 **授業記録** 配布プリント
- 第 10 回 **項目** 日本人移民 **内容** ラテンアメリカの日本人移民（2） **授業外指示** 各授業で指示 **授業記録** 配布プリント
- 第 11 回 **項目** パラグアイ（1） **内容** パラグアイの地誌（1） **授業外指示** 各授業で指示 **授業記録** 配布プリント
- 第 12 回 **項目** パラグアイ（2） **内容** パラグアイの地誌（2） **授業外指示** 各授業で指示 **授業記録** 配布プリント
- 第 13 回 **項目** アフリカ **内容** アフリカの地誌の特質 **授業外指示** 各授業で指示 **授業記録** 配布プリント
- 第 14 回 **項目** アルジェリア **内容** アルジェリアの地誌 **授業外指示** 各授業で指示 **授業記録** 配布プリント
- 第 15 回 **項目** コートジボワール **内容** コートジボワールの地誌 **授業外指示** 各授業で指示 **授業記録** 配布プリント

●**成績評価方法（総合）** 出席状況を重視する。

●**教科書・参考書** 教科書：毎時間プリントを配布。／参考書：授業中に指示します。

●**メッセージ** 各国の人々と各国の地球上の位置が頭に浮かぶように

●**連絡先・オフィスアワー** 082-878-8112

開設科目	ギリシア語	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	筒井 明子				

●**授業の概要** 古典語は取っつき難く、初っぱには何がなんだか分からないと思います。しかしこの「分からない」という現実に対して二通りの道があります。「分からない」から理解し学んで行こうという意欲さえ湧かない人には指導の方法がありません。「分からない」からそのまま分からないままで済ませる人には正直言って向いている学問ではありません。西洋思想史、そして西洋の近代語の根っこにある古典語を習得しようとする人には、遠い先でそれを学習した意味が必ず見いだせると確信しています。学生諸君は古典語に対して二者択一の どちらかの道を選／**検索キーワード** 古典ギリシア語は不変

●**授業の一般目標** 1 年間の内で、ギリシア語の文法の初歩的知識を修得する。

●**授業の計画 (全体)** 授業中にて説明。後期 1 5 週については、後期授業開始の際、詳細に説明。

●**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** 字母・発音・音韻 の分類・氣息記号 **内容** 後期シラバスについては前期授業時にお知らせします。
- 第 2 回 **項目** 字母・発音・音韻 の分類・氣息記号
- 第 3 回 **項目** 音節・アクセント・句読点・語末音
- 第 4 回 **項目** 音節・アクセント・句読点・語末音
- 第 5 回 **項目** 動詞変化・現在直説法・能動相
- 第 6 回 **項目** 名詞変化・第一変化 (A-変化 (1))
- 第 7 回 **項目** 名詞変化 (A-変化 (2))
- 第 8 回 **項目** 未来直説法・能動相 A-変化 (3)
- 第 9 回 **項目** A-変化 (4) 未完了過去・直説法・能動相
- 第 10 回 **項目** 名詞第二変化 形容詞
- 第 11 回 **項目** 前置詞 アオリスト直説法・能動相
- 第 12 回 **項目** 現在完了及び過去完了・直説法・能動相 指示代名詞及び強意代名詞
- 第 13 回 **項目** 直説法・能動相・本時称の人称語尾 直説法・能動相・副時称の人称語尾
- 第 14 回 **項目** 「ある」「言う」の現在直説法 疑問代名詞及び不定代名詞
- 第 15 回 **項目** 前期末試験

●**成績評価方法 (総合)** 定期試験、宿題、授業外レポート、出席。

●**教科書・参考書** 教科書：文栄堂で購入すること。教科書名、ギリシア語入門 (改訂版)。田中美知太郎、松平千秋、共著

開設科目	ラテン語	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	筒井 明子				

●**授業の概要** 古典語は取っつき難く、初っぱなには何がなんだか分からないと思います。しかしこの「分からない」という現実に対して二通りの道があります。「分からない」から理解し学んで行こうという意欲さえ湧かない人には指導の方法がありません。「分からない」からそのまま分からないまままで済ませる人には正直言って向いている学問ではありません。西洋思想史、そして西洋の近代語の根っこにある古典語を習得しようとする人には、遠い先でそれを学習した意味が必ず見いだせると確信しています。学生諸君は古典語に対して二者択一のどちらかの道を選／**検索キーワード** 古典ラテン語は不変

●**授業の一般目標** 1年間の内で、簡単なラテン語の原文を理解できる様にする。

●**授業の計画 (全体)** 授業中にて説明する。後期15週については、後期授開始の際、詳しく説明する。

●**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** 字母・発音・音節・アクセント **内容** 後期シラバスについては前期授業時にお知らせします。
- 第 2 回 **項目** 字母・発音・音節・アクセント
- 第 3 回 **項目** 動詞変化 (第一、第二変化動詞)
- 第 4 回 **項目** 名詞変化 (第一変化名詞)
- 第 5 回 **項目** 名詞変化 (第二変化名詞)
- 第 6 回 **項目** 形容詞変化
- 第 7 回 **項目** 前置詞
- 第 8 回 **項目** 動詞変化 (第 3、第 4 変化動詞) 人称代名詞
- 第 9 回 **項目** 未完了過去・直説法・能動相 名詞変化 (第 3 変化名詞 (1))
- 第 10 回 **項目** 未来・直説法・能動相 指示代名詞
- 第 11 回 **項目** 第三変化形容詞変化 完了・直説法・能動相
- 第 12 回 **項目** 名詞変化 (第 3 変化名詞 (2)) 関係代名詞
- 第 13 回 **項目** 過去完了・未来完了・直説法・能動相 名詞変化 (第 3 変化名詞 (3))
- 第 14 回 **項目** 疑問文 命令法・能動相
- 第 15 回 **項目** 前期末試験

●**成績評価方法 (総合)** 定期試験。宿題。授業外レポート。出席。

●**教科書・参考書** 教科書：文栄堂で購入すること。教科書名、新ラテン文法 松平千秋、国原吉之助、共著。

開設科目	書道	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	佐貫 陸子				

●**授業の概要** 本授業では実用書から芸術書まで応じられる書技を演習し、審美眼を養い、素質教育（一人一人の素質を高める）の有効な一手段として活用出来るようにする。／**検索キーワード** 書く。

●**授業の一般目標** 漢字五体（添書・隷書・楷書・行書・草書）と仮名の美を学ぶ。特に楷書・行書は指導者レベルまで書写能力を高める。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：書体の変遷と筆法を理解する。**思考・判断の観点**：文字をデフォルメし、運筆のリズムを工夫して自分なりの表現を試みる。**関心・意欲の観点**：1年もしくは半年、1つの古典を追求してみる。**態度の観点**：ふだんから創作に役立つ詩文（詩、短歌、俳句、小説、歌詞）を理解しておく。**技能・表現の観点**：行書での部首の書き方を修得し、手本書きに応用する。

●**授業の計画（全体）** 前期は漢字五体の基本を中心に実力を養い、後期は仮名の基本、漢字、仮名交じり書を学び、指導者として、自分で手本が書けるように技能を身につける。後期15週については前期授業中に説明する。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

第1回 **項目** 文房四宝、行書の基本事項 **内容** 後期シラバスについては前期授業時にお知らせします。

第2回 **項目** 行書の基本

第3回 **項目** 行書（藏鋒について）

第4回 **項目** 行書（呉昌碩の書）

第5回 **項目** 行書（呉昌碩の書）

第6回 **項目** 篆書（基本点画） 行書（課題）

第7回 **項目** 篆書 篆刻（印稿）

第8回 **項目** 篆刻（印稿） 行書（空海の書）

第9回 **項目** 篆刻（印稿・布字） 行書（空海の書）

第10回 **項目** 篆刻（運刀）

第11回 **項目** 隷書（基本点画） 篆刻（運刀）

第12回 **項目** 草書

第13回 **項目** 楷書（背勢）

第14回 **項目** 楷書（向勢）

第15回 **項目** 楷書（方筆）

●**教科書・参考書** 教科書：特に指定しない。教材はプリントを配布する。／参考書：講義の中で適宜紹介する。

●**メッセージ** 根気が大切です。上手、下手ではなく、懸命な努力が魅力あるものに変えていくことを考えなおさなくては意味がありません。安易に書いても進歩しません。書を通じて何ものかを掴んでくれることを期待します。通念なので、油断しないで頑張ってください。書道ノートを作成し、毎回の講義内容を記録、整理しておくこと。

●**連絡先・オフィスアワー** 0836-58-5236

開設科目	博物館概論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	坪郷英彦				

- 授業の概要** 学芸員資格を目指す学生のために博物館の歴史、政策、仕事を概説する。市民参加型博物館の意味を理解し、自ら活動するための方向性を把握する。／**検索キーワード** 博物館・学芸員・展示・博物館法・文化財保護法
- 授業の一般目標** 博物館は資料を収集・保管・展示し、一般の人々への利用に供し、調査研究するところと考え、具体的な内容について人文系博物館を中心に示していきます。大は国立の博物館のシステム、小さいところでは市町村立、私立の博物館・資料館のシステムまで様々ありますが、具体的事例を示しながら学芸員の役割について明らかにします。各博物館や文部科学省のホームページにアクセスしながらより理解を深めたいと思います。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：博物館に関する基本的項目の説明ができる。**思考・判断の観点**：法律、制度の基本を理解し行動や判断の基本とすることができる。**関心・意欲の観点**：博物館活動の社会的役割を理解し、自らの専門との関連性を認識することができる。**態度の観点**：学芸員社会的役割を理解し自らの行動と結びつけることができる。**技能・表現の観点**：自らの企画を的確に表現できる。
- 授業の計画（全体）** 次の5つの側面から講義を行う（1）博物館の歴史、（2）博物館に関する政策と法律、（3）博物館の機能、（4）博物館の仕事、学芸員の仕事、（5）博物館での企画と展示
- 教科書・参考書** 教科書：博物館学概論、中村たかを編、源流社、1996年／参考書：テーマに沿ってその都度紹介する。文献コピーを配布する。
- メッセージ** これからは学芸員に専門的能力とともに企画力、表現力、情報処理能力が求められています。積極的な授業態度を期待します。宿題でインターネット検索を行うので、情報コンセント接続に慣れておくことが望ましい。
- 連絡先・オフィスアワー** Email [hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp) 電話 5239、研究室 213 オフィスアワー 木曜日 10：00～12：00

開設科目	博物館学各論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	渡辺一雄				

●**授業の概要** 学芸員資格取得に必要な必修科目のひとつである「博物館資料論」を中心に講義します。「博物館資料論」は、博物館資料の収集・整理保管・展示等に関する知識・技術の習得を図るものです。講義では、併せて、博物館資料としての文化財を取りあげ、文化財保護のしくみやその取り扱いについてもふれていきます。また、多くの博物館について、ビデオ映像や写真などにより紹介します。／**検索キーワード** 学芸員 博物館 文化財保護

●**授業の一般目標** 博物館資料の取り扱いに関する知識・技術の習得を図る。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 博物館と学芸員
- 第 2 回 項目 博物館資料とは
- 第 3 回 項目 博物館資料の収集と整理・保管
- 第 4 回 項目 博物館資料の収集と整理・保管 II
- 第 5 回 項目 博物館資料の保存 I（保存環境）
- 第 6 回 項目 博物館資料の保存 II（修理・修復）
- 第 7 回 項目 博物館における調査・研究 I
- 第 8 回 項目 博物館における調査・研究 II
- 第 9 回 項目 博物館資料の活用 I（展示）
- 第 10 回 項目 博物館資料の活用 II（特別活用）
- 第 11 回 項目 博物館と情報、情報機器、情報環境
- 第 12 回 項目 文化財保護制度 概説 I
- 第 13 回 項目 文化財保護制度 概説 II
- 第 14 回 項目 博物館資料の未来
- 第 15 回 項目 試験

●**成績評価方法（総合）** 期末試験および授業態度（出席など）でひょうかする。

●**教科書・参考書** 教科書：なし（資料を配付する）／参考書：授業中に紹介する。

●**連絡先・オフィスアワー** watanabe@baiko.ac.jp



開設科目	図書館概論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	加藤 宏文				

●**授業の概要** 新しい「学習指導要領」が示され、「生きる力」としての真の「学力」が、改めて問い直されようとしている。中で、その中核には、「総合的な時間」の設定に代表される「問題解決的学習」への指向が、顕著である。たとえば、環境問題・国際理解・福祉などを、学習者の主体的な活動を通して達成することが求められている。これらは、図書館、とりわけ学校図書館が他館とのネットワークのもと、「司書」の専門性を保証することを抜きには、考えられない。「学校図書館」に「司書」の孕み持つ問題を考え合っていく。／**検索キーワード** 学校図書館・司書

●**授業の一般目標** 「情報化社会」における光と影とを総合的に認識することを前提にして、「教育改革」の混迷の中で、学校経営や教育課程の改変が、学校図書館の本質に、どのような影響を与えようとしているのかを、まず理解する。その上で、「図書館の自由に関する宣言」・「学校図書館法」・「倫理綱領」等を踏まえて、「司書」の捉える具体的な問題点を整理し、学習者が主体的に展望を持つことを求める。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 「情報化社会」の光と影とを見据える。
- 第 2 回 項目 「教育改革」の中の学校経営を考える。
- 第 3 回 項目 「司書」を通して学校経営を考える。
- 第 4 回 項目 教育過程の変遷と学校図書館との関係を考える。
- 第 5 回 項目 「図書館の自由に関する宣言」は、「学校図書館法」に何を求めているのか。
- 第 6 回 項目 「学校図書館」経営の原点は、どこにあるのか。
- 第 7 回 項目 「学校図書館」経営の実際を考える。
- 第 8 回 項目 「学校図書館」にとって、ネット・ワークとは何か。
- 第 9 回 項目 情報公開とプライバシーとは、どう関わるのか。
- 第 10 回 項目 学校文化の創造拠点として、「学校図書館」は、何をなすべきか。
- 第 11 回 項目 国際化社会に生きる「学校図書館」とは何か。
- 第 12 回 項目 学校で、どのような「司書」になるのか。
- 第 13 回 項目 演習（1）
- 第 14 回 項目 演習（2）
- 第 15 回 項目 試験

●**教科書・参考書** 教科書：特に使用しない。／参考書：講義の中で、随時紹介していく。

●**メッセージ** 随時「理解」と展望との成果を「表現」することを求めつゝ「評価」を重ね、後半3次に亘り、論述を求める。遅刻者の入室は許可しない。

開設科目	図書館資料論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	加藤 宏文				

●**授業の概要** 情報化・国際化社会の「進歩」につれて、私たちは、分量と種類と速さとにおいて、未曾有の「情報」（資料）にとり囲まれている。これらを収集・提供する側に立って、図書館には、どのような変革が求められているのか。その組織化を前提として、収集および提供には、どのような問題が生じつつあるのか。「IT革命」の実際を吟味する中で、人と人との関係から考察をする。／**検索キーワード** 資料・コレクション

●**授業の一般目標** 資料（情報）の歴史的なあり方を大観した上で、収集の実際に即してその構築の仕方、評価のあり方を理解する。その上で、提供とのかかわりにおいて、「図書館の自由」は現在、どのような現実に直面しているのかも吟味し、出版・流通界の激変にも対応できる理念と方法とを獲得する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 図書館には、どんな仕事があるのか。
- 第 2 回 項目 情報は、どのように記録されてきたのか。
- 第 3 回 項目 資料には、どのような種類があるのか。
- 第 4 回 項目 資料の種類には、どのような特質があるのか。
- 第 5 回 項目 資料には、どのような収集法があるのか。
- 第 6 回 項目 コレクションは、どのように構築されるのか。
- 第 7 回 項目 コレクションには、どのような問題が生起するのか。
- 第 8 回 項目 コレクションは、どのように評価されつづけるのか。
- 第 9 回 項目 収集・提供に、「自由」はどのように関わるのか。
- 第 10 回 項目 収集・提供の「自由」は、どのような事例を生んできたのか。
- 第 11 回 項目 出版・流通界の変革は、収集・提供にどのような影響を与えているのか。
- 第 12 回 項目 学校図書館は、どのように収集・提供をしているのか。
- 第 13 回 項目 学校図書館は、どのような収集・提供を求めているのか。
- 第 14 回 項目 情報化・国際化は、収集と・提供との間に何をもちがらしているのか。
- 第 15 回 項目 図書館で、何を使命として務めるのか。

●**教科書・参考書** 教科書：特に使用しない。／参考書：講義の中で、随時紹介していく。

●**メッセージ** 随時「理解」と展望との成果を「表現」することを求めつゝ「評価」を重ね、後半、数次に亘り、論述を求める。遅刻者の入室は、許可しない。

開設科目	生涯学習概論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	北川健				

●**授業の概要** 生涯学習体系の論理と意義、その導入、体系化の経緯、進展の現状などを概説する。また生涯学習の公的支援を前提に、それに必要な知識・方法を伝える。あわせて社会教育の基本を教える。／**検索キーワード** 生涯学習

●**授業の一般目標** 1) 生涯学習の論理と意義を理解する。(2) 生涯学習の体系と展開を知る。(3) 生涯学習展開の日本的特質をわきまえる。(4) 生涯学習支援に必要な基本的知識を備える。(4) 社会教育の基本を知り、これに即した判断を培う。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：生涯学習の基本的な事項について説明できる。**思考・判断の観点**：生涯学習の理念や体系に即した思考と判断ができる。**関心・意欲の観点**：生涯学習の支援にみずから取り組むことが出来る。**態度の観点**：生涯学習の意義を理解し、学習支援の意思と態度を持つ。**技能・表現の観点**：生涯学習支援の基本に即して能力を発揮できる

●**授業の計画（全体）** 配付資料をテキスト代わりとする。時に実際的な理解のため、OHP 投影写真も用いる。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 生涯学習論の登場と受容
- 第 2 回 項目 生涯学習の政策的推進
- 第 3 回 項目 生涯学習振興法の特質
- 第 4 回 項目 生涯学習体系の地域的編成
- 第 5 回 項目 大学での生涯学習対応
- 第 6 回 項目 職能上の再教育制度
- 第 7 回 項目 学習機会提供の拡大
- 第 8 回 項目 日本型生涯学習の特質
- 第 9 回 項目 生涯各期の学習傾向と課題
- 第 10 回 項目 学習支援の基本と法方
- 第 11 回 項目 参加体験学習と学習ボランティア
- 第 12 回 項目 社会教育と社会教育法 1
- 第 13 回 項目 社会教育と社会教育法 2
- 第 14 回 項目 生涯学習批判論からの指摘
- 第 15 回 項目 期末試験

●**成績評価方法（総合）** 1 毎回小テストを行い、出席を確認するとともに、理解度を把握する。2 期末試験の成績を基本に、1 を参考にして総合的に評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：なし／参考書：別途指示

開設科目	博物館学各論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	北川健				

●**授業の概要** 生涯学習審議会社会教育分科審議会報告（平8）で示されている「マネージメント」「行財政制度」「施設設備・職員」「普及教育」など博物館経営論の各項目、および博物館情報論の概要について述べる。また諸外国の博物館のあり方を通覧することで、日本博物館の各項特質を知らせる。／**検索キーワード** 博物館学 学芸員

●**授業の一般目標** (1) 博物館「経営論」「情報論」登場の意義を理解する。(2) 博物館の「生涯学習化」の進展について理解する。(3) 博物館の経営形態とその運営のあり方を理解する。(4) 欧米博物館経営の社会的基盤についても理解する。(5) 博物館「情報化」の意義と課題について理解する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：博物館の経営や情報の基本的事項について知っている **思考・判断の観点**：博物館について経営論や情報論と関連づけて考えることができる。 **関心・意欲の観点**：博物館関係の情報や文献に関心を持ち、博物館への問題意識を持つ。 **態度の観点**：展覧会を観覧したり、博物館でのボランティアも体験したりしている。 **技能・表現の観点**：センスある短文やイラスト表現を伴った広報案などが企画できる。

●**授業の計画（全体）** 配付資料をテキスト代わりにして、実際的な認識を図るため、OHPによる投影写真を多用する。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 職員（学芸員）学芸員業務の実際と学芸員養成
- 第 2 回 項目 マネージメント 1 科目「経営論」の登場と動向
- 第 3 回 項目 施設組織 地域経営としての博物館の設営
- 第 4 回 項目 教育普及・施設組織 運営転機としての生涯学習推進
- 第 5 回 項目 施設設備 ホスピタリティと危機管理
- 第 6 回 項目 マネージメント 2 経営形態による運営方式と館長
- 第 7 回 項目 マネージメント 3 財団博物館の運営と公益法人税制
- 第 8 回 項目 行財政制度 1 自治体行財政制度と公立博物館
- 第 9 回 項目 行財政制度 2 公立博物館の法人化とその問題点
- 第 10 回 項目 博物館の社会的基盤（1）韓国博物館に見るその国策的展開
- 第 11 回 項目 博物館の社会的基盤（2）英仏博物館に見る伝統と革新
- 第 12 回 項目 博物館の社会的基盤（3）アメリカ博物館の市民的基盤 **授業外指示**。
- 第 13 回 項目 博物館経営の社会的基盤 4 イタリア博物館の伝統的基礎
- 第 14 回 項目 情報論 博物館情報と情報化の概要
- 第 15 回 項目 期末試験

●**成績評価方法（総合）** 1 毎回「ワークシート」と称する小テストを行い、出席確認をするとともに理解度を把握する 2 中間時点で課題を出し、作成物の提出を求める場合もありうる。 3 期末テストを行い、その成績と 1, 2を参考にして総合的に評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：使用しない／参考書：別途紹介

開設科目	情報機器論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	村田孝子				

●**授業の概要** 本授業では、文系にふさわしいコンピュータの基礎知識を得るとともに、それをどのように活用していったら良いかということ学ぶ。／**検索キーワード** コンピュータ、基礎知識、情報拠点、図書館の役割

●**授業の一般目標** (1) コンピュータを扱う上で最低限知っておかなくてはならない理論的基礎知識(文系向きに) (2) 図書館や博物館の中で、どのように役立てていくかを主体的に考えることができる。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：コンピュータの本質、情報の本質を説明できる。**思考・判断の観点**：得た知識を応用・判断できる。**関心・意欲の観点**：情報全般に関心を持ち、それを活用することができる。**態度の観点**：日常生活の中で広範囲に情報をとらえることができる。**技能・表現の観点**：情報機器を使用して積極的に創造することができる。

●**授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** ガイダンス **内容** 半年を通じて行わなければならない手続などの手順説明 **重要!! 授業外指示** このガイダンス時に出席のなかった者は履修を認めません。
- 第 2 回 **項目** 図書館とコンピュータ **内容** 情報拠点としての図書館の役割
- 第 3 回 **項目** コンピュータの基礎知識 **内容** 仕組みを知る (1) **授業外指示** 第3回から第7回にかけて数回の小テストを実施する。
- 第 4 回 **項目** コンピュータの基礎知識 **内容** 仕組みを知る (2)
- 第 5 回 **項目** コンピュータの基礎知識 **内容** 情報の表現方法 (1)
- 第 6 回 **項目** コンピュータの基礎知識 **内容** 情報の表現方法 (2)
- 第 7 回 **項目** コンピュータの基礎知識 **内容** ソフトウェアの話し 特にOSの役割
- 第 8 回 **項目** インターネットの利用 **内容** インターネットの仕組みやその基礎知識 **授業外指示** 小テスト実施
- 第 9 回 **項目** データベース基礎知識 **内容** データベースとは何か 活用場面 **授業外指示** 小テスト実施
- 第 10 回 **項目** マークアップ言語実習 **内容** 基礎的知識
- 第 11 回 **項目** マークアップ言語実習 **内容** 電子図書との結びつきを理解する
- 第 12 回 **項目** マークアップ言語実習 **内容** 創造・表現・編集能力を養う
- 第 13 回 **項目** マークアップ言語実習 **内容** 作品に対する批判的判断を養う
- 第 14 回 **項目** 予備日
- 第 15 回 **項目** 予備日

●**教科書・参考書** 教科書：Webですべて提供／参考書：その都度紹介

●**メッセージ** 試験期間の試験は実施しないので、授業中に行う小テスト、レポートで成績評価をします。また、出席管理、小テスト、レポート提出管理はすべてコンピュータで行います。情報処理に関する基礎知識を必須としていますので、1年次に必ずパソコンなどの操作に関する基礎知識をマスターしておいてください。質問や連絡したいことがあったら、授業支援システム(授業内で説明します)を使用して下さい。

開設科目	生涯学習施設経営論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	大森 善一				

●**授業の概要** 生涯学習の振興、図書館サービスの充実を図る視点から図書館経営に係る組織、管理運営、予算、事業計画等企画立案ができるよう専門的な知識習得について解説する。

●**授業の一般目標** 図書館司書としての自覚と教養を高め、卒業後、図書館界において活躍できる人材を養成したい。

●**授業の計画（全体）** 図書館政策をまず行政面から解説し、図書館経営にかかわった実務経験に基き人事、組織、予算、事業計画等について解説する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 図書館の現状と 課題
- 第 2 回 項目 法令、条例、規則
- 第 3 回 項目 図書館、公民館、博物館、美術館 業務の推進と自治体行政
- 第 4 回 項目 //
- 第 5 回 項目 図書館の組織と 管理運営
- 第 6 回 項目 図書館予算の編成と執行
- 第 7 回 項目 地方議会と図書館のかかわり
- 第 8 回 項目 図書館資料の整備充実
- 第 9 回 項目 //
- 第 10 回 項目 図書館経営における図書館長の 職責
- 第 11 回 項目 図書館職員の研修とボランティア活動の育成
- 第 12 回 項目 図書館情報ネットワーク形成の 意義
- 第 13 回 項目 図書館サービスの評価と計画
- 第 14 回 項目 図書館施設、設備の充実と管理 運営
- 第 15 回 項目 まとめ

●**成績評価方法（総合）** 期末試験及び出席日数によって評価する。出席が所定の日数に満たない者は不合格とする。

●**教科書・参考書** 教科書：図書館経営論 東京書籍

開設科目	図書館サービス論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	大森 善一				

●**授業の概要** 利用者と直接関わる図書館サービスの意義、その役割と活動状況の認識、資料の選択・収集・整理・提供のシステム等、図書館サービスの充実を図るため、その専門的な知識の習得について解説する。

●**授業の一般目標** 図書館司書としての自覚と教養を高め、卒業後、図書館界において活躍できる人材を養成したい。

●**授業の計画（全体）** 利用者と図書館の接点から解説し、図書館サービスの意義、利用者対象別等、具体的に説明し、図書館の最大の使命である図書館サービスの重要性について解説する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 図書館の現状と 課題
- 第 2 回 項目 図書館サービスの 意義
- 第 3 回 項目 レファレンスサービスの 必要性
- 第 4 回 項目 図書館資料の 提供
- 第 5 回 項目 図書館資料の 整理
- 第 6 回 項目 図書館サービス と職員（司書） の意欲
- 第 7 回 項目 閲覧と貸出
- 第 8 回 項目 複写サービスと 著作権法
- 第 9 回 項目 読書案内及び予 約、リクエスト の意義
- 第 10 回 項目 図書館資料の選 択、収集、整 理、提供のシス テム
- 第 11 回 項目 図書館サービスの 推進と図書館 間の相互協力活 動の展開
- 第 12 回 項目 利用者対象別と 図書館サービス
- 第 13 回 項目 図書館サービスの 周知、情報提 供、文化活動の 展開
- 第 14 回 項目 図書館サービス 網の整備
- 第 15 回 項目 まとめ

●**成績評価方法（総合）** 期末試験及び出席日数によって評価する。出席が所定の日数に満たない者は不合格とする。

●**教科書・参考書** 教科書：図書館サービス論 東京書籍／参考書：図書館サービス論 樹村房

開設科目	情報サービス概説	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	大森 善一				

●**授業の概要** 図書館業務推進の中で資料提供、情報サービスは重要な領域として値する。特に図書館における情報サービスの意義、方法、情報源について学習する。またレファレンスサービス、情報検索サービス等について総合的に解説する。

●**授業の一般目標** 図書館司書として自覚と教養を高め、卒業後、図書館界において活躍できる人材を養成したい。

●**授業の計画（全体）** 図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス等についても総合的に解説する。また参考図書の選択収集、検索の知識と資料提供の実際を解説する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 図書館の現状と 課題
- 第 2 回 項目 情報サービスの 意義
- 第 3 回 項目 情報サービスと 図書館のかかわり
- 第 4 回 項目 情報サービス業 務の組織化
- 第 5 回 項目 情報サービスの 歴史と現状
- 第 6 回 項目 情報源とレファ レンス・コレク ション
- 第 7 回 項目 レファレンスサ ービスの原理原則
- 第 8 回 項目 レファレンスプ ロセス（資料提 供と事後処理）
- 第 9 回 項目 //（//）
- 第 10 回 項目 レファレンスサ ービスと解答事 例（図書資料）
- 第 11 回 項目 //（逐次刊行物資 料）
- 第 12 回 項目 参考図書からの 情報源の検索（総記、哲学、歴史、社会科学、自然科学）
- 第 13 回 項目 //（工学、産業、芸術、語学、文学）
- 第 14 回 項目 図書館間の情報 サービスにかか わる相互利用の 現状
- 第 15 回 項目 まとめ

●**成績評価方法（総合）** 期末試験及び出席日数によって評価する。出席が所定の日数に満たない者は不合格とする。

●**教科書・参考書** 教科書：問題解決のためのレファレンスサービス 日本図書館協会／参考書：情報サービス概説 東京書籍



開設科目	レファレンスサービス演習	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	松本 敬吉				

●**授業の概要** レファレンスサービスは、図書館利用者の情報要求に応じ、適切な情報ないし情報源を提供、あるいはそれらの入手方法について指導・援助するサービスです。本講では、主要な参考図書やデータベースの実際を解説します。また、附属図書館所蔵のそれらを利用し、参考質問の回答演習を行います。有用なホームページ・データベースの実際も学習し、参考書誌の作成演習も行います。／**検索キーワード** 情報リテラシー、参考業務、参考図書、情報検索、インターネット検索

●**授業の一般目標** 1. 各種レファレンス・ツール（電子情報を含む）を知り、その活用方法を理解する。 2. 参考質問（例題）に回答し、レファレンスツールの理解を深める。 3. 参考書誌を作成する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 図書館のレファレンスサービスについて
- 第 2 回 項目 主要参考図書の解説
- 第 3 回 項目 主要図書館のホームページの実際
- 第 4 回 項目 主要データベースの実際
- 第 5 回 項目 インターネット検索の実際
- 第 6 回 項目 課題演習（レポート作成）
- 第 7 回 項目 課題演習（レポート作成）
- 第 8 回 項目 課題演習（レポート作成）
- 第 9 回 項目 課題演習（レポート作成）
- 第 10 回 項目 課題演習（レポート作成）
- 第 11 回 項目 参考業務の実際
- 第 12 回 項目 課題演習回答の評価
- 第 13 回 項目 課題演習回答の評価
- 第 14 回 項目 レファレンス三題漸

●**成績評価方法（総合）** 成績評価方法—定期試験、宿題／授業外レポート

●**教科書・参考書** 教科書：『情報源としてのレファレンス・ブックス』6訂版、長沢雅男、日本図書館協会、紀伊國屋書店／参考書：『情報と文献の検索』第3版、長沢雅男、丸善 『大学生と図書館』第3版、日本図書館研究会 『文科系学生のインターネット検索術』、大串夏身、青弓社

開設科目	情報検索演習	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	村田孝子				

●**授業の概要** 大量の情報の中からその目的にあった情報を探し出してくることは、今日の知的活動を行う上で非常に重要な位置を占めてきています。しかし、溢れるような多くの情報から必要としている情報を入手することは容易なことではありません。また、コンピュータやネットワーク技術、情報記録媒体の発展は、図書館活動に多大な影響を与え、従来の検索方式に加えて CD-ROM による検索、通信回線利用のオンライン検索、インターネット利用による情報検索と多様化してきています。このような現状の下に、多くの情報からの確かな情報を探し出すテクニックである「情報検索」が最近とみに重要視されてきました。この授業では、いくつかのテーマを決め、種々の方法で、「情報を検索する」手段を学んでいきます。そして、図書館業務の中での「情報検索の役割」がどのような位置にあるのかを学んでいきたいと思っています。／**検索キーワード** 知的活動、情報検索、検索技術、コンピュータ、ネットワーク

●**授業の一般目標** 情報検索では、キーワードの設定が非常に重要です。そのキーワードについての基礎知識と効率的な使い方学ぶことを目標としています。また、調べるコツのようなものを習得する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回 **項目** この授業のガイダンス（授業の方針、授業支援システムの使い方） **授業外指示** 受講登録を行うので、第 1 週目に欠席の者は履修できません。

第 2 回 **項目** 情報検索って何？

第 3 回 **項目** 情報のありかを探る（探索思考と検索思考）

第 4 回 **項目** 検索作業に必要な基礎知識-1-

第 5 回 **項目** 検索作業に必要な基礎知識-2-

第 6 回 **項目** 検索作業に必要な基礎知識-3-

第 7 回 **項目** 検索作業に必要な基礎知識-4-

第 8 回 **項目** 図書館における情報検索

第 9 回 **項目** 検索からちよつと離れた話題

第 10 回 **項目** Field Work on the Web 課題発表

第 11 回 **項目** Field Work on the Web 課題発表

第 12 回 **項目** Field Work on the Web 課題発表

第 13 回 **項目** 予備日（人数が多い場合は、課題発表に充てる）

第 14 回 **項目** 予備日

第 15 回 **項目** 予備日

●**成績評価方法（総合）** 小テスト・授業内レポート：50% 宿題・授業外レポート：20% 授業態度・授業への参加度：5% 受講者の発表（プレゼン）：20% 出席：5%

●**教科書・参考書** 教科書：Web 上で提供／参考書：授業内で指示

●**メッセージ** この授業は、ノートテキングを重要視しています。また、毎授業時間に課題（小テスト）を提示し、授業時間内に提出をしてもらいます。試験期間の試験は実施しないので、出席、ノート、演習課題と最後の個人での課題発表で成績評価をします。また、出席管理、小テスト、レポート提出管理等は全てコンピュータで行います。情報処理に関する基礎知識を必須としていますので、1 年次に必ず操作に関する基礎知識をマスターしておいてください。質問や連絡したいことがあったら、授業内で使用する授業支援システムを使用して下さい。

開設科目	専門資料論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	畠中 弘				

●**授業の概要** 今日のような変化の激しい社会では、適切で有効な情報を検索する能力は不可欠である。情報資源によって「情報にアクセスし、検索する方法」を知ることが重要になっている。図書館で提供できる情報は、記録された資料に基づく情報である。／**検索キーワード** 情報リテラシーをもつ人のための文献情報活用法

●**授業の一般目標** 図書館で扱う情報資源（資料）やツールが多様化し、それを「使いこなす」ためのスキルや知識も多様化している。必要な情報を必要な形で正確・適切・迅速に提供することにある。学習や問題解決に活用し得るような情報資源をベースにした学習プロセスが、効率的に展開できることを期待したい。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 生涯学習と情報リテラシー、そして図書館
- 第 2 回 項目 図書・学術雑誌の定義
- 第 3 回 項目 専門資料の意義、生産、種類、性格
- 第 4 回 項目 人文科学の概念と特性
- 第 5 回 項目 社会科学の概念と特性
- 第 6 回 項目 自然科学の概念と特性
- 第 7 回 項目 工学・技術の概念と特性
- 第 8 回 項目 人文科学情報の種類と特性
- 第 9 回 項目 社会科学情報の種類と特性
- 第 10 回 項目 自然科学情報の種類と特性
- 第 11 回 項目 工学・技術情報の種類と特性
- 第 12 回 項目 人文科学の主要な一次資料と二次資料
- 第 13 回 項目 社会科学の主要な一次資料と二次資料
- 第 14 回 項目 自然科学、工学・技術の主要な一次資料と二次資料
- 第 15 回 項目 専門資料とメディアの多様化

●**成績評価方法（総合）** 成績評価方法－宿題／授業外レポート、授業態度や授業への参加度、出席

●**教科書・参考書** 教科書：『専門資料論』改訂版（新・図書館学シリーズ；8）、戸田光昭ほか、樹村 房、2002年10月、1900円／参考書：『専門資料論』（新・現代図書館学講座；9）、中森強、東京書籍、1998.1 『年刊参考図書解説目録1990-2003』、日外アソシエーツ編・刊、各年版

●**メッセージ** (1) 遅刻・欠席をしないように健康管理に充分留意すること。(2) 出席カードを配付して、出席状況を把握する。(3) 授業内容が広範囲にわたるので、授業中の説明・解説を理解し易くするため予習・復習を実行すること。

●**備考** 集中授業

開設科目	資料組織概説	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	加藤 宏文				

●**授業の概要** 情報化・国際化社会の「進歩」につれて、私たちは分量と種類と速さとにおいて、未曾有の「情報」にとりまかされている。この混迷の中で、地域や民族の独自性を尊重しつつ、かつグローバルな価値を追求するためには、「情報」にどう対処するか、その具体的なスタンスや方法が、厳しく問われている。図書館における収集と提供の「自由」を活かすための資料の「組織」法の具体を考え合う。／**検索キーワード** 資料・組織

●**授業の一般目標** 資料が「組織」されなければならない理由を理解した上で、その制御の具体的なあり方に触れ、標準化のもたらす長短を考察する。さらに、具体的に各人の主題意識を確認した上で、「組織」の実態に迫りつつ、検索・分類・キーワード・件名などの関係を吟味し、その改善方法を獲得し合う。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 情報化・国際化 社会において、「資料」とは何か。
- 第 2 回 項目 「資料」は、なぜ「組織」されるようになったのか。
- 第 3 回 項目 情報化技術は、「組織」化に何をもたらしたのか。
- 第 4 回 項目 「書誌」を制御する。
- 第 5 回 項目 「制御」の国際標準化は、何をもたらしたのか。
- 第 6 回 項目 「目録」は、どのように改善されてきたのか。
- 第 7 回 項目 情報化・国際化 社会の中で、主題意識を確かにする。
- 第 8 回 項目 主題で情報を制御できるのか。
- 第 9 回 項目 情報を分類する。
- 第 10 回 項目 「分類」には、どんな工夫があるのか。
- 第 11 回 項目 主題検索・分類 目録・キーワード・件名目録の関係を、吟味する。
- 第 12 回 項目 「シソーラス」は、専門分野をどう整理するのか。
- 第 13 回 項目 「非統制語」観は、どんな問題を提起するのか。
- 第 14 回 項目 データベースをネットワークに生かす。
- 第 15 回 項目 「資料」を「組織」したら、何が可能になるのか。

●**メッセージ** 随時、「理解」と展望との成果を「表現」することを求めつつ、「評価」を重ね、後半数時に亘って、「組織」の実際を工夫することを求める。遅刻者の入室は許可しない。

開設科目	資料組織演習	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	松本 敬吉				

●**授業の概要** 前期に資料目録法演習を、後期に資料分類法演習を行います。資料目録法演習では主として「日本目録規則」に基づいて、各種の図書館資料についてそれぞれの記述・標目・排列を演習します。また、国立情報学研究所の目録システムについて解説します。資料分類法演習では「日本十進分類法」に基づいて、分類体系・補助表・分類規定を理解し、分類付与演習をします。「書架配架法」や「主題索引法」(件名目録法、シソーラス)についても解説します。／**検索キーワード** 資料目録法、資料分類法、件名目録法、シソーラス

●**授業の一般目標** 1. 日本目録規則(記述・標目・排列)を理解・修得する。 2. 日本十進分類法を理解し修得する。 3. 主題検索法を理解する。

●**授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** 日本目録規則 **内容** 後期シラバスについては前期授業時にお知らせします。
- 第 2 回 **項目** 記述に関する総則
- 第 3 回 **項目** タイトルと責任表示の記述
- 第 4 回 **項目** 版、資料の特性、出版・頒布、形態等の記述
- 第 5 回 **項目** シリーズ、注記、標準番号等の記述
- 第 6 回 **項目** 標目総則およびタイトル標目
- 第 7 回 **項目** 著者標目、件名標目、分類標目
- 第 8 回 **項目** 和書の目録作成 演習
- 第 9 回 **項目** 和書の目録作成 演習
- 第 10 回 **項目** 和書の目録作成 演習
- 第 11 回 **項目** 洋書の目録作成 演習
- 第 12 回 **項目** 逐次刊行物の目録作成演習
- 第 13 回 **項目** 目録の機械化
- 第 14 回 **項目** 排列

●**成績評価方法(総合)** 成績評価方法；定期試験、宿題／授業外レポート

●**教科書・参考書** 教科書：『資料組織演習』、吉田憲一編、日本図書館協会、1800円、紀伊国屋；『日本目録規則』1987年版改訂2版、日本図書館協会、3500円；『日本十進分類法』第9版、日本図書館協会、6000円；『基本件名標目表』第4版、日本図書館協会、6700円／参考書：『資料組織法』第5版、志保田務、高鷲忠美著、第一法規；『和書目録法入門』図書館員選書；8，柴田正美編、日本図書館協会；『英米目録規則』第2版日本語版、日本図書館協会

開設科目	図書及び図書館史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	佐々木鶴代				

- 授業の概要** 日本で近代図書館が発生した近代から今日までの図書館の歴史を中心に解説する。必要に応じて西洋の図書館の歴史を適宜入れていく。近代から現代まで、たどった後に、近世・中世・古代と近代図書館以前の主な文庫の歴史を解説する。図書の歴史についても解説する。
- 授業の一般目標** (1) 日本における近代図書館の歴史を理解する。(2) 歴史をたどることから図書館の理念を探り、現代の図書館がどうあるべきか考察する。
- 授業の計画(全体)** 授業15回の中、前半を日本の近代から現代までの図書館史にあて、後半を主要な文庫と図書の歴史にあてる。
- 成績評価方法(総合)** 試験、レポート、毎回提出する講義に則した意見やまとめ等で総合的に評価する。出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。
- 教科書・参考書** 教科書：北嶋武彦編著『図書及び図書館史』東京書籍／参考書：『新編図書館学教育資料集成7 図書館史－近代日本編』教育史料出版会

開設科目	資料特論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	北川 健				

●**授業の概要** 図書館など公的な資料保存施設での近世文献資料の取扱い業務を前提に、書誌学や古文書学の初歩を学ぶとともに、主として和本の読み方や軸物資料の扱い方の基本を教える。読み方は変体仮名を基礎に『女（おんな）大学』を読み始められる程度までを目標とする。

●**授業の一般目標** 1 近世文献資料の公的保存施設の役割を理解する。 2 近世文献資料にかかわる書誌学的な初歩知識をもつ。 3 近世文献資料にかかわる古文書学的な初歩知識をもつ。 4 近世文献資料の読み方について初歩的な練習をする。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 和本や古文書の基本的な事項について説明できる。**思考・判断の観点**： 和本や古文書について基本的な扱い方があることをわかまえる。**関心・意欲の観点**： 近世文献資料の内容を少しでも理解しようと初歩的にも取り組むことができる。**態度の観点**： 近世文献資料の意義を理解し、これらを大切に扱おうとする態度をもつ。**技能・表現の観点**： 変体仮名の基礎的な読み方ができる。

●**授業の計画（全体）** 配付資料をテキスト代わりとする。時に実際的な理解のため、OHP 投影写真やVTR も用いる。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 近世文献資料保存施設の法的根拠と機能
- 第 2 回 項目 近世文献資料取扱い業務の実際
- 第 3 回 項目 書誌学から見た 和装本の体裁と様式（1）
- 第 4 回 項目 書誌学から見た 和装本の体裁と様式（2）
- 第 5 回 項目 古文書学による 古文書の見方の基本
- 第 6 回 項目 変体仮名の字源と読み方の基本（1）
- 第 7 回 項目 変体仮名による 韻律文の読み方（1）
- 第 8 回 項目 変体仮名による 韻律文の読み方（2）
- 第 9 回 項目 変体仮名による 韻律文の読み方（3）
- 第 10 回 項目 御家流による草書体漢字の読み方
- 第 11 回 項目 近世の女性書簡（候文）の読み方（1）
- 第 12 回 項目 近世の女性書簡（候文）の読み方（2）
- 第 13 回 項目 貝原益軒『女大学』の一部を読む
- 第 14 回 項目 近世の歴史的用語と用字の読み方
- 第 15 回 項目 期末試験

●**成績評価方法（総合）**（1）毎回小テストを行い、出席を確認するとともに、理解度を把握する。（2）期末試験の成績を基本に（1）を参考にして総合的に評価する。評価割合備考：期末試験は100～95%、小テストは場合により5%、出席は小テスト成績に含む。

●**教科書・参考書** 参考書：別途指示。